平成 28 年度

日本マンガの独・英翻訳比較研究

千葉大学大学院
人文社会科学研究科
博士後期課程
大塚　萌

１．はじめに 3
１．１．問題提起 3
１．２．研究の目的 6
２．先行研究 8
２．１．日本マンガの海外発信とその受容 8
２．１．１．ドイツでの日本マンガ翻訳を取り巻く環境 8
２．１．２．ドイツでのマンガ受容 9
２．２．マンガにおけるテクスト 12
２．２．１．マンガ研究の中のテクスト 12
２．２．２．マンガにおける文字テクスト 17
２．３．翻訳研究 20
２．３．１．文学における翻訳 20
２．３．２．マンガ翻訳研究 23
２．４．日本語教育でのマンガ利用 25
２．５．会話分析・社会言語学による分析 30
２．５．１．発話行為論 30
２．５．２．会話分析 33
２．５．３．実際の会話と作られたテクストとその翻訳 34
２．６．対象作品『よつばと！』 37
２．６．１.『よつばと！』の作品分析 37
２．６．２．各社の翻訳方針について 42
３．方法 47
４．「なじみのないもの」の翻訳 50
４．１．注から見る「なじみのないもの」の翻訳 50
４．１．１．先行研究 50
４．１．２．実際の翻訳例と分析 52
４．１．２．１．言語・文化的不一致の是正 54
４．１．２．２．当該箇所の理解のための背景知識の補足 85
４．１．２．３．イラストの中の文字 89
４．１．３．考察 91
４．２．「たい焼き」のドイツ語翻訳 93
４．２．１．追加対象作品について 93
４．２．２．「たい焼き」翻訳の特徴 94
４．２．２．１．翻訳の方法 95
４．２．２．２．イラストとの関連 96
４．２．２．３．翻訳された時期 97

４．２．３．結論 99
４．３．「セミ」に関する語のドイツ語翻訳 101
４．３．１．『よつばと！』の物語におけるセミ 101
４．３．２．先行研究 102
４．３．２．１．ヨーロッパにおけるセミの分布 103
４．３．２．２．文学作品におけるセミ 103
４．３．２．３．辞書の記述におけるセミに関する語 105
４．３．３．「セミ」に関する語の翻訳例 108
４．３．３．１．第 6 話における訳語の選択 108
４．３．３．２．第 24 話から第 27 話における訳語の選択 111
４．３．３．３．第 30 話から第 32 話における訳語の選択 115
４．３．４．考察 118
５．１．ことば遊びの翻訳 122
５．１．１．先行研究 122
５．１．１．１．ことば遊びの形態 122
５．１．１．２．ことば遊びの機能 124
５．１．２．ことば遊びを含んだ文字テクストとその翻訳 128
５．１．３．考察 140
５．２．皮肉表現の翻訳 142
５．２．１．先行研究 142
５．２．１．１．皮肉の形式 143
５．２．１．２．皮肉の効果 145
５．２．１．３．発話に現れる態度 148
５．２．２．皮肉表現のパラメーター 149
５．２．３．実際の翻訳例分析 150
５．３．「何（だ）それ」の翻訳 165
５．３．１．分析に用いる会話分析的要素―シークエンス 165
５．３．１．１．修復の組織 166
５．３．１．２．セルフトーク 168
５．３．２．分析パラメーターの設定 169
５．３．３．「何（だ）それ」の翻訳例 170
５．３．３．１．内容が変更されていない場合 170
５．３．３．２．内容が変更されている場合 175
５．３．４．考察 183
６．結論 186
７．参考文献一覧 201

１．はじめに

１．１．問題提起

現在、日本のサブカルチャーに対する海外の需要は確固たる存在を主張しつつある。着物、歌舞伎、柔道、桜、富士山などの日本の伝統的な文化やイメージに加えて、日本はアニメやマンガ、ゲームの国であるというイメージは、2016 年のリオデジャネイロ五輪の五輪旗引き継ぎ式において、アニメ『キャプテン翼』や『ドラえもん』の映像が使用される、「ハローキティ」などのキャラクターがイメージに使われる、そして極め付けには安倍晋三首相がゲームのキャラクターであるマリオの扮装をして現れるなどの演出を見ても明らかに見て取れる。この事実からは、海外から見た日本の代表的な文化の一つとしてサブカルチャーが定着したという表れである一方、日本がサブカルチャーを自国のイメージの一つとして強く押し出そうとする姿勢の表れでもある。

実際、2016 年 8 月に経済産業省から発表された「クールジャパン政策について」[1]では、「日本の魅力」にアニメやマンガなどのコンテンツを含め、2016 年 4 月現在の出資金を 523 億円としている。その中で、日本の魅力海外の発信として、J-LOP（Japan Localization and Promotion）事業を展開し、アニメや電子コミックのローカライズ、海外の見本市への出展を補助している。平成 26 年度補正予算 60 億円において 855 件のコンテンツのローカライズ、プロモーションへの補助を実施し、平成 27 年度補正予算は 67 億円、コンテンツの字幕・吹き替えなどのローカライズ、国際見本市への出展などのプロモーションの支援により、TPP 市場を活用した新たな市場拡大のため著作物利用の円滑化に取り組んでいる。クールジャパン政策や見本市への出展などについて、詳しくは後述する。



図 1　パリ市内（14/11/19 撮影）



図 2　ケルン駅（14/11/21 撮影）

こうした大きな動きに注目せずとも、実際に海外に出て少し大きい本屋に入ってみれば、翻訳された日本マンガを見つけるのは言語・地域にもよるがさほど難しい事ではない。その

[1] 経済産業省（2016）「クールジャパン政策について」
http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/creative/20160809CJseisakunitsuiteAugust.pdf（閲覧日：2016/09/23）

月に出た新刊はもちろん、売れ筋の人気マンガなら既刊を買い求めるのも可能なほど、売り場の面積も広く品ぞろえが充実している場合も少なくない。



図 2　ドレスデン駅（14/11/23 撮影）



図 4　ミュンヘン市内（14/12/01 撮影）

例えばドイツなら、駅構内の規模の小さな本屋でも買うことができるくらい、当然のように日本のマンガの翻訳版が売られている。たいていの場合日本で発売されてから 1 年ほどで翻訳されて、毎月のように何十冊と新刊として本屋に並ぶ[2]。日本で話題になった新作のマンガや、人気作の最新刊、対象年齢層が高めのグラフィック・ノベルなど、様々なジャンルのマンガが次々と翻訳出版されている。

日本のマンガやアニメにはまり込みすぎて、そこから日本語を学びオリジナル版を楽しむ海外ファンも少なくはないが、たいていの場合非日本語母語読者は翻訳版でマンガを読んでいる。そして彼らの需要に合わせて、大量のマンガのテクストがかなりのスピードで翻訳されている。

マンガのテクストは、新聞や文学作品などに比べるとセンテンスが短いものが多く、ほとんどが会話文で、しかも日常的な範囲に収まるような内容である場合が多い。しかしそれが毎月何十冊出版される勢いで産出されることを考えると、翻訳テクストの対象として量・質共に申し分ないといえるだろう。しかも、この産出は翻訳版受け入れ側からの強い要求、つまり海外における日本マンガ市場の確立もあって生まれていることも大きな特徴といえる。

翻訳という行為は、異文化間のコミュニケーションである。そこには文化の違い、認識の違い、環境の違いなど様々な問題が常に発生している。その認識の溝を埋めたり、逆に明らかな差異として特徴づけたり、理解の調整を行うのが翻訳であるといえよう。

マンガの海外受容背景とそれに伴う翻訳実践において、どのような翻訳が行われているだろうか。それを分析した研究はまだ少ない。

[2] 例えば、ドイツの出版社、TOKYOPOP の 9 月の新刊マンガは 24 点（既刊の 1, 2 巻セットなど、純粋な新作でないものも含む）。TOKYOPOP, "Neu bei TOKYOPOP im Oktober" (2016/04/18) http://tokyopop.de/aktuell/neu-bei-tokyopop-im-oktober-2016/（閲覧日：2016/09/23）

その理由の一つに、マンガのテクストを分析対象としてとらえた場合、どのようなものとして取り扱ってよいものなのか、先行する研究がまだ少ないことが挙げられる。マンガ研究、及びマンガのテクストを対象とした研究の歴史が浅いためである。

そもそもマンガの紙面上の構成からテクストをとらえた場合には、登場人物のセリフ、登場人物の内面のセリフ、登場人物以外によるナレーションなどの異なった層に属するものが入り乱れている。さらに、背景の中の看板やチラシなどに書き込まれたイラストとしての文字があり、また場面に合わせて描き込まれた擬音語や擬態語、いわゆるオノマトペも文字である。つまり、そもそもマンガの紙面における文字、そしてテクストとは一体どこの部分を指すのかを定義しないことには、何を対象とした分析が可能なのかがまず定まらない。

実際には、マンガのテクストを発声された会話の部分とイラストと共に描き込まれた部分、特にオノマトペについて分析した研究がすでに散発的に存在はする。マンガのテクストの特徴的な内容的な要素を取り出して、性差による喋り方の違いやオノマトペなどについてマンガのテクストから論じた研究などが比較言語やジェンダーの領域に散らばって存在してはいるが、それぞれの方法論を持っており、統合した本法論を確立するものではなく、また絶対数もそう多いものではない。

さらに大きな理由の二つ目に、対象とするマンガのテクストを限定しても、そのテクストは一体どのような特徴から分析すべきなのかという問題が発生する。

文学や新聞、ニュースなどの他の媒体のテクストとマンガにおけるテクストを比べてみると、イラストと共に読むこと、テクストが吹き出しに入っているためにテクスト量に限界があることや、会話の形式のテクストが多いことなどが挙げられる。こうした形式的な特徴が、従来の研究で扱ってきたテクストの特徴と一致しないのである。

従来の翻訳研究において対象とされてきたのは主に文学作品や映画のテクストであり、共通して適応できる手法と、そうでない手法が混在しているために、全く同じ方法論は使うことができない。文学作品分析から見れば、基本的には絵のない文学作品のテクストと、イラストとテクストを同時に読むためにイラストとの整合性が強く求められるマンガのテクストを比べると、最善の翻訳方法もそれによって変わってくると考えられる。映画作品分析から見れば、会話の形式が多いことは共通しているが、文字の分量制限のルールが映画とマンガではそれぞれ異なるので、全てを参考にすることができない。

こうした方法論の不確立を背景に、マンガの翻訳テクスト全体の圧倒的な分量に比べ、実際の翻訳例を採取し比較分析した研究例はまだあまりにも少ない。実際の翻訳例において、どのような翻訳方法がとられているか、どのような表現の工夫が用いられているかについて、まとまった報告が存在していないのである。

マンガのテクスト翻訳研究の現状は、分析対象としてのマンガのテクストとは一体何なのか、またマンガのテクストの翻訳比較をする際にどのような分析方法があるのか、まとま

った研究が未だにないということになる。つまりマンガ翻訳比較という研究の対象とする諸特徴・概念は、文学翻訳やマンガ学、比較文化などの分野がそれぞれの方法論によって別々に研究されており、統一した方法論は確立されていないといっていい。

このような現状を受け、本研究はマンガのテクストとその翻訳について、以下のように問題を提起する。

マンガのテクストとはなんなのか。マンガ表現の中でどのような機能を担っているのか。どのような内容を含んでいるのか。どのようなコミュニケーションを行っているものなのか。それらがどのような要素から分析できるのか。翻訳の際に、どのような問題を抱えているのか。問題となる部分を翻訳する際に、どのような方法で解決するのか。これらの翻訳の行為がテクストの内容の変更となって表れてくるとき、変更の理由がどのようにとらえられるものなのか、また変更された場合にどのような要素が保持されるのだろうか。

１．２．研究の目的

本研究はこの問題について答えるため、マンガテクストの特徴をどうとらえるか、どのような分析方法を用いることが有効かについて、既存の研究分野における手法を取り出し、方法論を定めることから始める。さらに、定めた方法論を使って実際に翻訳例を分析し、翻訳という行為において何が行われているかを明らかにし、使用した方法から分析可能になったことは何かについて考察する。

本研究で応用を試みる既存の研究分野における手法の中には、互いに対立し、相容れないと見なされている手法が存在する。しかし、マンガ翻訳テクストの比較研究の先行研究が圧倒的に不足する現状を見て、様々な研究分野の手法を実験的に応用し、その有効性を確かめ、また考察し、その結果をまとめることは、マンガの翻訳テクストという新しい研究分野を発展させるために重要であると考える。本研究は、マンガ翻訳テクスト研究に新しい展望をもたらし、今後の研究が参照できるような研究となることを目指すものである。

先行研究では、まずマンガ翻訳がどのようなものとして求められているのかその現状を見るため、海外における日本サブカルチャーの受容の現状を概観する。次に、マンガテクストをどのようにとらえ、どのような方法で分析可能かを明らかにするため、マンガ研究、日本語教育などの研究領域におけるとらえ方を見る。また、翻訳比較分析をどのような行為ととらえるかについて、従来の翻訳研究における方法論を見る。ここまでに論じられたマンガのテクストの特徴をとらえ、マンガテクスト分析に有効な手法として、会話分析や社会言語学などの分析方法の取り入れを提案する。

先行研究において提案した手法を取り入れ、本研究では、文化・言語形式の相違を扱うなじみのないものの翻訳と、一連の会話の中で当該テクストの果たす行為・占める位置の相違を扱う会話の翻訳の二つを大きなテーマとし、実際の翻訳例比較を行う。

本研究における対象作品は、『よつばと！』(あずまきよひこ・アスキーメディアワークス)とする。この作品は日本の日常を描いたものであり、作品中のやりとりや物品が日本の日常的な内容であること、また子どもが出てくる作品であるために日本語の間違いや言葉遊びなどが数多く出現することなど、翻訳上の問題が多いことを理由に選出した。

現在大量のマンガ作品がドイツ語圏において出版されているため、多作品を並行して例文を採取し、比較分析を行うことは十分可能であり、また翻訳傾向の偏りなどを是正する意味でも必要とされると考えられる。しかし、まだマンガテクストを日本語のみにおいても、他言語比較においても分析研究した例が少ないために、そもそもマンガテクスト翻訳の問題の論点が確立されておらず、議論の絶対数が不足している。そのため、多作品を横断した分析は、翻訳上の問題を限定、特定した上で行われるべきであろうと判断した。以上の理由から、本研究では前述のような特徴を持つ豊富な例文が採取できる『よつばと！』に対象を限定し、翻訳上の問題と解決を分析することにする。

詳しい作品分析については、先行研究の最後に見る。翻訳言語は主に元の日本語と翻訳されたドイツ語を比較するが、英語版も対照させる。

今回論文執筆に当たり、マンガの画像・テクストを引用した。これらの使用・掲載許可に関し、許諾していただいたよつばスタジオ、TOKYOPOP 社にこの場でお礼を申し上げたい。

２．先行研究

２．１．日本マンガの海外発信とその受容

日本マンガのドイツ語翻訳について考察・分析を加える前に、ドイツにおけるマンガ受容の状況を概観する。これは、ドイツでの日本マンガ受容の経緯と現在をつかみ、日本マンガの普及の程度とそれに伴うマンガ表現認知の度合いを見るためである。

２．１．１．ドイツでの日本マンガ翻訳を取り巻く環境

昨今マンガを含む日本のサブカルチャーへの海外からの注目は高まり、「クールジャパン」という言葉が世間的に認知されてきた。

経済産業省によって、2011 年からファッションや飲食、アニメやマンガなどのコンテンツ輸出を推進する「クール・ジャパン海外推進事業」が始まっている。2013 年「クールジャパン戦略推進事業」のプロジェクトが立ち上げられ、日本のコンテンツ輸出の動きが活発となっている。

2014 年 7 月に発表された「クールジャパン政策について」では、日本ブーム創りの一環としてローカライズ支援を行い、アニメやマンガの翻訳に 95 億円の補助費を出すとしている[3]。2016 年 8 月発表の「クールジャパン政策について」では、すでに述べた通り、2016 年 4 月現在の出資金は 523 億円、平成 26 年度補正予算 60 億円において 855 件のコンテンツのローカライズ、プロモーションへの補助を実施し、平成 27 年度補正予算は 67 億円となっている。

これは日本の国内需要が減少したために海外の市場拡大を狙ったものではあるが、輸出先である海外からの需要が高まっていることをも意味する。海外でのアニメやマンガといった日本のコンテンツの需要が高まり、定着した結果、アニメやマンガは日本に興味を持ち、日本について知りたい、日本語を学びたいという日本語学習の強い動機になるまでになっている。この日本語学習に対するマンガやアニメによる強い動機付けを受けて、日本語学習の分野ではマンガやアニメをその研究対象として扱っているが、それについて詳しくは後述する。

こうした動きの中で、本論の対象であるドイツ語圏の状況はいったいどのようなものであろうか。

ドイツのマンガ出版の状況においては、2016 年現在において最新のデータとは言い難いが、2006 年に日本貿易振興機構（JETRO）の市場開拓部が「ドイツにおける日本マンガ市場の実態」という報告書を発表している[4]。これによれば、ドイツのマンガ市場は欧州の中でフランスに次ぐものと認識されている。しかしドイツでは公式の出版統計上「マンガ」と

[3] 経済産業省（2014）「クールジャパン政策について」
http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/creative/kisoshiryo.pdf（閲覧日：2016/09/23）
[4] JETRO（2006）「ドイツにおける日本マンガ市場の実態」
https://www.jetro.go.jp/ext_images/jfile/report/05001277/05001277_002_BUP_0.pdf（閲覧日：2019/09/23）

いうカテゴリーは存在せず、公式統計上の市場規模は発表されていない。出版統計のカテゴリーの中に「マンガ」のあるフランスの 2005 年のマンガ売り上げ 8750 万ユーロに対し、やや過大評価の可能性はあるがドイツのマンガ市場はマンガとマンワ[5]を合わせて 7000 万ユーロに達するものとされている。

公式統計の数字はないが、マンガ市場が急激に拡大したことは確かなようである。2006 年時点では、ドイツにおいて出版されたタイトル数は約 370 タイトルとなっている。

公式統計の公開はないが、本・CD・ゲームなどのマーケティングを行う GfK Entertainment による、2015 年 3 月に発表された 2014 年度のマンガ売上についての報告がある[6]。マンガとマンワのドイツ語圏の売り上げは、総じて増加している。

ドイツでは 2013 年から 2014 年度比で約 15%、オーストリアでは 17%、ドイツ語圏スイスでは 13%増加している。さらに、5 年間比較の動向においても連続的に増加しており、特にドイツにおいては 58%と半分以上増加している。

2014 年度のマンガ売り上げに貢献したのは同年から翻訳・出版が開始されたシリーズ、『進撃の巨人』（諫山創・講談社、ドイツ語版タイトル“Attack on Titan”で Carlsen 社から出版されている）である。ドイツとオーストリアにおいて、ヒットチャート一位となった。ドイツではそれに続く売り上げは『ワンピース』69 巻（尾田栄一郎・集英社)、オーストリアでは『東京喰種トーキョーグール』（石田スイ・集英社）である。またドイツ語圏スイスでは、『ナルト』63 巻（岸本斉史・集英社)、『ワンピース』69 巻、『ナルト』64 巻が売り上げの上位を占めている。

ここからは、ドイツにおけるマンガの売り上げは近年増加の傾向を保っていること、それをすでに高い人気のある長期連載作品と新しく人気を伸ばしてきた作品がけん引していることが分かる。つまり、ドイツにおいてマンガを読む人口が増加し、また継続的にマンガが消費されていることがうかがえる。こうしたマンガ人口の増加に伴い、ドイツ語版読者の「マンガを読む」行為にはどのような現象が起きているだろうか。

２．１．２．ドイツでのマンガ受容

ドイツにおけるマンガ受容は、JETRO（2006）の報告で比較しているフランスと比べた時特異であった。フランスは「バンド・デシネー」と呼ばれる国産コミックス市場が日本マンガを輸入する前から存在していたが、バルツァー（2004）が報告しているように、ドイツのマンガ市場はもともとアメリカ型「コミック・ブック」とフランスの「バンド・デシネー」や北欧の「コミック・アルバム」しか存在せず、日本のマンガが輸入された時も「国産コミックが被害を受けるということはな」かったのである[7]。ここから、日本マンガの輸入に対

[5] 韓国発祥のコミックスを指す。
[6] GfK Entertainment, “50 PROZENT MEHR UMSATZ: DAS GESCHÄFT MIT MANGAS BOOMT” http://www.gfk-entertainment.com/news/50-prozent-mehr-umsatz-das-geschaeft-mit-mangas-boomt/2826-50-prozent-mehr-umsatz-das-geschaeft-mit-mangas-boomt.html（閲覧日：2016/8/9）
[7] Balzer, Jens(transl. Hirofumi Hosokawa). (2004) 「ドイツにおけるマンガの行方――経済・文化・表現の側面から」,『マンガ研究』1、pp.75

して既存市場の抵抗はなかったと考えられる。

ドイツにおけるマンガ輸入・翻訳の歴史については、概略して以下の通りとなっている。1982 年に『はだしのゲン』（中沢啓治・『週刊少年ジャンプ』連載）、1989 年に『日本経済入門』（石ノ森章太郎・日本経済新聞社）が翻訳されたが、この 2 作品は現在大量に翻訳出版されているサブカルチャーとしてのマンガとは異なる文脈で受容された[8]。『はだしのゲン』は平和教育の目的で、『日本経済入門』はビジネス・経済の参考書として翻訳されたものであった。1992 年には『源氏物語』を描いた『あさきゆめみし』（大和和紀・講談社）が翻訳者・編集者が共に日本の文化に興味を持ち、読者にも日本古典の芸術や文学に興味を持ってもらいたいと翻訳された。

日本マンガという衝撃をドイツに与えたのは、1991 年に Carlsen から翻訳・出版された『AKIRA』（大友克洋・講談社）であった。さらに、1997 年翻訳の『ドラゴンボール』（鳥山明・集英社）と 1998 年翻訳の『美少女戦士セーラームーン』（武内直子・講談社）により日本マンガの爆発的ブームが起こった。この 2 作品が出版された 1998 年がドイツにおける日本マンガブーム最初期となる。『美少女戦士セーラームーン』はドイツのマンガ受容の特徴である、少女マンガ優勢のマンガ市場を作り上げることになった[9]。『美少女戦士セーラームーン』は 2001 年時点で 35 万部を売り上げた[10]。一方、『ドラゴンボール』は Carlsen から翻訳・出版された少年層をターゲットとしたアクションマンガであり、大ヒットを記録することになった[11]。1997 年にマガジン形式でスタートした後、ポケットブック版で刊行し、2000 年末に最終巻 42 巻を出版した。ポケットブック版は、2001 年時点で 200 万部以上売れた[12]。

日本マンガの爆発的なヒットに伴い、ドイツ語版マンガ読者たちは「マンガを読む能力」を次第に身に付けていった。具体的な内容は後述するが、Jüngst（2004）はマンガの読む方向の変化[13]や日本語語彙の普及、マンガ的表現の共有などドイツ語版マンガ読者の受容変化が起こったことを報告している[14]。このことから、2004 年ごろにはすでにドイツ語版読

---

[8] Jüngst, Heike(2004). "Japanese Comics in Germany," Perspectives: Studies in Translatology, 12:2, pp.86-87
[9] JETRO（2006）「ドイツにおける日本マンガ市場の実態」
https://www.jetro.go.jp/ext_images/jfile/report/05001277/05001277_002_BUP_0.pdf（閲覧日：2019/09/23）
[10] 伊藤暢章（2001）「海外出版レポート・ドイツ――ドイツのコミック業界に変化のきざし」、『出版ニュース』2001 年 4 月下旬号、p.18
[11] Balzer, Jens(transl. Hirofumi Hosokawa). (2004) 「ドイツにおけるマンガの行方――経済・文化・表現の側面から」,『マンガ研究』1、pp.74-83
[12] 伊藤暢章（2001）「海外出版レポート・ドイツ――ドイツのコミック業界に変化のきざし」、『出版ニュース』2001 年 4 月下旬号、p.18
[13] 従来の左開き・左上から右下に読む形式から、右開き・右上から左下に読む形式への変化。本の表紙と裏表紙も、一般的な欧米の本とは逆になる。
[14] マンガ新規読者のためか、ドイツ、あるいはその他の欧米諸国で出版されているマンガには、欧米式の左開きの本だと最初のページ、つまり日本式の右開きの本だと最後のページに、本の読む向きが逆である旨が記されたページがたいてい挿入されている。それに加えて右上から左下へ読むコマの視線誘導が併記されている場合もある。一般のドイツ人の認識においては、筆者がドイツの本屋を回って受けた印象からだと、マンガ売り場に面積を割いている本屋でも裏表紙を上にして平積みしているなど、マンガが逆開きであるという認識はそこまで一般的ではないようである。

者が日本マンガという様式に慣れ、マンガ独特の表現を読み解くことがある程度できていたことから、日本マンガとその文化は定着期へと入ったと考えられる。それと並んで細谷（2013）ではマンガの爆発的ブームは既に去り、またこれまでのマンガ市場が社会的偏見を強く受けるような方向へと拡大してきたため、市場のさらなる拡大には新しい売り出し方が必要だと報告されている。つまり、現在ではドイツの日本マンガブームはブーム期、定着期を超えて、深化の段階に入ったといえる。

すでに見た最近のマンガ売り上げの動向を見ると、『ワンピース』や『ナルト』といった長期連載作品のマンガがヒットチャートの上位に食い込むことからも、継続的にシリーズを読み続ける読者を獲得したと考えられるため、マンガがドイツにおいて定着したという指摘は正しいといえる。一方マンガの新しい売り出しについては、『進撃の巨人』のような新しいヒットシリーズを持ち込むことによって達成しているように見える。そしてすでに見たようにドイツにおけるマンガの売り上げは年々伸びていることから、ブーム期のような勢いはないが、マンガがドイツの中で確固たる位置を築いていると考えられる。

日本マンガの翻訳・出版が増えるにつれ起こった変化について Jüngst（2004）によれば、特に本論に関連する内容では日本語彙の流入がある。“Konnichiwa”や”Ohayo”といった簡単なあいさつや呼称接尾辞の“-san”や“-chan”といった言葉がドイツ語翻訳版で使用されるようになった[15]。2003 年のドイツで出版されたマンガ誌、“Daisuki”で“-san”や“-kun”が使われた例が報告されている。ただし“-san”や”“-chan”が単独で使われているのではなく、注が付けられ、説明が付加された使用であった。さらに、Jüngst（2006）では、日本マンガの受容を受けてドイツで活躍するドイツ人マンガ家やマンガファンの間で簡単なあいさつ、呼称接尾辞が普及していることを報告している。

この報告から、ドイツのマンガを読む層にはある程度日本の文化的な知識、語彙や表現が周知のものになっている可能性が考えられる。よって、ドイツ語版マンガの翻訳においてすべての日本的な要素がドイツ語版読者には未知なるものであり、翻訳に工夫を要するというわけではなく、日本語の語彙・表現のままでも理解が可能である表現が存在することを示唆している。このようなマンガを読むコミュニティの中で共有される独特な表現の翻訳があるかどうか、どのような翻訳がされているかについて分析の際に考慮されるべきである。

こうしたドイツでの日本サブカルチャー受容はマンガの出版に限らず、ドイツ各地で開催されるドイツにおける日本のマンガやアニメファンの交流イベントからも見て取れる。

毎年デュッセルドルフで開催される、日本のアニメやマンガ、コスプレを始めとしたテーマイベント「Dokomi」は、2016 年第 8 回は 4 月 30 日、5 月 1 日の二日開催で行われ、3 万 1 千人以上の参加者を集めた[16]。同じくデュッセルドルフで毎年 5 月半ば過ぎに開催され

[15] Jüngst, Heike. (2004) ”Japanese Comics in Germany,” Perspectives: Studies in Translatology, 12:2, pp.96-97
[16] ドコミ公式サイト（日本語版）, https://www.dokomi.de/ja/（閲覧日：2016/9/6）

る「日本の日（Japan Tag)」でも、経済シンポジウムや日本のテクノロジー紹介、和太鼓や着物の着付け、囲碁などの伝統的な日本文化紹介の他に、コスプレショーやマンガコンテストなどのプログラムが設けられている[17]。さらに、主に日本発のアニメ・マンガ・ゲーム情報誌“AnimaniA”を発刊している Animagine 社が主催する Animagic はボンで開かれる総合エンタメイベントで、コスプレショーやマンガワークショップなどを設けている[18]。ライプツィヒで毎年 3 月の終わりに行われる本の見本市（Buchmesse）ではマンガやアニメの最新作品の紹介、日本の伝統文化などを紹介する「漫画・コミック・コンヴェンション」ブースが併設されていた[19]が、2014 年からは Manga-Comic-con として独立し、Buchmesse と併設開催となった[20]。

この他にも小さなイベントは数多く開かれており、日本発のマンガやアニメ、それを元にしたコスプレの文化は、ドイツに広がりつつあるといえるだろう。

２．２．マンガにおけるテクスト

次に、本研究の対象とするマンガにおけるテクストをどのようなものとしてとらえ、どのような特徴から分析可能であるかについて考察をする。

まずは、マンガ研究においてマンガのテクストがどのようなとらえられ方をしているのか概観する。マンガ研究という新しい研究分野の位置付け、その中でマンガテクストがどのようにとらえられているかを通して、本研究が対象にするテクスト、またその内容を明らかにする。

２．２．１．マンガ研究の中のテクスト

2009 年に出版された『マンガ学入門』のまえがきには、「近年マンガ研究が盛んになる気配を見せている」[21]と書かれている。マンガ研究という分野はまだ新しい学問領域であり、マンガ評論は先行して発表されてきたが、その歴史や表現論、マンガを取り巻く著作権や輸出の問題についてはまとまった研究がなかった。しかし一方でマンガ研究という活動自体は盛んになり、2001 年に日本マンガ学会が設立されるなどの動きが起こっている。

多用なとらえ方をされ、研究が様々な分野に散らばったマンガ研究のために書かれたハンドブックが『マンガ学入門』である。同書では、マンガ学の領域を広範にとらえ、どのようなアプローチがされてきたか、すでにどのような成果があるかをまとめている。

戯画や風刺画から、4 コママンガといった形態、少年漫画や少女漫画といったジャンル、また発表される媒体から論じるマンガの歴史に始まり、個々のマンガ家についての作家史、

---

[17] 日本デー公式サイト（日本語版）, http://www.japantag-duesseldorf-nrw.de/jp/、及び 2016 年度プログラム, http://files.japantag-duesseldorf-nrw.de/epaper/（閲覧日：2016/09/06）

[18] Animagic, https://animagic.animania.de/（閲覧日：2016/09/06）

[19] 伊藤（2014）によれば、2014 年第 24 回では、見本市全体では出展者数 2194 社、入場者数は 4 日合計で約 175000 人、「漫画・コミック・コンヴェンション」には 12 か国から 167 社が出展、来場者数は 4 日間で 3100 人となった。

[20] Frankfurter Allgemeine, "Manga-Manie in Leipzig"（2014/3/13）
http://www.faz.net/aktuell/feuilleton/buchmesse-manga-manie-in-leipzig-12845490.html（閲覧日：2016/9/6 閲覧）

[21] 夏目房之介、竹内オサム編著（2009）『マンガ学入門』、ミネルヴァ書房、p.i

マンガ学の中の領域について、アニメや教育などとの関係からマンガをとらえるアプローチ、データベースや海外での動向などのマンガの諸相、マンガ研究史というコンテンツを網羅した内容となっている。

その中のマンガ研究領域の一つであるマンガ表現論において、マンガの中のテクストが論じられている。

マンガ表現論とは、1990 年代からマンガをめぐる言説の中で影響力を持ち始めた言葉である[22]。言葉自体は、夏目房之介が用いた例が浸透したものといわれている。この「マンガ表現論」が指している概念は複層的であり、マンガのストーリーにおけるテーマを分析して作家性や思想を明らかにするという面の他に、マンガ固有の表現の仕組みを明らかにする面がある。後者の見方は、1960 年代にすでに始まっており、手塚治虫の死を契機に本格的に始まったとされている。

夏目は、マンガ表現の基本要素を「絵・コマ・言葉」の 3 つとし、その相互関係の中でマンガ固有の表現が成り立つとした。他に、竹内オサムの映画技法論による視点の「同一化」理論や、四方田犬彦のマンガの画面の中に含まれる吹き出しやキャラクターの表情、運動などといった要素を共時性の強い記号論的な整理を行ったもの[23]、マンガのテーマ分析によるマンガ批評などがこの分野に含まれる。

これらの方法論は、「マンガをマンガとして語る」志向の中にある。つまり、ミクロ的にもマクロ的にもマンガをどう読んでいるか、あるいはマンガが「読める」とはどういうことかを追求する分野なのである。こうした方法論は 21 世紀に入ってからさらに展開し、市場や読者、編集者などの外部との関係を問うものに発展する一方、認知学的な要素を取り入れた「視線誘導論」に展開するなどしている[24]。

この中でテクストは、マンガという表現媒体を形成する一要素として組み込まれている。それは、夏目によるマンガ表現の基本要素の一つに「言葉」が挙げられていることからも明らかである。

マンガ表現論は、マンガがメディアミックスの一部として商品展開されるなどの多層的な面を強める中で理論の組み替えの流れが発生した。これは、マンガを含むサブカルチャーを社会学・文学的な観点からの分析を試みる、2000 年代に入ってからの動きを受けたものである。同年代からサブカルチャーの社会における受容が変容し、サブカルチャー全体の中でもその媒体や表現が変化したことについて、東浩紀が『動物化するポストモダン』(2001)でマンガ、ライトノベル、美少女ゲームなどのサブカルチャーのジャンルについて社会・思想的な分析を行った。さらに『ゲーム的リアリズムの誕生』(2007)では、ライトノベルや美少女ゲームを文芸批評の対象とし、文学理論に組み込んでいる。また、自らマンガ編集者

[22] 夏目、竹内、前掲書、p.109
[23] 夏目、竹内、前掲書、pp.109-110
[24] 夏目、竹内、前掲書、p.111

やマンガ原作者をつとめる大塚英志は、『「おたく」の精神史』（2004）でオタクとマンガなどのサブカルチャーをめぐる 1980 年代という時代を概観しつつ、またその中でマンガと文学の言語表現について分析している。

そして伊藤剛によって新しい表現論が提唱された。伊藤は『テヅカ・イズ・デッド』の中で、マンガ表現の基本要素の組み替えを行い、新しく「キャラ・コマ構造・言葉」の三要素とした[25]。これは、マンガの中で描かれる「キャラ」のポストモダン化を表現論により把握しようとしたものである。

夏目が提唱したマンガ表現の基本要素の中の絵をキャラに置き換えてあるが、伊藤自身も、伊藤が新しく提唱した基本 3 要素は論理的に考えた場合同列に並ばないことを指摘しており、また旧基本 3 要素の置き方の方が形式的なマンガ分析の厳密な分析が可能であるとしている[26]。しかし、読者がマンガを読むときに追っているのはオノマトペなどの描き文字や背景を含んだ絵全体ではなく、「キャラ」の行動や感情であると指摘し、複数のコマの中の「キャラ」の動きと追うことによってコマ間の連続性を読んでいると主張した。そして、基本要素の中の「言葉」についても「キャラ」の読み方と同じことがいえる。従って、伊藤によればマンガ構造の基盤とは「キャラ」と「言葉」の「コマ構造」との緊密な関係である。

伊藤による新 3 基本要素は、すべて時間的な連続を記述するためのものである。しかし、「キャラ」は、一見時間的な連続を表現するものといえるのかどうかあいまいな概念に見えるため、伊藤のいう「キャラ」についても少し概観する。

伊藤によれば、「キャラ」と「キャラクター」は分けて考えるべき要素である。「キャラクター」というと、基本的には「マンガの登場人物」を指す。伊藤は、独自性や自立性、多面性や内面を持つ、いわば疑似人格を持った登場人物を「キャラクター」とし、そこから「キャラ」を区別した。「キャラ」とは、簡単な線によって形作られた図像、しかも固有名詞によって名指しされるものを指す。「キャラ」はこの特徴によって、「人格・のようなもの」として存在感を感じさせるものとなる[27]。さらにそこから「キャラクター」は、「キャラ」の存在感を基盤として、人格を持った体の表象として読むことができ、その背後に人生や生活を創造させるものと定義している[28]。

また、伊藤が新たに論じた「フレームの不確定性」においては、マンガにおけるフレームが紙面とコマという多層構造になっていることを示した。

マンガの中の言葉に関して、さらに伊藤は基本三要素のイメージとして、この 3 つがある種のゼロサム関係にあるとしている。つまり、どれかが弱まると代わりにどれかが強まることを示す。この関係性と、新たな 3 要素は、伊藤がシンプルなマンガのとらえ方を提起す

[25] 伊藤剛（2005）『テヅカ・イズ・デッド――ひらかれたマンガ表現論へ』、NTT 出版、p.63
[26] 伊藤、前掲書、p.64
[27] 伊藤、前掲書、p.95
[28] 伊藤、前掲書、p.97

るためのものであり、例えば「キャラ」と「コマ」の組み合わせは少女マンガ、「キャラ」と「言葉」の組み合わせは少年マンガをとらえられるとしている[29]。

ここで、「言葉」の要素が少女マンガというジャンルで注目されるのは、少女マンガの構造が少年マンガに比べて独特なものとされているためである。

少女マンガの表現の成立史過程の中で、少女マンガに特有な文字のテクストとして、解説、吹き出し外のセリフ、心理状態を表すネームを辻真先が挙げている[30]。

さらに少女マンガは文字のテクストの種類の特徴だけでなく、マンガの画面の中で枠線が消えたりコマとコマが重なったりする中に、登場人物の内面のセリフが置かれるといった少女マンガの表現の特徴を、伊藤の「フレームの不確定性」の露出であるとし、そのときに読者を物語世界に引き留めるのが「言葉」であるとマンガ史研究家の宮本大人は分析している[31]。ここでは、「言葉」が層状に置かれていることが指摘されており、文字が吹き出しに入っているかどうか、言葉自体が多層性を持っているかどうかといった層状構造が考えられている。実際の表現としては、発話、内語、ナレーション、枠外の書き込みがある。それらが入り混じった少女マンガの画面は、フレームが不確定でありながら読者の没入を可能にしているとされる。

また「少女マンガらしさ」という表現機構について、手塚マンガから分析した岩下朋世の『少女マンガの表現機構』(2013) では、その一つに「性別越境」をテーマとしている。マンガにおける文字のテクストの多くが会話であり、口語体で示されることから「言葉遣い」がマンガの文字のテクストの一つの特徴でもある。そこに現れるジェンダーをテーマとした研究もある[32]。

ジェンダーやセクシュアリティからマンガのテクストをとらえる観点は、テクストの内容や役割に関わるという点で、本研究の目指す目的に近いものがある。ただし、非常に限られたテクストしか扱えないことから、本研究では詳しくは扱わないことにする。ただしジェンダーによる言葉遣いの違いは、キャラクターの個性・アイデンティティの表現であり、翻訳にも関わってくる要素である。こうしたキャラクターの話す言葉と個性・アイデンティティ、そしてその翻訳については後述する。

以上のマンガ表現論の視点を概観するに、同研究分野は「マンガがどう読めるか」に支点を置いたものであり、その中の構成要素の一つとして「言葉」を組み込んでいるという状況にある。その際には、登場人物による発話である、口には出さない内語である、登場人物の現在の言葉ではない、あるいは他人によるナレーションであるなど、どの層に属する言葉に

---

[29] 夏目房之介、宮本大人、伊藤剛（2006）「キャラの近代、マンガの起源　『テヅカ・イズ・デッド』をめぐって、『ユリイカ』38(1)、pp.65、青土社

[30] 岩下朋世（2013）『少女マンガの表現機構――ひらかれたマンガ表現史と「手塚治虫」』、NTT 出版、p.45

[31] 夏目房之介、宮本大人、伊藤剛（2006）「キャラの近代、マンガの起源　『テヅカ・イズ・デッド』をめぐって、『ユリイカ』38(1)、pp.65、青土社

[32] 中村桃子（2007）『〈性〉と日本語―ことばがつくる男と女』や中村桃子編（2010）『ジェンダーで学ぶ言語学』などがある。

よって語られたか、それによってマンガのフレームがどのように構成されているかに注目している。

そこからは、その場面でどのようなやり取りが行われているかという理解は前提のものとされる傾向にあると考えられる。対人関係において、どのような場面で、どのような内容のやりとりが、どのような言葉、表現、内容によって行われているかについての分析は行われていないといってよいだろう。

本研究が分析したいと考えているのは、マンガ表現論が語らないまさにその要素にある。マンガのテクストにおいて、どのようなコミュニケーションが行われており、またそれが翻訳されるときにどのように扱われるか、またテクストの内容が変更されているときにはどのような作用により、その変更が行われていると考えられるか、そうしたことを分析するのが本研究の目的である。従って、マンガ表現論的なテクストのとらえ方では、本研究の目的とする分析には足りない。それを補うための、マンガテクストのとらえ方、特徴のとらえ方が必要となる。

マンガ研究の諸相には、海外による受容や海外でのマンガ研究もある。ドイツでの受容実態については既に概観した。海外のマンガ研究について本研究において関係すると考えられるのは、マンガ自体を研究する領域に対して日本マンガを他研究の資料として使う場合が著しいという特徴である[33]。マンガを通してジャパニーズ・スタディーズを行う研究、あるいはマンガ作品の物語と一般的な問題を同じテーマで結ぶ研究も盛んである。日本マンガのグローバル化を背景にして、言語学やメディア論、教育論など幅広い視点から注目されつつある。これらの研究はむしろ、ジェンダーや政治性、地域性がマンガの中にどのように現れているかという研究であり、テクストそのものに焦点を当てた研究とは言い難い。ただし、数少ないながらマンガテクストの翻訳比較を行った研究も存在するため、それについては後述する。

マンガ研究の分野についてまとめると、マンガという固有の表現形態を持った媒体における研究は、マンガ自体の持つテーマ性や作家性を分析する作品分析的な側面と、マンガ固有の表現がどのように構築されるか、それを読むことができるとはどういうことかといった表現論、マンガを教育、社会、言語など他分野領域からアプローチするための材料として扱う場合など、多くの分野に散らばり、それぞれの分野ごとの研究に分かれているというのが現状である。

その中から、本研究の目的を達成するために必要な要素を取り出した上で、分析方法を補う必要がある。そして、海外受容という面からマンガをとらえる視点もあるが、翻訳の実態についてまとまった研究はまだ少ないという実情もあり、翻訳比較研究のための方法論を新たに提案する必要がある。

[33] 夏目房之介、竹内オサム編著（2009）『マンガ学入門』、ミネルヴァ書房、p.245

次項では、マンガの中の文字に注目した先行研究を取り上げる。その分析から、マンガの中の「言葉」とは具体的にどのようなものを指すのか、その中で本研究がどの言葉を対象とするかを明確化する。

２．２．２．マンガにおける文字テクスト

本項では、先行研究からマンガにおける言葉にはどのようなものがあるかを見、分類した後、本研究で扱う部分について定義することを目的とする。

マンガは、キャラクターや背景などの図像と、吹き出しや四角枠によって囲まれた空間に配置されたセリフの文字によって構成されている。その他マンガの文字には、吹き出しの中に配置されたセリフの他に吹き出しや枠に囲まれていないスペースに書き込まれたものや、背景の看板など、オノマトペなどもある。同じ文字でも前述したように様々な配置場所、書かれ方などが存在する[34]。

それらマンガの中の文字を分類した先行研究から、マンガの文字を働きや種類別に分類した後、本論の分析対象とする文字テクストを限定する。

一つ目は、マンガのコーパス研究を行っているウンサーシュッツ（2010）による分類で、「①台詞：吹き出しに現れるもの。②考え事：四角形の箱や、スクリーン・トーンが薄くなっている背景に書いてある内面的な声。自分自身に向けて話している言葉で、他の登場人物には聞こえないもの。③ナレーション：四角形の箱（キャプション）や背景に書いてある、時間や話の進展を読者に向けて語る声。④オノマトペ：背景に書いてある、擬音語など、言語音を表していないもの。⑤背景／テキスト：登場人物にとっての文字テキスト。⑥背景／台詞・考え事：直接背景に書いてある台詞もしくは考え事。⑦コメント：背景に書いてある、登場人物についての情報等を教えてくれる声。⑧題名：タイトルや著作者の名前など。」[35]の８つである。この８分類はそれぞれ以下の３要素からなっていると考えられるだろう。

I 書かれている場所
　(i) 吹き出し
　(ii)四角の箱及び背景
　(iii)背景
II 対象
　(i)他者

[34] オノマトペは文字テクストでありながら、その多くが手書きで書かれていること、図像と結びついて遠近感や空間の表現などをもたらすことからも、図像的な働きを担うことについてはすでに諸岡（2010a, b）他、多くの研究がある。
[35] ウンサーシュッツ・ジャンカーラ（2010）「人気マンガのコーパスで見る文字表現の分類について」『日本マンガ学会第 10 回大会プログラム・発表要旨集』、p.23、京都、日本マンガ学会

(ii)自分自身
(iii)読者
III はたらき
(i)言語音
(ii)擬音語など
(iii)図像の一部としての文字テクスト
(iv)タイトル・作者情報
＊たとえば、「⑥背景／台詞・考え事」は以下の要素から成っている。
I 書かれている場所　(iii)背景
II 対象　(i)他者あるいは(ii)自分自身
III はたらきは(i)言語音

以上より、ウンサーシュッツ（2010）はマンガの中の文字の現れる場所、内容が向けられる対象、はたらきという 3 つの要素を立て、それを組み合わせることによって文字テクストの分類項目を作った。

ここで特徴的なのは、キャラクターの発声に伴う文字テクストを、「①台詞：吹き出しに現れるもの」として独立させていることである。逆にいえば、マンガの文字のほとんどがキャラクターのセリフであることを示す[36]。

二つ目は、諸岡（2010b）によるマンガ画面の中の言葉の分類を試みている研究がある[37]。諸岡による分類は以下の通りである。

(A)吹き出しによって囲われた登場人物の「発話」
(a)「オンの声」（発話した人物がコマの中に描かれている）
(b)「オフの声」（発話した人物がコマの中に描かれていない）
(B)囲い線をもたない「ボイスオーバー」
(a)「心の声、内言語」
(b)「登場人物による語り」
(c)「語り手による語り」

この分類基準は、最初から扱うマンガの文字を限定している。諸岡が分類対象としているのは、ウンサーシュッツ（2010）の分類において例えば「④オノマトペ」、「⑤背景／テキス

[36] 同報告によれば、マンガ作品全 8 作品 24 巻分のコーパス 578880 字のうち、71.49%が台詞であり、最多であった。さらに、四角の箱（枠）に囲まれた部分にある文字のうち、キャラクターの内面的な声を表す「②考え事」が次いで多く（13.99%）、その他の文字種は 5%以下であった。マンガのテクストのほとんどはマンガの中のキャラクターの発するセリフで構成されているのが数字からも明らかである。
[37] 諸岡知徳（2010b）「マンガのことば――マンガ表現論」『甲南女子大学研究紀要．文学・文化編』46、pp.29-40、甲南女子大学

ト」や「⑧題名」などを除いた、「III はたらき(i)言語音」に含まれる文字である。

「(A)発話」においては、発話したキャラクターという図像と文字を結びつけ、それが画面上に表現されているかどうかの分類項目を立てていると考えられる。それに対して「(B)ボイスオーバー」では、「(a)内言語」は物語の内部から、(b)と(c)の「語り」は物語の外部から発されるものであるとする。これは、当該のセリフの発話者が物語のどこにいるかの違いを表しており、すでに見た「フレームの不確定性」の露出を表現する要素であるといえる。また、(b)と(c)の「語り」の違いは、発する主体が(b)は作品内の登場人物であるのに対し、(c)はまったくの第三者であることを示している。

この諸岡（2010b）の文字分類は、全てのマンガの文字の中からまずウンサーシュッツのいう「III はたらき(i)言語音」の文字に絞り、誰かが声に出して、あるいは心の中で発したセリフを「(A)発話」と「(B)ボイスオーバー」に分けた。さらにセリフを発した人物、あるいは発された立場の違いから分類項目を立てている。

これは、ウンサーシュッツ（2010）はコーパス研究という言語に特化した研究であることから、マンガの中の文字をより広く取り分類対象に含めた一方で、諸岡（2010b）の分類は、マンガの文字が文字単独で存在するのではなく、セリフを発したキャラクターの姿という図像と一体となり、文字図像の複合的な読解を要する表現であるという立場に立った分類であるといえるだろう。

また分類されたマンガの中の文字の特徴として、ウンサーシュッツ（2010）の報告から、マンガの中の文字で最も多いのが誰かのセリフであることが重要である。誰かのセリフというマンガの文字分類の特徴としては、諸岡（2010b）の分析から明らかなように、そのテクストが実際に発声されたかどうか、誰によって発声されたかといった項目について、複雑な構成を持つことが挙げられる。

以上 2 つのマンガ中の文字分類に関する先行研究を見た。本論では諸岡（2010b）の分類を使用し、その中の「(A)発話」と「(B)ボイスオーバー」の中の「(a)内言語」をその分析対象とし、「文字テクスト」と呼ぶ。本研究が目的とするのは、マンガの中のセリフがどのような行為や役割を持っており、それがどのように翻訳されるかが中心であるためである。それ以外の特にオノマトペについては、文字とイラストの中間的な役割を持つ要素であり、その分析には言語ごとの音声の特徴やオノマトペに関する語彙量など、異なる分析観点が必要とされるため、本研究では分析対象に含まない。

ただし 4.1.2.では、ウンサーシュッツ（2010）の「⑤背景／テキスト」に当たるテクストも扱う。これについては詳しくは該当項で述べるが、特に英語版『よつばと！』においては背景に描き込まれた看板やポスターの文字部分に付けられた注が非常に多く、分析対象として選出したためである。

２．３．翻訳研究

２．３．１．文学における翻訳

この項では、既存の翻訳研究における方法論を概観する。翻訳という行為がどのように分析可能なものなのか、またどのようにアプローチされてきたかについて先行研究を通して見る。これまでの翻訳研究は主に文学作品を対象としてきたものであるため、それらの媒体の翻訳とマンガの翻訳がどのように異なるかについても言及し、本研究が目指す分析に必要な要素とはどのようなものかを明らかにする。

これまでの翻訳テクストを扱った研究において、マンガやアニメのテクストを使った例はまだ少ない。文学作品のテクストを使ったものがほとんどである。

マンガのテクストは、文学作品などの文字のみの媒体におけるテクストと比べると、イラストと共に読むこと、吹き出しの中に配置されテクスト量に物理的限界があること、会話の形式が多いことなど、異なる特徴を持つ。その内容も、文学作品などに比べるとより日常的な内容、表現が多いことが考えられる。さらに、対象読者層は文学作品よりより狭く、マンガを読む層、主にティーンエイジャーなどの低年齢層を基本的に想定することになる[38]。そのため、文学作品を対象とした翻訳研究のすべての手法を適応することは出来ないが、分析方法を参考にすることは可能であると考えられる。

本研究で提案するマンガの文字テクスト分析方法のために、翻訳研究における機能主義的分析と、翻訳評価について先行研究から見る。

機能主義的分析とは、広義においては翻訳をコミュニケーション行為ととらえ、コンテクストにおける機能という観点から意味を理解するものである。翻訳は目的を持った異文化間の行為であると定義され、翻訳されたテクストの言語形式は、それが果たすべき目的によって決定されるとする[39]。

Vermeer は「翻訳の目的」をギリシャ語に由来する「スコポス」という語で定義し、翻訳という行為は「目標文化社会の環境にある TT[40]の受け手と TT の目的のために、TT 受容の状況下でテクストを産出することである」とした[41]。さらに、翻訳の方法と方略を決定するのは TT の意図された目的であることを一般規則として挙げた。これを前提として Vermeer は、翻訳を含む人間の行為は、その目的、つまりスコポスによって決定され、その目的の関数であるスコポスルールを引き出すものであるとした。さらに一貫性ルールと忠実性ルールという一般規則を持つ。一貫性ルールとは、受容者が自分たちの状況との一貫性を持てる

---

[38] ドイツのマンガブームが少年・少女マンガに始まったため、このように想定される。これに対し、フランスのバンド・デシネーなどはより大人向けであるといわれている。また、ドイツでも青年向けの作品を翻訳し“Graphic novel”と表現され、コミック版より大判の判型で出版されている、上の年齢層を対象にしたと思われるマンガも存在する。

[39] ベイカー，モナ、サルダーニャ，ガブリエラ編（2013）『翻訳研究のキーワード』藤濤文子監修・編訳、伊原紀子、田辺希久子、研究社、p.87

[40] “Target Text”、目標テクストを指す。一方、ST、“Source Text”は起点テクストを指している。

[41] ベイカー、サルダーニャ、前掲書、p.90

ものでなければならないことを指す。忠実性ルールとはSTとTTとのテクスト間の一貫性に関わるものであり、スコポスの原則とテクスト内の一貫性ルールが満たされていれば、何らかの関係性が2つのテクスト間にあればよいと規定するものである。

このVermeerのスコポス理論は、Reißの個別翻訳理論と組み合わさることにより、一般翻訳理論へと発展した。この理論においては、テクストというものは生産者から受容者への情報提供であると見なされる[42]。この観点において翻訳は、もともと起点文化内の言語で提供された情報を別の言語によってその文化内の構成員に提供されるものであるとされる。そして、翻訳者は受容者のスコポスに従って、TT受容者のニーズや期待を考慮し提供することが求められる。この理論では、翻訳の基準は等価ではなくスコポスへの適切性によって決定される。「等価」は、TTとSTのスコポスが同じであるというスコポスが設定された際の適切性を指して、その表示を使用する。

スコポス理論の特徴的な点は、翻訳に際して受容者のニーズや期待という外因によって変化するスコポスを設定し、それに沿った翻訳が達成されるべきであるという翻訳の柔軟性を取り入れたことにある。

このスコポス理論から、翻訳されたテクストを比較したとき表面的な内容が変わっているように見えたとしても、設定されたスコポス、つまり翻訳の目的によってその変更が行われたと分析することができる。本研究においては、翻訳の変更が見られたとき、どのような理由によって翻訳が変更されているのか、スコポスによって規定されてどのような要素が変わらずに残っているのかを比較することが必要となる。

この翻訳の機能主義的分析を用い、翻訳の評価を実際の翻訳例から行ったのが藤濤文子である。藤濤（2000）では、翻訳をコミュニケーションとしてとらえる立場から評価すべきであるとし、テクスト全体の枠組みからスコポスを特定し、語句・文体レベルの翻訳評価を行っている。ドイツ語の原文に対して、二種の日本語訳を対照し、注の入れ方、その内容、語句の選択、文体についてスコポスに基づいて考察した結果、翻訳のコミュニケーション状況において適切かどうか、どのような影響を及ぼすのかといった視点が翻訳の判断基準として有効であるとした。ただし、スコポスとその適切性はテクストごとに状況が異なるため、問題となる項目はどのテクストにも当てはまるわけではないことを指摘している。

つまり、藤濤が指摘し、翻訳評価によって実践したことは、語彙や表現の等価から翻訳テクストを比較するのではなく、テクスト全体の構成から翻訳が適切かどうかの分析である。これはテクストを単一のものとして全体から切り離し、語彙や表現の辞書的な対応によって比較をしないことを意味する。こうした分析方法は、吹き出しによって制限された文字量、マンガを読む層という限定的な読者層の共有する独特の表現など、マンガのテクストの特徴的な点を工夫して翻訳する際の変更を分析するのに必要な観点であると考えられる。

さらに本研究にとって注目すべきは、藤濤の行った翻訳評価である。藤濤（2000）ではス

[42] ベイカー、サルダーニャ、前掲書、p.91

コポス理論により、影響範囲と必要細分化度の二つの視点を用い、スコポスを特定・評価を行っている。また、藤濤（2001）がことば遊び翻訳について分析したものがある。まず、ことば遊びの分類と翻訳方法、翻訳評価について等価等級として示す、テンチャの提案した基準を紹介している[43]。TT でことば遊びを含む内容になっているか、また ST におけることば遊びと同じタイプのものかを判断するテンチャによることば遊びの方法と評価基準に対し、藤濤はスコポスルールによる翻訳の目的、そのことば遊びが理解可能かを示す結束性、忠実性を加えたことば遊びの翻訳評価を提案した。これは翻訳の目的、結束性、忠実性を達成度順に 3abc から 0 までの数値で表し、翻訳成功には 2 以上の数値が必要であるとしたものである[44]。

ことば遊びに関する分析は 5.1.で扱うためここでは詳しく立ち入らないが、注目すべき点がある。一つ目は、翻訳を受容層のニーズを含めた目的から分析する点、二つ目は、翻訳方法の分類から翻訳テクストを分析する点、三つ目は、翻訳の達成度を設定した数値によって段階的、視覚的に表現するという点である。

特にパラメーターによる翻訳達成度の視覚化は、重要な観点であると考える。翻訳テクストを比較し、この要素が変更された、あるいは削除された、注が付けられたなどの状況を比べることは出来る。しかし、その変更によってどのような要素が保持・削除されたか、テクストの受け取られ方が変わったかについて明示することは難しい。しかし、例えば「ことば遊びとして理解可能かどうか」というパラメーターを設けた場合、テクストを分析した結果、理解不可能であるなら「翻訳の目的」の数値は 1、他のパラメーターの分析結果と総合してこの翻訳では達成度は 1a で失敗、と示すことが可能となる。

ただし、藤濤がこの論文の中で示した達成度の評価判断基準はやや分かりにくいものとなっている。これは、藤濤が設定したパラメーターを判断する要素がそれぞれテクストのどの要素に対応しているのかが明確ではないためであると考えられる。また、段階的に結果を示すことのできるパラメーターの結果が、なぜその結果になったのかの理由付けが分かりにくいことも問題として挙げられる。さらに、この研究ではテクストの内容をことば遊びに絞ったために、ことば遊びの評価に特化したパラメーターとなっているため、他の内容を評価する際に同じパラメーターが使えるかどうか不明確である。

これらの問題について、藤濤（2004a）では、パラメーターの項目はことば遊びに対するものと同じものを使用しているが、対象テクストをことば遊びに限らない分析を行っている。パラメーターの項目は翻訳方法、スコポス、結束性と忠実性とし、複数の翻訳版を対照した翻訳評価を行うものである。パラメーターの評価が分かりづらかった点については、パラメーターの評価は段階評価ではなく、プラスかマイナスかの評価に修正されている[45]。しかし、評価の基準が分かりづらい点については改善されているとは言い難い。

---

[43] 藤濤文子（2001）「ことば遊び翻訳の機能主義的考察」、『ドイツ文学論集』(30)、p.69、神戸大学
[44] 藤濤、前掲書、pp.71-72
[45] 藤濤文子（2004a）「文学テクストの翻訳にみる異文化コミュニケーション行為――評価分析のための技法――」、『ドイツ文学』(115)、p.32、日本独文学会

ここから、藤濤の提案したパラメーターを使った翻訳達成度の視覚化という方法を受け、本研究では翻訳テクストにおいて変更された部分を比較する際に、パラメーターを使った分析を提案する。どのような要素が変わったかを翻訳前と翻訳後で比較し、変更された要素、あるいはされなかった要素を比べることにより、翻訳においてどのような要素が優先されるかを明らかにすることができると考えられる。また、パラメーターの結果は、どの要素から判断するかを明確化し、判断の過程が分かりやすいものとする。

このような手法を提案する一方で、本研究で対象とするのはマンガの文字テクストであるため、文学作品とはテクスト自体が異なる特徴を持つこと、また受容層などが異なると考えられることから、スコポスも大きく異なると考えられる。マンガの文字テクストに設定されるスコポスはどのようなものか、マンガの文字テクストに含まれる要素とは一体何なのか、またマンガにおける翻訳上の問題とは何かについて、さらに考察を進める。

次の項では、マンガの翻訳比較を行った先行研究から、マンガ翻訳における問題にはどのようなものがあるか、実際の翻訳でどのような対処がなされているかを見る。

２．３．２．マンガ翻訳研究

マンガ翻訳テクストに比較研究を行ったものとして、Gyllenfjell（2013）の研究がある。この研究はマンガ翻訳研究のケーススタディとして、マンガ翻訳上の問題を挙げ、使用されたマンガ翻訳方法を分析したものである。

同研究は、『機動戦士ガンダムカタナ』（曽野由大、脚本：クラップス、原作：矢立肇・富野由悠季・角川書店）1 巻を対象としたものである。分析に際し、翻訳の問題を具体的に 9 種類挙げ、実際の文字テクストの中から要素を抽出し、分析を加えている。

翻訳上の問題として挙げられたものは以下の項目である[46]。

a)当て字：スペルと読みの間に隔たりがある、あるいは追加の意味を伴う
b)文化的要素
c)ST にとって外国語の使用による文法間違い
d)言語的あいまいさ：日本語には多く、例えば指示代名詞の性別の非表示など
e)擬態語
f)オノマトペ
g)固有名詞：タイトルや組織名など
h)言語形態：敬語など、吹き出しという限られたスペース内での表現という理由もある
i)ことば遊び
j)その他

[46] Gyllenfjell, Per. (2013). "Case Study of Manga Translation Problems", Dolarna University. School of Languages and Media Studys, Japanese, Open Access(diva2:602887), pp.10-11

これらの問題を、採取された例の比率で比較すると、「f)オノマトペ」がほぼ 64%と圧倒的に多く、それに「a)当て字」が 10%、「g)固有名詞」が 8%と続く。

また翻訳テクニックが 11 種挙げられている[47]。これはナイダとニューマークによる翻訳方法を統合したものであり、全てのテクニックがどの翻訳上の問題にも適応できるという列挙にはなっておらず、特定の翻訳上の問題にのみ適応可能である翻訳テクニックも同列に扱ってある。

a)補足：意味の欠け、音効果、メタファー、語用論的効果に対するもの
b)訂正：ST にとって外国語使用における、スペルや文法のミスに対するもの
c)機能的等価：ST の中立化・一般化のために文化要素を抜いた一般的な表現を使う
d)省略・完全に内容を変更する
e)パラフレーズ
f)部分的に訳す
g)一般訳
h)TT のオノマトペを使用する：TT に ST に対応するものがある場合に限る
i)転位：借用語の使用など
j)名詞を使用する：TT の名詞を使ってオノマトペや擬態語を訳す
k)動詞を使用する

総計すると「j)名詞」を使用するテクニックの使用が圧倒的に多い。これは、そもそも f)オノマトペの例が多いためであり、実際の例数は大きく引き離されているが k)動詞を使用するテクニックの使用も同様に多い。翻訳上の問題の種類に関わらず使用できるテクニックとしては、「c)機能的等価」や「e)パラフレーズ」の数が多い[48]。

全体を通しての考察として、マンガの文字テクストの多くが吹き出しという限られたスペースの中に配置されるため文章自体の量が制限され、正確さが失われることが指摘されている。「a)補足」や「e)パラフレーズ」の手段を使えば正確な情報の伝達が可能となるが、スペースの制限がそれを阻むことになってしまう。また、「c)機能的等価」、「d)省略・完全に内容を変更する」、「i)転位」などの手法を使用すれば、スペースの省略にはなるが、その代わりの情報量が犠牲となる可能性がある。

理論上すべての翻訳テクニックを取り入れれば、読みやすさや情報量を保持することは可能であるが、対象テクストによって保持すべき情報は異なる上に、それぞれの翻訳テクニックに長所・短所があるため、特定の翻訳テクニックの組み合わせ使用が必要となる。例えば以下のような方法を挙げている[49]。①借用語などを使う「i)転位」は理解の阻害リスクの

[47] Gyllenfjell、前掲書、pp.11-13
[48] Gyllenfjell、前掲書、pp.14-15
[49] Gyllenfjell、前掲書、pp.33-34

高い翻訳方法であるが、「a)補足」と組み合わせることによって読みやすさを保つことができる。②また、融通の利く翻訳方法には「c)機能的等価」や「e)パラフレーズ」があり、これらの手法は様々なタイプの問題に対応でき、テクスト量を抑えられる可能性が高い。③文化的な要素を翻訳する際に、一般的な表現を使えば長い説明が必要なくなる。④「e)パラフレーズ」の使用は、使用のタイミングが難しく、またスペースを劇的に減らすことは出来ないが、翻訳箇所によっては元の構造や意味を保持することが可能となる。

一般的な考察に加えて、a)当て字のフレキシブル翻訳の可能性として、マンガ翻訳が英字にルビを振るというような新種の翻訳法を生み出すなどの現象も報告している。

以上のケーススタディを通して、マンガ翻訳における問題とその解決方法には、言語や語彙などの形式の問題と、内容再現の二つがあるといえるだろう。そして、言葉の翻訳上の問題以外に、マンガ特有の吹き出しというスペースによるテクスト量の制限という問題が大きいこともわかった。

Gyllenfjell による分析では、マンガ翻訳における問題を広く扱っているため、本研究で対象としないオノマトペ翻訳の比率が高く、また概論的な内容となっていた。

次項では翻訳の問題から一旦離れて、マンガの文字テクストを材料に研究を行っている日本語教育の分野におけるマンガテクストのとらえ方を見る。そこから、本研究が対象とする文字テクストとはいかなる要素から成り立っているか、従ってどのように分析可能なものであるかを考察する。

２．４．日本語教育でのマンガ利用

2.1.1.で述べた通り、マンガ・アニメの海外需要が拡大するにつれ、マンガという媒体は、マンガそのものを研究する分野の対象として以外にも、アニメやマンガの海外受容に注目した日本語学習のツールとしても考えられている。

海外に大きな需要を持つマンガやアニメは、日本語学習者の強い動機ともなっており、それに注目してアニメやマンガを題材とした日本語教育用教材の開発を目指す研究が存在する。このような研究について、熊野・川嶋（2008, 2011a）が報告を行っている。

これらの研究によって明らかになるのは、マンガやアニメといったポップカルチャー独特の言葉を含む表現様式が、辞書や既存のテキストからは学びとれないという特徴である。そのため、アニメ・マンガを題材とした教材開発は、マンガやアニメに特徴的な要素とはなんなのかを抽出する研究であるともいえるだろう。

マンガやアニメの日本語学習の利用可能性のために海外における普及や地域事情、既存の日本語教材や Web サイトを調査した熊野・川嶋（2008）の報告がある。特にドイツにおけるマンガの輸入や普及の状況に関してはすでに行ったためこの項では行わない。注目すべきはマンガ・アニメを取り入れた教育利用に関する研究に関する動向であり、この研究は

90 年代からマルチメディア教材への注目とともに始まったとされている[50]。

アニメにおける、日本の日常生活における言語行動やバリエーションがリアルに現れること、あいさつ表現などの要素がストーリーの中で自然に現れること、日本の習慣や文化などの要素を含んでいること、などの特徴から教材として選定していることが指摘されている。また、映像資料であることから、情報量が豊富であること、学習者に対する動機付けが高いこと、日本語や文化の知識が具体的にイメージしやすいことも、日本語教育素材の可能性として挙げられている。ただし、教材化に当たっては著作権などの問題点が指摘されている。これらの特徴が、特にアニメという媒体の持つ特徴であるということができるだろう。

またマンガのテクストの特徴にも当てはまる共通点もあり、日常生活の言語行動、あいさつ表現が大量に現れる、日本の文化などの要素を含んでいる点がある。逆にいえば、これらの特徴がマンガのテクストの特徴であることがここから強調できる。

さらに 2000 年代に入ると、マンガ・アニメを日本語教育活動に取り入れた実践報告が発表されるようになった。本研究にとっても重要な指摘がここで 2 つなされている。

一つ目は、因（2005）が、言語表現形式と実際の意味とのかかわりを観察・分析するのにマンガが適しているとし、マンガを活用した上級日本語会話教育の方法を提案したものである。

これは、日本語学習者が会話を解釈する際の問題点として、レベルやジェンダーなどの文体表示形式の意味や用法に関する理解不足・文化的価値観の違いをあげ、そこから母語話者の解釈とずれた誤解釈が発生することを指摘している。しかしこれらの誤解釈は単なる事実関係や論理関係ではなく話者の態度や感情に関わっているため、訂正が難しい上に表面化しないために、接触経験を重ねても解消しづらい。これを踏まえ、誤解釈がどのように発生するかを観察し、その要因を分析するために、因はストーリーマンガの解釈とそこから発生する誤解釈を通して、考察を行っている。

因が挙げた解釈上の問題点は、敬語やジェンダー、その場面における立場が上の人物の行動などで、誤解釈の原因として日本語学習者の場面の影響の意識が薄いことを指摘している。例えば、常体と敬体の使い分けは仕事の状況と私的な状況といった、明瞭な外的環境の変化も含めた場の変化によって起こっているにもかかわらず、日本語学習者は単に個人同士の敬意や丁寧さの多寡によって使用レベルが決定されると考える傾向にあるという。ここから、因は「言葉が状況に応じる」のではなく、「言葉によって状況を作り出す」という言語の能動的な機能について意識化することが必要であると主張している[51]。

発話スタイルの変更は、会話場面の分析において社会言語的観点を用いる分析方法であるポライトネスから分析することが可能である。話者に期待される使用範囲と逸脱を理解

[50] 熊野七絵、廣利正代（2008）「「アニメ・マンガ」調査研究―地域事情と日本語教材」、『国際交流基金日本語教育紀要』4、p.62、国際交流基金

[51] 因京子（2005）「日本語学習者の日本語会話解釈上の問題点―日本語学習者によるマンガ理解を通して―」、『比較社会文化』11、p.85、九州大学

するためには、使用範囲自体の存在を明示的に学習者に示し、そこからの意図的な逸脱と意図しない逸脱とを意識的に区別されることが求められる。

この分析において重要な点は、マンガテクストを実際の会話におけるテクストとしてとらえているという点である。マンガのテクストの多くは会話文であるが、それはマンガ著者によって会話らしく作られたテクストである。これは、マンガの文字テクストは、実際の会話に似せてある疑似会話テクストであるということである。そして、会話に似せて作られているからには、実際の会話の持つ特徴を再現してあるテクストでもある。例えば因の指摘したような、実際の会話におけるポライトネス的な要素をマンガの文字テクストは持っており、読者はそれを理解することができるということになる。

本研究の対象とするような翻訳テクストでいえば、元の日本語の文字テクストの持つポライトネス的な要素を元に翻訳版が作られ、読まれるということになる。ここからマンガの文字テクストの分析において、リアルタイムのテクストではないとはいっても社会言語学的なアプローチの可能性を示すものであると考えられる。

本研究にとって重要な指摘の第二点目は、日本語学習素材としてアニメやマンガのテクストの特徴を分析した熊野・川嶋（2011a）の研究の中でなされている。

マンガやアニメを題材とした日本語学習 Web サイト開発について報告した同研究では、学習素材にするためにマンガやアニメのテクスト特徴の抽出を行った。これは、マンガやアニメが日本語学習の大きな動機づけになっているが、教科書や辞書に出てこないような俗語やアニメ・マンガに特徴的な表現が多く、それらを理解するための助けへのニーズが高かったためである。

教材開発に際して、マンガやアニメらしい日本語の特徴を抽出、分析して作ったデータベースから、アニメとマンガのセリフを比較対照した結果、日本語の表現面の特徴が音声を除いてほぼ同一であったことが報告されている。具体的には、キャラクター表現としての役割語、それぞれの作品のジャンルに特徴的な表現[52]、またアニメ・マンガ的な表現を含む俗語である。

ここで重要な点は、マンガにおける文字テクストの表現が、自然な会話の形を取り発声されるアニメのセリフと同じ表現特徴を持つことである。つまり、マンガの文字テクストは紙面に印字された文字表現でありながら、「話すテクスト」であるということを意味する。これは因が指摘し、考察した特徴にも当てはまる。マンガ文字テクストは会話のテクストであるという観点からの分析の必要性に関する重要な指摘である。

本研究においては、マンガの文字テクストが実際の会話を真似た「話すテクスト」であるという前提に立ち、実際の会話を分析する手法をマンガの翻訳比較分析に取り入れることを提案する。

[52] それぞれのマンガのジャンルに特徴的な用語の特徴については、熊野（2011）に詳しい。さらに立ち入って、ジャンルごとに頻出する漢字の特徴について論じた熊野・川嶋（2011b）の研究がある。

さらに、口語的であり、辞書・教科書的でない特徴を含むマンガの文字テクストの特徴をさらに挙げ、それらがどのように翻訳されているか、あるいはどのように翻訳できるかという問題について論じた先行研究を見る。

海外のマンガやアニメを楽しむ層が、そのコミュニティの中でどのような特徴を持った言葉の使用があるかを分析し、マンガやアニメ用語の基本用語の特徴について報告したのは伊藤（2003）である。伊藤が調査したのは、アメリカを中心とする英語圏が対象であり、マンガ・アニメの用語集を持つ Web サイトと概説書から基本用語を抽出している。

日本マンガの最初の英訳は 71 年にされているが、日本人の英語教育のために作成されたものであるため、ほとんど輸出されていない。輸出を意識したマンガの英訳は 78 年に始まり、80 年代に入ると英訳される作品が急増する。作品数が増えるにつれて、日本マンガのファン[53]が海外に現れる。彼らは基本的に英語を介してコミュニケーションするが、ある用語に関しては日本語語彙のまま使用する。そのために、“Otaku”のコミュニティに入るには“Otaku”達の使う日本語を勉強する必要に迫られるという。

マンガ・アニメの日本語は勉強のための用語集から抽出された語には、アニメ・マンガの専門用語だけではなく日常会話に頻出する単語や表現が採録される傾向にあることを伊藤は指摘する。ここでいう日常会話とは、実際に日本人とコミュニケーションをとるためのものではなく、マンガを原書で読むこと、吹き替えされていないオリジナル版のアニメを聞き取ることを目的としたものである。さらに伊藤は、吹き換えた翻訳された作品はあくまで一般的か初級オタク向けで、中級・上級オタクたちはオリジナルの作品を見る傾向にあることを指摘している。

用語集から抽出された語は、人物やキャラクターに関する名詞が非常に多いこと、また呼称接尾や感動詞が多いという特徴を持っている[54]。注目すべきは後者の特徴で、これはマンガやアニメで使われる日本語のほとんどが会話文であることによる。伊藤による報告においても、マンガの文字テクストの大部分が会話の形式であることが明らかである。

また 2.1.2.でも指摘されたことでもあるが、マンガやアニメのテクストはそれを受容する者同士でコミュニティを作り、その中でだけ通じる共通語を持つという特徴を持つ。ここから、それらの特徴を持つマンガのテクストを、マンガを読む層、あるいは特定のコミュニティに向けた翻訳とはいかなるものかという問題が提起される。つまり、マンガに頻出するような要素、特に文化的事物を表すとき、ある程度共通となった日本語語彙の流入が起きるのではないかと考えられる。ドイツ語版マンガの読者層のマンガ表現の理解、日本語語彙の流入・使用については 2.1.2.ですでに見た。

マンガのテクストが「会話のテクスト」であることから、そのキャラクター性と発話形式

[53] 欧米圏においても“Otaku”と呼ばれる。
[54] 伊藤雅光（2003）「英語圏における日本の漫画・アニメ用語集の構造と基本用語の特徴」、『日本語学』22(12)、p.73、明治書院

を論じた研究もある。ある性格や特徴を持つ人物と、その発話形式が結び付けられ、あるキャラクターとして特徴付けられるというものである。一般的な日常生活よりも大げさな表現の取られがちなアニメやマンガにおいては、重要な要素となる。キャラクターの個性・アイデンティティと話し方の結びつきについて、ジェンダーの領域ですでに論じられているのは、2.2.1.ですでに見た。この項では、ジェンダーに限らずキャラクター性と話し方の結びつき、その特徴、さらに翻訳する際に生じる問題についてを先行研究から見る。

定延（2014）は登場人物と話し方を結びつけた「キャラクタ」を翻訳の問題と関連させて論じている。定延は「キャラ（クタ）」を登場人物とは異なる、「情報を帰属される対象としてとらえられた人間の「スタイル以上、人格未満」の安定性を持つ領域を指す」[55]としている。そして、ある特徴を持つことばを発するキャラクタを「発話キャラクタ」、発話キャラクタが発することばを「役割語」[56]と定義している。

役割語はイントネーションなどの音声的特徴も含むが、文学やマンガといった文字のみの媒体には音声的特徴は含まれないため、全ての特徴が関連付けられるわけではない。しかし文字媒体テクストの表現において、特徴的な文字フォントの使用などで発話とキャラクタを結びつけることが可能であるなど、文字媒体ならではの特徴もある。またこの定延の考察では、対象を文学のみに絞っているために仕草や姿勢を関連付けられない要素に数えているが、マンガにおいてはテクストに加えてイラストがあるため、これらの表現を関連させることが可能である。

定延が挙げるキャラクタとことばの関係には相互排他的でない 3 つがあり、①ことばがキャラを直接表すもの、②このことばをしゃべる話し手のキャラクタを暗に示すもので、つまり「発話キャラクタ」によるもの、③ことばが表わす動作の担い手のキャラクタを暗に表すものである[57]。第 3 の関係におけることばは、例えば「にたりとほくそ笑む」という言葉が「悪者」と結びつけられるようなものを指し、定延はそれを「表現キャラクタ」と定義している。

これらの言葉による表現を翻訳する際、翻訳言語に該当する発話キャラクタが存在しないという問題が生じる場合がある。その解決法として、表現キャラクタに注目して地の文を工夫することで言語間のギャップを縮めることができる点を定延は指摘しているが、地の文の存在しないマンガテクストではどのように解決するかという問題が提起される。

以上の先行研究をまとめると、まずマンガテクストは「話すテクスト」である。マンガ作者によって創造され、発声の伴わない文字だけで表現される以上は疑似的なものにすぎないが、その特徴は実際の会話に即したものである。従って、実際の会話を分析する手法を用

---

[55] 定延利之（2014）「キャラクタから見た翻訳の問題と解決」、『電子情報通信学会技術研究報告. TL,思考と言語』113(440)、p.2、電子情報通信学会

[56] 金水による定義で、ある特定の言葉遣いから特定の人物像が連想されるような言葉遣いの事。ことば遊びの翻訳を分析した 5.1.で再び触れる。

[57] 定延、前掲書、p.6

いてマンガテクストを分析するという方法を試みる価値があると考えられる。ここから、翻訳される前と後のテクストを、それぞれ社会言語的・会話分析的手法に分析し、比較するという方法が提案できる。

さらにマンガテクストの特徴として、マンガを読む層という限られたコミュニティの中の共通言語という、特殊な語彙や表現の使用が起きる可能性があることが挙げられる。日本のマンガに頻出する表現や要素がどのように翻訳されているかという分析観点が挙げられる。

また、「話すテクスト」であること、マンガやアニメのテクストが教科書・辞書的でない特徴を持つ点から、人物とその話し方がどのようにかかわっているか、それが翻訳によってどのように扱われているかという問題点が提起される。そこから、翻訳の前後で変更が起こった場合、キャラクターのとる態度の示し方が変化しているかを分析の考慮に入れることを提案する。

これらのマンガテクストの分析観点を踏まえ、次項では社会言語学的、あるいは会話分析的な視点とはどのようなものであるのか、先行研究から見る。さらにそこから、マンガの文字テクストを分析する手法としての有効性、つまり何を明らかにすることができるかを考察する。

２．５．会話分析・社会言語学による分析

この項では、マンガの文字テクストが疑似的に作られた「話すテクスト」であるという前提に立ち、実際の会話を分析対象とする会話分析・社会言語学による研究手法を概観し、本マンガ翻訳比較の分析要素として取り入れる点を提示する。

本研究の目的である、マンガの文字テクストが何を行っているか、どの要素から成るかを説明するための要素として、会話という一連の流れの中で文字テクストをとらえ、その発話が何を行っているか、どのような態度を示しているといった観点を取り入れようとするものである。最終的には、これらの要素からパラメーターを作り、変更された翻訳テクストとの比較分析において、どの要素が変更されているか、どの要素は変更されず残っているか、保持される要素の優先度はどのようなものかを明らかにすることが目的である。

２．５．１．発話行為論

ある発話が会話の中でどのような行為を行っているかについて、発話行為論の領域があり、この領域において言語行為（speech act）の概念がある。

オースティンはまず、「「何ごとかを言う」という行為を名付けて、発語行為(locutionary act)」[58]と定義づけている。これは、純粋に「発話する」行為を指している。しかし実際の発話は、「純粋に発話する」行為を達成するだけのものではない。

[58] オースティン，ジョン（1978）『言語と行為』坂本百大訳、大修館書店、p.164

「発語行為」を遂行することによって、その発話が例えば「質問」や「陳述」、「要求」などの行為を行っていることを、オースティンは「発語内（的）行為（illocutionary act）」[59]と呼んでいる。さらに、この「発語行為」とそれに伴う「発語内行為」の遂行によって、会話の参加者やそれ以外に言及される人物の感情や思考、行為に対して結果として効果を生ずる場合があり、またこの効果を生じさせようとする計画や目的を伴って発言を行うことが可能であるとし、このような行為を「発語媒介的行為または発語媒介行為（perlocutionary act, perlocution）」[60]と定義した。

つまりこれらの概念は、「発話する」行為を考えた時、例えば「質問」することによって「説明を要求する」することができ、この場合の「質問」が「発語内行為」であり、「説明を要求する」のは「発語媒介行為」である。

さらにこの概念を受け、サールは「発語内行為」の種類を分類し、それぞれの規則において細かい分析を行っている。例えば、話し手と聞き手が出会った時に相手を認知したことを表す「挨拶」、聞き手に将来の行為をさせようと試みる「依頼」、話し手が求めている情報について、聞き手からそれを引き出そうとする「質問」などがある。

このような、当該発話が何を行っているかに注目した分析方法は語用論において中核的な理論とされてきた。しかし、伝統的な発話行為論は言語形式に深く依存し、単独の発話の効力のみに注目しており、相互行為的な発話の効力というとらえ方が欠けていたという批判的な議論が起こっている。

レヴィンソンは、発話行為論が含む問題に関して、間接的言語行為（indirect speech acts）が言語行為論の内的問題に関する困難の大きな部分を占めているとした。発話行為論で扱うような発話内的力が文の形に組み込まれているという立場を取る際にも、文から推測される間接的な力の存在を考慮に入れねばならず、問題となるのはたいていの発話の用法が間接的であることである。レヴィンソンは、英語では依頼をするために命令文を用いることはめったになく、間接的に依頼を表す分を用いる傾向があることを例に出している[61]。

発話の効力というものを考えるとき、文の形に結び付いた発語内効力（文字通りの力の仮設　literal force hypothesis）のように専断的に決定するか、文脈の中で文の機能をとらえる方法を試みるかの二つの作業が大きく挙げられる。後者の方法を取る場合、昨日や目的を与える文脈上の要因が複雑すぎ、その上それ自体が深いテーマとなってしまい、言語行為理論のために残されている余地は程んどなくなってしまうことが明白である。

以上のような理由から、レヴィンソンは自然言語の用法を経験的に研究する分野の発展により、言語行為論がその土台から崩されつつあることを指摘し、実際の言語使用を対象とする会話分析や、話し方の民俗学、言語獲得の研究を具体的に挙げている。そしてこれらの

[59] オースティン、前掲書、p.171
[60] オースティン、前掲書、p.175
[61] レヴィンソン，ステファン・C.（1990）『英語語用論』安井稔・奥田夏子訳、研究社、p. 331

研究からは、発話の果たす機能の大部分が、その発話が特定の会話、あるいは相互のやりとりの連鎖の中でどの位置を占めているかということによって決まってくることが分かるとしている[62]。

語用論的現象に対する分析のために会話に注目する意味についてレヴィンソンは、会話は言語使用の原型であり、言語使用にかかわる様々な変数を文法的に記号化する際の用法が、常にその場にいる会話参与者の仮定を軸にして構成されると主張した。ダイクシスなど語用論上の概念のほとんどすべてが言語使用の中心的、基本的なものとして会話と密接にかかわるとしている[63]。

こうした批判から、具体的に相互行為上の発話の効力について分析した名塩・水島（2011）の研究がある[64]。この研究では、発話の行為を「個々の参与者の主体性」の関与を考慮し、会話参与者の試行錯誤的な相互行為とマクロ的な社会コンテクストとミクロ的な状況的コンテクストの関連を議論したものである。同研究では、発話の効力は相互行為においてその発話を取捨選択する参与者の能動的な行為のあり方に依存していると結論付けている。発話の効力は、発話を聞き取り解釈する他者に効力を持ち、翻って聞き手がそこに何らかの効力を見出し、状況に変化を起こせばその変化こそが「発話した結果（効力）」として確認されると説明している。

相互行為の当事者はマクロな社会という枠組みが定める状況的コンテクストから効力を受け入れるのではなく、そうした状況へ考慮をしつつ、主観的に効力を取得する、見出す。また、主観的に取得、見出された発話の効力は、効力を取得する発話を受け取る側の主体性にゆだねられ、フィードバックされて事後的に決定づけられるという特徴がある[65]。ここから、発話の行為、効力を考える際、単独の発話ではなく一連の会話の流れ、前後の発話と合わせて分析する必要性があることが分かる。

これらの概念を受け、本研究では対象文字テクストの「発語内行為」を基礎とした、発話の行為について分析を行う。またその際には、当該発話の言語形式・表現から行為を決定する。ただし、発話を単独のものとして文脈から切り離して分析することに対する批判を受け、発話全体の分析は相互行為的、つまり前後の会話の流れも含めて行うこととする。

次項では、発話を会話の流れを通して分析する会話分析の手法を見て、会話の流れを分析に取り入れること、また発話の解釈の確かさについて考察する。また、マンガの文字テクストにおいて、解釈の手掛かりとなる要素について見る。

---

[62] 前掲書、pp. 350-351
[63] 前掲書、pp. 356-357
[64] 名塩征史、水島梨紗（2011）「相互行為における発話の効力を再考する―社会による限定と参与者による決定―」、『社会言語科学』13(2)、pp.46-58、社会言語科学会
[65] 名塩、水島、前掲書、p.56

２．５．２．会話分析

語用論の伝統的発話行為論への批判を受け、発話を単独のものとして分析するのではなく、会話の連なりの中での位置や行為を含めて分析する必要性について前項で見た。こうした問題解決のために、実際の会話を相互行為として分析する領域、会話分析の分析観点を参照する。

会話分析とは、社会学や言語学で知られている学問領域である。広く社会生活の中で行われている「話すこと」による相互行為を研究対象としており、実際の会話の中からやりとりの秩序や社会的秩序を研究するものである。社会秩序を相互行為の中から現象学的に研究しようとしたハロルド・ガーフィンケルによって創始されたエスノメソドロジーにおいて、彼とハーヴィー・サックスとの出会いの中で成員カテゴリー分析と会話分析という基本的な二つの方法が生み出された[66]。

現在では、会話分析は会話における相互行為や会話自体を研究する方法として、様々な分野で研究されている。会話の組織が細分化して研究されており、そのテーマには「会話の開始」や「修復」、「優先構造」などがある。

会話を一連の流れの中から分析し、その関係性を見るために、シークエンスの概念がある。会話は会話参加者が交代しながら発話を連ねていくものであり、その発話の連なりをシークエンスという。シークエンスの中での発話同士の関係を見ていく分析の手法があるが、その特徴的なものについては後の本論の中の当該項で詳しく見る。

また、会話分析は実際の会話の録音データやビデオデータを用い、それを詳細に書き起こしたトランスクリプトを分析する。音声のみの場合は、笑いや沈黙、言い淀みなど音声に現れる会話の特徴がすべて分析の対象となる。ビデオデータの分析においては、チャールズ・グッドウィンによる聞き手の行為、特に視線を分析し、話し手と聞き手の相互行為によって会話が作り上げられていることを明らかにしたものがある。この研究以来、ビデオデータを用いた会話分析はますます盛んになり、この方法も様々な分野で行われている[67]。

最後に、会話分析における分析の確かさは、会話が相互行為的な行為であることから説明できるものとする。つまり、会話分析は録音・ビデオ映像・トランスクリプトなどのデータを直接的に観察することによってなされ、そこからは会話の参加者が何をやっているかを観察することができる。相互行為的であるということは、会話の発話者がどのような行為をしているか、それを聞き手がどのように受け取っているかを、発話に続く反応を見ることで解釈しうるということである[68]。

ただし、会話分析において扱うのは録音データおよびビデオデータを書き起こしたトラ

---

[66] ジョージ，サーサス・ハロルド，ガーフィンケル・ハーヴィー，サックス・シェグロフ，エマニュエル（1989）『日常性の解剖学――知と会話』北澤裕・西阪仰訳、マルジュ社、pp.7-9
[67] 山崎敬一編（2004）『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣、pp.33-34
[68] 山崎、前掲書、pp.39-40

ンスクリプトであり、リアルタイムの会話が研究の対象となる。そのため、非リアルタイムの、いわば作られた会話であるマンガの文字テクストのようなものは、本来研究対象には含まれていない。

しかし、繰り返しになるが、いくら擬似的なものとはいえマンガの文字テクストは読者が違和感を抱かないように「会話らしく」作られていると考え、非リアルタイムに生じる現象に絞って、会話分析的要素を分析に取り入れることを提案するものである。従って、ある文字テクストのコンテクストの中の位置を分析項目に含む。

リアルタイムに生じる現象として、例えば会話の組織には順番交替の組織があり、これは本分析の対象からは外れる。さらに、マンガの文字テクストは実際の音声を伴わないために、ピッチの変化や笑い含みの発音、沈黙の長さなどを判別することは出来ないために、分析の対象とならない。

その代わりに、会話の組織では非リアルタイムのトランスクリプトからも観察できる修復などの行為、または文字テクストに表記される沈黙「…」や「！」・「？」などの疑似イントネーションを読み取ることができる。さらに、マンガは文字テクスト以外にイラストを伴う媒体であるため、人物の視線や表情やコマの中に描き込まれた動きを分析の対象に加える。さらに、吹き出しの形やフォントの違い、驚きや焦り、喜びなどのマンガ的な記号による補助的な表現がある。本論では文字テクストに加えてこれらの要素を取り入れ、分析を加える。

次項では、発話によって示される態度の表現の一バリエーションとしてポライトネス理論と、その翻訳研究への応用について見る。ここから、ある発話内容をどのように示すかの態度にいくつか種類があること、またその方法が言語によって差があることの一つの例として参照する。

２．５．３．実際の会話と作られたテクストとその翻訳

本研究では、発話行為論や会話分析などのリアルタイムの会話を対象とした分析観点を取り入れることを提案したが、疑似的な会話のテクストにその分析方法を適応することは可能なのだろうか。また、翻訳比較を行う際にも、同様の問題が発生する。適応できる場合には、分析観点として重要な視点は何だろうか。

このような問題に対し、本項では実際の会話に起きる現象を疑似会話テクストや翻訳テクストにおいて分析した先行研究を見る。この試みが多く行われている研究分野は、ポライトネスに関するものである。

ポライトネスとは、会話の中で会話参加者がよい人間関係を築けるように配慮し、円滑なコミュニケーションを試みる社会的行動を説明するための概念である。代表的な物に、Leech によって Grice の協調の原理の有効性を 6 つのポライトネスの原理を説明したもの、

Brown & Levinson が Goffman のフェイス概念を使ってポライトネスを説明したものなどがある。ポライトネスに関してもっとも影響力を持っており、包括的な内容を扱っているものとして、Brown & Levinson（1987）のポライトネス理論を概観する。

Brown & Levinson（1987）は、まず Goffman の言う「肯定的な自己像」、「フェイス」の概念を二種類に区分した。一つは、他者に受け入れられたい、好かれたい、近づきたいという積極的フェイス、もう一方はそれとは逆に自分の領域を他人に邪魔されたくない、距離を置きたいという消極的フェイスである[69]。Brown & Levinson はそれらのフェイスを脅かす行為をフェイス侵害行為（Face Threatening Act、以下 FTA）と呼んだ。

FTA を緩和するため普通は何らかの策が講じられることになるが、Brown & Levinson が「円滑な人間関係の確立・維持のための言語行動」を「ポライトネス」と呼び、FTA を行うためのストラテジーとして次の 5 つのストラテジーがあるとしている[70]。①あからさまに FTA を行う場合は、これは緊急時など聞き手への利益がフェイスよりも上回る場合、あるいは話し手の権力が聞き手より強い場合に当てはまる。②積極的ポライトネスは、友情関係や連帯感を表すことで話し手と聞き手の欲求が共通していることを示す場合に当てはまる。③消極的ポライトネスは、消極的フェイスに配慮するものである。消極的ポライトネスの表現手段は、例えば日本における敬語や、ヨーロッパ言語の多くにある常体・敬体の 2 人称使い分けなど、言語形式ごとのそれ専用の方策が際立つ傾向がある。④ほのめかしはフェイス侵害を避けることを優先して婉曲的に意図を伝えようとするものである。⑤FTA を行わないという方策がある。

さらに Brown & Levinson は、フェイスの侵害度（W）は話し手（S）と聞き手（H）の社会的距離（D）、聞き手と話し手に対する力（P）、ある行為（x）が相手に書ける負荷の度合い（R）という 3 つの要因によって想定されるとして、次のように公式化している[71]。その上で、FTA を行うためのストラテジーの①から⑤に向かって Wx が弱くなる場合に選ばれるとしている。

$$Wx=D(S, H)+P(H, S)+Rx$$

このようなポライトネス表現を、リアルタイムの会話ではなくテクスト研究に援用した例では、たとえば、大橋（2008）が、実際の会話の中でポライトネス理論がどのように実現されているかを調査するために、映画の会話データを用いている。映画の会話データを用いた理由は、談話の流れ全体の観察が可能であること、発話場面や話し手と聞き手の関係など発話の状況が把握できること、発話が限りなく自然に近いことを挙げている[72]。映画の中の

---

[69] Brown, Penelope and Levinson, Stephen.(1987)Politeness - Some universals in language usage, Cambridge University Press, p.61

[70] Brown & Levinson、前掲書、pp.68-71

[71] Brown & Levinson、前掲書、p.76

[72] 大橋まり子（2008）「発話連続に見るポライトネス―映画の会話場面の分析から―」、『湖北紀要』29、pp.63-64、湖北短期大学

発話は、作られたものであり疑似的なものであるが、自然な会話として聞ける以上、自然な会話にできるだけ似せてあるという主張である。

そして大橋の研究では、両者の親疎関係が言語表現により影響しており、両者の関係が遠い場合には間接性の高い表現、関係が近づくにしたがって言語表現上は単純な表現を利用していると分析された。また、言語表現が相手との距離を調整する手段としても機能していることを指摘している。さらに、ポライトネスが場面や状況、両者の関係に応じてダイナミックに変動するものであることを観察している。

この研究から、疑似的な発話にもポライトネスが現れること、そしてその現れ方が会話参加者同士の関係性によって変わることを示唆している。同じく疑似的な「話すテクスト」であるマンガの文字テクストにおいても、同様のことがいえると考えられる。

またフェイス侵害度計算式の中では、異文化間の文化的差異は Rx として計算されるため、FTA が文化によって左右されることが指摘されている。さらに、ある行為のフェイス侵害の度合いは各文化における話し手と聞き手の社会的距離、相対的力によって異なる。一般的には、フェイス侵害の度合いは、積極的ポライトネス文化では低く、消極的ポライトネス文化では高いと言われている。

このような異文化間のポライトネス関係を翻訳研究において利用した研究も存在する。その多くは映画のテクストを対象としており、字幕・吹き替えのどちらの研究例も存在する。豊倉（2012）が映画の吹き替え・字幕翻訳におけるポライトネス方略を分析し、語用論研究への利用を考察している。また、文学作品の翻訳研究には梁（2011）のものがある。

実際の会話を模した文学や映画の翻訳におけるテクスト研究においてその理論の応用を試みている研究が存在することが分かった。また、翻訳研究においても、談話の相互行為的な部分を抜き出して理論を適応する研究が成立することが分かった。

ここから、音声面の特徴は持たないが実際の会話を疑似的に再現したマンガの翻訳テクストにおいても、相互行為論的な理論を適応し、分析の観点として取り入れることが可能であると考えられる。

よって本研究においても、翻訳が変更されるときの一つの理由に、言語・文化的様式の差異に由来する、ある態度を表明するやり方の違いが関係することを考慮に入れる必要があると考えられる。従って、本研究の分析観点の一つに、発話者同士の関係性や発話の態度を加えること、疑似ピッチや表情などの言語的・非言語的特徴から判断することを提案する。

次項では、対象作品『よつばと！』の簡単なあらすじと作品分析を見る。対象作品が本研究の目的とどのように合致するかを示す。それに加えて、作品内容とドイツ語・英語翻訳した翻訳社の方針を通し、想定読者や翻訳姿勢などのスコポスを明らかにすることが目的である。

２．６．対象作品『よつばと！』

２．６．１.『よつばと！』の作品分析

マンガ翻訳のテクスト比較のための対象として、本研究では『よつばと！』（あずまきよひこ・アスキーメディアワークス）を用いる。この項では、『よつばと！』の簡単なあらすじを見た後、作品の評価、作品分析を概観し、この作品が持つ特徴やテーマが本研究のものと合致することを示す。

『よつばと！』はあずまきよひこによるストーリーマンガであり、『電撃大王』で 2003 年から連載されている。2016 年 9 月現在 13 巻まで発売され、ドイツ語版は TOKYOPOP から 12 巻まで、英語版は Yen Press から 2016 年 5 月に 13 巻が発売されている。連載されている雑誌は青年誌であるが、それ以外の層にも幅広く受け入れられている。作品の評価については後に詳しく述べる。

このマンガは、5 歳児の少女〈小岩井よつば〉[73]を主人公とし、彼女が日常の中で出会う初めての発見や感動を描いた[74]コメディである。〈よつば〉の〈とーちゃん〉、〈とーちゃん〉の友人たち、〈小岩井家〉の隣人である〈綾瀬家〉の三姉妹とその友達などが、〈よつば〉のバイタリティにあふれる発想や行動に巻き込まれていく、日本の日常生活を描いている。

夏休みの始まりの日に、〈よつば〉と〈とーちゃん〉が引っ越してきた時点から物語が始まり、日常生活や人々との交流、季節の様子を丁寧に描くという特徴があり、一話に対して一日程度の作中時間が流れる場合が多い。

作者によるインタビューでは、『よつばと！』というタイトルは「よつばと誰か」を表しており、基本的には〈よつば〉と、〈よつば〉より年上の大人たちの絡みを描いているという[75]。翻訳家であり、在宅で仕事としている〈とーちゃん〉とのやりとりが多いが、他にも〈とーちゃん〉の友達であり花屋を父親と共に営む〈ジャンボ〉や、〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉の後輩であり、〈よつば〉と同レベルで大人げない行動をとる〈やんだ〉がいる。また、引っ越し先の隣家に住む〈綾瀬家〉一家の三姉妹、大学生の長女〈あさぎ〉とその友達〈虎子〉、高校生の次女〈風香〉とその友達〈しまうー〉、〈よつば〉と最も歳の近い小学生の三女〈恵那〉とその友達〈みうら〉、〈よつば〉が〈かーちゃん〉と呼ぶ綾瀬家の母、影の薄い綾瀬家の父などがいる。

〈よつば〉は〈とーちゃん〉との二人暮らしで母親はおらず、〈とーちゃん〉が海外で拾ってきた孤児であるという設定になっている。作者によれば、「ファミリーものにする気が

---

[73] 登場人物については、作中の通称などを使って、〈〉でくくって表す。

[74] 『よつばと！』の章タイトルは、それぞれの章タイトルではその話のテーマとなるものを「！」の記号の中に文字を配置するレイアウトになっており、これがそれぞれの話の中での〈よつば〉の新しい発見を示していると受け取ることができる。英語版は日本語版にならうレイアウトになっており、ドイツ語版では、„mit Yotsuba“（よつばと）の後に„! ○○“と表記することで代替している。

[75] あずまきよひこ（2014）「特集　まんがのはなし[壱]　よつばと！あずまきよひこインタビュー」、『季刊エス』12(4)、p,23、飛鳥新社

なかったので母親も登場させなかった」[76]ためであり、〈よつば〉の境遇などを深く掘り下げるつもりはないようである。〈とーちゃん〉がいるのは、〈よつば〉という子どもを描こうとした場合に、〈よつば〉が自立できる存在ではなく保護者を必要としたためである。複雑そうな背景事情がありながら、物語の中に深くかかわってこない理由は、あずまの考える『よつばと！』の作品コンセプトと深く関わるものであるため、後で詳しく考察する。

『よつばと！』の評価は高く、国内では文化庁と国立新美術館の主催する「文化庁メディア芸術祭」で 2006 年のマンガ部門で優秀賞を受賞している他、文化庁による文化庁メディア芸術祭 10 周年記念でメディア芸術の体系化を目的とした「日本のメディア芸術 100 選」に選出、書店員を中心とした選考委員によって選ばれる、他人に薦めたい旬のマンガ[77]を選出するマンガ大賞において、2008 年に 2 位を獲得している[78]。さらに手塚治虫の業績を記念し、マンガ文化の健全な発展に寄与することを目的に朝日新聞が主催し、19997 年度に創設された、手塚治虫文化賞の 2008 年度第 12 回にノミネートされ、2016 年度第 20 回にマンガ大賞を受賞した[79]。累計部数は 2013 年 3 月現在、1000 万部を突破している[80]。

2014 年現在 13 か国語に翻訳[81]されており、海外でも高い評価を受けている[82]マンガである。

『よつばと！』というマンガは、著者が故意にストーリーマンガ的な手法を排して描いた作品である。ストーリーマンガ的な手法とは、一つの行為を表すのにセリフ、擬音、吹き出しの形、漫符[83]、周囲のリアクションと言った複数の表現から描く、斎藤の言うユニゾン的同期空間に含まれる手法を指す[84]。しかしあずまは、擬音や集中線などのマンガらしい画面の使い方を避けた手法を用いている。また、キャラクターの造形もマンガ的な技法や特徴づけに頼らないことを目指している。

これは、あずまの『よつばと！』の前作に当たる連載マンガの『あずまんが大王』が「萌え」という言葉によって語られ、「萌え系マンガ」というジャンルにくくられることへの反発心から意識されたものであるとしている。一般的な読者へ向けたマンガを目指し、生きた

---

76 あずま、前掲書、p.23

77 選考対象が、その年に出版された単行本のうち、最大巻数が 8 巻までのものであることは、手に取りやすい長さで長期連載によって面白さが知れ渡っていないマンガを広く知ってほしいという賞設置の目的による。

78 よつばスタジオ、「コミックス「よつばと！」」、http://yotuba.com/yotu_comics.html（閲覧日：2016/09/29）

79 このときの受賞のニュースは、ドイツ語翻訳版を出版している TOKYOPOP 社の web ページでも発表された。TOKYOPOP, “ Yotsuba&! gewinnt Tezuka Manga Award!“(2016/4/27)http://tokyopop.de/aktuell/yotsuba-gewinnt-tezuka-manga-award/（閲覧日：2016/9/25）

80 よつばスタジオ、「コミックス「よつばと！」」、http://yotuba.com/yotu_comics.html（閲覧日：2016/09/29）

81 あずまきよひこ（2014）「特集　まんがのはなし[壱]　よつばと！あずまきよひこインタビュー」、『季刊エス』12(4)、p.22、飛鳥新社前掲書

82 シネマトゥデイ（2011/01/11）「人気マンガ「よつばと！」がイギリスのレビューサイトで満点を獲得！「子どもから大人まで楽しめる」と大絶賛！」http://www.cinematoday.jp/page/N0029538（閲覧日：2016/09/08）元記事は UK Anime Network, “MANGA REVIEW: Yotsuba&! Vol. 9” http://www.uk-anime.net/manga/Yotsuba&!_Vol._9.html（閲覧日：2016/09/08）

83 表情以外に、飛び散る汗や線、花などで登場人物の感情を表現する記号のこと。

84 斎藤環（2008）「ユートピアゆき猫目の切符　『よつばと！』のメタ感情記号」、『ユリイカ』40(1)、p.81、青土社

キャラクターを描きたいという目的のもとに多面的・普遍性を持った表現として、読み方をそれぞれの読者にゆだねたいとあずまはいっている[85]。

そのために、あずま自身の言葉によれば「ストーリーとかキャラがセリフを喋っている感じとかを抜いていった」[86]結果が『よつばと！』と言う作品の表現になっている。具体的には、モノローグによる語りを入れない、画面におけるカメラの位置を〈よつば〉より高い大人の視点の位置に置いて客観的に描くなどの手法を用いている。これは、物語や場面を説明しないこと、日常の中の〈よつば〉の新しい発見や感動をテーマとしながら〈よつば〉の視点で物語を描かないことを示している。物語らしい展開も個性的なキャラクターもない代わりに、『よつばと！』のマンガで描き込まれているのは背景である。徹底的に背景を描き込むことによって、写実的なリアリティが発生し、読者にとってはリアルな日常が描かれているように感じる。

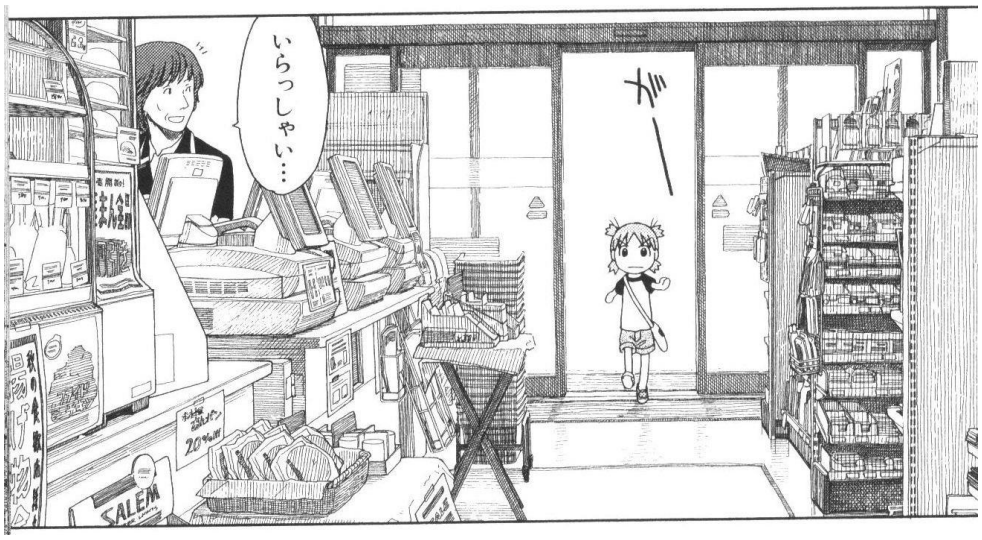


図 5　あずまきよひこ（2007）『よつばと！』7 巻、アスキーメディアワークス、p.119

『よつばと！』がさらに特徴的なのは、徹底的に描き込まれた背景の中に〈よつば〉という異物が置かれることにある。つまり、写真や映画のように写実的な背景、薄い個性の「モブ」的な顔をした登場人物たちの中で、緑の髪、鼻のない[87]デフォルメされた「マンガ的な」〈よつば〉が紛れ込んでいるような画面となる（図 5 参照）。これは、〈よつば〉が幼児、あるいは外国人という異物であることを図像的に表したものであるといえる。マンガらしさによって現れた異物感は、『よつばと！』というマンガの世界の中では、外見から漂う異物感を表している[88]。

[85] あずまきよひこ、伊藤剛（聞き手）（2006）「キャラクターがそこにいるというマンガを」、『ユリイカ』38(1)、p.110、青土社
[86] あずま、伊藤、前掲書、p.114
[87] 初期の〈よつば〉には鼻が描かれている。しかし作画が少しずつ変化する中で描かれなくなり、横向きの顔を描かれてもつるりとした輪郭になった。
[88] あずま、伊藤、前掲書、p.113

外見だけではなく、内面の表現においても〈よつば〉は異物である。〈よつば〉が幼児であるために、言語習得過程における言葉の間違いや、常識外れの言動、大人ぶった振る舞いなどが文字テクストに現れる。さらに、〈よつば〉は外国人であるために日本語に不慣れであるという特徴を持ち合わせている。著者による設定によれば、〈よつば〉はまだ日本に来たばかりで日本語がたどたどしく、助詞がない喋り方をするとしている[89]。また、文字テクストの表現として〈よつば〉の話すセリフは基本的にひらがなによって表される[90]。

〈よつば〉の言葉は話が進むにつれ、周りにいる大人たちに影響されて喋り方が大人っぽくなるように著者によって意識されている。また、〈恵那〉や〈みうら〉などと遊ぶようになってその影響も受けているという[91]。

ことばとキャラクター性を結びつけた場合、〈よつば〉の話し方は、周りにいる大人が〈とーちゃん〉を始めとする男性である場合が多いために、「食う」などのやや乱暴な言葉遣いが目立つ。その話し方も相まって、幼児という一種無性の雰囲気から、物語が進むにつれて女の子たちとの「お嬢様ごっこ」遊びや女児向けアニメ「プリキュア」の話題が現れ、女の子としての自覚が芽生えている様子が見られるなど、物語の中の時間の流れを感じられる要素にもなっている。

〈よつば〉の幼児らしい、あるいは異邦人としての言葉遣いは、コメディにおける笑いと関わる要素でもある。さらに、使う言葉が違うことに代表される〈よつば〉の異質さは、コミュニケーション上の問題であるだけではなく、物語の中での異質な存在である〈よつば〉を浮かび上がらせる。

---

[89] あずまきよひこ（2014）「特集　まんがのはなし[壱]　よつばと！あずまきよひこインタビュー」、『季刊エス』12(4)、p.23、飛鳥新社季刊エス

[90] 初期は、「言う」などの基礎単語は漢字になっている場合があるが、基本的にはひらがなで表記される。

[91] あずま、前掲書、p.23



図 6　あずまきよひこ（2007）『よつばと！』7 巻、アスキーメディアワークス、p.123

さらに、『よつばと！』に特徴的なのはセリフのない〈よつば〉の行動をストップモーションのように描いているコマが多いことである（図 6 参照）。マンガ的な擬音や効果線などを排して、行動主義的な描き方をすることは、あずまが説明的な表現を嫌い、ドキュメンタリー風に描くことを追求した結果である。さらに、そこで描かれるのは子どもである。子どもという存在は、誰しも通ってきた過程であること、日常的に接する場面が多いことから、誰でも関わりやすい存在として受け取ることのできる存在である。しかもあずまは、〈よつば〉の主観から物語を描くのではなく、〈よつば〉を誰でも関われるように客観的に描くように方向づけている。ここから、『よつばと！』の普遍性は生まれるのだと考えられる。

大人同士であれば当然であり、疑問を抱かないようなコミュニケーションの約束事に対して、子どもは多くの場合約束事に不慣れであり、時にルールを破壊することがある。一方で段階的に大人のルールに子どもを取り入れていくことが必要不可欠であり、子どもの参加するコミュニケーションは常に解体・再編されていくということになる。

〈よつば〉は子どもであるというコミュニケーション上の異物であると同時に、日本人ではないという異文化の背景を持つ異物である。二重にコミュニケーションの破壊者である〈よつば〉を通して描かれた日本の日常は、常にコミュニケーションの解体と再編の可能性を通して描かれている。

本研究の目的である翻訳の比較という観点からこの『よつばと！』という物語を見るならば、〈よつば〉の接する日常が、日本の一般的な物であるという点がまず大きい。例えば文化的にもビジュアル的にも特徴的である祭りの場面などはもちろんのこと、ドキュメンタリー的に描かれた登場人物たちがリビングルームで思い思いにくつろぐ姿や、登場人物たちの背景に細かく描かれる何気ない景色や看板が、日本に親しみのない翻訳語版読者にとっては未知なるものであり、翻訳によって理解の問題を解決すべき要素を含んでいる。

そしてモノローグのない、会話形式の文字テクストの多い『よつばと！』においては、会話のやりとりの持つニュアンスや笑いをどのように翻訳に反映するかが問題となる。さらに、〈よつば〉のたどたどしい言葉を原因とすることば遊びや勘違いが随所にちりばめられており、言語形式を異とする翻訳語がどのように対応するかも大きな問題である。

そして、コミュニケーションの解体と再編というテーマを持つ『よつばと！』の翻訳比較という問題に対し、翻訳という活動自体が、いうまでもなくコミュニケーションの解体と再編という活動である。本研究は、元の日本語の文字テクストにおいて描かれるコミュニケーションの解体と再編が、翻訳にどのように表されているかを分析するものである。

２．６．２．各社の翻訳方針について

この項では、対象作品の翻訳者の方針、対象年齢などを通し、『よつばと！』翻訳におけるスコポスを考察することを目的としている。翻訳者が想定する読者とそれに従って求められると考えられる翻訳、また翻訳社自身が翻訳をどのようなものとして提供としているかを考察する。

『よつばと！』のドイツ語版は、TOKYOPOP 社から、英語版は現在[92]Yen Press 社から翻訳・出版されている。その出版時期は以下のようになっている。

	日	独	英		日	独	英
1	2003.9	2007.3	2009.9(a)	8	2008.8	2010.4	2010.4(a)
2	2004.5	2007.6	2009.9(s)	9	2009.11	2011.1	2010.12(a)
3	2004.12	2007.9	2009.9(s)	10	2010.11	2011.1	2011.10(s)
4	2005.9	2007.12	2009.9(a)	11	2011.11	2012.8	2012.9(s)
5	2006.5	2008.7	2009.9(a)	12	2013.3	2013.1	2013.11(s)
6	2006.12	2008.12	2009.9(a)	13	2015.11	(2016.11)	2016.5(s)
7	2007.1	2009.11	2009.12(a)				

表 1

[92] 5 巻まで ADV Manga 社から出版されていたが、同社からの出版は事業停止によりそこで止まってしまった。その後、Yen Press 社が版権を得て、新訳版として出版している。詳しくは後述する。

ドイツ語版は、2016 年 8 月現在 12 巻までが出版されており、一貫して Marcus Wehner が担当している。英語版は 2016 年 8 月現在 13 巻まで出版されており、翻訳者は Amy Forsyth と Stephen Paul の二名がいて、巻によって翻訳担当が異なる。どちらがその間で翻訳を担当しているかについては、表に(a)、(s)とそれぞれ示した。

ドイツ語版を翻訳している Marcus Wehner は、家庭用ゲーム「サガ・フロンティア 2」の翻訳プロジェクトに携わることで日本語メディアの翻訳に関わる。その後株式会社スクウェアソフト[93]の開発業務部門の中にある海外版独訳担当として家庭用ゲームの翻訳に携わっていた。代表的な翻訳作品に、「Final Fantasy IX」や「キングダムハーツ」がある。また、マンガ翻訳にも関わっており、本研究の対象作品である『よつばと！』（あずまきよひこ・アスキーメディアワークス）の他、『よつばと！』と同じ作者による『あずまんが大王』（あずまきよひこ・メディアワークス[94]）や『GOLDEN BOY』（江川達也・集英社）がなどを翻訳している[95]。

英語版の翻訳の前半部に携わった Amy Forsyth は、ADV アニメの翻訳に関わる一方で、ADV Manga や YenPress 出版のマンガ翻訳にも関わった。アニメの代表翻訳作品は、「ああっ！女神さま」や「フルメタル・パニック！」など多数ある。また、マンガの翻訳作品は、本研究の対象作品と同じ著者による『あずまんが大王』（あずまきよひこ・メディアワークス）などがある。2010 年に亡くなっており、連載と出版が続いている『よつばと！』の翻訳はそれまでも作品の翻訳を担当したことがあった Stephen Paul が引き継いだようである[96]。

英語版の現翻訳者である Stephen Paul は、広くマンガ翻訳に関わっており、代表翻訳作品の中にはロングセラーの有名作品『ワンピース』（尾田栄一郎・集英社）や『進撃の巨人』（諫山創・講談社）がある。また、Yen Press 社が出版している日本のライトノベルの英訳版タイトルも手掛けており、『ソードアート・オンライン』（川原礫・アスキーメディアワークス）の翻訳も行っている[97]。

また、ドイツ語版は 13 歳以上、英語版は全年齢対象であると表示している[98]。この対象年齢層の違いから、それぞれの言語版における想定読者の知識量の見積もりが異なり、翻訳内容に違いが出ることが予想される。

本研究で対象とするドイツ語版と翻訳版について、各社の翻訳方針に触れておく。ドイツ

---

[93] 2003 年にエニックスがスクウェアを吸収合併し、現スクウェア・エニックス。
[94] 現アスキーメディアワークス。
[95] Marcus Wehner（2003）Übersetzen in der Unterhaltungsbranche, 『関西大学視聴覚教育』26、pp. 35-36
[96] Animenewsnetwork, “Amy FORSYTH”, http://www.animenewsnetwork.com/encyclopedia/people.php?id=12680（閲覧日：2017/3/15）
[97] Animenewsnetwork, “Paul STEPHEN”, http://www.animenewsnetwork.com/encyclopedia/people.php?id=6318（閲覧日：2017/3/15）
[98] 海外版のマンガは、対象年齢やジャンルが背表紙や裏表紙に表示される場合がある。これは、日本では対象年齢やジャンルの傾向は掲載誌ごとにだいたい決まっており、読者はマンガのレーベルによって判断することができるが、海外の翻訳版ではコミック主体の出版であり、さらに版権の取得などの関係で出版社やレーベルで内容の傾向を判断することができない。そのために、マンガごとに対象読者の目安を表示するものと考えられる。

語版を出版した TOKYOPOP 社にはメールインタビューを行い、同社の翻訳方針について聞いた。また英語版を出版している Yen Press 社は、情報サイト about.com 内のマンガカテゴリーで公開されていた[99]『よつばと！』翻訳に関わるインタビューを参照した。

TOKYOPOP 社にメールインタビューで翻訳作業のプロセスや翻訳方針について質問し、編集部門からの回答を得た。

翻訳のプロセスは、まず翻訳者を選ぶところから始める。会社の持っている翻訳者プールから翻訳者が選出されるが、たいていは一人の著者の作品に対して一人の翻訳者が担当するか、あるいは少女マンガ、少年マンガといったジャンルごとに担当することになる。翻訳にふさわしいようにジャンル間での担当変更もある。

翻訳者が決まると、編集者から一巻分本を送る。約 4 週間で翻訳されたものが返ってくると、編集者が編集する。その後校正を入れたものをマンガの画面上にレタリングして、再度校正を入れる。

同社の翻訳方針は、できるだけオリジナル版に近付けることを第一にすることである。そのために、翻訳者はよりよい翻訳の提案のために注釈を書き添える。これは、日本語版のいわんとしていることを日本語の分からない編集者が理解できるようにするためであるが、一方で編集者は的確に対応するドイツ語の表現を理解している。そのため、編集者はことば遊びや冗談に対して一番いい翻訳を選ぶことができる。編集者は、ドイツ語版読者にとって可能な範囲で最もよい変更を産出し、ことば遊びをドイツ語化する。また、欄外の注は例外的な手段で、翻訳が完全に不可能な場合か意味自体がゆがんでしまう場合に限って使用される。

以上から分かるのは、同社の翻訳は日本語の分かる翻訳者と日本語が分からない編集者によるチームワークによって成り立っていること、その中で翻訳者は文字テクスト自体を翻訳するだけではなく、どのような内容やニュアンスがあるかを注釈によって補完すること、編集者はそれを受けて適切なドイツ語表現を決めるというプロセスを経ていることである。さらに、内容の変更の際にはもっともよいと考えられるドイツ語表現を選ぶようにすること、また直訳ではなくドイツ語表現に置き換えて翻訳することが分かる。注による説明も最小限にするようにしている。また、翻訳上の問題としてことば遊びや冗談を挙げていることから、翻訳の難しい要素としてその二つが大きいことが推察される。

この TOKYOPOP 社の翻訳過程、方法から産出される実際の翻訳例の内容やニュアンスがどのように対応しているかを分析するのが本研究の目的である。そのときに、文字テクストの中のどの要素に注目されているか、どのようなテクストとして読ませたいと考えた結果の翻訳であるかなどに注目する。

---

[99] 2016 年現在ではサイトからのリンクが切れ、記事が閲覧できない状態になっている。ウェブアーカイブから閲覧することが可能。about.com, “Yen Press Explains Danbo vs. Cardbo and Other Yotsuba&! Manga Mysteries”http://manga.about.com/b/2009/09/17/yen-press-explains-danbo-vs-cardbo-and-other-yotsuba-manga-mysteries.htm（閲覧日：2015/1/9）

また英語版については、2009 年 9 月、Yen Press 社によって 1 巻から 6 巻まで同時出版された時期に、総合情報サイト about.com に掲載された、ライター、編集者、そしてマンガ家でもある Deb Aoki が Yen Press 社のシニアエディターである JuYoun Lee に対してしたインタビューである。

英語版『よつばと！』は ADV Manga 社によって 5 巻まで出版されながらもそこで一度出版が止まり、新しく版権を獲得した Yen Press 社が新訳・出版したという経緯がある。それぞれの翻訳版の相違とそれに関わる翻訳方針についてインタビューした内容となっている。

Aoki による変更点の指摘として、大きなものに〈ダンボー〉[100]と〈とーちゃん〉の職業について ADV Manga 版と Yen Press 版の翻訳の違いがある。〈ダンボー〉についてはは固有名詞の翻訳であり、〈とーちゃん〉の職業は音の類似を使ったことば遊びの翻訳という問題を持っている。詳しい内容と分析は本論に譲るが、編集者の意向として固有名詞は元の日本語の意味に沿った翻訳による語の変更は行いたくないこと、日本語の音の類似を利用した言葉の遊びは、翻訳版読者が冗談であることを理解し、笑って欲しいと考え、日本語を保持せず英語に置き換えた翻訳を行ったことと回答している。後者のことば遊びの翻訳では、編集部のスタッフで声に出して候補を考え、その中から最も面白かったものを選んだエピソードを紹介している。

また、〈よつば〉の子どもっぽい喋り方を表現する手法として、〈よつば〉の〈とーちゃん〉に対する呼称を ADV Manga 社では“Dad”、Yen Press 社は“Daddy”を使っている。これは、Lee が日本語版と韓国語版を読んだイメージを英語に落とし込んだ結果である。また、〈よつば〉が日本語のオリジナル版ではひらがなで喋るという英語版には反映しづらい喋り方のニュアンスを翻訳版に出すため、実際の幼児の喋り方を観察したという。

また、出版社や作品によっては、本編が終わった後の巻末に注が置かれていることもあるが、Yen Press 社の注釈はコマの欄外に置かれている。この方針は、『よつばと！』が日常マンガであることから、読者の読む流れを邪魔したくないという配慮からである。また、注の内容・量の特徴においては、文化的な違いがそれほど大きくないこと、『よつばと！』の画面は大きなコマ割りで派手な構図ではなく、小さなコマによる構成が多いことから、欄外の注という方法を選んだという。これは、注釈の分量がさほど多くなく、コマの隙間が多いことを表していると考えられる。

また、画面全体の比率がオリジナル版と変わっており、裁ち切りによってイラストが切れてしまっている部分があるが、オリジナルのデジタルファイルにアクセスできないために改善することは叶わないという。

そして Lee が考える『よつばと！』という作品の魅力は、誰でも関わることのできる日常を描いていることだという。しかも〈よつば〉という子どもを描いていることによって、

[100] 〈恵那〉と〈みうら〉が夏休みの宿題に作った、ダンボールをリサイクルして作ったロボット。

誰しも経験したことのある子どもという時期、しかも大人になるにつれ忘れてしまうような“nothing-yet-fascinating”な瞬間が描かれていると考えている[101]。また、読者は〈よつば〉を大人の目で見つめながら読むことで、その感動を共有する。しかも、理解を押し付けるような描き方ではなく、後ろについていくようにして〈よつば〉を眺めるという描き方になっていることが特徴的であるという。

英語版のこうした翻訳方針や実際の翻訳上の工夫がどう表れているのか、ドイツ語版と比較分析するのが本研究の目的である。

[101] about.com、前掲書

３．方法

以上の先行研究を踏まえ、対象とする文字テクストを二つの大きな特徴に分けて分析方法を決定する。

第一に、翻訳の際に問題となる大きな問題の一つとして、翻訳版読者にとって異文化のものである「なじみのないもの」を翻訳する際にどのような翻訳が行われているかについて分析する。これは、言語・文化形式の違いが翻訳にどのように現れているかを考察することを目的とする。

第二に、翻訳の変更が起こっているとき、その変更がコミュニケーション上の差異によるものであるととらえ、実際の会話を分析する手法を用いた会話としてのマンガ文字テクストを分析する。これは、ある文字テクストを単独のものとして分析するのではなく、会話や文脈のつながりの中で、前後の関係性から相互行為的に分析することを目的としている。それぞれの項目に必要な要素についての先行研究は各項で随時追加する。

4 章では、「なじみのないもの」の翻訳について分析を行う。

4.1.では、言語・文化的な差異から読者が理解できない「なじみのないもの」がどのようなものと翻訳者が考えているか、「なじみのないもの」を翻訳する際どのような翻訳方法・説明が用いられているかを分析するとともに、英語版とドイツ語版の翻訳を比較することで対象物の解釈の表現やそれに伴う翻訳方法の選択を明らかにするものである。

4.2.では、「なじみのないもの」の翻訳に関わる要因にどのようなものがあるかについて、同じ翻訳者による翻訳であるにもかかわらず、複数の個所において翻訳表現がそれぞれ異なる「たい焼き」という語を取り上げて分析する。翻訳方法の分類に加え、翻訳された時期や、マンガテクストのイラストと共に読む特徴を踏まえ、それらがどのように翻訳語・表現の選択に影響を及ぼしたか、その翻訳表現は実際どのように読まれるのかについて考察する。

4.3.では、「なじみのないもの」の翻訳方法の選択とその変遷について、ドイツ語版において翻訳語選択の変遷が認められる「セミ」に関する語の翻訳を見る。これは、翻訳語を選択する要因として、対象の事物について理解の背景にあるセミに対する読者の認知度に対する翻訳者の想定とその経過を考察するものである。またセミという語を翻訳する際の歴史的な背景の関係を考察に加える。ここから、翻訳語の選択が物語の中で登場する文脈や訳し分けの必要性以外に、翻訳の歴史的な慣習の影響を可能性として示唆するものである。

5 章では、会話の翻訳について分析を行う。すでに 2.5.で見た、会話の中での発話行為や、態度、それに対する相手の反応などから文字テクストを分析するものである。また、対象テクストの行為や態度などを判断する基準とそれを表すパラメーターを設定し、翻訳前と後を比較した際にどの要素が変更されているかを分析することを試みる。翻訳変更された内容の比較に加え、翻訳によってどのような要素が保持されるかを明らかにするものである。

5.1.では、ことば遊びの翻訳を見る。ことば遊びは、言語形式に依存したテクストであるため、翻訳の際には翻訳言語においてその言葉遊びが再現可能であるかどうかといった要因が関わるテクストである。このような特徴は、文化・言語の際から生じる「なじみのないもの」と似た特徴を持つものである。それに加えて、ことば遊びが会話の一連の流れの中で現れるとき、ことば遊びを含んだテクストがどのような行為を行っているか、やりとりの中でどのような効果を持つかというコミュニケーション上の観点からも分析可能な要素である。この項では、4 章の文化・言語形式の相違に関する翻訳に続き、主にことば遊びの言語形式的な要素に注目、分析することから始める。それに加え会話の中での効果、登場する場面における人物同士の関係性という要素を分析に取り入れ、後に続く相互行為的なパラメーター分析の足掛かりとする。

5.2.では、文字テクストがどのような文脈・関係性の中で発話されるか、それがどのような効果を生んでいるかに注目し、皮肉表現を含む文字テクストを分析する。皮肉の形式上の特徴と、その効果について先行研究から見た後、発話行為や評価態度を用いたパラメーターを設定し、パラメーターから実際の翻訳例を考察し、形式の変更とそれによる効果がどのようなものか分析する。この項では、パラメーターを通して翻訳前後で何か変わったかを視覚化し、比較することを試みる。「皮肉に読める」とはどのような内容から起こるのか、また翻訳の前後で皮肉に関する表現がどの要素に置き換え可能なのか、そこで行われているコミュニケーションがどのようなものなのかを明らかにする。

5.3.では、発話意図や役割が多様である「何（だ）それ」という文字テクストを取り上げる。これは、皮肉表現の分析からさらに発展し、パラメーターにより発話の文字テクストを発話の行為、評価、態度、シークエンス上の位置などの項目に分けて分析、比較する手法の有効性を確認するものである。「何（だ）それ」が担いうる発話の中での役割、シークエンスの観点からとらえ、評価態度を含めたパラメーターを設定し、パラメーターから、「何（だ）それ」という発話の意図と役割が翻訳においてどのように反映されているかを考察する。また、そこから文字テクストの内容の変更に寄与する要素、あるいは内容が変更されても保持される要素といった翻訳傾向を探る。この項では前の項に引き続き、パラメーターによる変更内容の視覚化、比較を試みる。その対象は 5.2.と異なり、日本語の文字テクストの内容を固定し、それに対するドイツ語版の文字テクスト内容を比較することにより、どのような内容が保持される傾向にあるのか、翻訳において表現されるのがどんなコミュニケーションなのかを明らかにするものである。

翻訳例を示す際、マンガの画面、抽出した文字テクスト表をひとまとめにし、例文番号を振る。例文番号の略号 j, d, e はその例文が日本語、ドイツ語、英語であることを示す。文字テクスト表の中に、引用元の巻数、ページ数を示す。

また、文字テクストを引用する単位は基本的に吹き出しとし、日本語版を基準とする[102]。

[102] 日本語版の吹き出しを基準とするため、翻訳版の文字テクストが前の文から一続きになっているにもかかわらず分

一つの文が 2 つ以上の吹き出しにまたがっている場合は、それぞれの文字テクストを„//“で区切って表す。繰り返しになるが、人名については作中での通称を用い、〈〉でくくって示す[103]。ただし、文字テクストの引用中についてはカッコを付与しない。

さらに、英語版の文字テクストはすべて大文字でレタリングされているが、可読性を優先して大文字小文字交じりの表記に直した。

人物の表情や漫符などのマンガ表現を参照にするための実際のマンガ画面は、資料編にまとめた。

断されて引用される場合がある。

[103] 通称を用いるのは、登場人物同士が改めて自己紹介したり名乗ったりする場面が少ないため、物語の中で呼び合う通称しか登場せず、本名が不明な人物が存在するため。例えば、主人公〈よつば〉の父のファーストネームが判明したのは 13 巻になってからである。そのため本論では、〈よつば〉の父、小岩井葉介は〈とーちゃん〉と表記する。

４．「なじみのないもの」の翻訳

４．１．注から見る「なじみのないもの」の翻訳

日本の日常を描いた『よつばと！』には、日本の食べ物や習慣などの文化的な事物、言語形式からくるやりとりなど翻訳版読者には理解が難しいと考えられる様々な要素が現れる。本項では、その中でも文化的な事物の翻訳に注目し分析を行う。マンガの文字テクストに含まれる文化的な事物を抽出する際、注を用いて説明されている事物がそれにあたると考え、注の付いた語を文字テクストから抽出する。

英語版において注による説明が多いことから、まず英語版で注が付いている要素を抽出し、英語版読者が理解しづらいと翻訳者が考えた要素とする。ドイツ語版においても、英語版と比べると数は少ないが注による説明があるため、それを抽出するとともに、英語版において注で説明されている部分をどのように翻訳しているかを比較する。

この分析を通し、どのようなものが翻訳版読者にとって理解しづらいものであり、それらを訳す際にどのような方法がとられ、どのような内容や説明が現れるかを考察する。

先行研究は、翻訳における注の機能とは何か、また注以外に取ることのできる翻訳方法とは何かを明らかにする。また、注を付ける対象となる事物の特徴を明らかにし、実際の翻訳テクストの中で注の付けられやす事物とは何かを分析する。

４．１．１．先行研究

翻訳における注の機能について、藤濤（2004）の文学作品の英独翻訳比較から分析した研究がある。この研究は、文学翻訳にはテクストに加えて挿絵やレタリングなどの様々な要素が調和してテクストが機能するものとし、その中でも注を取り上げて分析している。

注は、言語内と言語外の中間的な位置にあるものであり、翻訳者によるメタ言語的説明を加えるものと考え、想定される読者や翻訳の目的などのコミュニケーション状況を表すものである。注の分析には翻訳手法から見た分類を用い、文学作品の英独訳の具体的例を通して注のコミュニケーション上の機能とその出現を明らかにしている。

藤濤（2004）は、ナイダ（1972）による注の機能分類と、Franco（1996）の異文化要素の翻訳手法分類を組み合わせ、翻訳手法を分類している。この 2 種の分類を組み合わせてあるのは、注による補足は読者の理解を阻害するものに対して行われる「コミュニケーションの断絶回復機能」を持ち、またこの機能が必要とされるのは言語・文化などの異文化要素翻訳においてであるためである[104]。

藤濤がまとめたナイダによる注の機能分類は以下の二つである[105]。

(1)言語・文化的不一致の是正

(a)習慣の説明、(b)地理的・物理的事物の解説、(c)重量や容量の換算値、(d)言葉の遊戯

[104] 藤濤文子（2004b）「翻訳における注のコミュニケーション機能について――『キッチン』の独英訳を例に――』33、p.28、神戸大学

[105] 藤濤、前掲書、p.28

の説明、(e)固有名詞に関する補足的解説、など
(2)当該箇所の理解のための背景知識の補足

Franco の異文化要素の翻訳方法は 11 種類あり、原文の異文化要素が保持されている順に並べると以下のようになる[106]。

①Repetition:そのまま複写する。
②Orthographic adaptation:表記の適応、音訳も含む。
③Linguistic (non-cultual) translation:語の（明示的）意味を訳す。
④Extratextual gloss: 脚注・割注などで注解する。
⑤Intratextual gloss: 本文中で補足説明する。
⑥Synonymy:同一語の繰り返しを別表現で言い換える。
⑦Limited universalization:より知られた異文化表現に置き換える。
⑧Absolute universalization:一般的表現に置き換える。
⑨Naturalization:自文化の要素に置き換える。
⑩Deletion:削除する。
⑪Autonomous creation:原文にない文化要素を創造する。

藤濤は対象文学作品から注が付けられた箇所を抽出し、ナイダの注の機能別に取り上げた。さらに多言語訳版の対応する箇所のテクストと比較し、Franco の翻訳方法によって分類した。そして、それぞれの個所でどのようにコミュニケーションが成立しているかについて分析した。

藤濤が対象としたテクストでは、ドイツ語訳では 21 か所注が付けられているが、英語訳には注が含まれていなかった。これは、それぞれの言語版の翻訳者が、注を必要とすると考えるか、そうではないかが翻訳者によって異なることを示している。

実際の翻訳例を通して、藤濤は注の機能について、コミュニケーションの断絶回復機能の他に新たなコミュニケーションを創造する機能があると結論付けている。新たなコミュニケーションの創造とは、翻訳テクストを通して翻訳者がどのようなテクストとして読んでほしいか方向づける機能である。

この研究では、注を付ける、あるいは付けないといった選択だけでなく、注の中でどのような説明を行うか、注で説明せずにどのような要素に置き換えるか、などの翻訳の操作を翻訳者が主体的に行っていることを明らかにした。そうした翻訳者の主体性は、翻訳の操作だけではなく何を異文化として翻訳テクストに導入するかというところから始まっているといえる。注は、翻訳者と読者のコミュニケーションの場であると藤濤は主張している。

---

[106] Franco, Javier Aixelá. (1996) "Culture-specific Items in Translation", in Álvarez C.-Á. Vidal(eds.) *Translation, Power, Subversion*. Multilingual Matters. pp.52-78.

しかし、本項では注は翻訳者が解説者として発言できる場であり、注を用いることによって原文のイメージの正確さを保てる代わりに、読みやすさが犠牲になる可能性についても言及したい。藤濤が注をメタ言語的なものであると指摘した通り、注はテクストの外から翻訳者自身が割り込んで説明を行う行為でもある。そのために、テクストを読んでいる読者の意識はそこで一度中断され、物語の流れも中断することになる。

異文化のものを読む以上、知らないものや親しみのないものに遭遇するのは避けられないことである。翻訳テクストは、それら異文化のものを異文化のものとして差し出すことも、自文化のものに置き換えてから差し出すこともでき、さらに説明を加えたり問題の物を削除したりすることすらできる。そうした翻訳の操作の中で、読者がテクストを問題なく読むために取られる方策は、ナイダや Franco が示したような複数の方法がある。どれが特に秀でている、あるいは劣っているということはなく、翻訳の方針やその場面に合わせた方法を取ることが求められるということになるだろう。

藤濤の研究で対象とされたのは文学作品であった。文学作品のテクストとマンガの文字テクストでは、その特徴が異なっている。例えば、文学作品にはテクスト量の制限は特に決まっていないが、マンガでは文字テクストはたいていの場合吹き出しに入っているものであり、その量が制限される。またページの中の余白を比べても、文学作品ではテクストの周りの余白がほとんどの場あり、合一定のスペースがあるが、マンガにおいてはコマとコマの狭いスペースの余白しかない場合が多く、ストーリーマンガの場合コマ割りによってはページの中に全く余白がない場合もある。

このような条件の中で、マンガの文字テクストで注はどのように用いられているか、また注を用いない方法にはどのようなものがあるかに注目して分析を試みる。

英語版とドイツ語版を比較し、主に英語版から注の付いた箇所を抽出する。これは、ドイツ語版に比べて英語版の方が圧倒的に注の数が多いためである。さらにその他、ドイツ語版にのみ注が付いている箇所、両言語版に注が付いている箇所を含めて、翻訳者が考える注の必要な個所がどのようなものか考察する。この考察のために、ナイダの注の機能 2 種における分類を用いる。また、翻訳の方法、語彙の選択の分析のため、注の内容と対応する注のない文字テクストにおいて、Franco の翻訳方法の分類から翻訳内容を分析する。

４．１．２．実際の翻訳例と分析

『よつばと！』の翻訳版において、注が必要と考えられた部分の全体的な傾向を概観する。

巻数	英	独	巻数	英	独
1	27	1	7	31	4
2	28	4	8	41	4
3	27	3	9	20	4
4	23	2	10	7	3
5	31	0	11	9	5
6	33	1	12	8	6
			計	285	37

表 4-1

注の数が多い英語版では、12 巻までで約 300 箇所[107]ある。それに対し、ドイツ語版では 37 箇所である。数を比べた場合には、圧倒的に英語版が多いことが分かる。ここから単純に判断するならば、英語版は丁寧な解説重視、ドイツ語版は読んだ時のスムースさ重視の傾向があると考えられる。

この傾向は、一つには英語版とドイツ語版の対象読者層の違いが影響しているものと考えられる。『よつばと！』においては、ドイツ語版が 13 歳以上、英語版が全年齢対象としている。この違いから、ドイツ語版の方が対象読者層の知識量を多めに見積もる傾向があり、注を付けずに済ませるかドイツ語の表現に置き換えて文字テクストのみで情報伝達を行い、英語版では細かく注を付けて知識を補うか、あるいは日本文化や語彙をそのまま取り入れ、注でメタ的に説明する翻訳方針がとられていると考えられる。

次に言語ごとの注の数の推移を見ると、英語版において目立つのは 8, 9 巻を境目として注の数が減る点である。後述の具体的な例を通した分析でも言及するが、注が付けられる内容もここを境に変化する。出版年や翻訳者との関係で言えば、英語版は 6 巻までが 2009 年 9 月に出版された後、既刊分や日本語版の出版ペースに合わせて順次発売されている。英語版には翻訳者が二名いるが、問題の 8, 9 巻は同じ Amy Forsyth による翻訳である。そのため、出版時期や翻訳者の変更といった環境の変化によるものではなく、翻訳方針自体がここを境に変わったものと考えられる。注という現象に限らず、コマの中のイラストに描き込まれた文字テクスト以外の文字が、オリジナルの手書き文字から活字にレタリングされる場合が見られるようになるのもここを境にしている。

ドイツ語においては、英語ほど大きな注数の変化は見られない。ただし後述の内容別の分析を見ると、注を付けるべきと考えられる対象の傾向変化は 7 巻から見られる。イラストの中に描き込まれた文字に注を付けて説明し始めるのがこの時点である。また、注以外の要

[107] 調査のために抽出した実際の数は、285 箇所。概算数なのは、コマの中に描き込まれた文字テクスト以外の文字部分に付けられた注が最も多く、一つ一つの語に注が付けられる場合、一つの注に対してコマの中のすべての該当箇所の内容がまとめられている場合、一ページの中に複数の注に分けられている場合などがあるため、カウント数のブレが生じている。

素からの変化としては、10 巻からオノマトペをドイツ語活字にレタリングし直す操作が加えられている。ドイツ語版はすべて同じ翻訳者によって翻訳されているが、細かな翻訳方針の変更があるようである。

これらの変化から、読者の日本文化への知識量の見積もりを元にした翻訳方針の転換、あるいは異文化的なものの翻訳上の扱いの変更が、マンガの一シリーズという連続した出版の中でも起こることが分かる。

次項からは、具体的な翻訳例を比較しながら注を付けられるべきと判断された物品がどのようなものか、どのような説明が加えられているか、あるいはどのような方法で翻訳されているかについて分析する。翻訳例はナイダの分類に従って分析し、Franco の翻訳方法の分類を用いて考察する。

４．１．２．１．言語・文化的不一致の是正

ナイダに分類による注の機能の一つ目は、言語や文化的不一致から起こる理解の困難を、注を付け説明することによって解決しようとするものである。

ただし、本研究で対象とする『よつばと！』の英語版においては、この注の機能とナイダの挙げた注の二つ目の機能である理解のための背景知識の補足の内容を組み合わせた注が非常に多く見られる。具体的には、注が付けられた物品に対する説明に加えて、文脈の中で登場人物たちがどのように理解・認識しているかが付け加えられるという場合である。藤濤（2004）ではこのような例を注の機能の二つ目に分類して分析していたが、本研究ではそのような注の機能を組み合わせた内容がどのような対象物に現れるかを見るためにも、この言語・文化不一致の是正の項目で分析を行う。機能の組み合わせによる注である際には、それを加えて示す。

さらに、この項目の中で同じ単語の使用例が複数採集できるなどの特徴を持つ語については、新たに項を立てて分析する。例えばことば遊びについては、両言語版の翻訳に特徴が見られるため、この項では概略的に触れるにとどめる。

４．１．２．１．１．習慣の説明

習慣の説明に含まれる対象は、日本文化に基づく習慣の他に、それに含まれるイベント、人間関係の中で発生する呼称に関わる接尾辞などがある。それぞれ項を分けて分析を行う。

４．１．２．１．１．１．呼称、呼称に関わる接尾辞

英語版において、日本語における呼称や、呼称に関わる接尾辞を日本語語彙を用い原文通りに反映した上で、注による説明を加えている点である。それに対してドイツ語版では、ドイツの呼称体系に合わせた変更が加えられている。

	(1-1j)1 巻、p.19	(1-1d)Bd.1, S.19	(1-1e)Vol.1, p.19
風香	よつばちゃんですね！	Prima, Yotsuba, also! （すばらしい、よつば、では！）	Yotsuba-chan* it is! （よつばちゃん、ですね！）
注			*-chan: an informal suffix used when referring to children and young girl （子どもや女の子を指すときに使われる、フォーマルでない接尾辞）
方法		⑨自文化の要素	②音訳＋④注解

例 1-1

具体的には、呼称は「お姉さん」を始めとした「お姉ちゃん」、「姉ちゃん」といったバリエーション、接尾辞は「-お姉さん」のバリエーションに加え、「-さん」、「-ちゃん」、「-様」がある。それらを例えば“Yotsuba-chan”のようにローマ字表記したものを文字テクストで使い、呼称の表記を日本語版から保持している。

「お姉さん」を始めとしたバリエーションに付けられた注では、その呼称が使われる対象とフォーマルかフォーマルでないかが説明される場合のほかに、“less formal version of “-oneechan”””（「お姉ちゃん」のよりフォーマルでないバージョン）といったように他のものと比べる形で説明される場合がある。

英語版における呼称に関する注は、一冊の中で初出の際に付けられ、同じ内容[108]の注が 8 巻まで繰り返しつけられている。9 巻以降は、英語版文字テクストにおいて引き続き接尾辞が使われているが、注が付けられることはなくなる。

この英語版の翻訳は、日本語の語彙に注による説明を付けつつ、日本語における呼称と人間関係をそのまま保持したものと考えられる。日本語語彙、日本の呼称習慣になじみのない英語版読者にとっては自然なコミュニケーションに感じられない一方で、日本文化における呼称と関係性をオリジナルに忠実に読むことのできる翻訳となっている。

一方ドイツ語版では、基本的にはドイツの呼称体系に沿った表現に変更されている。基本的には“Yotsuba”や“Ena”といったように名前を呼び捨てする他、常体の“du”で呼び合う。どこまでの親しさや間柄で常体と敬体が使い分けられるかについてはドイツの習慣に沿っており、例えば子ども同士、あるいは子どもから大人に対しては“du”で呼びかける。「子ども」の範囲は微妙だが、例えば高校生の風香の場合には、〈ジャンボ〉に向かっては“du”、〈とーちゃん〉には“Sie”で呼びかけている。大人同士の場合は、個人的な友達の関係にあれば“du”、一般的な付き合いの場合には“Sie”で呼びかけ、名前を使う場合には“Herr”や“Frau”を付けて呼びかける。

この二つの異なった方法は、登場人物同士の関係性を示すために翻訳において複数の方法を取ることができ、オリジナルを尊重するか自言語文化に合わせることを選ぶかの違いを表しているものである。そして、この翻訳例から見た場合、英語版では日本語語彙を使用

108 「-さん」の注では、1 巻では“an honorific suffix that is the equivalent of “mr.” or “mrs.””（ミスター、またはミセスと同等の敬意を表す接尾辞）となっているが、2 巻では“miss.”（ミス）が追加されるなどの細かい変更はあるものの、ほとんどの場合は同じ文面のものが繰り返し使われている。

し、注を付けて説明することによって呼称に関する日本語語彙の定着を支援する一方、ドイツ語ではそのような傾向は見られないといえる。

さらに、呼称に関する語彙の選択や注による説明は、翻訳者や出版社の方針や翻訳された時期によるところが大きい。英語版において、呼称接尾辞を取り入れた上で欄外に注をつけるのではなく、マンガのタイトルの次ページに呼称・接尾辞の説明一覧をあらかじめ挿入する場合もある[109]。ドイツで出版されたマンガでも、呼称接尾辞を取り入れている場合もある。

マンガやアニメを通して、海外のマンガ・アニメファンを中心に日本文化の特徴が共有されつつあり、その中に呼称・接尾辞が含まれている。そのため、翻訳版マンガを読む読者層には常識となった要素もあり、出版社がそれを考慮した結果それらは注も説明もなく使われる場合がある。ドイツ語訳マンガにおける日本のマンガの普及と、そこに含まれる文化知識の共有の状況、それに対応した呼称接尾辞の翻訳変遷については大塚（2015）で行っているため、詳しくはそちらも参照されたい。

４．１．２．１．２．習慣

夏に物語が始まる『よつばと！』では、特に夏のイベントについて注が設けられている。呼称、呼称に関わる接尾辞と同じく、英語版は同じ対象に全く同じ文面の注を付ける傾向が表れている。

	(1-2j)2 巻、p.186	(1-2d)Bd.2, S.186	(1-2e)Vol.2, p184
かーちゃん	そうそう お盆はおばあちゃんち行くからね 忘れてない？	Bevor ich vergesse. Wir fahren über die Obon*-Feiertage zu Oma, okay? Vergesst das nicht. （私が忘れる前に。私達、お盆の休日中におばあちゃんのところに行くからね、いい？忘れないでね）	Oh, right. We're going to grandma's house for Obon.* Remember?
注		* Buddhistischer Feiertag zu Ehren der Geister der Verstrobenen （死者の魂を敬う仏教徒の祝日）	* a Japanese summer holiday during which one's ancestors are honored. Because of the familial nature of the holiday, it is common to reunite with extended family members （先祖を敬う日本の夏の祝日。この祝日は家族的な性質を持つので、広がった家族のメンバーと再会するのが普通である）
方法		②音訳＋④注解＋⑤本文中の補足	②音訳＋④注解

例 1-2

[109] デルレイ社による“xxxHolic”シリーズなど。このシリーズでは、本編前に呼称に関する説明を挿入する他に、本編が終わった後に日本文化に関わるイベントや食べ物、物品、さらにはクロスオーバーしている作品との関連などを説明するコーナーを設けている。

「お盆」は英語版において例 1-1, 2, 3 の計 3 回注を付けられている。それに対し、ドイツ語版では(2-d)で“Obon-Feiertage”と②音訳＋⑤本文中の補足がされた上に、注が付けられている[110]。

	(1-3j)3 巻、p.85	(1-3d)Bd.3, S.89	(1-3e)Vol.3, p.85
とーちゃん	あ お盆だし菊も持っていくか // ん ――― //あれ？ 菊はないか	Passend zur Gedenkwoche, nimmst du am besten ein paar Chrysanthemen mit. // Hm … // Der Witbold hat dir alles außer Chrysanthemen mitgegeben. (「思い出週間」にピッタリだし、菊もちょっと一緒に持って行くのが一番だろう。// うーん // あのいたずら者は全部菊以外をお前に持たせたな)	Since it's Obon,** you might as well take some chrysanthems. // Nnn. // Actually, I don't see any. (お盆だし、菊もちょっと持って行った方がいいかもしれないな // うーん // 今、見つからないけど)
よつば	おぼん？	Gedenkwoche? (「思い出週間」？)	Obon? (お盆？)
とーちゃん	そう 今日はお盆っていってな えーと // 死んだおじーちゃんやおばーちゃんが帰ってくる日なんだ	Das ist die Woche … // … in der die Toten ins Diesseits heimkehren, damit wir ihrer gedenken können. (それはこんな週間だ… //俺たちが彼らを思い出せるように、死んだ人がこの世に戻ってくるんだ)	Yeah, today is a holiday called Obon. Umm… // It's a day when our dead grandpas and grandmas come back to us. (そうだ、今日はお盆っていう休日なんだ。// 死んじゃったじいちゃんやばあちゃんがうちに帰ってくる日なんだ)
注			例 1-2 と同じ
方法		⑧一般表現	②音訳＋④注解

例 1-3

	(1-4j)5 巻、p.157	(1-4d)Bd.5, S157	(1-4e)Vol.5, p.157
恵那	クラゲでる？	Gibt es viele Quallen im Wasser? (たくさん水の中にクラゲいる？)	Will there be jellyfish? (クラゲはいるだろうか？)
とーちゃん	お盆過ぎたら出るってゆーねぇ	Zu dieser Zeit schon. (この時期にはもうね)	Well, they say the jellyfish come out after Obon. (そうだな、クラゲはお盆の後に出てくるっていうな)
注			例 1-2 と同じ
方法		⑧一般表現	②音訳＋④注解

例 1-4

ドイツ語版において注の付けられていない「お盆」の語は、⑧一般表現に置き換えられて翻訳されている。(1-3d)では、お盆の時期と菊を結びつける〈とーちゃん〉に対して〈よつば〉が“Gedenkwoche”とは何かと問いかけており、〈とーちゃん〉が次のコマで説明していることから、このような一般表現による翻訳が行われていても文字テクストを追っていけば、読者の理解が得られるようになっている。(1-4d)では、〈よつば〉たちが海に行く際、「クラゲがいる時期」として「お盆」が引き合いに出されていることから、具体的な名詞を出さなくても漠然と“dieser Zeit”と表現することで読者の理解は可能である。

[110] ドイツ語版においてイベントに関わる語に付けられた注は、これが唯一である。

ドイツ語版においてイベントに関する語が⑧一般表現に置き換えられているものは他にもあり、「ラジオ体操」に対して“Morgen gymnastic”（朝の体操）[111]、「敬老の日」に対して “der Tag der Alten”（老人の日）[112]がある。ここから、ドイツ語版においては対象物から特徴を抽出した後、一般的な表現を使った翻訳を行う⑧一般表現による翻訳が多い傾向にある。

	(1-5j)4 巻、p.178	(1-5d)Bd.4, S.178	(1-5e)Vol.4, p.178
よつば	じゃあこれでなんだかわかったー？	Weißt du jetzt, was ich bin? （私が何か、今ならわかる？）	Now do you know what I am? （さあ私が何かわかる？）
あさぎ	…こどもの日？	Äh … Eine Ritterin? （えーと…女騎士？）	…Is it children's day?* （…こどもの日？）
よつば	ブー	Nein. （違うよ）	Bzzzt! （ブー!!）
注			*a Japanese national holiday, also known as the boys' festival, during which families display samurai dolls and samurai helmets (like Yotsuba's hat) in celebration of their children's happiness and prosperity. （日本の国民の祝日で、男の子の祭りとして知られている。その間、家族は侍の人形と侍の兜（よつばがかぶっているような帽子）を飾り、子どもたちの幸せと成功を祝う）
方法		⑧一般表現	②音訳＋④注解

例 1-5

新聞紙で折ったかぶとをかぶった〈よつば〉を見て〈あさぎ〉が連想した「子どもの日」に対する(1-5e)では、基本的には「子どもの日」を説明する内容だが、カッコ書きでイラストに描かれた折り紙のかぶとを参照させて、〈あさぎ〉の勘違いの理由を説明している。ここでは、単に「子どもの日」のイベント内容を説明しているだけではなく、(2)当該箇所の理解のための背景知識の補足としての機能を注に持たせているものである。

(1-5d)では、〈よつば〉のかぶった紙のかぶとから連想される“eine Ritterin”という⑧一般的な表現に置き換えている。

また、注による説明が原文の流れを変更していると考えられる例がある。

	(1-6j)7 巻、p.165	(1-6d) Bd.7, S.165	(1-6e)Vol.7, p.165
やんだ	あ――っ 今日 9 月 25 日だから「う・し」の日かぁー	Heute ist der 25.9.Jetzt verstehe ich. Der Tag der Kuh!	Ahh, since today's 9/25… …I guess that makes it a “cow day”* of summer.

[111] Azuma, Kiyohiko. (2007) Yotsuba&!, Ubersetzer:Wehner, Marcus, Bd.4, TOKYOPOP, S.138
[112] Azuma, Kiyohiko. (2009) Yotsuba&!, Ubersetzer:Wehner, Marcus, Bd.7, TOKYOPOP, S.34

		（今日は 9 月 25 日だ。今分かったぞ。「牛の日」だ！）	（あー、今日は 9 月 25 日だから… … 夏の「丑の日」ってことか）
とーちゃん	全然牛の日じゃねえ！	So einen Tag gibt's nicht. （そんな日はない）	It's not a cow day at all! （全然丑の日じゃない‼）
ジャンボ	適当なこと言うな！　お前もう降りろ！	Sei still, wenn du nichts Gescheites zu sagen hast. Sonst steigst du hier aus. （静かにしてろ、賢くない事しか言えないなら。そうでなければここで降ろすぞ）	Don't just make stuff up! I'll throw you out of the car! （くだらないこと言うんじゃない！　車から放り出すぞ！）
注			* the midsummer day of the ox (or cow), called Doyou Ushi No Hi, is supposed to be the hottest day of the year. （「土用の丑の日」と呼ばれる真夏の牡牛（あるいは牝牛）の日は、一年の中で最も暑い日と考えられている）
方法		③語の意味	③語の意味＋④注解 ＋⑤本文中の補足

例 1-6

牧場へ行く途中に、なぜ突然牧場に行くことにしたのかの理由として〈やんだ〉が「牛の日」を挙げる場面がある。(1-6d)では、単に③語の意味を翻訳しており、それに対する〈とーちゃん〉の反応も日本語版と同じく、「牛の日」という架空の記念日を否定するものになっている。

それに対して（1-6e）では、③語の意味の翻訳に加えて⑤文字テクスト中に情報を追加している。“of summer”という追加された情報の根拠は注を読むと理解できるようになっており、「牛の日」を「丑の日」と読み替えたものであることが分かる。ただし、6 巻に 9 月を迎えた描写がある[113]ことから、作中の時期と注による説明が食い違うことになってしまっている。

これに対する〈とーちゃん〉の反応は、文字テクストの内容は日本語版と同じだが、意味する内容は「今日は丑の日の時期ではない」ことを示すことになり、日本語版とは異なったやりとりになる。日本語版やドイツ語版では、「牛の日」というもの自体が〈やんだ〉のでたらめであるのに対し、英語版では〈やんだ〉が牧場の牛と「丑の日」を結びつけてこじつけている内容に変わっていることになる。

この場面のやりとりの変化は、「牛の日」という語を日本のイベントである「丑の日」と翻訳者が結び付けて示したことによって起こったものである。やりとり自体には破綻がないため、単に文字テクストの内容変更の翻訳であるといえるが、もともとは「牛の日」は「丑の日」とは関係がないと考えられるため、読者のミスリードを引き起こす可能性もあった。

この例からは、注による説明は翻訳者の解釈を注の内容を通して読者に伝える行為、極端にいえば翻訳者の解釈を読者に押し付けミスリードを誘う行為にもなりえる可能性を示していると考えられる。

[113] 英語版では、Azuma, Kiyohiko. (2009) Yotsuba&!, Translator:Amy, Horsyth, Vol.6, Yen press, p.32-33

ここまで扱ってきた要素においてはドイツ語版において注が付けられたものは少なかったが、英語版には注の付けられていない箇所に付けられた翻訳例もある。しかし、それらは特に(2)理解のための背景知識の補足の性質が強いと考えられるため、後述する。

英語版において、(2)理解のための背景知識の補足のための説明を施した注がある。次の2例は、ハンコと言う物品そのものについて説明する内容ではなく、配達物の受け取りに際してハンコが必要となるという習慣に関する内容になっている。(1-7d)、(1-8d)においては、③語の意味を文字テクスト内で翻訳してある。

	(1-7j)6巻、p.162-163	(1-7d)Bd.6, S.164-165	(1-7e)Vol.6, pp.162-163
よつば	おとのけものです	Ich bringe dir was! (君に持ってきたものがあるよ！)	I have a delivery! (お届けものです！)
風香	え!? わざわざ持ってきたの!?	Milch?! Deswegen bist du hergekommen? (牛乳?! それでここに来たの？)	Eh!? You came all the way here just to bring this to me!? (え!? これを私に持ってくるためにここまで来たの?!)
よつば	うん！	Genau! (その通り！)	Yep!! (そうだよ!!)
風香	あ ありがとう // すごいなよつばちゃん	D… Das verschlägt mir glatt die Sprache. // Du bist ja eine …! (ま…まったく開いた口がふさがらないよ… // 本当に君ってやつは…！)	Th- Thank you. // You're incredible, Yotsuba-chan. (あ、ありがとう あなたってすごいね、よつばちゃん)
よつば	はんこください	Du musst meinen Lieferschein abstempeln. (納品書にスタンプを押してください)	Stamp here* please. (ここにスタンプ下さい)
注			* In Japan, people use stamps to "sign" their names on official documents. So Yotsuba is imitating a real Japanese delivery-man by asking for a stamp of receipt." (日本では、スタンプを公式文書に名前を「サインする」ために使う。そのため、よつばは領収書にスタンプを要求することによって日本の本物の配達員を真似している)
方法		③語の意味	③語の意味+④注解 +(2)理解のための補足

例 1-7

	(1-8j)9巻、p.25	(1-8d)Bd.9, S.25	(1-8e)Vol.9, p.25
とーちゃん	あー たぶん宅配便だ	Wahrscheinlich der Kurier. (たぶん急使だ)	Oh, probably the delivery guy. (おお、たぶん配達員だ)
よつば	よつばがでる！ はんここれ！	Ich mach auf … … und stempel ab! (私がドアを開ける… …それからスタンプ押す！)	Yotsuba'll answer it! This is the Stamp!* (よつばが出る！ これがスタンプ！)

注			＊The stamp Yotsuba is referring to is a Hanko, a stamp / seal that is used in lieu of a signature in Japan. （よつばが言及したスタンプは「ハンコ」であり、日本ではスタンプや印鑑は署名の代わりに使う）
方法		③語の意味	③語の意味＋④注解 +⑵理解のための補足

例 1-8

(1-7e)では、文字テクスト上では③語の意味の翻訳をし、注では文脈理解のための説明を加えている。注の文章の前半は“stamp”と日本のはんこの対応を説明するもので、後半は捺印を求める〈よつば〉の行為を補足説明したものである。

（1-8e）では、玄関のベルが鳴ったのを〈とーちゃん〉が、配達が来たと判断したのに対して、自分が対応すると〈よつば〉が“the stamp”を手に取った場面で、配達員を出迎える際に、なぜ〈よつば〉がハンコを持って行くかという場面の行為に関する説明が行われており、⑵理解のための背景知識の補足的な性格の強い内容になっている。

英語版において今まで同じ単語に対して繰り返し注が付けられる場合、ほぼ同じ文面の注が付けられてきていたのに対して、「ハンコ」に対する注は文脈における行為の理解のために言及された内容を含んでいるために、全く異なった文面による注が付けられていることが分かる。

①文化・言語の不一致の中でも、習慣に関わるものは場面の中の登場人物の行動の理由である場合がある。その場合は、単に単語の説明を加えるだけでは理解の困難を補うことができないため、具体的な文脈に言及すると考えられる。

このような、文脈理解のための注の機能について詳しくは後述する。

これ以外の単に単語の理解について説明したものについては、宗教に関わる対象が多い。これは、文化の違いが習慣に及ぼす大きな理由として、宗教があるためだと考えられる。

日常的な習慣に関しては、英語版において注が付けられている対象でも、ドイツ語版においては注を付けることを避け、⑧一般表現への置き換えを使って文字テクストのみの表現にとどめる傾向がある。

４．１．２．１．２．地理的・物理的事物の解説

地理的・物理的事物とされているが、一般的な物品のほどんどがここに含まれる。特に注目すべきは、食べ物に関する注であり、文字テクスト内の語彙に付けられた注の中で、両言語版において最も注の付けられた数が多い。また、複数回作中に登場する語がいくつかあり、翻訳の方法や注の内容が変更されているという非常に特徴的な翻訳例を含んでいる。

４．１．２．１．２．１．食べ物

食べ物に付けられた注は、ドイツ語版において最も多く、英語版においては文字テクスト上の語彙に付けられた注の中で最も多い。大きな傾向としては、英語版の場合は 8 巻までは積極的につけられており、他の種類の注の場合も同じだが同じ単語に繰り返し注を付けることもある。一方ドイツ語版では 11 巻以降に注が付けられる場合が増える。

英語版において繰り返し注が付けられているものに、「いくら」がある。4 巻と 7 巻に出現し、文字テクスト内の翻訳語と注の内容が異なる。一方は(2)理解のための背景知識の補足としての機能を担ったものだが、比較のためにこの項目で分析を行う。

	(1-9j)4 巻、p.43	(1-9d)Bd.4, S.43	(1-9e)Vol.4, p.43
ジャンボ	エサは虫じゃなくてイクラでもいいんだ	Macht aber nichts. Wahlweise kann man auch Lachseier als Köder verwenden. (じゃあ仕方ないな。お好みで餌としてイクラも使えるぞ)	You can use salmon roe* for bait instead. (代わりにイクラを餌に使えるぞ)
注			* Eggs from a salmon are often used in Japan as fishing bait, but they're also valued seafood on their own! (サケからとる魚卵は、日本ではしばしば釣り餌として使うが、それ自身海産食品としての価値がある！)
方法		③語の意味	③語の意味+④注解 +(2)理解のための補足

例 1-9

	(1-10j)7 巻、p.54	(1-10d)Bd.7, S.54	(1-10e)Vol.7, p.54
よつば	うまいか？ // ものすごいうまいか？	Gut? // Sehr Gut? (おいしい？ すごくおいしい？)	So is it good? // Is it really, really good? (そしたら、おいしい？ 本当に、本当においしい？)
ジャンボ	おう // うまい ものすごいうまい	In der Tat. // Wirklich … … sehr gut. (本当に。// 本当に… …すごくおいしい)	Yeah. // It's good. .Really, really good. (うん。// おいしい。本当に、本当においしい)
よつば	ほんとか？ どれよりうまい？ いくらよりかうまい？	Ja? Wirklich? Besser als alles andere? Besser als Sushi? (そう？ 本当に？ 他のどんなものよりおいしい？ 寿司よりおいしい？)	Really? How good is it? Is it better than roe*? (本当に？ どういう風においしい？魚卵よりおいしい？)
注			* Fish eggs, commonly used in Sushi." (魚卵で、一般に寿司に使われる)
方法		⑦より知られた異文化表現	③語の意味+④注解 +(2)理解のための補足

例 1-10

(1-9)では食品としての登場ではなく釣り餌として使用される場面で登場し、(1-9e)では文字テクストで③語の意味を翻訳し、注では、釣り餌としての使用という場面の特殊性からこのような(2)理解のための背景知識の補足がされたものと思われる。(1-9d)では“Lachseier”

（サケの卵）と③語の意味を翻訳してある。

これに対して(1-10)では、〈よつば〉が牛乳と比べておいしいものの例として「いくら」を挙げた場面での登場で、(1-10e)では文字テクストでは単に“roe”（魚卵）となっている。注の内容は、(1-9e)の場合と比べると、「サケの魚卵である」という種類の特定はされていないが、食べ物であること、おいしいものの候補であることをふまえて、英語版読者でも知っていると考えられる「寿司」を引き合いに出して説明を加えていると思われる。そのように文脈をふまえていると考えると、(2)理解のための背景知識の補足も含めた内容とも考えられる。(1-10d)では、この部分は“Sushi”に置き換えられており、これは⑦より知られた異文化表現への置き換え翻訳である。置き換えの理由は英語版と同じく、おいしい食べ物の候補として挙げられる語として、ドイツ語版読者が知っているであろうものを選択したと考えられる。

この「いくら」に対する二つの翻訳からは、それぞれの翻訳方法において場面に合わせた操作が行われていることが読み取れる。

複数個所現れるものとして、他に「おにぎり」がある。「おにぎり」も作中に 2 度登場するが、英語版においては微妙に異なった文面の注が付けられている。一方、ドイツ語版ではそれぞれ異なった翻訳語が選択されている。

	(1-11j) 4 巻、p.29-30、pp.61	(1-11d) Bd.4, S.29-30, S.61	(1-11e) Vol.4, pp.29-30, p.61
かーちゃん	恵那ー できたよー 持っていきなー	Ena! Hier, euer Proviant für unterwegs. （恵那！ はいこれ、道中に食べるごはんよ）	Ena! Here, take these. （恵那！ これ、持って行きなさい）
かーちゃん	おにぎり みんなで食べなさい	Ist genug … … für alle. （みんなの分に… …十分よ）	Onigiri* Share them with everyone, okay? （おにぎりよ。みんなで分けなさい、いいわね？）
とーちゃん	ありがとうございます	Vielen Dank, Frau Ayase. （ありがとうございます、綾瀬さん）	Thank you very much. （ありがとうございます）
よつば	おにぎり！	Essen! （ごはん！）	Onigiri! （おにぎり！）
かーちゃん	おかずは無くていいのよね	Wird aber nur für die Fahrt reichen. （行きの分しかないけど）	You don't need anything else, right? （これ以外はいいのよね？）
とーちゃん	はい 現地調達です	Wir werden uns vor Ort versorgen, danke! （現地調達します、ありがとう！）	Nope, we'll catch the rest there. （いりません。向こうで残りは捕まえますから）
よつば	おにぎり おにぎり	Essen, Essen! （ごはん、ごはん！）	Onigiri! Onigiri! （おにぎり！おにぎり！）
ジャンボ	ほら用意してもらったおにぎりもあるぞー	Schaut mal, die sind noch von zu Hause. （おい、家から持ってきたのがまだあるぞ）	Don't forget we have the onigiri too. （おにぎりもあるのを忘れるなよ）
注			* a Japanese food that typically consists of white rice packed into a triangle shape and wrapped seaweed with a savory filling, like salted fish or pickled plum.

			（典型的に三角形に白米を握ったもので、海藻でまかれ、塩で味付けした魚や梅干しなどの食欲をそそる具材を入れた日本の食べ物）
方法		⑧一般的表現+⑩削除	②音訳+④注解

例 1-11

英語版では、2 度とも文字テクスト中では②音訳されている。4 巻で釣りに出発する〈よつば〉たちに〈かーちゃん〉が持たせてくれたお弁当の中身が「おにぎり」である。(1-11e)では注が付けられている。

(1-11d)では、対応する文字テクストからは⑩削除されている。その直前の〈かーちゃん〉のセリフに “Proviant”（携帯食料）が持たされたものとしてに変更されて追加されており、これはある意味で⑧一般的表現への置き換え翻訳と考えられる。

この場面の〈かーちゃん〉と〈とーちゃん〉の会話は、釣りで釣った魚をおかずにして持たせてもらったおにぎりを食べる、ということと想定して交わされているものである。しかし、ドイツにおいてはそもそも弁当という習慣はなく、ましてや主食のご飯だけ持って外出し、外出先でおかずを購入するなどしてそれと合わせて食べるという状況は想定しがたい。それを踏まえ、ドイツ語版では「おにぎり」という日本的な具体的名詞を使うことを避け、出先で食べるものという性格を抽出して“Proviant”と翻訳したと考えられる。

ドイツ語版ではさらに、持参する食料の役割自体を変えて翻訳しており、〈かーちゃん〉がお弁当を持たせてくれる際には、“für unterwegs”（道中に）という食べる時期を指定する内容を付け加え、指定された時期は日本語版で想定されていた時期とは異なったものにしている。さらに、〈とーちゃん〉の答えの文字テクスト内容で想定している状況も異なっており、道中で持たせてもらった“Proviant”を食べ切った後、出先で食べる分については自力で何とかすることを想定している。

またこのコマに書かれた、子どもたちがお弁当を手に「おにぎり　おにぎり」と喜ぶ文字テクストは、英語版では②音訳されているが、ドイツ語版では“Essen”（ごはん）と⑧一般的表現に置き換えられている。

このドイツ語版における変更が問題となるのは、魚釣りが一段落しみんなで昼ご飯を食べる場面に現れる。焼いた魚を食べていると、〈ジャンボ〉がおにぎりがぎっしり詰まった弁当箱を広げるイラストが描かれる。英語版では、「おにぎり」を②音訳する方法を選んでいる上に、物語の展開の変更はないため問題のない部分だが、ドイツ語版では持たされた“Proviant”は道中に食べきっているはずであり、昼食の場面に現れたこのイラストとつじつまが合わなくなってしまう。ドイツ語版では、この文字テクストを「家から持ってきた分がまだ残っている」と変更することによって整合性を保っている。

注を加えたり、表現を変更したりして翻訳することは、該当文字テクストの理解を左右するだけではなく、物語の流れ自体に関わる場合もあるということがこの翻訳例から分かる。文字テクストと、場面、あるいはイラストとの整合性が常に問われるためである。

	(1-12j)7 巻、pp.77-78	(1-12d)Bd.7, S.77-78	(1-12e)Vol.7, pp.77-78
よつば	じゃあなー じゃあ // おにぎり！	Dann … Dann … Dann will ich Reisbällchen. （そしたら… そしたら… 米ボールがいい）	Then- Then- onigiri!* （そしたら、そしたら、「おにぎり」）
とーちゃん	おにぎりか… じゃあそうするか	Reisbällchen? Na gut. Reisbällchen also. （米ボール？わかった。米ボールにしよう）	Onigiri, huh? Okay, let's go with that. （おにぎり、ふーん？じゃあそれにしよう）
よつば	でもうめぼしはいれちゃだめだ	Aber ohne die sauren Pflaumen. （でもすっぱいプラムは、なしにして）	But no umeboshi.* （でも梅干しなしで）
とーちゃん	え―― おにぎりといえば梅干しだろー おまえ梅干し苦手だなぁー	Wie? Ohne saure Pflaumen sind es doch gar keine echten Reisbällchen. Ich weiß, du magst die Pflaumen nicht. （どうして？すっぱい梅なしなんて真の米ボールじゃないだろ。お前がすっぱいプラム嫌いなのは知ってるけど）	Huh? But you can't have onigiri without umeboshi. You don't like umeboshi, huh? （ふーん？でも梅干しなしのおにぎりでいいのか？お前、梅干し嫌いなの、ねえ？）
注1			*origiri: a Japanese food that typically made of white rice packed into a triangle shape and wrapped seaweed with a savory filling, like salted fish. （典型的に三角形に白米を握ったもので、海藻でまかれ、塩で味付けした魚などの食欲をそそる具材を入れた日本の食べ物）
注2			*umeboshi: A sour plum often found in onigiri. （すっぱい梅で、よくおにぎりの具になっている）
方法		⑧一般的表現	②音訳+④注解

例 1-12

「おにぎり」の登場箇所の二つ目は、熱を出しておとなしく布団で寝ていなければならなくなった〈よつば〉に〈とーちゃん〉が食べたいものを尋ねた場面である。最初は「タン塩」と答える〈よつば〉に対して、それは熱が下がってからと次の候補を挙げさせたところ、〈よつば〉は「おにぎり」と答える。

(1-12e)では、文字テクストでは②音訳され、注が付けられているが、(1-11e)の文面とほぼ同じ内容である。変更されたのは、“consists”が“made”に、また具材の説明の部分か”pickled plum”に言及する句が削除されている点である。梅干しに関する言及が削除されている点に関しては、この直後の会話で〈よつば〉がおにぎりに梅干しを入れないように要求するやりとりがあり、その部分の文字テクストにおいて梅干しが②音訳され、注が付けられているため、内容の重複を避けたためと考えられる。

また梅干しに付けられた注の内容は、後半部のおにぎりと関係させて説明した部分が、梅干しが嫌いな〈よつば〉に対して〈とーちゃん〉が「おにぎりといったら梅干し」と言う内容のコメントしていることに対する(2)理解のための背景知識の補足であると考えられる。

(1-12d)では「おにぎり」は単に“Reisbällchen”（米ボール）と⑧一般的表現に置き換えて翻訳されており、特に注はない。また、「梅干し」も“sauere Pflaume”（すっぱいプラム）と⑧一般的表現に置き換えて翻訳され、この部分にも注はない。

この翻訳例からは、出現巻が異なる限り繰り返し同じ語に、同じ内容の注を付ける傾向にある英語版であっても、文脈に配慮して注の内容を調整することが分かる。またドイツ語版においては、基本的に⑧一般的表現に置き換えて翻訳する場合が多く、英語版の注に含まれる(2)理解のための背景知識の補足はないことが分かる。

さらに英語版の注において特徴的な点を挙げると、注の内容に主観的な言及を取り入れる場合があることである。作中に 2 度登場する「たい焼き」に対する注がそうである。

ドイツ語版の「たい焼き」の翻訳に関しては、翻訳方法が文字テクストごとに変更されており、また同じ翻訳者による別作品における「たい焼き」の翻訳も特徴的であることから、別項において詳細に分析を行うため、そちらを参照されたい。

	(1-13j) 2 巻、p.68	(1-13e) Vol.2, p.68
店員	お嬢ちゃんたいやき買うかい？	Would you like to buy some taiyaki,* young lady? (「たい焼き」買わないかい、お嬢さん)
注		* A sweet, waffle-like pastry shaped like a fish and usually filled with sweet red bean paste, very tasty. (甘く、ワッフルのような焼き菓子で魚の形をしている。普通甘い小豆のペーストが入っていて、とてもおいしい！)
方法		②音訳+④注解

例 1-13

	(1-14j) 5 巻、pp.137-138	(1-14e) Vol.5, pp.137-138
	(たい焼き屋の店頭が描かれている)	(たい焼き屋ののれんに書かれた文字に注が付けられている*)
よつば	とーちゃんたいやきやさんがある	Dad, there's a taiyaki store. (とーちゃん、たい焼き屋がある)
注		(1-13e)と同じ
方法		②音訳+④注解

例 1-14

どちらの場合も②音訳され、同じ内容の注が付けられている。おおむね一般的な語の説明なのだが、それに加えて“very tasty!”という翻訳者の主観が見られる。

英語版の注において、(2)理解のための背景知識の補足的な注が多いこと、また後述する言葉の遊戯の説明に分類される注に代表される、語の説明というよりは文脈を説明するような内容の注が多いことから、注を通して翻訳者の主張が読み取れる傾向がある。英語版読

者は、日本文化に根差した親しみのない要素が登場するたびに、いったん物語の文脈を中断して、翻訳者の説明や主張に耳を傾けることになる。原文と読み比べない限り、時には、翻訳者による「こう読むべし」というコントロールを無意識に受けることになるともいえる。

このような英語版の注は、8 巻まで積極的につけられている。それに対してドイツ語版では、11 巻から積極的に注が付けられる傾向が現れる。注の内容は対象物の説明に特化し、⑵理解のための背景知識の補足的な注は見られない。この傾向の変化は、オノマトペの活字レタリング置き換えが始まる 10 巻辺りと時期的に同期している可能性がある。

最後に、ドイツ語版において大きく内容を変えて翻訳されている例を見てこの項の分析を終わりにしたい。

	(1-15j) 12 巻、p.167	(1-15d) Bd.12, S.167	(1-15e) Vol.12, p.167
とーちゃん	やんだはご飯炊け　もし失敗したらお前だけハヤシライスだ	Du kochst den Reis auf, Yanda. Lass es anbrennen und du kriegst nichts außer Wasser. （お前はご飯を炊け、やんだ。焦がしたら、水以外何も食うな）	Steam the rice, Yanda. If you screw up, you eat hayashi rice （ご飯を炊け、やんだ。もし失敗したら、お前はハヤシライスを食え）
注			Hayashi rice is a thick beef stew served over rice. It's almost the same thing as curry, but with different seasonings. （ハヤシライスは薄切り肉を煮込んだものを白米の上からかけて供される。ほとんどカレーに似ているが、味付けが異なる）
方法		⑧一般的表現	②音訳+④注解 +⑵理解のための背景知識

例 1-15

キャンプにやってきた〈よつば〉たちが昼食の準備を始め、〈やんだ〉は〈とーちゃん〉から炊飯を任される。その際、「もし失敗したらお前だけハヤシライスだ」とプレッシャーをかける。この部分の「ハヤシライス」について、(1-5e)では注が付けられて、前半部はハヤシライスという料理の説明だが、後半部ではカレーとハヤシライスの類似を絡めた⑵理解のための背景知識の補足的な内容となっている。

(1-15d)では、ハヤシライスの語自体を削除してある。これは、ドイツ語読者にとってはハヤシライスがなじみのない料理であること、従ってカレーとハヤシライスの類似による連想が働かないことから、英語版のように注で込み入った説明をするのではなく、失敗した

ら与えられる罰として想定可能な“nichts außer Wasser”（水の他には何もなし）と⑧一般的表現への置き換えに変更したと考えられる。

以上の食べ物に関する注は、全体的な傾向として、両言語版において注の付けられる主要な要素であること、英語版においては接尾辞の注の有無の切り替えとほぼ同時期に注の有無の傾向が変化すること、内容的には単なる語の説明の他に、(2)理解のための背景知識の補足的な内容が含まれること、場合によっては非常に主観的な内容が含まれることがあった。ドイツ語版においては、オノマトペの翻訳方法の変更が見られた時期とほぼ重なる頃から、食べ物に関する注が増えること、英語版に比べて注は少なく、他の翻訳方法で文字テクストのみで解決する場合が多いこと、注を付けたとしても基本的には語の説明にとどまる傾向が見られた。

英語版においては、同じ単語でも出現巻が異なれば注を繰り返しつける傾向はこの項目でも存在し、内容が同じ文面である場合もあることから出版社が注を付ける項目とその内容一覧を用意しているのではないかと考えられる。しかし、機械的に注を付けるのではなく、文脈に合わせて細かな調整を行っていると考えられる場合も見られた。

４．１．２．１．２．２．生き物

この項では、一般的な生き物の他にも妖怪などの想像上の生き物に関する注を扱う。特徴的な内容は「セミ」に関する注である。「セミ」に関する翻訳では、特にドイツ語版で特徴的な翻訳傾向が見られるため、4.3.で詳しく分析する。この項では、「セミ」に関する語について英語版の注とその内容を概観する。

『よつばと！』においては、作中に様々なセミの名前が登場する。中でも「つくつくぼうし」は〈よつば〉の勘違いのせいで特に物語のテーマとして登場する話もある。詳しい物語の流れとドイツ語版における翻訳の詳細な分析は別項に譲り、英語版における翻訳を見ると、文字テクストでは②音訳、注で語の逐語的な意味と、姿や生息状態を説明する方法が中心となっている。「アブラムシ」なら“Lit. “Oily cicada.” A common species of cicada that is large and brown, and chirps loudly.”（逐語訳では“Oily cicada”。よくいるセミの種類で、大きく茶色で、大きい声で鳴く）[114]、「クマゼミ」なら“Lit. “Bear cicada.” A large, black-colored species of cicada.”（逐語訳では“Bear cicada”。大きく、黒いセミの一種）[115]となっている。

他の種類としては「つくつくぼうし」があり、セミの種類を指して注が付けられている場合は“A kind of cicada that appears in late summer / early fall. Its name describes the sound it makes.”（セミの一種で、夏の終わりから秋の初めに現れる。名前は鳴き声から付

[114] Azuma, Kiyohiko. (2009) Yotsuba&!, Translator:Amy, Horsyth, Vol.1, Yen press, p.189
[115] Azuma、前掲書、p.195

けられている。）[116]、あるいは“A species of cicada so-called for the sound they make.”（鳴き声からその名前で呼ばれるセミの一種）[117]という内容が、文字テクスト中の②音訳された部分に付けられている。どちらの箇所においても名前と鳴き声の関係について言及されているが、特に前者の場合では作中で初出の部分であること、またこの場面で〈よつば〉と〈とーちゃん〉がつくつくぼうしが「つくつくぼうし」と鳴くことについて会話しているために、(2)理解のための背景知識の補足的な注でもある。

セミの種類に関する注において、全ての部分で“cicada”（セミ）という語が使われており、英語版読者にとってはセミがなじみのある昆虫であることが想定されていることが分かる[118]。ドイツ語版においては、ドイツにおいてセミがなじみのない昆虫であることから翻訳に工夫が成される一つの原因となっているのと対照的である。

問題となるのは、つくつくぼうしが夏の終わりから秋の初めに鳴くことから、〈とーちゃん〉が比喩的に「つくつくぼうしが夏を終わらせる」と〈よつば〉に教えた[119]ことで、〈よつば〉はつくつくぼうしを夏の妖精だと思い込んでしまう。この勘違いを端的に表す初めてのエピソードとして、三角の帽子をかぶった小人を描いた〈よつば〉が「つくつくぼうし」であると発言する場面がある。

	(1-16j)4 巻、p.96	(1-16d)Bd.4, S.96	(1-16e)Vol.4, p.96
とーちゃん	何描いてんだ？	Was malst du da?	What are you drawing?
よつば	つくつくぼーし！	Die Zikade am Baum. （木に止まってる「つくつくぼうし」）	Tsuku-Tsuku boushi!*
注			Tsukutsuku boushi literally means “poke-poke hat,” which is why Yotsuba thinks it’s referring to a pointy hat. （つくつくぼうしは逐語的に「突く-突く帽子」を表し、そのためよつばはつくつくぼうしと先のとがった帽子を関連付けている）
方法		⑧一般的表現	②音訳+③語の意味+④注解 +(2)理解のための背景知識

例 1-16

(1-16e)はその部分に語自体の説明ではなく、(2)理解のための背景知識の補足的な注[120]を付けている。この注の中で説明されている内容が日本語版を正しく解釈しているか、翻訳者による一つの解釈であるかどうかはさておき、つくつくぼうしの③語の意味の翻訳と絡め

[116] Azuma, Kiyohiko. (2009) Yotsuba&!, Translator:Amy, Horsyth, Vol.4, Yen press, p.73
[117] Azuma、前掲書、p.125
[118] 世界大博物図鑑によれば、イギリスからの開拓民がアメリカにやってきた際、セミの鳴き声を聞き、イギリスにはセミがいないためバッタの鳴き声と勘違いしたエピソードが挙げられている。ここから、アメリカにおいてセミはイギリスに比べ一般的に生息していることが読み取れる。北アメリカにおいては、17 年ゼミなどが広く分布している。ブリタニカオンラインジャパンによれば他の英語圏の地域、例えばオーストラリアにも 150 種のセミが生息している。
[119] あずまきよひこ（2005）『よつばと！』4 巻、アスキーメディアワークス、p.73
[120] この内容が作者であるあずまきよひこが想定したものなのかは、作中で言及がないため読者の想像にゆだねられている。〈よつば〉が妖精・つくつくぼうしの特徴としてこだわっているのは、「三角の」服や帽子（あずまきよひこ（2005）『よつばと！』4 巻、アスキーメディアワークス、 p.170, 177）であることが確認できるのみである。

て翻訳されている部分であると言える。

セミに関する語の翻訳については、セミという昆虫の生息域とセミの認知度が関係しており、英語版においては読者の理解が得られると想定されるために一貫して“cicada”という語を通して説明を行っている。ドイツ語版はこの点において、英語版とは異なる想定がなされて工夫された翻訳が行われていると考えられる。また、〈よつば〉の勘違いというこの『よつばと！』の物語独自の表現に関しては、英語版では語の逐語訳的な意味を絡めて、注によって翻訳上の問題を解決していることが分かった。

その他の想像上の生き物に関する注については、特徴的な物を二つ挙げる。

	(1-17j)8 巻、p.164	(1-17d)Bd.8, S.166	(1-17e)Vol.8, p.164
よつば	… なんかすごいのいる	… Da steht jemand, der ganz böse aussieht. (…あそこに、すごく悪そうに見える人が立ってる)	……. There's something evil-looking over there. (…….あそこに悪そうに見える何かがいる)
恵那	すごいの？	Böse? (悪い？)	Evil-looking? (悪そう？)
恵那	あ 天狗だ	Oh. Ein Tengu*. (あ。天狗だ)	Oh. It's a tengu.* (あ。天狗だ)
注		*japanischer Bergdämon (日本の山の悪霊、または守護霊)	* A long-nosed goblin that is thought to be mostly dangerous but can also have protective qualities. 鼻の長いゴブリンで、たいていは危険な存在であると考えられているが、守護的な性格も持ちうる)
方法		②音訳+④注解	②音訳+④注解

例 1-17

(1-17)は天狗に関する注で、両言語版において注が付けられている語である。注の中でそれぞれの文化に即した想像上の生き物を引き合いに出している。

	(1-18j)10 巻、p.161	(1-18d)Bd.10, S.161	(1-18e)Vol.10, p.161
とーちゃん	これは仁王さん 仁王さんに悪いうそつき虫を退治してもらう	Das ist Herr Deva. Herr Deva hat einen starken Magen und kann Lügenkäfer vertilgen. (Deva 様だ。Deva 様は強い力を持っていて、嘘虫を根絶やしにできるんだ)	This is Niou-san, the deva king. He'll help get rid of that naughty lying bug. (これは、神の王の仁王さんだ。いたずらな嘘虫を取り除く助けをするんだ)
注		*“*Devas* sind Wächtergottheiten, die oft am Eingangstor buddhistischer Tempelanlagen stehen. (Deva とは監視の神で、しばしば仏教の寺に類する建物の入り口に置かれている)	* A long-nosed goblin that is thought to be mostly dangerous but can also have protective qualities. 鼻の長いゴブリンで、たいていは危険な存在であると考えられているが、守護的な性格も持ちうる)
方法		④注解+⑧一般的表現 +(2)理解のための背景知識	②音訳+⑤本文中で補足説明

例 1-18

(1-18)は仁王に関する翻訳で、ドイツ語版にのみ注が付けられている語である。日本語版の「仁王さん」に対して、(1-18d)では文字テクストで“Herr Deva”（Deva 様）と⑧一般的表現に置き換えられて翻訳され、注が付けられている。この注は、この場面で〈よつば〉が〈とーちゃん〉に連れられてきた寺の入り口で交わされるやりとりであるという状況に絡めた説明がなされており、(2)理解のための背景知識の補足的機能も担ったものであると考えられる。

一方(1-18e)では、注はなく文字テクスト内で“Niou-san, the deva king”と②音訳と⑤本文中で補足説明する形で翻訳されている。

生き物の翻訳では、特にセミについての翻訳に注目して分析を行った。これは、セミという生き物の生息域とセミの認知度が深く関係するために、翻訳が読まれる地域ごとに異なった翻訳方法がとられるためである。また、想像上の生き物については対象となる語によって様々な翻訳方法がとられているのが分かった。

４．１．２．１．２．３．その他

最後にこれまで取り上げた以外の文化的な事物について、特徴的な翻訳例を取り上げる。

	(1-19j)10 巻、p.161	(1-19d)Bd.10, S.161	(1-19e)Vol.10, p.161
風香	そういえばよつばちゃんってどっから引っ越してきたの？	Wo kommt ihr eigentlich her? （ところで、よつばちゃんたちはどこから来たの？）	By the way where did you move here from, yotsuba-chan. （ところで、どこから引っ越してきたの、よつばちゃん）
よつば	……えーと… // ……	Mmmh … /// … （うーん…）	…… Umm… …… （…うーん）
よつば	ひだりー	Von links! （左から！）	Leeeft! （左ー！）
風香	そ そっか左かぁー… // そうきたかぁ…	Ver… Verstehe. Ihr kommt also von links. /// Ich hab’s versucht. （わ…わかった。左から来たのね。// 聞いてみたけど）	I-I see… The left, huh… // So that’s where… （わ、わかった。左か、そうだね。そこからか…）
よつば	おちゃわんもつほう	Da, wo der Daumen rechts ist. （こっち、親指が右にある方）	The side you hold your tea bowl.* （「茶碗」を持つ側だよ！）
注			* In the Japanese tea ceremony, a tea bowl is picked up with the right hand and transferred to the left hand.. （日本の茶道で、茶碗は右手で持ち、その後左手に持ち換える）
方法		⑧一般的表現	③語の意味+④注解

例 1-19

〈よつば〉が「左」を説明するために持ち出した「おちゃわんもつほう」を(1-19e)では「お

ちゃわん」に相当する部分が“tea bowl”（茶碗）と翻訳され、注が付いている。一般的な慣用句として、さらにこれを発言した〈よつば〉は 5 歳児であることを考えれば、ここで言われている「お茶碗」とは食事用の茶碗であると考えられる。しかし、“teacup”でもなく、“(rice)bowl”でもなくあえて“tea bowl”という茶道における茶碗であると訳し、付けられている注の内容も茶道において茶碗を持つときには左手に茶碗を置き右手で支えるという習慣を正しく示している。翻訳者の勘違いなのか、故意に⑦より知られた異文化表現に置き換えた翻訳なのか判断はつかないが、一応文脈を破壊するほどの間違いや変更ではない。

一方(1-19d)では、注を使わず、文字テクストの中で“wo der Daumen rechts ist”（親指が右にある方）と⑧一般的表現に置き換えて翻訳してある。あえて「お茶碗」という異文化的な要素を削除し、一般的な事象に置き換えて表現した翻訳である。ただし、「左」を説明するために「右」という概念を用いて説明するこの表現は、パラドックス的である。〈よつば〉が「引っ越してくる前に元いた場所」を説明するのに「左から来た」と答える文脈から、〈よつば〉のとぼけたちぐはぐなニュアンスを表したものとも考えられる。

ドイツ語版が注を避けて⑧一般的な表現に翻訳された例は他にもある。

	(1-20j) 3 巻、p.139	(1-20d) Bd.3, S.143	(1-20e) Vol.3, p.139
綾瀬父	風香はうまいこと言うなあ // これはざぶとん一枚だなぁ	Fuuka, du bist ja ganz schön erwachsen geworden. Dir sollte man auch einen Gutschein ausstellen. （風香、いい大人になったな。// 一枚、券を進呈しよう）	That was a good one, Fuuka. // That's worth a cushion*. （風香、それはいいな。クッション一つの価値があるぞ）
注			* In the long-running Japanese comedy show “Shoten,” comedians are ranked by the number of cushions they have to sit on. When a good joke is told, the comedian is given a cushion, and a bad joke leads to a cushion being taken away. （日本の長寿コメディ番組の「笑点」では、コメディアンたちは彼らが座っているクッションの数でランク付けされている。面白いジョークを言った場合にはクッションがもらえて、面白くないジョークではクッションが取りあげられる）
方法		⑧一般的表現	④注解+⑧一般的表現 +⑵理解のための背景知識

例 1-20

〈風香〉のことば遊びを面白がった〈綾瀬家父〉が「これはざぶとん一枚だなぁ」という場面[121]の「ざぶとん」について、(1-20d)では “Gutschein”という語を使って変更してある。

[121] この場面における〈風香〉の言ったことば遊びについては 5.1.2.で分析してあるため、詳しくはそちらを参照されたい。

この翻訳は、ご褒美として与えられるものとして⑧一般的表現に置き換えてある他に、この前の〈恵那〉の手作りの肩たたき券をめぐるやりとりを受けたものでもある。

(1-20e)では、文字テクストでは“That's worth a cushion.”（クッション一個の価値がある）と翻訳し、注が付けられている。文字テクスト上の翻訳は⑧一般的な表現による翻訳をした後、注で「笑点」由来の習慣であること、「笑点」のルールを注で補足説明しており、文化的な事物自体の説明というよりは、(2)理解のための背景知識の補足の注であると考えられる。

この二つの翻訳例は、文化的な事物を媒介とした習慣の翻訳であり、英語版は注で解決する傾向があることが分かる。

以上、文化的事物に関わる翻訳は、食べ物に関する対象が最も数が多く、全体的に英語版が注を付けて解決するのに対し、ドイツ語版は文字テクストの中で翻訳を工夫して解決する傾向にあることが分かった。また、単に文化的な事物に関する説明を行えば済むわけではなく、登場する文脈によっては文脈理解のための補足説明を加えたりする場合があることが分かった。

４．１．２．１．３．重量や容量の換算値

この項目では、金銭的価値に関する注が最も多い。また、異なる単位を使う文化の違いに関する注も含まれる。

	(1-21j)2 巻、p.136	(1-21d)Bd.2, S.136	(1-21e)Vol.2, p.136
とーちゃん	重いので浮きません	Ich bin zu schwer. （俺は重すぎます）	I'm heavy. I don't float. （重いです。浮きません）
ジャンボ	俺も重いので浮きません	Ich auch. Deshalb gehen wir unter. （俺もです。だから沈みます）	Me too. I'm too heavy. （俺もです。重すぎるんです）
風香	私は重くない!!	Ich bin nicht zu schwer, klar?! （私は重すぎないの、分かった?!）	Well, I am not heavy!! （いいから、私は重くないの！）
とーちゃん ジャンボ	仲間　仲間 // 50 キロ以上は浮かないのさ	Doch, wir entstammen derselben Rasse. // Alles über 50 Kilo sinkt. （いやいや、我々は同じ種類の出身ですよ。// みんな 50 キロ以上で沈む）	Give up. You're one of us. // The 50 kg-and-up club can't float. （諦めなよ。君も我々の一員だ。// 50 キロ以上クラブは浮かないんだ）
注			Note: 50 kilograms is about 110 pounds. （50kg は約 110 ポンド）
方法		⑧一般的表現	①複写+④注解+⑨自分化の要素

例 1-21

異なる単位を使っている場合の注としては、(1-21e)において「50kg」に文字テクスト上では①複写され、⑨自分化の要素に置き換えられ、ポンド法換算が示されている。これはアメリカ文化を基礎とした英語版翻訳においては、当該文化では重量の単位がポンド法を使

っていることによるためである。

これ以外の注については、すべて金銭的価値における注である。英語版において 4 箇所、ドイツ語版には 3 箇所あり、重なって注が付けられている部分は一箇所のみである。

	(1-22j)7 巻、p.55	(1-22d)Bd.7, S.55	(1-22e)Vol.7, p.55
ジャンボ	こーゆーのどこで買った？　高いのか？	Woher habt ihr die? Ist die teuer? （どこから買った？　高いの？）	Where did you buy this? Was it expensive? （どこで買った？　高いの？）
とーちゃん	それは通販　600 円くらい	Von einem Direktversand. Für 600 Yen* die Flasche. （直接発送で。一ビン 600 円だよ）	It was a mail order. About ¥600.* （それは通信販売。だいたい 600 円）
ジャンボ	へ―― 高いなぁ	Ganz schön happig. （それはすごく高いな）	Whoa, that's expensive. （うわ、そりゃ高いな）
注		* entspricht ca. 4,50 Euro （約 4.50 ユーロ相当）	* An approximate conversion is one U.S. Dollar to 100 Yen. （おおよその換算で 1 ドルは 100 円）
方法		②音訳+④注解	②音訳+④注解

例 1-22

(1-22e)では文字テクスト上では②音訳された部分に換算基準の注が付けられている。一方(1-22d)では、文字テクスト上では②音訳され、注では相当額が具体的に示されている。

他の注についても、英語版は換算基準、ドイツ語版では相当額が示される傾向にある。英語版においては、相場しか注で示されないために相当額を知るには読者自身が計算することが求められることになる。

４．１．２．１．４．言葉の遊戯の説明

ことば遊びについては、5.1.で詳しく分析を行うが、ここではいくつかのことば遊びについて分析する。この項では、特に英語版における特徴的な注内容について取り上げる。

この項目の注は圧倒的に英語版に多い。ことば遊びの存在を文字テクスト上で表現するのではなく、注で日本語の文字や語の意味を説明するのに加えて、(2)理解のための背景知識の補足に踏み込んだ内容のものが多い。一方ドイツ語版ではほとんど注による説明はなく、ドイツ語による表現への置き換え、ことば遊び自体の削除などを行い、文字テクスト内での操作を行う場合が多い。

ことば遊びの説明における注には、漢字に関するものが複数見られる。

	(1-23j)3 巻、p.34	(1-23d)Bd.3, S.38	(1-23e)Vol.3, p.34
風香	あ　虎子さん　こんばんはー	Hallo, Torako. （こんにちは、虎子）	Ah, Torako-san!* Good evening. （あ、虎子さん！　こんばんは）

虎子	うん	Hi. （よう）	Hey. （よっ）
風香	花火の時タバコ吸うと爆発しますよー	Zigaretten und Feuerwerk vertragen sich nicht. （タバコと花火って似合わないですよ）	Don't smoke with the fireworks around, or they'll explode. （花火の近くでタバコ吸わないでくださいよ、そうじゃないと爆発しますよ）
虎子	爆発？	Vertragen? （似合う？）	Explode? （爆発する）
よつば	とらこ？	Torako? （とらこ？）	Torako? （とらこ？）
あさぎ	そう こいつ虎子ってゆーの 名前 // すごい名前でしょー	Ja, ihr Name ist Torako. // Imposanter Name, hm?* （そう、彼女の名前は虎子なの。 // 印象的な名前でしょ？）	Yup. Her name is torako. // Wild name, huh? （そう、彼女の名前は虎子なの。 // ワイルドな名前でしょ？）
注		＊>>Tora<< heißt im Japanischen Tiger. （「虎」は日本語で Tiger を表す）	* Her name is written with the characters for "tiger" and "baby." （彼女の名前は、「虎」と「赤子」という漢字で表される）
方法		⑨自文化の要素 +(2)理解のための背景知識	②音訳+④注解 +(2)理解のための背景知識

例 1-23

「虎子」という人物名に関する注は、英語版とドイツ語版共に見られる。該当人物の名前が初めて判明したシーンで、(1-23e)では②音訳され、注で漢字を絡めた内容で説明されている。(1-23d)においても②音訳され、注で「虎」という日本語に関する説明がされている。これは、この名前を聞いた〈よつば〉は動物のトラと関連させた話を展開する後の文脈の(2)理解のための背景知識の補足の役割を持つものでもあるためである。さらに、この人物のあだ名である「とら」は、英語版においてもドイツ語版においてもこの部分の直後では（トラ）と③語の意味を翻訳した方法が採用されるが、該当人物が再登場した際、英語版では 基本は"Tiger"と呼びかけるが、"Tora"と呼ぶ場面もあり[122]、ドイツ語版では②音訳である"Tora"を使う形に、変更されている。再登場の際には、両言語版において注は付けられていない。

この他に、〈風香〉が自分の名前の漢字を使った自己紹介を行う場面が複数回あるが、英語版では注によって漢字の説明を追加し、ドイツ語版では③語の意味による翻訳を行うという方法がとられている。

また、英語版において同じ対象が複数回登場する際に付けられる注の特徴として、参照位置を示すものがある。

	(1-24j) 1 巻、p. 210	(1-24d) Bd.1, S.210	(1-24e) Vol.1, p.210
よつば	こんにゃくや	Überschwätzer! （「コメンテーター」！）	It's trashloader.* （「ゴミ積み込み屋」）
風香	へ？ こんにゃく屋？	Überschwätzer? （「コメンテーター」？）	Huh? Trashloder? （ふーん？「ゴミ積み込み屋」？）

[122] Azuma, Kiyohiko. (2009) Yotsuba&!, Translator:Amy, Horsyth, Vol.6, Yen press, p.66

よつば	いまあっちのへやでやってる	Ja, er arbeitet in dem anderen Zimmer. （そう、別の部屋で仕事してるんだ）	He's working in that room over there. （あっちの部屋で仕事してるんだ）
風香	へ――… // こんにゃく作ってるの…？	So? // Ob er füs Radio oder so moderiert? （そうなの？ // ラジオか何かの視界をしてるとか？）	Ohhh...? // He's sorting garbage in there? （おおー？ // あっちでごみの仕分けをしてるの？）
注			* The Japanese for "translator" is *Honyakuka*. Yotsuba mispronounces it as *Konnyakuya*, or "person who makes konnyaku," a kind of jelly, which is what Fuuka thinks Koiwai-san does for a living throughout much of the series. （日本語では、"translator"は「ほんやくか」という。よつばは間違って「こんにゃくや」、つまりこんにゃくをつくる人と発音してしまった。こんにゃくとはゼリーのようなもので、風香は小岩井がそれらをつくることによって生活していると考えている）
方法		②音訳+④注解	④注解+⑨自文化の要素 +(2)理解のための背景知識

例 1-24

	(1-25j)4 巻、pp.84-85	(1-25d)Bd.4, S.84-85	(1-25e)Vol.4, pp.84-85
風香	よつばちゃんのお父さん　こんにゃく屋さんだったよね？	Meintest du nicht mal, dein Vater würde sich mit Konnyaku* auskennen? （あなたのお父さんって、こんにゃくについてよく知ってるんだったよね？）	Hey Yotsuba-chan, didn't you tell me that your dad makes konnyaku?** （ねえよつばちゃん、あなたのお父さんってこんにゃく作ってるって言ってたよね？）
よつば	…… うん	… Ja! （…うん！）	…… Yeah. （……うん）
風香	小岩井さん // こんにゃくはどれがいいですか？　選ぶポイントとか	Herr Koiwai. // Gibt es irgendwas Besonderes, das man beim Kauf von Konnyaku beachten sollte? （小岩井さん。 // こんにゃくを買うときに気を付けた方がいい特別なことってありますか？）	Koiwai-san. // Which kind of konnyaku is the best? How do I pick one? （小岩井さん。 // どの種類のこんにゃくが一番いいですか？　どれを選んだらいいですか？）
とーちゃん	へ？　どれも似たよーなもんじゃねーの？	Äh … Die sind bestimmt alle gleich. （えー…たぶんどれも同じだよ）	Huh? They're all the same, really. （ふーん？　全部同じだよ、本当に）
注 1		* geleeartige Masse aus der Konjak-Wurzel. Hat kaum Eigengeschmack und wird als Zutat für Suppen und Eintopf verwendet. （こんにゃくの根から作ったゼリー状の塊。ほとんどそれ自身の味はなく、スープや煮込み料理の具として使う）	* a potato jelly that is full of fiber, low in calories, and very healthy. （繊維でいっぱいのイモのゼリーで、カロリーが低くとてもヘルシーである）
注 2			** The Japanese for "translator" is *Honyakuka*. Yotsuba mispronounces it as *Konnyakuya*, or "person who makes konnyaku," a kind of jelly, which is what

			Fuuka thinks Koiwai-san does for a living throughout much of the series. （日本語では、“translator”は「ほんやくか」という。よつばは間違って「こんにゃくや」、つまりこんにゃくをつくる人と発音してしまった。こんにゃくとはゼリーのようなもので、風香は小岩井がそれらをつくることによって生活していると考えている）
方法		②音訳+④注解	④注解+⑨自文化の要素 +⑵理解のための背景知識

例 1-25

〈よつば〉が〈風香〉に〈とーちゃん〉の職業を訊かれて、本来は「翻訳家」であるところを「こんにゃくや」と答えてしまう場面がある。それを受けて、この三人がたまたま一緒になってスーパーで買い物をした際に、〈とーちゃん〉が「こんにゃくや」であると思い込んだ〈風香〉が〈とーちゃん〉にこんにゃくの話題を向けるという場面がある。

(1-25e)においては、〈よつば〉の言い間違いは文字テクストにおいて“trashloader”（ゴミ運び屋）と音の類似を⑨自文化の要素に置き換えて翻訳し、〈風香〉の勘違いについては注で日本語版オリジナルの言い間違いと勘違いについて説明する内容になっている。文字テクストでは英語の音の類似性を優先した内容にしてある一方で、注の内容は英語版独自の内容変更に関わらず、日本語版における文脈の⑵理解のための背景知識の補足の機能を強くしている。

この一貫しない翻訳の理由は、後の展開であるスーパーでの会話にある。スーパーの売り場でこんにゃくを目にした〈風香〉は〈よつば〉にこのやりとりを思い出して〈よつば〉に問いかける。しかしこれが〈風香〉の勘違いだったために、〈とーちゃん〉がこんにゃくに詳しいと思い込んだ〈風香〉と〈とーちゃん〉のやりとりは行き違ってしまう。文字テクストにおいて「こんにゃく屋さん」を“your dad makes konnyaku”と②音訳し、注を付けて日本語の音の類似性を概説し、さらに“Read chapter 7 of volume 1 to see why!”（1 巻第 7 話を読んで、なぜなのか見よう！）と、詳しくは該当箇所を読むように誘導している。さらに、「こんにゃく」自体を説明する注が改めて付けられており、補足説明が十分にしてある。また、「こんにゃく」の注の中の説明でカロリーについて触れているのは、食い違った〈風香〉と〈とーちゃん〉のこんにゃくのやりとりの最後に、〈風香〉が突然こんにゃくについて気にし始めた理由をダイエットのためだと〈とーちゃん〉が推測する展開のための⑵理解のための背景知識の補足の意味も含んでいる。

〈風香〉の勘違いをめぐるエピソードが、作中の時間の流れに合わせて離れた場面にも続けて現れることから、この文脈を保持して翻訳することが求められる。英語版においては、(1-24e)の文字テクストにおいて勘違いの内容には沿わない⑨自文化の要素に置き換えて翻訳した部分だけが文脈に関係ないまま宙に浮いているが、注による説明を駆使することによって勘違いの文脈の保持に成功しているといえるだろう。

(1-25d)では、〈よつば〉の言い間違いは、ドイツ語における⑨自文化の音の類似に置き換えた語を使っている。英語版のようにこの言い間違いによって生じるオリジナルの日本語版の〈風香〉の勘違いについて言及はない。この部分だけを見るなら、特に問題のない翻訳である。

しかし、スーパーの場面では“dein Vater würde sich mit Konnyaku auskennen”（君のお父さんはこんにゃくについてよく知ってる）という文字テクストが変更なく表れる。また、この部分に注が付いているのだが、「こんにゃく」を説明するだけの内容であり、言い間違いや勘違いに関する(2)理解のための背景知識の補足説明は含まれていない。「こんにゃくや」という勘違いをしていないはずの、ドイツ語版読者にとっては唐突な展開になっている。その場限りでのことば遊びの翻訳には特に問題ないのに、日本語版の言い間違いを元にした展開が現れたために起こってしまった不整合だと言える。

また、〈恵那〉と〈みうら〉が夏休みの宿題に作った段ボールのロボット、「ダンボー」についても英語版では参照点を示す注が付けられている。

	(1-26j)5 巻、p.17	(1-26d)Bd.5, S.17	(1-26e)Vol.5, p.17
よつば	ロボット　名前は一？	Wie heißt du eigentlich? （ところで名前なんて言うの？）	What’s your name, robot? （名前なんて言うの、ロボット？）
ダンボー	え!?　名前!?　あ…えー…	Wi… Wie ich heiße?! Äh … （な、何ていうか?!　えー…）	Huh!? My name!? Uh… （え!?　名前!?　うーん…）
ダンボー	ダンボール…　ダン…　……ダンボー	Karton, Karto… Kartobot! （ボール箱、ボール…“kartobot”!）	Cardboard… Danboru …* ……Danbo. （ダンボール…「ダンボール」…　「ダンボー」）
よつば	ダンボー	Kartobot! （“kartobot”!）	Danbo? （「ダンボー」？）
注			* Japanese for “Corrugated cardboard.” （「波状になった段ボール」の日本語の）
方法		⑨自文化の要素	②音訳+④注解 +(2)理解のための背景知識

例 1-26

	(1-27j)6 巻、p.11	(1-27d)Bd.6, S.13	(1-27e)Vol.6, p.11
みうら	私の自由研究はダンボーを	Ja. Weißt du nicht mehr? Ena und ich haben doch neulich Kartobo… （そう。覚えてないの？恵那と私はこないだ“kartobot”を…）	My independent study was making Danbo* – （私の個人研究は「ダンボー」を作って――）
みうら	ダンボールを使ったリサイクルをですね…	Äh, ich meine, Kartons recycelt … （えー、私が言いたかったのは、ボール箱のリサイクルで…）	I did a recycling project, stuff like reusing cardboard … （私はリサイクルプロジェクトをやったよ、ダンボールの再利用みたいな素材で…）
注			* The name of Miura’s cardboard robot is from an abbreviation of the Japanese

			word for “corrugated cardboard.” Read volume 5, chapter 28 to find out more!” 日本語の「ダンボール」の省略から名前の付いたみうらのダンボールロボット。5 巻第 28 話を読んで、さらに詳しく知ろう！）
方法		⑨自文化の要素	②音訳+④注解 +(2)理解のための背景知識

例 1-27

初登場の際に、〈ダンボー〉に入った〈みうら〉が〈よつば〉に名前を尋ねられて、即興で考えた名前を名乗る場面で、(1-26e)では②音訳されている。注が付けられているのは「ダンボール」の語についてである。

〈ダンボー〉の名前が再登場した(1-27e)では、文字テクスト上では“Danbo”と②音訳され、〈ダンボー〉についての概略を説明し、詳しくは当該箇所を読むように指示してある。

ドイツ語版の〈ダンボー〉の翻訳は、(1-26d)において「ダンボール」に当たる語の省略から思いつくという形式はそのままに、⑨自文化の要素に置き換えた翻訳が行われている。以下、(1-27d)など〈ダンボー〉について言及される場合には“Kartobot”が使用され、注による説明も加えられることはない

日本語オリジナルの音を尊重した英語版と、自文化の語を適応して意味翻訳を行ったドイツ語と、異なる翻訳方法がとられた翻訳例である。

最後に、英語版とドイツ語版では、翻訳内容が著しく相違する翻訳例を１つ見る。

	(1-28j)5 巻、p.98	(1-28d)Bd.5, S.98	(1-28e)Vol.5, p.98
ジャンボ	あれか？ // 風香ちゃんは天体とか詳しいのか？	He he. // Kennst du dich mit Sternen und Astronomie aus? （へへ。// 星と天文学の事は詳しいの？）	Oh, do you mean … you know a lot about astronomy, Fuuka-chan? （天文学の事はかなり知ってるってことかい、風香ちゃん？）
風香	水金地火木土天海冥	Und wie! Von der Milchstraße bis zum großen Auerochsen! （それはもうすごく！天の川から大きいオーロックスまで！）	My very excellent mother just sent us nine Pizzas. （私のとても素敵な母がちょうど私たちに9枚のピザを送った）
ジャンボ	だめだ 詳しくはなさそうだ	Also nicht. （じゃあだめだ）	Nope, looks like you don’t know that much after all. （いや、結局あんまり詳しくなさそうだ）
注			* A mnemonic device for remembering the order of the planets in the solar system: Mercury, Venus Earth, Mars, Jupiter, Saturn, Uranus, Neptune, and Pluto (before the latter was demoted to “Dwarf planet”). （太陽系の惑星を覚えるための記憶術。太陽系の惑星は、水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王

			星、冥王星（最後のものは以前に矮星に降格された））
方法		⑪原文にない文化要素	④注解+⑨自文化の要素

例 1-28

星を見に行く場面で〈風香〉が星の知識を披露したところでは、(1-28j)においては「水金地火木土天海冥」と惑星のごろ合わせを行っている。(1-28e)では、文字テクストで英語式のごろ合わせに変更して翻訳してある。ごろ合わせについて、詳しく注で説明されている。

この詳細な注による説明は、一つには英語式のごろ合わせの、覚える対象の頭文字を取ってアクロスティックのように文章を新しく作る方法は、頭文字を取った後アクロスティックで作られる文章は特に定型文があるわけではないので、何についてのごろ合わせなのかを明記する必要があるためと考えられる。もう一つは、英語版の対象年齢が全年齢であることから、低年齢層への配慮の現れであると考えられる。

(1-28d)では、一般的でない“Auerochsen”[123]という語の使用によって⑪原文にない文化要素を創造したと考えられる内容に変更している。“Auerochsen”がここに出現する脈絡は一見不明だが、“der Große Bär”（大熊座）との混同か、大熊座の別表現である“Ursa Major”との音の類似による勘違いを表したものとも考えられ、ことば遊びを⑨自文化の要素に置き換え表現した翻訳であるとも考えられる。いずれにせよ、日本語版と同じく知識を披露したもののむしろ天体に詳しくないことを露呈してしまうという文脈は保たれている。

言葉の遊戯に関わる注は、英語版とドイツ語版においては、注に関する翻訳方法が文脈に与える影響が著しい項目であることが分かった。しかも、一場面限りの勘違いや言い間違い、対象物の登場に関していうならばどの翻訳方法が優れていると決めつけることは出来ないが、日本語を元にした言い間違いや勘違いが場面の理解に深くかかわる場合は置き換えや削除では文脈の理解を補足しきれない場合があることが分かった。その際に、注を付けてある程度のテクスト量を確保し、文脈理解のための補足を行うという方法は、理解の阻害を避けるために有効な一つの方法であるといえるだろう。

言語形式や文化の異なる言語間での翻訳で再現が難しく、物語の理解にも関わることば遊びの翻訳については、5.1.でさらに個別の翻訳例を用いて詳しく行う。

４．１．２．１．５．固有名詞に関する補足的解説

固有名詞の翻訳については、藤濤（2002）がグリム童話に現れる固有名詞の翻訳について、固有名詞という語の特徴とその翻訳を関連付けて行った分析がある。この研究によると、基本的に固有名詞は、それ自体が意味を持つことがないために②音訳して言語形式を保持する場合が多い。しかし、ある種の意味が受け取れるような固有名詞の場合には音声面の再現だけでは不十分である場合がある。そのような場合には、固有名詞に含まれる普通名詞の

[123] 現在の家畜牛の原種であり、すでに絶滅している。

③語の意味翻訳を行う、一種の借用翻訳が求められる。

また音声的な再現は、異なる言語文化圏では与える印象が異なる場合がある。発音のしやすさや、響きの良し悪しなどが関わり、これらを考慮して音訳か意味訳かを選択することになる。ここから藤濤は固有名詞の翻訳を原音再現から普通名詞で再現する 7 段階の翻訳タイプに分類し[124]、分析を行った。その結果、対象名詞の定着度や翻訳された時代や原文再現がどの程度求められるジャンルかによって、採用される翻訳方法に異なる傾向が現れることを明らかにした。

また藤濤は翻訳の対象読者層ととられる翻訳方法の関係性に注目し、子ども向けである場合には別の名前に代用する代用翻訳が目立つことを指摘している。これは、単にわかりやすさを優先したものではなく、翻訳されたテクストの価値自体が重視された場合であるとしている。

こうした固有名詞の翻訳が、実際に『よつばと！』の作品の中ではどうおこなわれており、想定する読者層や語の定着度と翻訳方法がどのようにかかわるのかを見る。

『よつばと！』の固有名詞に関わる注にはいくつかの特徴が見られるが、英語版において顕著なのは日本文化に関わらない固有名詞について注による補足がある点である。

	(1-29j)3 巻、pp.84-85	(1-29d)Bd.3, S.88-89	(1-29e)Vol.3, pp.84-85
とーちゃん	よし！　今からよつばは花キューピッドだ!!	Dann bist du ab sofort der Rosenengel der Stadt! (そうしたら、たった今からお前は町の「バラの天使」だ！)	Got that!? From now on, you are flower Cupid!! (みたか!?今から、お前は「花キューピッド」だ！)
	(花キューピット)	(Rosenengel)	(Flower cupid.)
とーちゃん	あはははは！　かわいいかわいい // マッチ売りの少女みたいだ	Ha ha ha. Die Aufmachung steht dir echt gut, Yotsuba. // Du bist so süß wie das kleine Mädchen mit den Wunderhölzern. (ははは。見た目が本当にいいぞ、よつば。//「奇跡のマッチと少女」みたいにかわいいぞ。)	Ah-ha-ha-ha! Cute! Very cute! // Just like the little match girl!* (あははははは！かわいい！すごくかわいい！ //「マッチ売りの少女」みたいだ！)
注			* The titel character of a story written by Hans Christian Andersen, the poor little girl sold matches to passersby on the street to eke out a living. (ハンス・クリスチャン・アンデルセンによって描かれた物語のタイトルキャラクターで、生活の助けのために路上で通行人にマッチを売る貧乏な少女)
方法		⑨自文化の要素	③語の意味+④注解

例 1-29

例えば、普段はズボンばかりはいている〈よつば〉がエプロン付きのワンピースを着た際

[124] 藤濤文子（2002）「固有名詞の翻訳方法について――グリム童話の場合――」、『ドイツ文学論集』31、p.22、神戸大学

に、〈とーちゃん〉が「マッチ売りの少女」に喩える。(1-29e)では文字テクスト上で③語の意味を訳し、注で「マッチ売りの少女」の物語の概要を説明している。(1-29d)では、⑨自文化の要素に置き換えた翻訳がされていて、「マッチ売りの少女」のドイツ語版におけるタイトルで翻訳されている[125]。

	(1-30j)9 巻、p.99	(1-30d)Bd.9, S.99	(1-30e)Vol.9, p.99
ジャンボ	じゃあチンク　内装がすげーいい // でもこれオートマじゃなくてセミオートマで	Der hat eine super Innenausstattung. // Allerdings schwör ich auf Halbautomatik. Automatik is nix. (これはすごく内装がいいやつだ。ただ、誓ってセミオートマティックのやつだ。オートマティックのじゃない)	The cinque-cento* has a really nice interior. // But it's a semi-automatic, not a full automatic. (チンクチェントは本当にいい内装だよ。// でもセミオートマティックの方で、フルオートマティックじゃない)
とーちゃん	何それ	Nicht? (だめ？)	What does that mean? (どういうこと？)
やんだ	なになに？　車買うの？	Kaufst du ein neues Auto? (新しい車買うの？)	What, are you gonna buy a car? (何、車買うの？)
注			* A small hatchback car made by Fiat. (フィアットの作った小さなハッチバックカー)
方法		⑩削除	①複写+④注解

例 1-30

また、〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉が買う車の種類を見比べている際に挙げられた「チンクチェント」について、英語版では文字テクスト上で“the cinque-cent”と正式名称が省略されずに①複写され、注において説明が付けられている。ドイツ語版においては、イラストの中のカタログを指す動作を受けて、“der”という指示代名詞で示され、具体名は⑩削除されている。

	(1-31j)9 巻、p.52	(1-31d)Bd.9, S.52	(1-31e)Vol.9, p.52
値札	Steiff ヴィンテージテディ 1908 レプリカ ¥50'000(税込)	(日本語のものと同じ)	STEIFF VINTAGE TEDDY 1908 REPLICA 50,000 YEN
注			* Steif is a German company famous for making high-quality stuffed animals, particularly Teddy bears."(シュタイフはドイツの会社で、高品質の動物のぬいぐるみ、特にテディベアを作っていることで有名)
方法		変更なし	①複写+④注解

例 1-31

[125] 正確には、1987 年アメリカで制作された映画のドイツ語訳タイトルである。TVSPIELFILM, „Das Mädchen mit den Wunderhölzern“ http://www.tvspielfilm.de/kino/filmarchiv/film/das-maedchen-mit-den-wunderhoelzern,1315824,ApplicationMovie.html（閲覧日：2016/09/28）

さらに、これは文字テクストに付けられた注ではないが、クマのぬいぐるみに付けられた値札に書かれた「シュタイフ」が、(1-31e)では活字にレタリングされて差し替えられており、注で説明されている。(1-31d)では、値札は日本語オリジナル版と同じ状態で、「シュタイフ」に関わる注は付けられていない。

このような日本のものではない文化的な固有名詞に、英語版において注で説明が追加されているのは、英語版『よつばと！』が全年齢を対象としており、低年齢の読者に向けての配慮なのではないかと考えられる。また、英語版が読まれる地域における対象物の知名度の差を表す翻訳例であるとも考えられる。ドイツ語版が読まれるドイツ・スイスにおいては対象物が地理的に近い地域の文化物であるのに比べると、英語版の中心読者として想定されるアメリカ・カナダにおいては異なる文化圏の対象物であるといえるためである。

これを補強する例として、やはり日本由来のものではない「ハーゲンダッツ」[126]には、英語版においても単に文字テクストにおいて①複写されているだけで、注による追加説明はない。ドイツ語版は単に①複写されている。

	(1-32j)2巻、pp.179-180	(1-32d)Bd.2, S.179-180	(1-32e)Vol.2, pp.179-180
風香	名前は？ つけた？	Hat er schon einen Namen? (もう名前あるの？)	Do you give it a name? (もう名前は付けてあげた？)
恵那	まだ 考え中	Nein. Ich grüble noch. (ううん。まだ考えてるんだ)	Nope. Still thinking. (ううん。まだ考えてる)
風香	し――さ――… し――さ――…	Shisa … Shisa… (シーサー… シーサー…)	Shisa… Shisa… (シーサー… シーサー…)
風香	シーザーってどう？	Was hältst du von Shiva? ("Shiva"はどう？)	How about Caesar? (シーザーってどう？)
恵那	えっと…	Nicht so viel. (そんなでもないかな)	Umm… (うーん…)
風香	おまえもかー	Dachte ich mir. (想定していたよ)	Et tu Ena[127]? (「お前もか」、恵那？)
恵那	もっと沖縄っぽいのがいい	Lieber etwas Exotischeres. (もっとエキゾチックなやつがいいな)	I'd rather have something Okinawa-ish (私は、沖縄っぽい方がいい)
	(横であさぎとかーちゃんが別の会話をしている)		
風香	ん――… 沖縄っぽい名前…	Also, was Exotischeres, ja? (そしたら、エキゾチックなやつだよ？)	Hmmm… Okinawa-ish… (うーん… 沖縄っぽい…)
風香	アムロ… グシケン… シマブクロ…	Roberto, Heino, Peter … (ロベルト、ハイノ、ペーター…)	Amuro… Gishiken… Shimabukuro… (アムロ… グシケン… シマブクロ…)
注			* Fuuka is naming famous Okinawans: Pop star Namie Amuro, professional boxer Yoko Gushiken, and Singer Hiroko

126 あずまきよひこ（2009）『よつばと！』9巻、アスキーメディアワークス、p.122

127 ラテン語で「お前も（か）」を意味する。ここから、英語版では「シーサー」と「シーザー」の音の類似を介して、歴史上の人物を連想するということば遊びを正確に理解し、それを英語版読者にも伝えようとする姿勢の表れであると考えられる。一方ドイツ語では、"Caesar"を「ツェーザレ」と発音するため音の類似が成り立たない。そのためか、〈風香〉の冗談を削除して翻訳されている。

			Shimabukuro, formerly of the group Speed. （風香は有名な沖縄人の名前を付けようとしている。ポップスターの安室奈美恵、プロボクサーの具志堅用高、かつてグループ・SPEED に所属していた歌手の島袋寛子。）
方法		⑨自文化の要素	②音写+④注解

例 1-32

また特徴的な固有名詞の翻訳として、〈あさぎ〉が沖縄土産に買ってきたシーサーの置物につける名前を〈風香〉が考えている場面で、(1-32j)では「沖縄っぽい名前」として、沖縄出身の有名人の名前を列挙している。(1-32e)では、“Okinawa-ish”（沖縄に属する）名前の候補に日本語版と同じ人名を②音写し、注でそれぞれの人物について説明を加えている。

それに対して(1-32d)では、“was Exotischeres”（エキゾチックなもの）の候補として、“Roberto, Heino, Peter”という人名を挙げている。これは、沖縄という日本の一地域の本州とは異なる文化性を抽出し、ドイツ的な文化から見てエキゾチックな響きのある名前という⑨自文化の要素に置き換えたものと考えられる。

原文の要素を尊重する英語版とは対照的に、ドイツ語版では⑨自分化への置き換えを通して、普段親しみのないエキゾチックな命名という文脈を保持したものと考えられる。

さらに、固有名詞と場面の文脈理解の関わる翻訳例を見てこの項目の分析を終わりにしたい。

	(1-33j)3 巻、p.97	(1-33d)Bd.3, S.101	(1-33e)Vol.3, p.97
男性	花キューピットなの？	Bist du ein ... Rosenengel? （君はその…「バラの天使」なの？）	Flower cupid, huh? （「花キューピット」、ふーん？）
よつば	うん	Bin ich! （私がそうだよ！）	Yep. （そうだよ）
よつば	あ にーちゃんもやる	Für dich ich auch eine. （君にも一本上げるね）	Ah, you can have one too. （あ、あなたにも一本上げるね）
男性	ありがとう	Danke. （ありがとう）	Thanks. （ありがとう）
よつば	？ 花キューピットってこーゆーのだっけ？	? Was waren nochmal Rosenengel? （改めて、“Rosenengel”ってなんなんだ？）	? Does flower cupid* usually work this way? （？ 花キューピットっていつもこんなやり方で仕事するっけ？）
注			* Iso a chain of Japanese flower shops, hence the man’s confusion. （日本の花屋チェーンの名前でもあるため、この男性は混乱している）
方法		⑪原文にない文化要素	③語の意味+④注解 +(2)理解のための背景知識

例 1-33

「マッチ売りの少女」に喩えられたスカート姿の〈よつば〉は、〈とーちゃん〉によって「花キューピット」と命名された。これは、花屋の〈ジャンボ〉から大量の花をもらったため、それらをかごに入れておすそ分けするためのコスチュームであるためである。街頭に出て花を配る〈よつば〉を見て、男性が「花キューピットってこーゆーのだっけ？」とつぶやく場面がある。

これは、「花キューピット」という花屋のチェーン店を連想したために起こった疑問だが、(1-34e)では「花キューピット」を③語の意味で翻訳し、注を付けて、男性の疑問の理由を説明している。「花キューピット」が花屋の名前であるという語の説明に加えて、(2)理解のための背景知識の補足も行っている例である。

(1-34d)では、そもそも「花キューピット」は“Rosenengel”（バラの天使）と⑪原文にない文化要素を創造して翻訳されているため、同じ名前の花屋が存在しない限りは、同じような勘違いは発生しない。それに従って男性の疑問は単に“Rosenengel”とは何かという内容に変わっている。

固有名詞に関わる翻訳において特徴的なのは、英語版において日本の文化に関係ない対象物にも注で説明が加えられている点があった。これは、想定読者の年齢層や知識を配慮した結果であると考えられる。ドイツ語版において同箇所に説明が付与されないのは、地域的な理由で知識が十分であると考えられたためだろうと考えられる。

４．１．２．２．当該箇所の理解のための背景知識の補足

すでに、主に英語版においてはこの項目に属する内容を含む注について分析を行ってきた。ここでは、特に翻訳者が注を付けて理解を補足するという現象が、翻訳者の解釈を読者に伝えるものであるという特徴を強く持つと考えられる翻訳例に注目する。

まずは、他の項目の内容も含むが、2)理解のための背景知識の補足的な性格が強いと考えられる翻訳例を 2 例見る。

	(1-34j) 1 巻、p.139	(1-34d) Bd.1, S.139	(1-34e) Vol.1, p.139
とーちゃん	ではもらっていきます	Besten Dank für den Fernseher. （本当にテレビありがとう）	Well, we'll be taking this off your hands. （それじゃあ、そちら様からこれは引き取りますね）
とーちゃん ジャンボ	ありがとう 美少女風香ちゃん	Danke, sympathische und unirdische Shönheit! （ありがとう、好感の持てる、そしてこの世のものとは思えない美人さん！）	Thank you, lovely Fuuka-chan! （ありがとう、かわいい風香ちゃん！）
	（風香、塩をまく）	(Salz*)	(salt)
注		* Das Saltzwerfen ist eine shintoistische Reinigungszeremonie, um böse Geister zu vertreiben.	

		（塩をまくのは、悪霊を追い払うための神道の清めの儀式である）	
方法		③語の意味+④注解 +(2)理解のための背景知識	③語の意味

例 1-34

不要になったテレビを引き取って帰っていく〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉に対して〈風香〉がまいた塩に付けられたもので、文字テクストに付けられた注ではない。(1-34d)においては、イラストの中に描かれた塩に矢印が付けられ、“Salz”（塩）を説明が付けられた部分に注が付けられており、「塩をまく」という行為自体を説明している。(1)言語・文化の不一致の中の iii)習慣を説明する生活のものであると同時に、〈風香〉がこの場面で扉の所から塩をまくという文脈を理解するための説明になっている。

これに対して(1-34e)では、イラストの中の説明を“salt”（塩）と活字でレタリングしているにとどめ、この行為に対しては特に説明はない。

	(1-35j) 3 巻、p.23	(1-35d) Bd.3, S.27	(1-35e) Vol.3, p.27
アナウンス	6 時になりました　よい子のみなさん　おうちに帰る時間です	Es ist 18 Uhr, liebe Kinder. Zeit, nach Hause zu gehen. （子どもたちへ、18 時になりました。家に帰る時間です）	Attention boys and girls, the time is now six o’clock. Time for good children to go home. （子どもたちにお知らせです。6 時になりました。良い子は家に帰る時間です）
よつば	あ　かえるじかんだ	Oh, wir müssen heim. （ああ、家に帰らなきゃ）	Ah! Time to go. （あ！帰る時間だ）
注		* In Japan ist es üblich, dass um 18 Uhr über Lautsprecher Ansagen ertönen, die vor allem Grundschuhlkinder auffordern, nach Hause zu gehen. （日本では、18 時にスピーカーから小学生の子どもに対し家に帰るように促すアナウンスが流れるのが通例である）	
方法		④注解+(2)理解のための背景知識	③語の意味

例 1-35

特定の人物によるセリフではないが、(1-35d)では内放送の文字テクストに対して夕方にアナウンスを流す習慣についての説明が付けられている。この例でも、(1)言語・文化の不一致の中の iii)習慣を説明する性格のものであると同時に、普通のセリフとは異なる吹き出しの形、フォントによって示されたアナウンスであることを表す文字テクストの内容に沿って、今まで遊んでいた〈よつば〉と〈恵那〉が遊びをやめるという文脈を説明するものとなっている。

(1-35e)においては、文字テクストのアナウンスの内容と、直後の〈よつば〉の発言から注を付けなくても文脈が理解できると判断したものと考えられる。

(1-35d)においても文字テクストからだけでも十分に文脈を理解できると考えられるが、毎日夕方に子どもたちに帰宅を促す放送を流すという習慣を特に異文化的なものとして、注で補足を行ったものと考えられる。

さらにこの項で特徴的なものとして、翻訳者の解釈を伝える性格が強いと考えられる例について見る。

	(1-36j)6 巻、pp.87-88	(1-36d)Bd.6, S.89-90	(1-36e)Vol.6, pp.87-88
とーちゃん	めいし持ってるか？	Dürfte ich deine Visitenkarte sehen? （名刺を見せていただけますか？）	Do you have business cards? （名刺は持ってる？）
よつば	！	!	!
あさぎ	ネクタイは？	Wo ist deine Krawatte? （あなたのネクタイは？）	What about a necktie? （ネクタイはどうしたの？）
よつば	！	!	!
よつば	ネクタイ…	Krawatte … （ネクタイ…）	Necktie… （ネクタイ…）
よつば	あれ――!?	Huch?! （あれ?!）	Huuuh!? （あれー!?）
よつば	あ あ――― // めいし… めいしも…	Oh nein, was, was …?! // Und meine Vistenkarte. Meine Visitenkarte! （あー、違う、何、なんだ…?! // あと名刺だ。名刺！）	Ah…ahhh! // Business cards… Business cards too… （あ、あー！ // 名刺…名刺も…）
よつば	あ―――	Hiiilfeee! （助けてー！）	Aaaah… （あー…）
よつば	とーちゃんめいしくれ――!!	Papa! Besorgst du mir Visitenkarten? （パパ！ 私の名刺手に入れた？）	Daddy! Gimme business cards!!* （パパ！名刺ちょうだい！）
とーちゃん	？	?	?
よつば	は―― ごはんはおいしいなぁ	Puh … Frühstücken ist schön. （ふう…朝ご飯はすばらしいな）	Woow… Rice sure is yummy. （わー…「ご飯」は本当においしいなあ）
注			Yotsuba asks her dad for *Meishi* (“business cards”), but he mishears and thinks she asked for *Meshi* (“a meal”). （よつばはとーちゃんに「めいし」（「名刺」）について尋ねたのだが、とーちゃんはそれを聞き間違え、「めし」（食事）を要求したのだと考えている）
方法		③語の意味	③語の意味+④注解 +(2)理解のための背景知識

例 1-36

一つ目は、悪夢を見てその内容をひきずる〈よつば〉と〈とーちゃん〉がそれを聞かされる朝食のシーンである。〈とーちゃん〉や〈綾瀬家〉の姉妹たちがスーツにネクタイを締めて出勤する中、〈よつば〉だけネクタイも名刺も持たず進退窮まる夢を見て目覚めた〈よつば〉は、〈とーちゃん〉を叩き起こして「名刺が欲しい」と訴える。場面は飛んで、とりあ

えず朝食の席で一息つく。そこで改めて〈とーちゃん〉がどんな夢を見たか尋ねる、という流れの場面だが、(1-36e)では「名刺」と「飯」を〈とーちゃん〉が勘違いしたという内容の注を付けている。

この勘違いを否定することは出来ないが、単に寝ぼけて騒いでいる〈よつば〉をとりあえず落ち着かせることができたのが朝食の場面、とも取れる微妙な場面である。〈よつば〉たちが起床してすぐに〈とーちゃん〉が朝食を準備するという場面も、他でも見られる[128]。問題は、ここで(1-36e)の注が主張するような勘違いが起こったとも取れるし、単に朝の一騒動の場面であるとも取れ、それについて(1-36j)は何も説明を加えていないという点である。

英語版では注を付けることによって、読者の解釈に任される場面の解釈を強制的に方向づけているともいえるだろう。ドイツ語版では、「名刺」を"Visitenkarten"とドイツ語語彙に③語の意味で翻訳してあり、音の類似はなく注もないため同じ勘違いを読み取ることは不可能になっている。解釈の可能性からいえば、ドイツ語版では英語版とは逆に、〈とーちゃん〉の勘違いという解釈を持ちえないように強制された翻訳であるとも言える。

二つ目は、文字テクストに付けられた注ではないが非常に特徴的な物である。

	(1-37j) 7 巻、p.93	(1-37d) Bd.7, S.93	(1-37e) Vol.7, p.93
とーちゃん	(バターの箱に「よつ葉バター」と書いてある)	日本語と同じ	日本語と同じ
注			Top box: Yotsuba butter (yep, it's an actual brand!") (「よつばバター」(そうなんだよ、これは実在のブランドなんだ！))
方法		特になし	①複写+④注解 +(2)理解のための背景知識

例 1-37

製菓のために集められた材料が描かれたコマの中に、「よつ葉バター」の箱がある。そのコマに(1-37e)では注を付け、イラストの中に描き込まれた文字の①複写と共に、物語の主人公が〈よつば〉であることに絡めて、商品名にそれが登場することに注目させている。(1-37d)では、イラストの文字は日本語版オリジナルそのままで、日本語が読める読者でない限りは読み取れない文字でしかない状態である。

この注による補足は、「よつ葉バター」を目にしたことがある可能性の高い日本語版読者にとっては、単に数あるバターの中の一商品が置かれているだけにもとれ、名前の符号について面白さを覚えることも可能であり、さらにそこに作者の意図を感じることも可能である。しかしいずれにせよ、その解釈は読者にゆだねられる。たとえそこに作者の意図を見たとしても、明示された証拠は何もないためにやはり個人の解釈に留まる。

[128] 例えば、あずまきよひこ（2003）『よつばと！』1 巻、アスキーメディアワークス、p.57

しかし(1-37e)においては、わざわざ注で翻訳者がそれを指摘することによって、読者は名前の符号に注目せざるを得ない状況に置かれる。単に商品名の紹介であるといってしまえばそれまでだが、(1-37d)のように日本語能力のある読者以外には読めない文字、箱の装飾にしか見えない場合に比べれば、読者はやはり名前の符号を意識ざるを得ないだろう。

単に親しみのないもの、なじみのないものに対する辞書的な説明だけではなく、文脈と絡めた説明が注で成されるとき、読者の理解に翻訳者の解釈が強く影響すると考えられる。翻訳を通して何かを受け取るとき、翻訳者の解釈が存在しないものはもちろんないのだが、注という機能が用いられるとそれが顕在化すると考えられる。注は、翻訳者が積極的に読者に何かしら働きかける行為であり、この項で見たような英語版の翻訳例においては、特に翻訳者が積極的に読者の解釈に介入していると考えられる内容が目立った。

一方ドイツ語版では、注を付けること自体が英語版に比べて控えられ、また内容も語の説明に徹している場合が多い。これを見ると、ドイツ語版は透明化した翻訳を目指す傾向にあると言えるだろう。

４．１．２．３．イラストの中の文字

藤濤（2004）の先行研究においては文学作品を対象としていたため、マンガの文字に特有なものであるイラストの中の文字に付けられる注についての言及がない。マンガにおいて、登場人物たちの発言を表す文字テクストの他にも、オノマトペや背景に書き込まれたポスターや看板などの文字がある。これらの要素は文字としての情報に加えてイラスト的な効果を担うものである。

４．１．２．３．１．オノマトペ

『よつばと！』においては、日常生活を描いたマンガであることもあり、オノマトペの数自体もアクションマンガなどに比べると少なく、擬音・擬態の表す雰囲気を如実に表した特徴的な文字の形をしたオノマトペもほとんどない。一般的にオノマトペの翻訳において、手書きで描き込まれたオノマトペは、マンガ翻訳において文字情報というよりも画像情報として扱われて、翻訳され活字レタリングによる置き換えをされないことも多い。

ドイツ語版においては、オリジナルの画面を尊重したためか、オノマトペの翻訳や置き換えはほとんど行われていない。そのため、日本語を読解することのできない読者にとっては理解のできない文字列であり、そのコマの中で何か擬音語や擬態語で表される現象が起こっていると理解できるだけの要素となっている。ただし、途中から翻訳方針を変更し、2011年発売の 10 巻からは翻訳と活字によるレタリングの置き換えを行っている。

英語版においては、一貫してオノマトペ自体は日本語版のまま、描き込まれた日本語の近くに②音訳と③語の意味を説明する方法を取っている[129]。これは、日本語版の画面を尊重し

[129] 資料編の(1-2e)など参照。

ながらも、文字の読み方と意味を併記し読者の理解を促す方策であると考えられる。英語版の取っている方策は、注の機能の一種であると考えることもできる。

このようなオノマトペの翻訳については、日本語のオノマトペの語彙、種類に比べると翻訳語側の文化においてオノマトペの種類が少ない場合が多いことから、翻訳の難しい要素であり、どのように翻訳するか工夫が凝らされていることについて、オノマトペ翻訳に関する研究は既にある[130]。本論では詳しい分析に踏み込むことはせず、イラストと文字の中間にある存在ともいえるオノマトペの扱いについて、ドイツ語版と英語版で異なる扱いがなされていることを言及するにとどめる。

４．１．２．３．２．絵の中の文字

むしろこの項目で注目したいのは、背景に描かれた店の看板やポスターなどの文字である。特に『よつばと！』は背景が細部まで描き込まれる傾向にあり、表札やポスター、看板の文字がはっきり読み取れる場合が多い。

それらの文字は、ほとんどの場合読み取ることが場面の解釈に必要となるというよりは、リアルな場面の表現である場合が多い。その傾向が顕著なのは 8 巻の第 51 話、〈よつば〉と〈とーちゃん〉が〈風香〉の高校の文化祭に行くエピソードでは、日本語版読者に対して文化祭の雰囲気を励起する構成要素として、壁に張られた出し物のポスター、廊下に置かれた出し物の看板などが細かく描き込まれている。情報量としてはほとんどゼロに近く、背景の描き込み要素にすぎないが、一つ一つを丁寧に読み込む楽しみも同時に提供しているものでもある。

それらイラストの一部として描き込まれた文字は、ほとんどの場合翻訳の必要性に迫られない要素である[131]。翻訳されず、オリジナルの場面のままなら作者が描いた画面を完全に楽しむことができる一方で何が書いてあるかを理解することは出来ず、翻訳された場合には内容を理解することができる一方で、画面の雰囲気を保持することは出来なくなり、どちらの方法も一長一短の特徴を持つ。

こうした絵の中の文字に対して、英語版では積極的に注を付けて、②音訳および③語の意味の翻訳を行っている。そのために、絵の中の文字に付けられた注は他の項目に関するものに比べて圧倒的に多く、全体の 6 割弱を占める。活字レタリングによる置き換えは 9 巻から一部の物について開始されるまでは画面の中の多くの文字に注を付けている。全体的に注の数が減る 10 巻以降でも、絵の文字に関わる注の数は多い。ここから、英語版において

130 例えば、岡本克人（1991）「日仏漫画の対照言語学的研究―オノマトペを中心に」がある。

131 例外としては、例えば「たい焼き」と商品名の入ったのれんのかけられた店頭で、〈よつば〉と店員が「たい焼き」についての会話を交わす場面（あずまきよひこ（2004）『よつばと！』2 巻、アスキーメディアワークス、p.68）、あるいはその店を遠目に見て〈よつば〉が「たい焼き屋がある」と指摘する場面（あずまきよひこ（2006）『よつばと！』5 巻、アスキーメディアワークス、p.137）があり、文字テクストとのれんの文字が認識できることが結びついている場合がある。

注の数が減るのは、絵の文字以外の要素についての注が減ることを意味しているともいえる。

一方、ドイツ語版において絵の中の文字に注を付けて説明する翻訳例は、3 巻に出現する以外には、10 巻以降いくつかの単語に注が追加されているがほとんどは日本語オリジナルの画面のままである。英語版において注が付けられているような絵の中の文字について、活字レタリングによる置き換えは 4 巻から見られる。

この翻訳傾向から、英語版はオリジナルの画面を重視しつつ、読み取れる文字に関しては文字情報として扱い注で内容理解を補っているのに対し、ドイツ語版は基本的にオリジナルの画面を重視し、イラストの中の文字はイラストに属する情報として提供しているが、理解が必要な所は適宜活字レタリングによる置き換えを行う傾向にあるということがいえる。

４．１．３．考察

本項では、翻訳版読者がなじみのないと考えられる、主に日本文化・言語的な事物の翻訳を分析した。どのようなものが翻訳に工夫を要すると判断されるかの基準として、注の付いている要素を取り上げた。注の持つ機能について、藤濤（2004）の分析方法を参照とし、注の機能別の項目に分けて分析を行った。

注の数で比較した際英語版における注がドイツ語版に比べて圧倒に多いこと、また食べ物に関する事物について付けられた注が英語版・ドイツ語版のどちらにおいても多かった。この事実からは、翻訳の際、解説や他の物への置き換えが必要とされる文化的な事物で、登場回数が圧倒的に多いのが食べ物であることがいえる。

さらに個別の翻訳例を分析した結果、英語版においては日本語版のオリジナルの表現、および文脈の理解を尊重し、積極的に注を付けて説明する傾向にあることが分かった。一方、ドイツ語版では注による説明を付加するよりも、文字テクストの翻訳を工夫して問題を解決する傾向にある。

注の内容については、英語版では単なる語の説明にとどまらず、文脈理解のための補足を積極的に取り入れていた。一方ドイツ語版では語の説明に徹する場合が多かった。この翻訳の違いが、注を付けるか否かという翻訳方法に関わっていると考えられる。つまり、単に文化的事物の辞書的な説明だけではなく、文脈上の働きを補おうとするとき、まとまったテクスト量が必要になるために、注を付けてそのスペースを確保していると考えられる。一方、文脈上の働きを考慮し、翻訳版読者でも理解可能なものに置き換える方法もとることができ、この場合には吹き出しの中に納まる文字テクスト量にとどめることが可能となる。

注という翻訳方法は翻訳者による積極的な介入であり、その度に物語の流れは中断されるため、原文のイメージを保持する代わりに読みやすさが犠牲になるという一面も持つ。ここから、英語版では翻訳者が積極的に読者の読みに介入する翻訳方法、ドイツ語版では自文化に引き寄せた内容に置き換えるため場合によっては無理が出てしまう翻訳方法を取って

いるといえるだろう。

また、特に英語版における注において顕著だが、今回採取した例からは、言語・文化的不一致の是正の内容を含み、かつ背景理解のための補足内容を含むというようなどちらの特徴も両立している例が多く採取された。この結果から、翻訳語版読者にとってなじみのないものを辞書的な内容によって情報を補完するだけではなく、文脈の上でどのように捉えるかという内容まで含むことが、注の担う役割の範疇であることが読み取れる。そのとき、藤濤（2004）の用いたナイダ（1972）の注の機能分類では背景理解の内容を含むものという単独項目となっていたが、追加項目的な分類とする方が実情に適っているのではないかと考えられる。

また、どの程度まで立ち入った内容を注によって補うかという姿勢が対象となるモノ、言語、翻訳者によって異なることが明らかとなった。ここから、藤濤（2004）が指摘した注による読者の読みへの翻訳者の積極的介入の実情が見て取れ、特に英語版の翻訳では読み方を制限するような過剰な介入の様子も見られた。ここから、藤濤のいう翻訳者と読者のコミュニケーションは、必ずしもよいばかりではなく、解釈の押しつけのような読者にとって不自由な読みを提供する場合もあることを分析の観点として持つべきである。

絵の中の文字に対する翻訳傾向を見ると、英語版では日本語版オリジナルの画面を尊重しながらも、音訳や語の意味を説明した注を付け、表現理解を助ける姿勢をとっている。ドイツ語版では、文脈理解に必要と思われる場合を除いては日本語オリジナルの画面を提供することに徹し、注や説明は付けず画像情報として取り扱う傾向があることが分かった。

この傾向については一概にどちらがよいとは言えないが、オリジナルの画面を楽しみたい読者、あるいは文字情報を完全に読み取りたい読者など様々なニーズの中から、最も想定対象読者が望む形に近い方法を現在とっている、あるいは少しずつ調整しながらすり合わせている、言語圏や出版社などの標準形に従っている様子が見て取れ、分析の観点として重要と考える。

「なじみのないもの」は、理解を阻害する要素になる可能性を持つ一方で、異国感を読者にもたらす要素でもある。オリジナルの表現を保ったまま注によって解説する部分と理解しやすいように自文化の物に置き換える部分のバランスを取り、どのように翻訳するのが対象読者に対して最良のものなのか、対象読者を想定してそれぞれの言語版で工夫を凝らす様子が明らかになった。そして、どのようなものが翻訳版読者にとってなじみのないものかという大まかな傾向が明らかになった。

４．２．「たい焼き」のドイツ語翻訳

同じ物語の中に、同じ文化的事物が複数回登場する場合がある。それにもかかわらず、それぞれ全く異なる翻訳が行われている例が見つかった。この翻訳の変更はどのような理由によるものなのか、またその変更によって文字テクストの理解はどのように変化するのか。それを明らかにするのが本項である。

対象とする文字テクストは、ドイツ語版において同じ翻訳者によって異なる翻訳をされた「たい焼き」という語とする。英語版では音訳した語に注を付け説明していたのに対し、ドイツ語では 2 回の出現でそれぞれ翻訳方法、表現が異なる。さらに、同じ翻訳者による『あずまんが大王』においても、その 2 種と異なる翻訳が行われている、非常に特徴的な翻訳例である。そのため、この項では例外的に『あずまんが大王』の翻訳例を用い、3 種の文字テクストの翻訳比較を行う。

本項でも藤濤（2004b）の分類に従い、本研究で対象とする「たい焼き」の翻訳について分類し、それにイラストの有無の分析を加え、また翻訳された時期の比較などを追加して分析項目とする。そこから、選択された翻訳語がどのように理解されうる語なのかを分析するものである。

４．２．１．追加対象作品について

本項で対象とする作品は、『よつばと！』に加えて『あずまんが大王』（あずまきよひこ・メディアワークス）とそのドイツ語版 *YOTSUBA&!*（Marcus Wehner 訳/TOKYOPOP）と *Azumanga Daioh*（Marcus Wehner 訳/TOKYOPOP）を用いる。

『あずまんが大王』はある高等学校を舞台にしたコメディマンガで、特定の主人公はいないが 10 歳にもかかわらず飛び級で高校に進学してきた〈ちよ〉や大阪から転校してきた〈大阪〉、トラブルメイカーの〈とも〉、ダイエットの事でよくからかわれる〈よみ〉など個性的な生徒たちや、担任の教師たちなどによって繰り広げられる、学校生活や長期休みなどの日常が描かれた作品である。同じくあずまきよひこによって、『よつばと！』以前に発表された。日本語版は 2000 年から 2002 年にかけて単行本 4 巻でメディアワークス（現アスキーメディアワークス）から発売され、その後描き下ろしを含み、イラスト・文字テクスト共に大幅修正された新装版が全 3 巻で 2009 年に小学館から発売されている。ドイツ語版 *Azumanga Daioh* は 2006 年に全 4 巻で発売された後、2012 年に全 2 巻に変更されて発売された[132]。翻訳は『よつばと！』と同じ Marcus Wehner が行っている。本論では、日本語版は旧全 4 巻版、ドイツ語版は全 2 巻版を対象文字テクストとして扱う。

『あずまんが大王』の文字テクストの特徴について簡単に述べる。『あずまんが大王』に

[132] 『あずまんが大王』のドイツ語版は全 4 巻構成で 2006 年ごろに発売された後、全 2 巻にまとめられて発売されている。共に TOKYOPOP 刊。全 4 巻版は現在出版社の公式 web サイトにも表記がなく、2006 年に 3, 4 巻が発売されたらしいことが確認できるが、現在中古で手に入れることしかできない。ドイツ語版の全 2 巻版は日本語の旧 4 巻版を元に翻訳されている。

は当時の有名な俳優や野球選手、アニメのキャラクターなどが登場し、ドイツ語版ではそれらに注が付けられて説明されている。また、日常を描いた物語であるために、『よつばと！』と同様、食べ物や固有名詞などの登場も多いが、『よつばと！』に比べると注の登場回数、頻度が多い。

４．２．２．「たい焼き」翻訳の特徴

対象となる文字テクストは、全て日本語版では「たい焼き」となっている部分をドイツ語に翻訳したものである。出版社はすべて TOKYO POP、翻訳者は一貫して Marcus Wehner が行っている。

	(2-1j)『あずまんが大王』2 巻、p.23-24	(2-1d) *Azumanga Daioh*, Bd.1, S.181-24
とも	あ！ たいやき食べたい！	Ich habe Lust auf Schokofisch. Der ist lecker. （「魚のチョコレート」食べたい。あれはおいしいよね。）
とも	この前ちよちゃんにうまい所 教えてもらったんだ	Klar, dampfend warmer Teig mit Scholade. （そうだよ、ほかほかのあたたかいチョコ入りの生地だよ）
とも	小倉あんと抹茶とカスタードクリーム	Einen normalen, einen mit Schlagsahne und einen mit Zimt bitte. （普通のやつと、ホイップクリームと、シナモンください）
看板	カロリーひかえめ 小倉	Toiyaki（ママ） mit wenig Kalorien*. （「といやき」 カロリー少な目 注・日本の焼き菓子）
よみ	あの…小倉…	Mit Karamell bitte ... （カラメル[133]のください…）
注		* japanisches Gebäck

例 2-1

	(2-2j)『よつばと！』2 巻、p.68	(2-2d) *Yotsuba&!*, Bd.2, S.68
店員	お嬢ちゃんたいやき買うかい？	Hallo, Kleine. Möchtest du einen Taiyaki*? （こんにちは、お嬢ちゃん。たい焼き欲しい？） *Ein mit süßer Bohnenpastete gefülltes Gebäck in Fischform. （甘い豆のペーストが中に詰まった魚型の焼き菓子）

例 2-2

	(2-3j)『よつばと！』5 巻、p.138	(2-3d) *Yotsuba&!*, Bd.5, S.138
	（たい焼き屋の店頭が描かれている）	
よつば	とーちゃん たいやきやさんがある	Da drüben gibt´s gefüllten Backfisch. （あっちに詰め物された焼き魚がある。）

例 2-3

この 3 つの「たい焼き」の翻訳について、いくつかの観点から比較分析を行う。

[133] „Karamell“の語は、砂糖を煮詰めた「カラメル」とヌガーやタフィーに近い飴菓子の「キャラメル」のどちらの意味も含むようである。

４．２．２．１．翻訳の方法

それぞれの翻訳文字テクストにおける翻訳方法は以下のようになっている

(2-1)⑨自文化の要素に置き換え＋③意味訳
（⑤本文中に補足説明、⑨自分化の要素に置き換え、②音訳＋④注）
(2-2)②音訳＋④注
(2-3)③意味訳／⑨自文化の要素に置き換え

(2-1)は意味訳であると考えられるが、„Schokofisch“（魚のチョコレート）という語の„Schoko-“（チョコレート）の部分があるために、何か甘いものであると判断することが可能であると考えられる。たい焼きの中身は一般的には餡子であるが、近年ではクリームやチョコレート入りのものもあり、餡子になじみのないドイツ人読者のために⑨自文化の要素に置き換えた結果であると考えられる。„-fisch“の部分は、「たい焼き」の「たい - 」の部分を「魚」という③意味訳で翻訳してあると考えられる。

さらに、(2-1d)の直後のコマの文字テクストが、„Schokofisch“の追加説明をする内容に変わっており、この部分は⑤本文中に補足説明に当たると考えられる。

また、⑨自文化の要素に置き換えた要素として、(2-1)を含む 4 コマの次の 4 コマで、たい焼きを注文する内容の文字テクストがある。„Schokofisch“における„einen normalen“（普通のやつ）はチョコレートのみ、„einen mit Schlagsahne und einen mit Zimt“（ホイップクリームとシナモン）はチョコレートに追加するトッピングであると考えられ、ドイツ語版読者にとってなじみのない餡子や抹茶を避け、ドイツにおける甘い菓子にありがちなものに変更されている。さらに、次の 4 コマでも注文をする文字テクストがあり、ここでも⑨自文化の要素に置き換えられた翻訳が行われていると考えられる。

さらにたい焼き屋の店頭にメニュー表が貼ってあり、②音訳と④注を組み合わせて翻訳してあるが、音訳の部分に誤字がある。注の内容は、具体的な説明はないが、とにかく日本の菓子であることが説明されている。

(2-1d)や文字テクスト内容の変更による説明の付加、たい焼きの中身に関してドイツ文化的要素への置き換えなどと総合して、ドイツ文化になじみのあるものに近づけつつ、日本にはそのような菓子があるのだとドイツ語版読者が受け取れるような内容の注を付けることで、ドイツ語版読者の理解を得やすいようにした翻訳であると考えられる。

(2-2d)は、(2-2d)において„Taiyaki“と②音訳してあり、④注が付けられている。注の内容は「甘い豆のペーストが中に詰まった魚型の焼き菓子」となっており、(2-1d)の後の部分にある文字テクストより内容が具体的で、その内容も妥当である。

(2-3)は、„gefüllten Backfisch[134]“（詰め物された「焼き魚」）となっており、これは「たい焼き」という語を、「たい（鯛）」という固有名詞を一般化した上で忠実に逐語訳した③意味訳であるように考えられる。

しかし、„Back-fisch“（焼き-魚）は、「衣をつけて揚げた魚のフライ」を指す語であり、単なる③意味訳でない可能性もある。つまり、「たい焼き」を小麦粉などから作った生地で餡子を包み込んだ食べ物であるととらえると、「衣付きの魚のフライ」はパン粉や小麦粉などの衣で魚の身を包み込んだ食べ物と形状の類似が認められる可能性がある。そのため、「魚」に関する食べ物であるという共通点を元に、⑨自文化の要素に置き換えた翻訳であると解釈することができる。ただし、(2-1)や(2-2)の翻訳では甘い菓子的なものとして翻訳・説明されていたことと比較すると、「魚のフライ」という主菜的なものと置き換えられている(2-3d)は、翻訳の一貫性を欠くと考えられ、「たい焼き」と同一のモノとして認識されないのではないかと考えられる。

また、 „Backfisch“を修飾する„gefüllt“（中身の詰まった）という語も、何が詰まっているのか具体的な内容は示されていない。語の意味から考えると、魚の身が詰まっているととらえるのが自然である。(2-2d)の注では„mit süßer Bohnenpastete gefüllt“（甘い豆ペーストの詰まった）という、詰まっている中身の説明の部分があり、しかも甘いものが詰まっていることが示されているが、(2-3d)においてこのような中身を読者がイメージすることは難しいと考えられる。

同じシリーズの中のそれぞれの場面で、「たい焼き」の翻訳に同じ翻訳語が使われていない時点で翻訳の一貫性を欠いている。 (2-3)の文字テクストが現れる場面は(2-2)よりも後に現れるため、(2-2d)の表現とその注の内容を覚えていることが想定されている可能性があるが、(2-1d)の„Taiyaki“と(2-2)の„gefüllten Backfisch“とを同じものを指しているとドイツ語版読者が判断するのは難しいのではないかと考えられる。

４．２．２．２．イラストとの関連

それぞれの翻訳文字テクストにおける、「たい焼き」のイラストが対象文字テクストの近辺にあるかについては、以下のようになっている。

(2-1)「たい焼き」のイラストが後のコマにある
(2-2)「たい焼き」のイラストが前後のコマにある
(2-3)「たい焼き」のイラストが全くない

(2-1)の文字テクストは、高校からの帰り道に〈とも〉と〈よみ〉が会話している場面で、突然〈とも〉が「たい焼き」を食べたいと言い出す。ダイエット中で甘いものを控えている

[134] *Duden* では「衣をつけて焼かれた魚」が主な使用として記載されているが、『大独和辞典』によると、「フライにした魚、フライ用の若魚」とされ、料理の名前であり、同時に調理前の生魚を表す場合もあるようである。他の辞書でも、「フライ用の魚」（クラウン独和）と調理前の状態を指すと記載されている場合もある。

〈よみ〉は〈とも〉に引きずられて、たい焼き屋へ行き、最初は〈とも〉だけがたい焼きを食べるが、お構いなしにたい焼きを食べる〈とも〉を見ているうちに、〈よみ〉も誘惑に負けてたい焼きを頼んでしまう。

(2-1)を含むコマのある 4 コマでは「たい焼き」のイラストはないが、〈とも〉がたい焼きを食べているコマのある次の 4 コマにたい焼きが描かれ、またさらに次の 4 コマでは〈よみ〉が「たい焼き」のイラストが描かれたメニュー表を眺めるコマがある。ややデフォルメされてはいるが、「たい焼き」が魚の形状をしたものであることが、„Schokofisch“の翻訳語と合わせて理解することが可能である。

(2-2)の文字テクストは、〈よつば〉たちが買い物に出かけ、商店街を歩いているときに〈よつば〉がたい焼き屋の前に立ち止まった時の会話である。たい焼き屋の店頭が(2-2)を含むコマの前のコマに描かれており、店頭の棚に並んでいるたい焼きや、たい焼きのイラストが描かれたポスターが描き込まれている。さらに(2-2)のあるコマの次のコマは、たい焼きがアップに描かれており、今文字テクストに現れている「たい焼き」がイラストに描かれているたい焼きと結び付けて読むことが可能である。

(2-3)の文字テクストは、〈よつば〉と〈とーちゃん〉が二人で商店街の中を歩いているときに、(2-2)で登場したものと同じたい焼き屋を見かけて、〈よつば〉が発したものである。このときのたい焼き屋は遠景から描かれるにとどまり、(2-1)のように店頭の細かい部分はイラストから読み取ることができない。また、後のコマでも「たい焼き」自体がコマの中に描かれることはないため、„gefüllten Backfisch“がイラストと結びつけられることはない。(2-2d)の文字テクストが現れる場面を覚えていれば、同じものをテーマにした会話がなされていると判断することも可能ではあるが、すでに見たようにまったく違う物品と受け取られるような翻訳方法、語をとっているため、翻訳の一貫性もなく、ドイツ語版読者が「たい焼き」であると理解するのは難しいと考えられる。

４．２．２．３．翻訳された時期

さらに、この 3 つの翻訳がされた時期は以下のようになっている。

(2-1)『あずまんが大王』2 巻（日本語版 2000 年、ドイツ語版 1 巻 2006 / 2012 年[135]
(2-2)『よつばと！』2 巻（日本語版 2004 年、ドイツ語版 2007 年）
(2-3)『よつばと！』5 巻（日本語版 2006 年、ドイツ語版 2008 年）

発売順と翻訳の方法や内容を比べると、(2-1d)では「たい焼き」の構成要素のうち、「たい

[135] ドイツ語版の 2006 年全 4 巻版が現在入手困難であることから確認はできないが、全 2 巻版が全 4 巻版の “Sammelband”（複数の著作をまとめたもの）であることから、2006 年に翻訳されたものとして扱う。

（鯛）」の部分を„-fisch“（魚）と翻訳しつつも、甘い食べ物であることを示すために„Schoko-“の語を翻訳語に取り入れるなどの工夫が見られる。また、単独の語による翻訳だけではなく、他の文字テクスト部分を「たい焼き」の内容を説明するような文字テクストに変更するなど、積極的に「たい焼き」というものを説明し、示そうとする翻訳方法になっている。また、「たい焼き」という単語そのもの以外に、その中身や味付けを示す内容を「チョコレート」や「ホイップクリーム」に置き換えることによって、ドイツ語版読者にとってなじみのあるものに置き換える翻訳も行われている。翻訳語を見ても甘いものである、焼き菓子であるなど情報が読み取れる。また、自文化にあるものとの置き換え翻訳も積極的にされていることが分かる。

(2-2d)は日本の「たい焼き」という物品を、まず音訳することでドイツ文化の中にないものであると示し、注では「たい焼き」というものを正確に説明したものであると考えられる。つまり、(2-2d)はドイツ語版読者にとって異文化のものとして受け止められる翻訳がしてあるといえる。

(2-3d)では、ドイツ語の単語で「たい焼き」を逐語訳、あるいは似た形状の食べ物という自文化の要素に置き換えた翻訳をし、その語にさらに説明を加えるために形容詞を付与してはいるが、その語自体から「たい焼き」というモノをイメージし、理解するのは難しい翻訳になっている。つまり、 (2-2d)に比べると異文化の物品をドイツ語で説明しようとするものではなく、ドイツ語・ドイツ文化になじみのある要素でその意味を説明しようとしていると考えることができる。(2-2d)よりも後の時期に翻訳されたという状況から、異文化をそのまま受け入れ説明する翻訳から、ドイツ語やドイツ文化に引き寄せて翻訳しようとする姿勢を読み取ることも可能である。しかし、(2-1b)のような甘い菓子であるといった情報は読み取れない。

(2-1d)の文字テクストでは意味訳した語を使い、さらに „Schoko-“という語を使うことによって甘い菓子であるという要素を翻訳語自体に組み込んである。さらに、ただ異文化として受け入れる、語の構成要素を逐語訳するのではなく、ドイツ文化になじみのある要素を取り入れ、チョコレートに始まり、ホイップクリームやシナモンなどに置き換えて「たい焼き」の味の種類を表現している。また、(2-1d)の文字テクスト付近にはイラストが描かれていること、また翻訳語に„-fisch“の語が含まれることから、魚の形をしている菓子であると理解することができる。

「たい焼き」そのものを知る読者からすれば、「たい焼き」の味をチョコレートで代表してしまうことに違和感を持つ可能性があるが、チョコレート味の「たい焼き」も想像できないものではなく、ドイツ文化になじみにあるもの置き換えられた他の味も無理のあるものではない。

しかし、(2-1d)の文字テクストの後にある„Toiyaki“の語は明らかに誤字であると考えられる。(2-1d)の文字テクストを含む一連の流れの中でこの部分だけ音訳してあるにもかかわらず、その音訳に失敗しているのである。音訳は、先行研究の翻訳方法の分類や、(2-2d)の具体例から考察されたように、異文化をそのまま受け入れる翻訳方法であるが、音訳自体が間違っていては正しく対象物を指し示すことができていないということになる。(2-2d)では正しく音訳されている語にこのような誤字があるのは、翻訳の一貫性を(2-2d)や(2-3d)の意味訳とはまた異なったレベルで欠いていると考えられる。

(2-2d)の文字テクストは、音訳に説明の注が付いている翻訳方法をとっているため、ドイツ語版読者は„Taiyaki“というモノを異文化のものとしてありのまま受け取ることになる。さらに、注の説明の内容も「たい焼き」を知る者にとっても違和感のない正しいものであり、誤解が生じる可能性は低いと考えられる。(2-1d)での音訳上の誤字は改善されている。

(2-3d)の文字テクストは、「たい焼き」という語を逐語訳したある種の意味訳、あるいは自分化になじみのあるものへの置き換えであるが、「たい焼き」という焼き菓子をイメージできる語ではなくなっていることについては前述した。

しかし、4.2.2.2.のイラストとの関連で見たように、(2-3d)の文字テクスト付近には「たい焼き」が書かれていない。〈とーちゃん〉と〈よつば〉の会話のきっかけになったたい焼き屋は、(2-2)の文字テクストが現れる場面で登場するのと同じ店舗である。また、〈とーちゃん〉と〈よつば〉の会話とその後の展開は、〈よつば〉がたい焼きを食べたことがないのを〈とーちゃん〉が揶揄すると、〈よつば〉が道行く人たちにたい焼きを食べたことがあるか聞いて回るというものである[136]。これらの要素から考えると、イラストが描かれていないこと、屋台で売っているもの、食べたことがあるかどうか訊いて回ることのできるもの、という特徴からは、「たい焼き」というものと対応しない„Backfisch“という語であっても、文脈を追って読むことは可能であると思われる。屋台のような店で„Backfisch“を売っているということに違和感を抱くことがなければ、二人の会話の話題が「たい焼き」ではなくあくまで„Backfisch“にあると受け取り、読むことができる。

ただし、(2-2d)の文字テクストが現れる場面を覚えている読者にとっては、同じ店で売っている品物が甘い焼き菓子からメインディッシュの魚料理に変わってしまっている、あるいは焼き菓子と魚料理という不自然な取り合わせの店ということになってしまい、翻訳が一貫していないことによって違和感を抱いてしまう翻訳であると考えられる。

４．２．３．結論

同じ翻訳者による同じ「たい焼き」という単語の翻訳について、翻訳方法・イラストとのかかわり・翻訳の時期の三つの観点から考察し、それぞれの語を含む文字テクストとその前

[136] あずまきよひこ（2006）『よつばと！』5 巻、アスキーメディアワークス、pp.137-138

後の文脈の理解が可能かどうかについて分析を行った。

今回採取した文字テクストでは、三種とも異なった語に翻訳され、またその翻訳の意図、翻訳語の理解もそれぞれ異なるものであった。翻訳の一貫性の観点からすれば、まったく一貫性のない翻訳である。イラストの有無は翻訳例によって異なるが、イラストと食い違いが起こらないような翻訳がなされていると言える。また翻訳された時期はまちまちであり、時系列順に翻訳方法と翻訳語の内容を比べると、(2-1d)ではドイツ文化になじみのある要素による置き換えを採用しながら、(2-2d)では音訳と注による説明によって異文化をありのまま受け取るような翻訳方法をとっている。(2-3d)の場合はやや解釈が複雑になるが、一見一番情報量の少ない逐語訳的意味訳を行っているように見える語による翻訳をしているが、「魚」という要素を共通とした、形状的にもやや似ている自文化においてなじみ深いものに置き換えていると考えられる翻訳であるが、甘い菓子類であるという情報はなくなってしまっている。同じ語に対してとられる翻訳方法、選択された語彙や説明はこのように変化している。

「たい焼き」という語を意味訳し、たい焼きを知る者にとっては正確ではない、あるいは誤解を与えるような翻訳語を採用していたとしても、前後の文脈を妨害することなく読むことができる場合が多数であり、理解を阻害しないのではないかと考えることができた。ただし、同じ翻訳語を使っていないという翻訳の一貫性の欠如が見られるのは確かで、特に(2-2d)と(2-3d)は同一の作品の中で一貫性が欠如しているため、前の場面における翻訳を覚えている場合には違和感を抱くような翻訳であると考えられる。また、音訳という翻訳方法をとりながら誤字があるという例もあり、この場合には文脈理解を妨げるものではないが、「たい焼き」という物品が話題となっているという日本語版オリジナルの文脈について、明らかに読者の理解を阻害するものであると考えられる。

今回の「たい焼き」の翻訳については、ドイツと日本における食文化の違いと、それによる一般的な焼き菓子のイメージの違いが大きく影響するのではないかと考えられる。また、翻訳の時期による翻訳の違いからは、たい焼き以外のなじみのないものの翻訳の推移から、マンガ・アニメ翻訳を通してのドイツにおける日本文化の定着を見ることができると考えられる。また、語の対応を見ると明らかに別のものを指している語に置き換えられており、一見理解を阻害する誤訳と取れる場合にも、翻訳版を一貫して読む、その場面における物品の登場などを考慮して読むと、理解の阻害が起きていないと解釈できる場合もあることを示唆するものである。

４．３．「セミ」に関する語のドイツ語翻訳

ドイツ語版における「セミ」に関する語の翻訳は、ドイツ語版読者の知識、物語上の要請、翻訳時期などの理由によって、翻訳語の選択、表現の選択などに幅がある。基本的に音訳した語に注を付けて説明する方法を取る英語版とは対照的に、特徴的な翻訳が行われている。そこで、ドイツ語版における「セミ」に関する語を含む文字テクストを抽出し、どのような訳語が選択されているのかについて、その背景に存在する文化をふまえ分析を行う。

分析のために、まず作品の中でセミがどのように登場するかを追い、中でも「つくつくぼうし」の特殊性について見る。さらに、セミに関する語の翻訳背景として、ヨーロッパにおけるセミの生息域と『イソップ寓話』に登場するセミの翻訳について考察する。

４．３．１．『よつばと！』の物語におけるセミ

物語の中でセミは、夏の象徴として描かれている。隣家の家族の次女、〈風香〉が「やっぱり夏はセミだよねえー」[137]と〈よつば〉に向かって言う場面があったり、一話丸ごとセミ捕りがテーマになっている 1 巻第 6 話「よつばとせみとり」[138]があったりする。

第 6 話においてセミ捕りに行くきっかけとなったのは、隣家でスイカをふるまわれている〈よつば〉と隣家の姉妹の三女〈恵那〉、隣家の母親、〈かーちゃん〉の会話場面である。〈かーちゃん〉が「窓を開けてるとセミの声も聞こえるし//風鈴も鳴るし……夏らしくていいのよ」と説明するのを〈よつば〉が聞いて、〈よつば〉がセミが好きであることを表明した後、突然立ち上がって「いくぞえな//せみとりだ！」と宣言する[139]。

この物語において、一般的なセミと、その中の一種のつくつくぼうしは明確に区別されている[140]。さらにつくつくぼうしという単語は、〈よつば〉の勘違いによって夏の妖精のようなものとして理解される「つくつくぼうし」と、昆虫との 2 種類が混在している。

このような事情のある『よつばと！』が翻訳される際には、その区別が理解できるように翻訳される必要があると考えられる。しかし、日本においては、セミという昆虫とその主な種類の名前は一般的であるが、ドイツではそうではない。その条件の下で、セミの中の様々な種類の区別を翻訳に反映することが場面の読解上求められる。このような訳し分けの必要性を実際の翻訳ではどう解決しているだろうか。

物語の中でつくつくぼうしが他のセミとは明確に区別される理由、また〈よつば〉の勘違いとは次のようなものである。

物語が進んで夏の終わりが見えてきたころを描く 4 巻 24 話で、買い物に行く途中でつくつくぼうしが鳴いているのを〈よつば〉と〈とーちゃん〉が聞いている場面がある。〈とー

[137] あずまきよひこ（2003）『よつばと！』1 巻、アスキーメディアワークス、p.33
[138] あずまきよひこ（2003）『よつばと！』1 巻、アスキーメディアワークス、pp.173-204
[139] あずまきよひこ（2003）『よつばと！』1 巻、アスキーメディアワークス、pp.175-177
[140] セミの種類に関する語として、他にみんみんゼミやあぶらゼミなどが現れる場面がある。

ちゃん〉が「あいつ（＝つくつくぼうし）が鳴くと夏が終わっちゃうんだよ」[141]（カッコ内注記は大塚による）と説明したのを聞き、〈よつば〉はつくつくぼうしは夏を終わらせることができる妖精のようなものと勘違いしてしまう。

〈よつば〉の勘違いが物語の上で明らかになるのは、24 話と 25 話の間に挟まれている 4 コママンガ形式の「よつばと 4 コマ」の中で「正体」というタイトルの 4 コマ[142]である。絵を描いている〈よつば〉に〈とーちゃん〉が「何描いてんだ？」と問いかけると、〈よつば〉は「つくつくぼーし！」と答える。次のコマには木の幹の上にいる、三角帽子をかぶった小人のようなものが描かれている。

〈よつば〉が一体どのようなものとしてつくつくぼうしを考えているかについては、同じく 4 巻の第 27 話「よつばとつくつくぼうし」[143]で描かれる。またこの話の中で〈よつば〉の誤解が解かれる場面も描かれる。第 27 話は〈よつば〉の見た夢の場面から始まる。〈よつば〉は夢の中で夏の妖精「つくつくぼうし」になっていた。その姿は三角の帽子をかぶり大きな襟のついたワンピースを着て、手にはヒマワリの花が先端についた杖を持っている。

この夢を見た後目覚めた〈よつば〉が「つくつくぼうし」の格好を真似して、ふだん着ないワンピースを着て[144]なりきりごっこをする。もちろんつくつくぼうしがセミであると知っている大人たちは〈よつば〉の普段と違う格好を見ても、〈よつば〉が何の格好を真似ているつもりなのか理解できない。

大人の理解が得られない理由を、〈よつば〉はまだ変装が足りないせいであると考え、隣家の三姉妹の長女〈あさぎ〉に妖精「つくつくぼうし」の三角の帽子として新聞でかぶとを折ってもらう。それをかぶっても理解は得られないままである。変装を完全なものにしようと、妖精「つくつくぼうし」の最後の特徴であるヒマワリを、〈よつば〉は〈あさぎ〉とともに土手まで取りに行く。ヒマワリを構えた〈よつば〉が何の格好をしているのか〈あさぎ〉が戸惑い気味に「な…//夏の妖精？」と答えると、〈よつば〉は「そう！」と肯定して、「つくつくぼうしです！」と種明かしをする[145]。

これを聞いた〈あさぎ〉がつくつくぼうしがセミであることを〈よつば〉にいう。二人で木に止まって鳴いている本物のつくつくぼうしを見ることによって、〈よつば〉は「つくｔくぼうしはセミである」という新しい発見をする。

以降の話でつくつくぼうしについての話題が現れる場面が存在するが、そこでは〈よつば〉はつくつくぼうしがセミであることを了解している。

４．３．２．先行研究

『よつばと！』における「セミ」に関する語の翻訳を分析する背景として、ドイツ、およ

[141] あずまきよひこ（2005）『よつばと！』4 巻、アスキーメディアワークス、p.73
[142] あずまきよひこ（2005）『よつばと！』4 巻、アスキーメディアワークス、pp.95
[143] あずまきよひこ（2005）『よつばと！』4 巻、アスキーメディアワークス、pp.163-190
[144] 〈よつば〉はほぼ毎日 T シャツに半ズボンという格好であり、物語の中でスカートをはいていることはほとんどない。
[145] あずまきよひこ（2005）『よつばと！』4 巻、アスキーメディアワークス、pp.184-185

びヨーロッパでのセミの認知度を先行研究から見る。ヨーロッパにおけるセミの分布と、文学文字テクスト『イソップ寓話』に登場するセミとその翻訳の二つの観点から見てゆく。

４．３．２．１．ヨーロッパにおけるセミの分布

『ブリタニカ国際大百科事典』[146]によれば、セミはヨーロッパに約 10 種類、イギリスに 1 種類が生息している。

また、『世界大博物図鑑』[147]の記述によると、セミが鳴く時期と農作業期との重なりによるセミの象徴性や、セミを含めた鳴く昆虫をかごに入れて飼う習慣があるのは、地中海地方や南欧に限られている。イギリスでは、イングランド南部にごく少数生息しているだけで、一般にはセミの存在はあまり知られていない。

また、プロヴァンス地方において昆虫の研究を行っていたファーブルの『昆虫記』の中にはセミの章がある。その中でラ・フォンテーヌによる『寓話』の中の「蝉と蟻」におけるセミの描写はでたらめであり、それは北の地方の人間が南国に住むセミを見たことも聞いたこともなかったからであると述べている[148]。

ここから、ヨーロッパにおけるセミの分布は、イギリスの 1 種を除くと、ほとんどが南欧に集中しており、フランス南部に生息するものが北限であると考えられる。つまり、ヨーロッパ中部のドイツにおいては、セミはまったくなじみのない虫であると言える。

ドイツよりおおむね南方に位置するフランスであっても、野村（1999）によると、「まさにここでは蟬は実際の蟬でなく、せいぜいが「鳴く昆虫」という意味しかないであろう。パリの人間にとって蟬はその程度のイメージしか喚起しなかった。」[149]とされている。さらに、パリに住む人々が実際のセミを見たことがなく、セミがどのような昆虫であるか語のレベルでもセミを認識できていなかったことが指摘されている。

とにかく南欧を除くヨーロッパの人々にとってセミは、あまりなじみがない虫であるというのは確かなようである。

このようなドイツにおけるセミに関するなじみのなさが、翻訳とどのようにかかわっているかについて、次の項で文学作品の翻訳から考察する。

４．３．２．２．文学作品におけるセミ

ヨーロッパにおけるセミの認識を反映する文学作品として、今回は『イソップ寓話』より「セミとアリ」を用いる。これは日本では「アリとキリギリス」として知られている話であるが、もともとはアリと対比される虫はキリギリスではなくセミであった。

---

146 ブリタニカ・ジャパン、『ブリタニカ国際大百科事典』、ブリタニカ・オンライン・ジャパン、http://japan.eb.com/.（参照 2015/11/09）

147 荒俣宏編（1991）『世界大博物図鑑　第１巻　[蟲類]』平凡社

148 野村正人（1999）「蝉はどこへ行った：ラ・フォンテーヌ,イソップ寓話の形象化」、『東京農工大学人間と社会』10、pp.125、東京農工大学

149 野村、前掲書、p.124

元は古代ギリシャの奴隷であったイソップが語ったと言われる寓話を、後年様々な人がそれぞれの言語で編纂し、またそれが翻訳されて現代にまで残っている。この受容と変遷については小堀桂一郎による『イソップ寓話―その伝承と変容』に詳しいが、本論では特に「セミとアリ」に登場する昆虫がセミからキリギリスへ変更された経緯について見てゆく。

『イソップ寓話』の「セミとアリ」において、セミがキリギリスに置き換えられた最初の出版物として、小堀（1978）は、1480 年ごろに出版されたと推定されるシュタインヘーヴェル編『イソップ』を挙げている。編者のシュタインヘーヴェルは、ドイツの文芸復興を推進した人文主義者の一人である。このシュタインヘーヴェル版『イソップ』は 15 世紀までに流布していたイソップ寓話を集大成したものである。この本の出版より少し早く、プラヌーデス編纂ラヌツィオ羅訳、俗称レミキウス本が出版されている。これはグーテンベルクによる活字印刷技術の発明と普及に刺激を受けたものと考えられ、出版は成功した上に翌々年には再版されている。この編纂版より大規模でかつ優れた編纂版として、シュタインヘーヴェル版『イソップ』が流通することになった。

この『イソップ』の構成の最大の特徴は、中世に広く行われていたようにラテン語テクストを主体とし、それにシュタインヘーヴェル自身による忠実なドイツ語訳を添えてあることである。この構成は、もともと民衆的なものであるイソップ寓話を再び民衆の手に取り戻そうという提案にも似た試みであった。さらにこの『イソップ』がヨーロッパ各国語に翻訳刊行されたことは、この提案に対して期待通りの反応であったと小堀は考察している。そして、「セミとアリ」におけるセミの消失は、このシュタインヘーヴェル版のドイツ語翻訳に関係していると小堀は指摘している。

セミからキリギリスへの変更は、シュタインヘーヴェル版で生じたという。ラテン語原文ではセミを表す„Cicada“となっているのを、併載したドイツ語翻訳ではコオロギやキリギリスを表す„Grille“（コオロギ）としてある。小堀は、この変更は誤訳ではなく意図的な置き換えであり、セミの実物を知らないドイツ語圏の読者のために、夏に鳴く虫としてなじみのあるキリギリスに変更したのであろうと推測している。さらに、初版本の挿絵にも明らかにキリギリスに見える昆虫が描かれているという。

野村（1999）はシュタインヘーヴェル版より後に様々な言語に翻訳されたバージョンについて、挿絵から見た分析を行っている。

シュタインヘーヴェル版を底本とした、1480 年代のジュリアン・マショーによるフランス語訳でも挿絵はキリギリスが描かれている。しかし、訳語はセミを指す„sigale“になっている。

このマショー版を底本にして英訳され 15 世紀に広く流通したキャクストン版があり、ここでも挿絵にセミではなくキリギリスが描かれている。翻訳語自体はセミを表す„sygalle“が当てられている。この二つの翻訳版の翻訳語選択は、ラテン語版を参照している

ためではないかとしている。

キャクストン版を参考にしていると考えられる、チャールズ・スティックニーとトマス・ジェイムズによる英語訳版では、„grasshopper“、つまりキリギリスとなっている[150]。これは、それまでの版の語ではなく挿絵の影響を強く受けたためではないかと推測している。

さらに、日本においてもこの話は「セミとアリ」ではなく「アリとキリギリス」として定着している。その理由として、野村は明治期に入ってきたトマス版を参考にしたせいではないかとしている[151]。

このような混乱は、セミへのなじみのなさが、キリギリスとの姿の混同から単語自体の混同まで引き起こしていることの証左ではないだろうか。

『イソップ寓話』のヨーロッパ各国語版のセミの翻訳語の変容、また挿絵に描かれるセミの姿は以上のようなものである。セミとキリギリスは「鳴く昆虫」という同じ特徴でくくられ、その区別に注意を払われることもなく、さらには混同されてしまう場合があるということが分かった。これは、セミになじみのない文化に属する翻訳者や挿絵画家、読者の持っているセミ、あるいはキリギリスへのイメージから翻訳語選択の問題が生じていると考えてよいだろう。また、ドイツ語においてセミと置き換えられる、あるいは混同される可能性のある語・昆虫は、シュタインヘーヴェルがドイツ語訳した際に用いた„Grille“（コオロギ、キリギリス）であることが分かった。

さらに次項では、セミと他の鳴く昆虫を表す語の混乱について、辞書の記述から見る。

４．３．２．３．辞書の記述におけるセミに関する語

ドイツ語において、「セミ」に対応する語は„Zikade “という語であるが、他にも「セミ」を表す語が存在する。それは„Zirpe“という語である。

この„Zirpe“という語を『大独和辞典』(第二版) で引いてみると、「１．(Zikade) セミ (蝉)．２．(Grille) コオロギ (蟋蟀)．」となっており、一つの語の意味としてセミとコオロギが混在しているのが分かる。*Duden* では、„landsch.“（方言的使用）と表記があるが、やはり„Grille, Zikade“[152]と二つの昆虫名が並べて記述されている。

さらに、„zirpen“という動詞もあり、これは鳴き声のオノマトペを表す動詞だが、『大独和辞典』（第二版）では、「(コオロギ・セミ・小鳥などが) リンリン〈ピーピー〉鳴く．」と記載されている。同じく *Duden* では、„a) eine Folge von kurzen, feinen, hellen, leicht

[150] イソップ寓話が初めて日本語に翻訳された『伊曽保物語』では原典に忠実にセミとアリになっているが、このトマス版の英訳を元にした「アリとキリギリス」が小学校の国語や修身教科書に掲載されたことによって、日本ではセミからキリギリスに置き換わったまま定着したものと小堀、野村による指摘がある。

[151] 野村、前掲書、p.129

[152] Duden: Das große Wörterbuch der deutschen Sprache in zehn Bänden, Bd. 10. hg. vom Wissenschftlichen Rat der Dudenredaktion. 3., völlig neu bearbeitete und erweiterte Auflage. Mannheim 1999, S. 4641

vibrierenden Tönen von sich geben“[153]（短く、細く、明るく、軽い振動する音を出す）と音の種類について具体的に記述してあり、例文として記載されている鳴く主体は„Grillen“（コオロギ)、„Heimchen“（イエコオロギ)、„Meise“（シジュウカラ）があげられている[154]。

“zirpen”という語について、この語が指し示す音を介して„Grille“と„Zikade“が結び付けられていることが分かる。前の項で見た通り、二つの昆虫の生息域と文化の上でのなじみの有無が、鳴く虫という特徴を元に混同、あるいは同一視されている様子が語の意味の記載からも見て取れる。しかも、虫の鳴き声だけではなく小鳥の鳴き声という離れたジャンルに属すると考えられるオノマトペが表現上一語で兼ねられているという状況から、ドイツ語語彙におけるオノマトペ語のバリエーションのなさ、あるいは日本語とは異なった音の感覚が見て取れる。あるいは、ドイツ文化が最も接するイタリアやギリシャの南欧セミ文化における、実際のセミの鳴き声、あるいはそのオノマトペ表現が、日本言語文化圏とは異なる可能性も高い。

“zirpen”という語を介した昆虫のイメージの混同は、Grimm の辞書の記載からすでに起こっている。Grimm において“zirpen”の語は、以下のような記述がされている（例文省略)。

schallnachahmendes wort; vor allem zur bezeichnung der ähnlich klingenden geräuschlaute der grillen und verwandter insekten
1) von grillen (bes. Heimchen), zikaden, heuschrecken:
2) von verschiedenen kleineren vögeln, besonders singvoegeln: (der sperling zu seinem sohn:)
3) von mäusen:
4) in gelegentlicher anwendung auf ungewöhnliche menschliche laute (meist hohen, sonst aber verschiedenartigen tönen):[155]

（音を真似た語； 特に鳴く、音を立てる「コオロギ」のような昆とその類の昆虫の意味
1)「コオロギ」(特にイエコオロギ)、「セミ」、「バッタ」
2)様々な小鳥、特に鳴禽類（スズメが子供に向かって）
3)ネズミ
4)時々の使用においては、異常な人の声 (たいていは高く、あるいは異なった大きな音))

日本語のオノマトペの感覚からすると、同じようには聞こえない音を一緒くたにしてい

153 前掲書、S. 4641
154 オンラインで公開されている Duden では、 “zirpen”の例文から “Meise”が主語になった例文が削除されている。
155 Grimm, Jacob and Wilhelm Grimm, eds. 1854-1971. Deutsches Wörterbuch. Bds. 33. (Bd. 31: 1956). Leipzig: S. Hirzel. Nachdruck; München: Deutschen Taschenbuch Verlages, Sp. 1625-1626

るような記載だが、一様に高い音であまり大きくなく細い音を指すという特徴でまとめれば、*Duden* の記述にあるような音を表す語であると理解が可能である。

„Zirpe“という名詞の記述においてもやはり„Grille“と„Zikade“が併記されており、「鳴く」という特徴によってこの二種の昆虫が並べて説明されることは、これまで見た辞書の記述からも明らかである。さらに、Grimm による„Zikade“の項は、

> singzirpe, saugt an bäumen; das männlichen bringt mit zwei trommelhäutchen am hinterleibe sehr helle, schrillende oder pfeifende töne hervor; wegen dieses geräusches vielfach der Grille oder dem heimchen, das sich am erdboden von pflanzenresten nährt und durch reiben der flügel am köper musiziert, gleichgesetzt;[156]

> （鳴く„Zirpe“[157]で、木の上で鳴く。オスは下肢に 2 枚の膜を持ち、明るく、甲高い、あるいはピーピーという音で鳴く。この鳴くということによって、しばしば地面で植物の間に生息し、身体の翅を震わせて音を出す「コオロギ」や「イエコオロギ」と同一視される。）

この記述から、ドイツ語文化の中では「鳴く昆虫」をなじみのある„Grille“や„Heimchen“を基準に捉え、そこになじみはないが「鳴く」という同じ特徴を持つ„Zikade“を組み入れていると考えることができる。その証拠に、„Grille“の記載を見た場合には、„Zikade“から„Grille“を説明することはない。記述の内容は、前項で見たようにシュタインヘーヴェルによる『イソップ寓話』のドイツ語訳に登場すること、他の様々な詩に詠み込まれていることになっており、そこからも„Grille“という生き物とそのイメージへのなじみの深さが読み取れる。

以上から、辞書における„Zikade“の記述からは、「鳴く昆虫」という特徴を介してドイツ語文化の中でなじみにある„Grille“と同列化、同一視している様子が明らかとなった。その原因はもちろん、ドイツにセミが生息しておらず、なじみがないことにある。

ヒトやモノの行き来が活発になり、情報化の時代になっても、辞書の記載のみを追っている限りでは、ドイツ語圏文化にとってセミは相変わらずなじみのないものであり、場合によってはセミの姿も識別できず、その鳴き声も想像できず、かろうじて身近な„Grille“というモノから連想するしかないものであるような状態である。

このような文化の違いが、季節の風物詩になるほどセミが身近なものである日本文化を訳す際に、どのように影響するかを実際の例文から分析するのが本項の目的である。

ヨーロッパにおけるセミの分布と、「セミとアリ」の翻訳からヨーロッパ中部におけるセ

---

156 前掲書、sp. 1272

157 “Zipre”を Grimm で引いても、 “Grille, Zikade”と記載されている。この場合には、広く「鳴く昆虫」の意味であろうか。

ミへの「なじみのなさ」、**そこから発生する語彙の使用**の状態は以上のようなものであった。これをふまえ、『よつばと！』における翻訳語の選択について考える。

４．３．３.「セミ」に関する語の翻訳例

『よつばと！』における「セミ」に関する単語の出現は、大きく 3 つの場面に分かれている。①1 巻第 6 話「よつばとせみとり」におけるセミ捕りの場面、②4 巻第 27 話「よつばとつくつくぼうし」における、〈よつば〉のつくつくぼうしに対する誤解とその解消が描かれる場面、③5 巻第 32 話「よつばとあめ」における、〈よつば〉の勘違いが正されたことを前提とした〈とーちゃん〉との会話の場面である。それぞれの場面において、セミに関する単語がどのようなドイツ語に置き換えられているか、また単語の削除や代名詞による置き換えなどの操作について実際の例から分析する。

４．３．３．１．第 6 話における訳語の選択

セミが出現する場面の、第 6 話におけるセミは、„Grille“（コオロギ、キリギリス）という単語で翻訳されている[158]。タイトルの「よつばとせみとり」が、ドイツ語版では„MIT YOTSUBA! GRILLEN FANGEN“（よつばと！セミ捕り）と翻訳されている。文字テクストの中でも一貫して„Grille“がセミの翻訳語として使われている。

	(3-1j)1 巻、p.176	(3-1d)Bd.1, S.176
よつば	セミすきか!?	Magst du Grillen? (セミはすき？)

例 3-1

	(3-2j)1 巻、p.189	(3-2d)Bd.1, S.189
恵那	セミってはじめてとりましたー	Ich hab vorher noch nie eine Grille gefangen. (私、今までセミって捕ったことなかったです)

例 3-2

ドイツ語にはセミを指す„Zikade“という単語があるが、ここではキリギリスを表す„Grille“が選択されている。これは、ドイツ語版読者にとってよりなじみのある単語が選択されたためと考えられる。また、その際に„Grille“が翻訳語として選択されたのは、先行研究で見たようにセミを指す際に„Grille“を使って翻訳するというシュタインヘーヴェル以来の翻訳が慣習化されているという可能性も考えられる。

日本語版にはセミという単語があるのに、ドイツ語版では文脈上指示語で置き換えられている例がある。逆に、日本語版ではセミという単語がない文字テクストにおいて、ドイツ

[158] „Grille“は「コオロギ、キリギリス」を指すのだが、本稿で扱う例文では一貫して「セミ」の訳語として扱われている為、対訳では「セミ」と訳出する。コオロギを指す場合の翻訳例については、注 151 も参照のこと。

語版で„Grille“が補われて翻訳されている例もある。

	(3-3j)1 巻、p.194	(3-3d)Bd.1, S.194
よつば	よつばがとったセミだ	Ich hab eine gefangen! (私は一匹捕まえたよ！)

例 3-3

	(3-4j)1 巻、p.189	(3-4d)Bd.1, S.189
よつば	よつばもとるー！！	Ich will auch eine Grille fangen! (私もセミ捕りたい！)

例 3-4

さらに、この第 6 話では、捕ったセミの具体的な種類名を文字テクストに含んでいる箇所がある。ドイツ語版では、„groß“（大きい）という形容詞を使って差別化したり、または „Exemplar“（例、個体）という単語を使ってセミ捕りの獲得物として扱ったり、セミの中の種類の違いではなく文脈中で特定化するための表現に変更している。

	(3-5j)1 巻、p.189	(3-5d)Bd.1, S.189
ジャンボ	おー おめでとう あぶらぜみだ	Sehr gut, Glückwunsch. Schönes Exemplar. (よくやった、おめでとう。いい個体だ)

例 3-5

	(3-6j)1 巻、p.195	(3-6d)Bd.1, S.195
ジャンボ	クマゼミだ！ クマは今日それ一匹だけだ！ 一番大きいぞ	Geradezu gigantisch. Das ist die Größte heute! Freu dich! (まさに巨大だ。これは今日で一番大きい奴だ！喜べ！)

例 3-6

	(3-7j)1 巻、p.203	(3-7d)Bd.1, S.203
よつば	くまぜみとったんだー すっげーでけー	... hab ich eine riesige Grille gefangen. So groß wie Jumbo! (でっかいセミ捕ったんだ。ジャンボみたいに大きかった！)

例 3-7

また、セミが„Grille“と翻訳されているのを反映して、文字テクスト中に出てくることば遊びにも変更がみられる。

セミ捕りに行くことを突然決めた〈よつば〉が自宅に戻り、〈とーちゃん〉とちょうど遊びに来ていた〈とーちゃん〉の友達、〈ジャンボ〉に「せみとりだ！」と宣言する。宣言する割にはセミ捕りについて何もわからない〈よつば〉を見かねた〈ジャンボ〉が「セミ捕り名人」を自称し、セミ捕りにつれていってくれることになる。この場面におけるジャンボの文字テクストは以下のようになっている。

	(3-8j)1 巻、p.180	(3-8d)Bd.1, S.180
ジャンボ	いいかよつば　俺はセミを捕らせたらプロ級だぜ//略してセミプロだ	Aber nehmt Euch in Acht, Majestät! Erblasst nicht vor meiner göttlichen Grillfang-Technik! // Nannte man mich doch seinerzeit den Grill-Meister! (しかし、ご注意くださいませ、陛下！　私の神がかったセミ捕りテクニックの前に真っ青になるでしょう！かつての私は人呼んで「グリルマスター」！)

例 3-8

この言葉遊びは、日本語版では昆虫の「セミ」と「半分」などの意味を表す接頭語の「セミ-」を掛けたものである。ドイツ語版では、セミの訳語として使っている„Grille“と肉焼き器、ひいてはドイツの夏の風物詩である野外でのバーベキューを指す„Grill“を掛け、„Grill-Meister“、つまり日本風に言えば「焼肉奉行」とでも訳せそうな単語に変更してことば遊びを表現している。

イディオム的な表現として„Grillen fangen“自体も、„Grille“「気まぐれな考え」と取り、「ふさぎの虫に取りつかれる」という意味があるのだが、この「よつばとせみとり」を通して、昆虫としての„Grille“を„fangen“（捕る）という言葉通りの意味として使っているので、混同しないためにこの部分のことば遊びで使わなかったとも考えられる。

„Grille“という単語が翻訳の文字テクストから削除されたことによって、文脈が分かりづらくなっていると考えられる場面があるので触れておく。

〈よつば〉がセミ捕りに行くことを思い付いたきっかけとなる、隣家の綾瀬家における綾瀬家の〈かーちゃん〉との会話の場面である。みんなでスイカを食べながら暑い暑いという〈かーちゃん〉に対して、〈よつば〉がクーラーをつけないのかと尋ねる。〈かーちゃん〉は「必要ありません」とぴしゃりといった後、「窓開けてるとセミの声も聞こえるし//風鈴も鳴るし……夏らしくていいのよ」と弁解する。その後、〈よつば〉と〈かーちゃん〉でセミが好きがどうかという会話をし、突然セミ捕りをすることを宣言する[159]。この場面の〈かーちゃん〉の文字テクストから、セミに関する内容が丸ごと削除されてしまっている。

	(3-9j)1 巻、p.175	(3-9d)Bd.1, S.175
かーちゃん	窓開けてるとセミの声も聞こえるし//風鈴も鳴るし……夏らしくていいのよ	Ja, der kühle Wind ist angenehmen. Und Windspiel passt so schön zur Jahreszeit. (そう、涼しい風を入れてるの。それから風鈴が季節によく似合うのよ)

例 3-9

この(3-9)の後に(3-1)の文字テクストが続く。(3-1d)では全くセミについて言及していないので、直後に来る(3-1d)の文字テクストで突然セミの話題が出てくることになる。ただし、

[159] あずまきよひこ（2003）『よつばと！』1 巻、アスキーメディアワークス、pp.175-177

これは文字テクストのみを追った場合の話で、一応(3-9)と(3-1)の文字テクストの間には、〈よつば〉が窓にかかった風鈴と、窓の景色を眺めるイラストに、セミの鳴き声のオノマトペをかぶせたコマが差し挟まれている。セミの鳴き声が描き込まれたこのコマを見て、ドイツ語版読者も〈よつば〉がセミの話題を連想したものと考察することも可能かもしれない。

しかし実際は、セミの鳴き声は翻訳されていない。『よつばと！』においては、一部の例外を除いて、コマの中に描き込まれたオノマトペは、日本語の表記をそのまま採用している。音写との併記やドイツ語に置き換える翻訳などが行われていない[160]。そのため、ひらがなやカタカナが読めないドイツ語版読者にとっては、描き込まれたオノマトペは解読不能の記号でしかない可能性が高い。また読むことができたとしても、セミの鳴き声になじみのないドイツ語版読者にとっては、そのオノマトペが何を表すのか理解できない可能性もある。したがって、やはり(3-1d)でセミの話題が唐突に現れることなる。この部分の文字テクストにおいてセミに当たる„Grille“を削除してしまったのは、文脈をとらえるうえで障害となりえる変更になってしまったと考えられる。

このような、単語の削除による翻訳の変更については、後の項で他の例からも考察する。

また、オノマトペの理解と、「セミ」というモノに関する理解については、次項でも取り上げる。

第 6 話においては、„Grille“と言う単語をセミの翻訳語として使っていることが分かった。文の構造などの都合上、日本語版にはセミという単語があったにもかかわらず„Grille“で翻訳されていない場合や、逆にドイツ語版では„Grille“が補われて翻訳されている場合もあるが、本来セミを表す„Zikade“が出現することはなかった。また、セミの種類名が出てくる文字テクストにおいては、形容詞を付けて差別化したり、セミ捕りの成果物として抽象化された名詞を使ったりすることで表現していた。

単に„Grille“という語を使わないだけではなく、話題ごと削除してしまったせいで、ドイツ語版読者が物語の流れを理解しづらくなるのではないかと推測される翻訳例も観察された。これは、„Grille“という名詞自体を代名詞に置き換えたり、他の表現に置き換えたりすることで、文字テクストからは„Grille“という表現が消えたように見えても、セミを指す語自体は残っている他の例と比べ、文字テクストの中から語だけではなく内容自体が削除されてしまったために起こった齟齬であると考えられる。また、この例で問題となったオノマトペ翻訳と絡んだセミに関する単語の翻訳については、次項で扱う翻訳例で詳しく取り上げる。

４．３．３．２．第 24 話から第 27 話における訳語の選択

次にセミに関する話題が出てくるのは、24 話である。ここでは、買い物に行く途中の〈よつば〉と〈とーちゃん〉の会話の中で、特につくつくぼうしが話題に上がる。この場面で初

[160] このオノマトペに関する翻訳方針が変更されるのは、2011 年に刊行された 10 巻からである。

めてつくつくぼうしが登場し、文字テクストの翻訳は以下のようになっている。

	(3-10j)4 巻、p.73	(3-10d)Bd.4, S.73
よつば	つくつくぼーしがつくつくぼーしいってる	Die Zikaden singen. 「セミ」が歌ってる

例 3-10

つくつくぼうしは„Zikade“（セミ）と翻訳され、セミを指す„Grille“とは差別化してあることが分かる。

(3-10)に続く会話の中で、つくつくぼうしが鳴くと夏も終わる、と〈とーちゃん〉が言ったのを、〈よつば〉がつくつくぼうしは夏を終わらせるもので、昆虫ではなく夏の妖精のようなものであると勘違いしてしまう[161]。この勘違いから、つくつくぼうしには昆虫と妖精の二つの意味が生まれる。そのために他のセミを表す„Grille“と差別化し、„Zikade“という語で翻訳したものと考えられる。

つくつくぼうしが二つの意味を持った状態の第 27 話でも、つくつくぼうしの訳語は„Zikade“が使われている。

	(3-11j)4 巻、p.186	(3-11d)Bd.4, S.186
あさぎ	それは私の思ってたつくつくぼうしとちょっと違う	Zikaden habe ich mir immer anders vorgestellt. （つくつくぼうしってもっと違うものだと考えてた）

例 3-11

	(3-12j)4 巻、p.186	(3-12d)Bd.4, S.186
あさぎ	セミだよセミ つくつくぼうしはセミ	So ähnlich wie Grillen. Zikaden sind ja auch Insekten. （セミに似てるもの。つくつくぼうしも昆虫だよ。）

例 3-12

(3-11)、(3-12)で出てくるつくつくぼうしは、どちらも昆虫を指す。

日本語版の「つくつくぼうしはセミ」という文は、つくつくぼうしはセミの一種であるので、論理的に正しい。しかしドイツ語版においては、„Zikade“は、„Insekten“（昆虫）に属すものであり、„Grille“も同じく „Insekten“に属するという内容に変更されている。これは、日本語ではセミとツクツクボウシの関係は、セミの一種につくつくぼうしがいるというものであるが、ドイツ語では昆虫の種類に„Zikade“と„Grille“がいるという単語の対応関係の組み換えが起こっているためである。この組み替えから、この文字テクストの中のセミを„Grille“と翻訳すると、矛盾が生じることになる。代わりに、„Insekt“という種類を説明する部分が付与されている。

[161] あずまきよひこ（2005）『よつばと！』4 巻、アスキーメディアワークス、p.73-74

語の実際の意味からいうと、„Zikade“（セミ）と„Grille“（コオロギ、キリギリス）は明らかに別の昆虫である。しかし、ここまでの『よつばと！』の文字テクストの中では一貫してセミの翻訳語として„Grille“が使われてきており、「よつばとせみとり」の中でセミのイラストと„Grille“の語が結び付けられていること、そしてドイツ語版読者が文化的に„Zikade“と„Grille“の博物学的区別を重要視していないであろうから、この使い分けは妥当であると考えられる。

一方〈よつば〉の想像する妖精の「つくつくぼうし」も„Zikade“と翻訳されている。〈よつば〉の誤解が初めて描かれる場面、4 巻の 4 コママンガ連作章、「よつばと 4 コマ」の翻訳は以下のようになっている。

	(3-13j)4 巻、p.96	(3-13d)Bd.4, S.96
よつば	つくつくぼーし！	Die Zikaden am Baum. （木に止まってる「つくつくぼうし」）

例文 3-13

特に昆虫の„Zikade“と区別する文脈では、説明を付与されている。

	(3-14j)4 巻、p.185	(3-14d)Bd.4, S.185
よつば	つくつくぼうしです！	Zikade, die Waldfee! （森の妖精の「つくつくぼうし」だよ！）

例 3-14

妖精の「つくつくぼうし」は„Waldfee“（森の妖精）という単語で説明されており、この„Waldfee“という語で妖精「つくつくぼうし」を翻訳している場合もある。この第 27 話のタイトル「よつばとつくつくぼうし」も、ドイツ語版では„MIT YOTSUBA ! WALDFEE“[162]（よつばと森の妖精）と翻訳されている。これは、夏、あるいは森の妖精のとしての「つくつくぼうし」という〈よつば〉の勘違い及び解釈が物語で大きいテーマとして現れているためだと考えられる。

この„Fee“（妖精）という単語の根拠は、日本語版において〈よつば〉がなりきっている妖精の「つくつくぼうし」の格好を見て、何の真似か当ててみるよう言われた〈あさぎ〉が戸惑いながら答える「な…//夏の妖精？」[163]であると考えられる。ドイツ語版でも„In dem Kleid siehst du tatsächlich aus wie eine Fee.“[164] [165]（着ると本当に妖精みたいに見えるや

[162] Azuma, Kiyohiko (2007). *YOTSUBA&!*, Übersetzer:Wehner, Marcus, Bd.4, TOKYOPOP, S.163
[163] あずまきよひこ（2005）『よつばと！』4 巻、アスキーメディアワークス、p.184
[164] Azuma, Kiyohiko (2007). *YOTSUBA&!*, Übersetzer:Wehner, Marcus, Bd.4, TOKYOPOP, S.170
[165] この文字テクストの元の日本語版は「前　花キューピットになったのとかか？」であり、微妙にニュアンスが変わっている。「花キューピット」とは、以前家に余った花を片付けるために、町の人に花を配って回ったときに〈よつば〉が〈とーちゃん〉から任命された架空の職業。ワンピースの上にベストとエプロンをつけ、頭に頭巾をかぶり、背中に作り物の羽を背負っている。この格好をドイツ語翻訳版では抽象化して、„Fee“としたのであろう。

つ）という文字テクストがある。

一般的なセミは第 27 話においても„Grille“で翻訳されている。〈よつば〉がつくつくぼうしはセミだったという新しい発見を披露する場面で、〈よつば〉がセミの具体例として挙げているみんみんゼミは„Grille“になっている。

	(3-15j)4 巻、p.190	(3-15d)Bd.4, S.190
よつば	セミ！ みんみんゼミみたいな！	So wie Grillen an den Bäumen. Ich hab's gesehen! （木に止まってる、セミみたいなやつ。私見たんだ！）

例 3-15

ここからセミがすべて„Zikade“という単語で翻訳されるのではなく、つくつくぼうしだけが„Zikade“で翻訳されているのが分かる。

さらに、„Zikade“と„Grille“の差別化を行うのに、オノマトペ表現も使われている。『よつばと！』の中では珍しく、この両者の鳴き声のオノマトペの翻訳がされている部分がある。それを比較すると、別の鳴き声に翻訳されていることが分かり、鳴き方の違う別種の生き物であることが、物語の中で理解できるようになっている。

	(4-16j)1 巻、p.32	(4-16d)Bd.1, S.32
よつば	じー じー	Zirp! Zirp![166]

例 3-16

	(3-17j)4 巻、p.96	(3-17d)Bd.4, S.96
オノマトペ	つくつくぼーし つくつくぼーし	Zzziiih! Zzziiih!

例 3-17

(3-16)の翻訳に関しては、実際のセミの鳴き声の部分ではなく、電柱に登ってセミの物真似をしている〈よつば〉の鳴き真似であるという点がやや一般性を欠くが、このオノマトペと結びつけられているのは„Grille“である。(3-17)は„Zikade“と結びつけられている。つまり、両者の鳴き声は別のオノマトペで翻訳されていることにより、„Zikade“と„Grille“の差別化のための理解補助として読むことができるようになっている。

以上の翻訳例から、②4 巻第 27 話「よつばとつくつくぼうし」における、〈よつば〉のつくつくぼうしに対する誤解とその解消が描かれる場面においては、一般的なセミを表す„Grille“と区別するために、つくつくぼうしには„Zikade“を翻訳語として選択していること

[166] ここで使用されているオノマトペ動詞は、先行研究で見た“zirpen”という語である。「虫が鳴く」というオノマトペ表現として使用されている様子が分かる。

が分かった。オノマトペの翻訳を見ても、„Grille“と„Zikade“にはそれぞれ異なる翻訳がされたオノマトペが関連付けられている。『よつばと！』の特に初期の巻においてはオノマトペがほぼ翻訳されていない関係上、この表現の区別は特徴的なものであると考えられる。

また、„Zikade“と言う単語は、元の日本語版のつくつくぼうしと同じく、昆虫としてのつくつくぼうしと、妖精としての「つくつくぼうし」に共通して使われている。特に区別したい場合は、„Insekt“、あるいは„Fee“と言う単語を用い、説明を付け加えていた。

(3-12)や(3-15)を見ると、単にセミを„Grille“、つくつくぼうしを„Zikade“と対応させたというよりは、それぞれを別種の昆虫として扱っている。これは、もともとはつくつくぼうしはセミの一種なのだが、セミになじみのない文化を持つドイツ語では、訳語でそれを表すことができなかった。そのために、„Grille“の中に„Zikade“が含まれるのではなく、同じ昆虫として„Grille“と„Zikade“を並列させるような表現を用いることによって、区別している。

４．３．３．３．第 30 話から第 32 話における訳語の選択

最後に、③5 巻第 32 話「よつばとあめ」における、〈よつば〉の勘違いが正されたことを前提とした〈とーちゃん〉との会話の場面におけるセミ、及びつくつくぼうしの翻訳を見る。第 30、32 話では、前の項で取り上げた二つの場面よりセミの話題の比重は軽く、セミを含む文字テクストも限られている。

第 30 話「よつばとやんだ」で、折り紙で遊んでいる〈よつば〉が〈とーちゃん〉にセミを折ってもらう場面があり、文字テクストの中にセミが出てくる。

	(3-18j)5 巻、p.64	(3-18d)Bd.5, S.64
よつば	おー！ セミだ！ セミにしかみえない！	Oooh! Eine Zikade! Eine richtige Zikade! （おお！セミだ！本物のセミだ！）

例 3-18

	(3-19j)5 巻、p.65	(3-19d)Bd.5, S.65
よつば	セミちがう！！	Das ist keine Zikade! （セミじゃない！）

例 3-19

この場面ですでにセミは„Zikade“と訳出されていて、セミが„Grille“と翻訳されることは以降一切ない[167]。

第 32 話では、雨の降っている日に、買い物に行くことになった〈よつば〉と〈とーちゃん〉が、だんだん涼しくなった来た天気について話している場面にセミが出てくる。

[167] 『よつばと！』9 巻 p.109 及び YOTSUBA&! Bd.9,S.109 において、こおろぎに対する訳語として„Grille“が出現する箇所がある。

	(3-20j)5 巻、p.125	(3-20d)Bd.5, S.125
とーちゃん	もう夏も終わってきたかもな	Tja, der Sommer neigt sich dem Ende entgegen. (そうだな、夏は終わりに向かってるな)
よつば	つくつくぼうしがんばったなー	Die Zikaden singen auch nicht mehr. (つくつくぼうしももうほとんど歌ってないな。)

例 3-20

ここではつくつくぼうしが„Zikade“と翻訳されている。

日本語版の〈よつば〉の文字テクストからは、つくつくぼうしがセミであることは理解しているが、依然つくつくぼうしは夏を終わらせるものであると勘違いしているように見える。それに対するドイツ語訳は、「つくつくぼうしがあまり鳴かなくなった」という内容にすることによって、日本語版より中立的な読みができる文字テクストになっていると考えられる。

ここまで見てきた„Grille“と„Zikade“の訳し分けから考えると、本来セミではない昆虫を指す„Grille“を使ってセミを翻訳していたのを誤訳であったとし、セミを指す本来の語である„Zikade“で統一するように変更したとはやや考えづらい。ただし、ドイツ語版『よつばと！』の 4 巻と 5 巻の刊行時期は約一年開いており、この間に翻訳方針の変更があった可能性もある[168]。つまり、これまでは読者のセミに対する認知度を低く見積もり、よりなじみ深い„Grille“の語に置き換えて翻訳していた、あるいはセミを„Grille“と置き換えるシュタインヘーヴェル以降の翻訳語選択慣習に従っていたが、語とそれが指す実物との整合性を優先し、セミを„Zikade“という語に翻訳するよう統一したと考える場合である。その際、なぜ翻訳方針を変更したのかは明らかではないが、想定した読者のセミの認知度より実際の読者の認知度が高かった、語とそれが指す実物との整合性を優先した方が理解を阻害しないという結論に至った、などの理由が考えられる。

„Zikade“には昆虫と妖精の二つの意味があることが、理解しづらいのではないかと考えられる文字テクストがある。

	(3-21j)5 巻、p.125	(3-21d)Bd.5, S.125
とーちゃん	つくつくぼうしセミで残念だったな	Ja, schade, dass die Zikaden Zikaden waren und keine Feen, nicht? (そうだな。残念だったな、「セミ」が「セミ」で、妖精じゃなくて。そうだろ？)

例 3-21

[168] 1~4 巻までは元の日本語版の既刊がたまっていたこともあり、2007 年の 3 月から 3 か月ごとに連続して刊行されている。次の 5 巻は約一年間開いた 2008 年 7 月に刊行される。以降は日本の既刊にだんだん追いついて、一年に 1、2 冊の刊行ペースになる。

これは、〈よつば〉が夏を終わらせたつくつくぼうしをねぎらったのを聞いた〈とーちゃん〉が、以前の〈よつば〉の勘違いを引き合いに出す文字テクストである。

今までの翻訳語の選択をふまえ、セミは„Grille“、つくつくぼうしは„Zikade“と使い分けたとすると、昆虫の種類として„Grille“と„Zikade“が並列しているドイツ語では矛盾が生じることになる。そのため、この部分では„Grille“が現れていないのは妥当である。

(3-21d)の最初の„die Zikaden“は〈よつば〉の勘違いである妖精を指し、二度目の„Zikaden“は昆虫を指すと考えられる。この区別をより明確に表し、元の日本語の文字テクスト内容を再現しようとするならば、„Zikade“を説明した(3-12d)の表現を使って、„dass die Zikaden Insekten waren“（「つくつくぼうし」は虫だ）とすればよいと考えられる。

しかし、後半の„und (dass die Zikaden) keine Feen (waren)“（カッコ部分は大塚が補完した。）（「つくつくぼうし」は妖精じゃない）という部分から、二度目の„Zikaden“は„Feen“と対比される昆虫を表すことが分かる。したがって、最初の„die Zikaden“は〈よつば〉の勘違いである妖精„Zikade“を指すものであると、この文だけで理解できると考えられる。

さらに、(3-21)に続く文字テクストは以下のようなものである。

	(3-22j)5 巻、p.125	(3-22d)Bd.5, S.125
よつば	なんで？/よつばセミすき	Warum? / Ich mag Zikaden. （どうして？私はセミが好き）

例 3-22

	(3-23j)5 巻、p.125	(3-23d)Bd.5, S.125
とーちゃん	セミも妖精も同列か… なんだおまえ	Du stellst Zikaden und Feen auf eine Stufe? Na ja, von mir aus. （お前はセミと妖精を同等にみなすのか？まあいいや、好きにすれば）

例 3-23

ここでもセミが„Zikade“と翻訳されている。これは、(3-21)と同じくセミを„Grille“と翻訳すると矛盾が出てくる文脈のため、セミを„Zikade“と訳すことがむしろ妥当である。(3-21d)で二度目の„Zikaden“を„Insekten“とするならば、(3-22d)及び(3-23d)の„Zikaden“も„Insekten“に変更することになり、文脈が変わってしまう。そのため、(3-22d)は現状の翻訳でよいと考えることができる。また、(3-21d)の発言を聞いて、(3-22d)と返答することから〈よつば〉は„Zikade“が妖精ではなく昆虫であると理解し、つくつくぼうしに対する誤解が解けていることが示されている。③における翻訳語の選択変更から、〈よつば〉の新しい発見が表現されている。

また、前の項で文脈理解の妨げの原因として挙げられた、語の削除がこの場面でも行われている。〈よつば〉がつくつくぼうしがもうほとんど鳴いていないことを指摘している文字テクストのあるコマで、吹き出し外に書かれた文字テクストは以下のように翻訳されてい

る。

	(3-24j)5 巻、p.125	(3-24d)Bd.5, S.125
よつば	セミなのになー	Das war so schön. （あれは素晴らしかったな）

例 3-24

この文字テクストは、日本語版では例文(3-18j)に続く文字テクストであり、前述の通り、つくつくぼうしは昆虫のセミであるが夏を終わらせることができるという〈よつば〉の勘違いがまだ残っていることを補強している。それに対してドイツ語版では、例文(3-20d)に続く文字テクストであるため、„das“（あれ）とは、セミの鳴き声であることが推測される。

この文字テクストでは、ドイツ語版ではセミという単語を削除し、さらに文字テクストの内容を変更して翻訳してある。内容をただ単に削除していた前の翻訳例とは異なり、文脈に合うように「セミ」に関する語のない文字テクストに変更してあるため、この場合は文脈理解の妨げは起こらないと考えられる。

この例から、セミという単語を削除したとしても、話題として残っていれば文脈がつながることが分かる。単語の削除と内容の変更は「セミ」に関する語に限らず、翻訳の際に行われることがある操作である。しかし、どのような場合に語の削除、内容の変更を行うと文脈理解の妨げになるかについては、本論では詳しく取り上げない。

これらの例からは、セミもつくつくぼうしも„Zikade“と翻訳されている。①、②の場面では、セミの訳語は„Grille“であったが、„Zikade“に変更された。

この部分以前では、意図的に„Grille“と„Zikade“を使い分けており、ドイツ語版文字テクストにおいてその使い分けがうまく働いていた。„Grille“と„Zikade“の関係は、日本語のセミの一種であるつくつくぼうしとは異なり、昆虫の中のそれぞれの種類として独立のものである。③の場面では、„Zikade“が持つ昆虫と妖精の意味の区別のみ必要となるため、„Grille“は文字テクストの中に現れない。„Zikade“の二つの意味の区別は、„Fee“との対立を付与することと、後に続く文脈によって理解可能となっている。

これ以降の『よつばと！』の物語においては、夏が終わり、季節が移り変わっていくためにセミは話題に上らなくなる。そのため、「セミ」に関する語の翻訳考察はここまでとなる。

４．３．４．考察

本項では、『よつばと！』のドイツ語版における「セミ」に関する語を、翻訳語の選択、翻訳差別化の必要性、対象物の認知度、翻訳の慣習を背景に置き、物語の文脈に沿って分析した。

ドイツにはセミは生息していない。そのためドイツ語版読者にとっては、セミはなじみのない昆虫であることが分かった。

特に『イソップ寓話』における「セミとアリ」の翻訳からは、セミになじみのないヨーロッパの地域において、鳴く虫としてセミとコオロギ、キリギリスは明確に区別されず、セミがキリギリスに置き換えられていることが明らかになった。この置き換えは、『イソップ寓話』をラテン語・ドイツ語併記で編集したシュタインヘーヴェルによってラテン語の„Cicada“が„Grille“とドイツ語訳されたことが元になっている。

また、各独語辞書においては、鳴くという特徴を介して„Grille“と„Zikade“という語が並列、及び同一視されている記述が見られた。その際、この二つの語の関係性は、„Grille“というなじみの深い昆虫に対し、„Zikade“も同じ鳴く昆虫であるという上下構造のある組み入れがされている。ここから、「セミ」をなじみのないものとして扱い、„Grille“というよりなじみのある語に置き換えるという選択がとられることが不自然でないと言えるだろう。

『よつばと！』のドイツ語版においては、セミを„Grille“と翻訳している。日本語版においては、セミの具体的な種類の名前も文字テクストに含まれるが、形容詞を使うなどして差別化している。

セミという語に対して別の昆虫を本来指す„Grille“という語を当てるのは、イラストの中に描かれているセミの姿と矛盾し、誤訳であるとも考えられる。しかし、先行研究から見たように、ドイツにはセミが生息しておらずなじみがないために、**鳴く昆虫という特徴で一緒くたにくくり、その中でも最もなじみの深い„Grille“を鳴く昆虫の代表格としている**という背景事情がある。また単に鳴く昆虫へのなじみのなさから、その中でもよりなじみ深い„Grille“に置き換えたというよりは、シュタインヘーヴェル訳に始まる、„Zikade“を„Grille“と置き換えるという一見矛盾した翻訳語の選択が慣習化している可能性が考えられる。実際、先行研究によれば、セミを翻訳する際の翻訳語の混乱は語が指す昆虫の姿も引き起こしていることが報告されている。**また、辞書の記述などから明らかなのは、翻訳上の要請で「セミ」の語に„Zikade“という語ではない別の表現を使う必要に迫られた際には、„Grille“という語に置き換えることは、歴史的な習慣、あるいはなじみの深さから最も適切であると考えられる。**

そして、『よつばと！』におけるセミに関する語の翻訳は、訳し替えの必要をはらんだ複雑さを持っている。夏の終わりに鳴くことから夏を終わらせるものとして特徴づけられ、幼児の〈よつば〉によって妖精のようなものと勘違いされたつくつくぼうしは普通のセミと区別して翻訳する必要が生じる。実際の例を見ると、つくつくぼうしには„Zikade“と言う単語を用い、普通のセミを表す„Grille“と区別している。つくつくぼうしは、物語の中で昆虫を指す場合と妖精を指す場合があり、„Zikade“の場合でも同じである。昆虫を指す„Zikade“は、„Grille“と並列して„Insekt“（昆虫）の中の種類とされる。セミの中の種類につくつくぼうしがいるという日本語とは単語の対応関係の組み替えが行われている。この場合では、日本語ではセミの下位概念であるつくつくぼうしとそれ以外のセミという区別が、ドイツ語版で

は„Insekt“（昆虫）の下位概念である„Zikade“と„Grille“という区別へと、概念が一段階上がっている。妖精を指す場合の„Zikade“は„Fee“（妖精）という単語を用いて説明を付加している。

ここから、つくつくぼうしとそれ以外のセミを単語の区別によって訳し分けるという選択が行われたことが分かる。しかしこの翻訳方法が以降継続的に取られたわけではないことが、以下の場面で明らかになった。

„Grille“と„Zikade“の訳し分けが必要とされなくなった場面では、セミもつくつくぼうしも„Zikade“で翻訳される。„Zikade“が持つ二つの意味の区別は、妖精を指す場合に„Fee“を付与することで行っていた。セミもつくつくぼうしも„Zikade“と翻訳することによって、〈よつば〉の誤解が解けたことも示している。„Grille“という語を使用しなくなった背景には、よりなじみ深いものと置き換えて翻訳する配慮、あるいは翻訳語選択の慣習から離れて、語とそれが指す実物の整合性を優先する方針に切り替えたことが考えられる。このような方針の切り替え理由は定かではないが、当初想定していた読者のセミに関する認知程度よりも、実際の読者の認知程度が高く、セミを„Grille“と置き換えて翻訳する方がむしろ理解の妨げになると判断した場合などが考えられる。

また、翻訳上の操作については、ドイツ語の文の構造や文脈上、セミという単語が代名詞に置き換わったり、逆に元の日本語版にはなかったセミに関する単語が補われて翻訳されたりする場合があった。これらの置き換え例の場合は大きく文字テクストの内容を変更するものではない。しかし、「セミ」に関する語の削除が行われる場合があり、「セミ」に関する話題自体が削除された文字テクストでは、文脈理解が妨げられるのではないかと考えられる翻訳例があった。

ドイツ語版読者にとってなじみのない「セミ」に関する語の翻訳では、以下のような特徴が見られた。i)共通の特徴を持ち、よりなじみの深い別のものに置き換える。ii)訳し分けが必要な場合、作品が理解しやすいように、選択された翻訳語の対応関係を変更し必要な説明を付与する。iii)文字テクストの中から単語が削除されることもある。削除によって文脈理解が妨げられてしまう場合もある。

この翻訳の特徴の背景には、語とそれが指す対象物の整合性はもちろんだが、想定読者の対象物に対する認知度や歴史的な翻訳語選択の慣習が関わることが示唆されていた。

さらに、イラストとの整合性から考えると、明らかに„Grille“という語で「セミ」の姿を指すことは違和感のある状態なのだが、それはセミという昆虫と「セミ」という語を結びつけるのに普段から見慣れていてなじみのある文化圏の読者が感じる違和感なのであり、生きたセミを見たこともなく、その鳴き声を聞いたこともない読者にとっては違和感を持ちようがない可能性も否定できない。むしろ、セミという昆虫を知り、どのような姿か認識し、どのような鳴き声を発し、季節の風物詩であるというイメージを、セミが全く生息しな

いドイツ語文化圏読者に定着させ、„Grille“という訳語に違和感を持たせるのに、逆に日本のアニメやドラマ、マンガが大きな役目を果たしている可能性すらありうる。そして、マンガやアニメが定着させたセミのイメージが、ドイツ語版読者にとってスタンダードになっていくという逆転現象が、日本のサブカルチャー受容が過熱する最近になって起きている、という仮説が真実かどうかは、他の媒体における翻訳例を集めて再度分析する必要があるだろう。

５．１．ことば遊びの翻訳

文化・言語的な差異を理由に翻訳しにくい要素として挙げられるものに、ことば遊びがある。ことば遊びは、音や語句などの言語形式に依存する部分が多く、ただ単語から単語に翻訳しただけではたいてい意味が通らなくなってしまうためである。こうした言語形式という特徴にとどまらず、会話の中に登場することば遊びは多くの場合、ことば遊びを含む文字テクスト単体で完結しているわけではない。ことば遊びを含んだ文字テクストとして、その場面の中で理解されるものである。つまり、マンガの文字テクストにおけることば遊びの翻訳は、ことば遊びという言語形式の翻訳というだけではなく、前後の文字テクストと共に会話の流れを作るように翻訳されなければならないという性質のものである。

この項では、ことば遊びを含む文字テクストの翻訳について扱う。まずことば遊びの言語形式とその特徴について先行研究から分類し、本項で対象とすることば遊びの形式を限定する。さらに、ことば遊びがどのような機能を持つ行為であり、会話の中でどのような効果を生むものであるかについて見る。

実際の翻訳例からは、日本語・ドイツ語・英語を比較し、それぞれのことば遊びの形式、出現の位置、ことば遊びに対する反応を中心としたことば遊びの効果、その他ことば遊びを含む文字テクストに関わる要素について分析を行う。

５．１．１．先行研究

５．１．１．１．ことば遊びの形態

ことば遊びと一口にいっても、様々な種類のものが含まれている。しりとりや回文、音の同一性や類似性を利用した駄洒落、なぞなぞなどがある。さらには話し方を変えて誰かを演じるごっこ遊びも言葉を使った遊びであるといえるかもしれない。

日本語におけることば遊びを歴史的に分析した今野（2016）は、ことば遊びを「音に関わる遊び」と「文字に関わる遊び」の二つに分けてある[169]。特に後者の「文字に関わる遊び」は日本が漢字文化であること、中でも「国字」の二つ以上の漢字の構成要素を組み合わせて新しい文字をつくる会意の方法の創造性を元にしており、日本語に特有なことば遊びであるといえるだろう。

窪園（2003）は言語文化と対応させ日本語と英語のことば遊びの特徴を分類した。日本のことば遊びは、「(a)同音異義語（同音性）や音の類似を用いたもの、(b)単語や句、文の多義性を利用したもの、(c)文字に基づくもの」という 3 つの特徴を利用したものが多いとしている[170]。また、英語のことば遊びにおいては、日本語と同じく(a)類音声や(b)語句の多義性を利用したものの他に、日本語とは異なる点として頭韻を挙げている[171]。

また、ことば遊びの翻訳を分析した藤濤（2001）は、ことば遊びに関する様々先行研究における分類法を概観した後、ことば遊びを広義・狭義のものに分け、その中から狭義のもの

169 今野真二（2016）『ことばあそびの歴史――日本語の迷宮への招待』、河出ブックス、pp.17-22
170 窪園晴夫（2003）「言葉遊びの言語学」、『言語』32(2)、p.29、大修館書店
171 窪園、前掲書、p.31

を対象としている。ギローによる「言葉を用いた遊び」と「言葉についての遊び」という文類などもあるが、広義のものとは、数え歌、物語、など言葉を使った遊び全てを包含し、一方狭義のものは同音・類似音で、意味の異なる語を用いた遊びとする。さらに、テンチャやヤゲーロによる指摘を取り入れ、ことば遊びを①メタ言語的情報である、②意図的な修辞的目的による創造である、③言語規範から意図的に逸脱したものと定義している[172]。またこれらのことば遊びの創造的・逸脱的な特性から、分類するという行為自体がなじまないものであり、分類したとしても境界は流動的な物となるが、翻訳分析のためにテンチャが提案した分類法を前提とした。それは、以下の狭義のことば遊びに対する 3 種類の分類を組み合わせた 12 通りである[173]。

①言語形式面の親近性による分類
- ・同綴同音異義語
- ・異綴同音異義語
- ・類音語

②表現形式の出現回数による分類
- ・垂直的：一度限り
- ・水平的：複数回

③ことば遊びの使用語がどのような物かによる分類
- ・新造語
- ・既存語

これらの先行研究からは、ことば遊びには音の類似性・同音性を使ったものと言葉の多義性や文字に関するもの、という大きな分類が可能であることが分かる。また日本語と英語のことば遊びを比べた場合、音のことば遊びとして頭韻が特徴的である。

さらにことば遊びの語の表現的特徴から分類とは異なる視点で、コミュニケーション上の形式から分類したのは滝浦（2000）である。具体的には、相手の言葉に含まれる表現をつかって茶化したり、自分の言葉を最後までいわずにおどけたりする「むだ口」や、同一語や同義語の反復自体を面白がる「畳語」や「重言」、明らかに矛盾した言葉を重ねる「ナンセンス」などを挙げている。これらのことば遊びの共通点は、音や意味の連想をきっかけにしていることである。ことば遊びは文脈を攪乱するものであり、したがって言葉の伝達機能は制限される。ここから滝浦は、ことば遊びは「“伝えないことにおけるコミュニケーション”

[172] 藤濤文子（2001）「ことば遊び翻訳の機能主義的考察」、『ドイツ文学論集』(30)、p.64、神戸大学
[173] 藤濤、前掲書、p.64

の一形態である」[174]としている。さらに、ことば遊びに対してことば遊びで返すという文化から、ことば遊びは会話相手に参加を要請する遊びであること、したがって当事者間の文化的なコードの同一性が読み取れることが指摘されている。

本項において主に注目することば遊びは、音の同音性・類似性によるものに注目する。また、ことば遊びが言語形式的に特殊であるだけではなく、滝浦（2000）が主張する、ことば遊びがメタ的な表現である・逸脱的表現であるといった特徴から、コミュニケーション上の機能はどのようなものなのかを次項で見る。

５．１．１．２．ことば遊びの機能

滝浦（2002）は、ことば遊びがどのような機能を持つかについて分析している。まず、ことば遊びを代表的な 3 つの型に分類し、それぞれのことば遊びの文脈への効果を示している。

滝浦の研究はヤーコブソンの〈詩的機能〉からことば遊びのコミュニケーションを論じるものである。まず滝浦は〈詩的機能〉はその特徴として「メッセージ＝発せられる言葉そのものへの焦点合わせ」を行う、自動機械的な言葉の生成装置と位置付けている[175]。その中でも意味を要する「詩的言語」は、枠ないしはテーマとしての文脈を持っているために意味のない「病的言語」から分離され、言葉全体の意味的まとまりである大文脈が保たれていると考える。大文脈の中に含まれる部分的な言語的つながりは小文脈であり、ことば遊びの場合にはこの大文脈と小文脈の関係性という文脈の質が重要であるとしている。

ことば遊びの型の一つ目は即興型であり、必ず音的連想がきっかけとなるものである。音の同一性・類似性を元に、語の乗り換えが局所的に生じる。そのため、ことば遊びによって生じた小文脈が複線化し、脱線する。脱線した結果、文脈を攪乱して終わってしまうものの典型はむだ口である。それに対して、脱線した小文脈が大文脈と交差し、噛み合ったとき、小文脈である駄洒落や地口が大文脈を強化する効果をもたらす場合について指摘している。

二つ目は技巧型で、アクロスティックやアナグラム、回文を含む。これらの特徴は、音的制約は非常に強い一方で、最終的な文脈上の帳尻合わせが求められることにある。ただし、文脈の質という点から見ると、言葉全体の大文脈とあぶりだされるメッセージである小文脈が一致する必要は必ずしもなく、むしろ文脈の二重性という性格を強く持つことば遊びである。さらにこの技巧型のことば遊びは、それがことば遊びであるというメタメッセージがなければことば遊びであるという事実が見過ごされることもあり、ここからことば遊びへの参加という感覚の共有が重要であるという指摘も行っている。

二重の文脈を持つ技巧型のことば遊びにおいて、制限のある中で生産された文脈である

---

[174] 滝浦真人（2000）「ことば遊び論―伝えないコミュニケーションは何を伝えるか」、『言語』29(2)、p.20、大修館書店

[175] 滝浦真人（2002）「ことば遊びは何を伝えるか？―ヤーコブソンの〈詩的機能〉と会話理論を媒介として―」、『日本語科学』11、p.81、国立国語研究所

がゆえに、制約の後からついてきた大文脈という事後的な文脈が成立することになる。事後成立する文脈という意味で言えば、「勘違い」にも似たような現象が現れることが述べられている。

三つ目はゲーム型で、なぞかけやしりとりがここに分類される。特に謎かけの場合、二つの事項を共通の特徴で結びつけるというゲームであり、これは別々の語や文という小文脈が共通性によって同一視され、大文脈をつくるという遊びである。この場合にも、大文脈が事後的に成立するものであり、むしろそれを発見すること自体が遊びとなっているものである。

さらに滝浦は、文脈と言う観点から見た言葉遊びの性格を、コミュニケーション論的な機能の中に位置づけようと試みている。グライスの「協調の原理」に照らし合わせれば、ことば遊びはどの型であってもどれかの格率に違反していることになる。これは、会話を基本的に協調的な企てと見るグライス風の考え方からことば遊びを考えると、ことば遊びは単なるマナー違反か、非協力的な文脈の攪乱行為になってしまうのである。

しかし、グライスは協調の原理の逸脱についても論じており、皮肉や隠喩など見かけ上の格率違反を利用し、会話の含みを生じさせようとしている場合もあるとしている。しかし、ことば遊びの持つメッセージは意味上含みを持たされているのではなく、隠されているとしても現実にそこにある点が重要だと滝浦は指摘している。見かけ上の格率違反は、小文脈内部の調整によって大文脈との整合性を復旧することによって解釈が可能となるが、ことば遊びにおいて調整による復旧は不可能であるためである。ことば遊びは、言葉の流れそのものを攪乱する違反であり、大文脈はいったん保留にされてしまうために情報の伝達が阻害されることになる。

さらに滝浦は、ベイトソンの定義したフレームにおいては、「遊び」の特徴として挙げられている「これは遊びである」というフレーミングが可能であることとことば遊びを比較し、ことば遊びという行為を定義している。ことば遊びは、嘘や冗談と違い、発言した後にフレーミングを施すことによって取り消すことは出来ない。すなわち、発言自体を取り消すことは出来ず、聞かなかったことにしてほしいと頼むことしかできない。しかし、話し手は発した言葉の字義通りの意味を伝達しようとしている訳ではない。ただし、ことば遊びにはいったこと以外の含みがあるわけでもない。つまり、ことば遊びは発せられた言葉そのものによって、指示的な伝達ではない何かを行う行為であり、したがってこれはヤーコブソンのいう〈詩的機能〉にふさわしいものであると結論付けている[176]。

さらに、ことば遊びは語の意味ではなく語の表面的な連想関係という形をきっかけにして作られる。そのため、文脈の流れは止めてしまうものの、通常ならば流れ去ってしまうはずの文脈を浮き立たせ、聞き手にその存在を意識化させる。ことば遊びにおいて逸脱したはずの小文脈が、大文脈と交錯したり図らずも帳尻があったりしてしまうとき、通常以上に伝えてしまう言葉を生み出すことになること、そして意味内容とともに発見の感覚が伝わる

[176] 滝浦、前掲書、p.91

ということを指摘する[177]。

本項が対象とする音の類似・同音性のことば遊びは、滝浦（2002）の分類では一つ目の即興型に当たる。その特徴は、ことば遊びを含む発話という小文脈は、類音・同音性を持つ語の乗り換えによって文脈から脱線するが、それが会話全体という大文脈と噛み合ったとき、その大文脈を強化する効果があるという点である。

即興型のことば遊びが脱線させ、強化する大文脈とはどのようなものかを考えてみたとき、本研究が対象とする『よつばと！』という作品は〈よつば〉による何気ない日常の「発見」をテーマとしている。『よつばと！』の中で描かれる「発見」と、ことば遊びの担う文脈の再発見という機能は親和性が高いと考えられる。ここから、ことば遊びが掻き回した中から改めて見出される文脈の「発見」を強く印象付ける効果を持つことが考えられる。また、後で見る実際のことば遊びの登場例、その翻訳例からは、幼児である〈よつば〉[178]の子どもらしさの顕現である場合が多い。

また、談話分析の観点から会話における冗談のコミュニケーションの特徴を分析した研究もある。対象とするものが実際の会話であるため、マンガの描かれた文字テクストとは異なる特徴、運用はあるが、マンガの文字テクストも会話であるということから参照する。またことば遊びと冗談は完全に重なる行為ではないが、冗談は遊びの一種として会話に現れること、どちらも基本的に笑いを誘うものであることと相手の反応が関係することなどに類似する点もあるので、先行研究として参考にする。

会話における冗談について研究した大津（2004）は、ポジティブ・ポライトネスの一部である「冗談で何か言うこと」に注目して、それによってどのようなコミュニケーションが行われているか、特に「遊びの対立」[179]を分析している。

まず、冗談をいうことがポジティブ・ポライトネスに含まれるのは、冗談をいうためには背景知識や価値観の共有が前提となるためである。中でも、悪口や反論といった相手に対立することが冗談になるのは、ベイトソンの言うメタメッセージによって、発話した方が「これは遊びだ」とメタメッセージを発し、相手の方もそれを認めた上で面白さを感じることで冗談として成立するためである。ここから、大津は(1)会話参加者がどのように遊びとしての対立を開始するのか、(2)メタメッセージがどんな合図によって発せられているのかの二点に注目し、冗談がどのように実現されているのかを分析する。

遊びとしての対立の定義には、ベイトソンのフレームの概念を使っている。対立はそれ自体が一つのフレームとして会話参加者に認定される一方で、さらにその対立を表す発話自体に「これは遊びだ」というメタメッセージが重ねられることによって、「対立ごっこ」と

177 滝浦、前掲書、p.92

178 さらにいえば、〈よつば〉は〈とーちゃん〉が海外で拾ってきた子どもであることから、日本語ネイティブではない。それを原因とする言葉のぎこちなさの表現でもある。

179 大津友美（2004）「親しい友人同士の会話におけるポジティブ・ポライトネス―「遊び」としての対立行動に注目して―」、『社会言語科学』6(2)、p.46、社会言語学会

してフレーミングされることがある。これを「遊びとしての対立」とする。

遊びとしての対立の開始方法には二つあり、一つ目は遊びとしての対立を開始したいと思った参加者が、対立を表明する方法、二つ目は遊びとしての対立を開始したいと思った参加者がわざと誤ったことや理不尽なことを言い、相手の対立を誘う方法である[180]。

また、遊びのメタメッセージを伝える合図には、ガンパースの“contextualization cues”を用い、どのようなものがあるのかを論じている。“contextualization cues”にはコード・スイッチング、韻律的な現象、定型表現などの言語的なものが含まれるが、それ以外の仕草や顔の表情などの非言語的なものも含めて考察を行っている。結果的には、遊びとしての対立がごっこであることから、感情を大げさに演じる方法として発話の繰り返し、韻律の操作、感動詞の使用の三つが観察されている。さらに、それらの合図と合わせてスタイル・スイッチングを行う例を挙げている。スタイル・スイッチングとは、一時的に普段の話し方から別の話し方へ話し方を変えることを指す。さらに、非言語的行為の合図として、笑いを挙げている。

これらの遊びとしての対立、そしてそれを伝えるメタメッセージが会話の中で成立するには、会話参加者同士の背景知識や価値観の共有が必要であることが強調されている。つまり、会話参加者同士が冗談を通じてポジティブ・ポライトネスを協力して達成しているといえるだろう。

さらに大津（2007）では、スタイル・スイッチング（シフト）についてさらに分析を行っており、発話者がスタイル・シフトを行うことによって聞き手の注意を引き、聞き手の方もそれに対する行動を起こすことで発話者と聞き手が協力して、冗談を実現させる具体的な行動について実際の会話例から考察している。この研究の中では、演じられるスタイルとして、丁寧語、役割語[181]、借り物スタイル[182]が先行研究によって挙げられている。注目すべきは、相手のスタイル・シフトによる冗談を受けて、聞き手がそれに対して起こす反応である。大津によれば、冗談に対してそれを承認したり無視したりすることができるうち、冗談に同調し協力的にふるまうとき、(1)笑いやコメント、(2)模倣、(3)共演、(4)対立の 4 つの振る舞いが認められた[183]。

(1)笑いやコメントは最も出現数が多く、これは冗談を面白がっていることを明示する方法であると同時に、この反応によって冗談に区切りをつけ次の話題へ移りたいと聞き手が

---

[180] 大津、前掲書、p.47

[181] 金水（2003）による、ある特定の人物像と結びついたスタイルを指したもの。ステレオタイプを呼び起こすことによって特定のキャラクターを思い出させるような話し方とされている。語彙、語法、言い回し、イントネーションなどの要素によって形成される。例えば「わしが～じゃ」と話す博士言葉など。

[182] メイナード（2004）によって、話し手当人以外の特定の人物をイメージさせるスタイルと指したもの。その使用によって、その人物に関するステレオタイプを呼び起こし、発話にユーモラスな意味を付与することができるとされる。金水の「役割語」との差異は微妙な所だが、「役割語」が「博士」と言う属性を持つキャラクターが「博士言葉」をしゃべるというようにステレオタイプから生じるキャラクターとその人物自身が同一視されるものとするならば、「借り物スタイル」はあくまでそのキャラクターは借りものであり、一時的なもので発話者自身と同一視されるものではないように考えられるが、ここでは深くは立ち入らない。

[183] 大津友美（2007）「会話における冗談のコミュニケーション特徴―スタイルシフトによる冗談の場合―」、『社会言語科学』10(1)、p.51、社会言語科学会

望んでいる反応である。(2)模倣では、聞き手が発話者のスタイル・シフトを真似るもの、(3)共演は発話者のスタイル・シフトが設定したフレーム内の役割を聞き手がこなそうとするもの、(4)対立は大津（2004）の冗談としての対立にも似て、発話者のスタイル・シフトを冗談と気付き、面白味を感じていながらあえて冗談を否認するものである。この(2)から(4)のふるまいは、(1)笑いやコメントと比べると、聞き手が積極的に冗談に参加するため、冗談のやりとりが長引く場合が多い。

大津の冗談の談話分析からは、冗談のやりとりは会話参加者同士の親しさを協力的に達成するものであるといえる。実際のことば遊びのやりとりの例、翻訳例からもそうした協力による親しみを感じ取ることのできる場合がある。

会話におけることば遊び、冗談のやりとりは、会話参加者の親しさから生まれる協力関係を下敷きにしたものであるという特徴がある。また、その協力を示すために、冗談を受け取った方の反応は笑いやコメント、冗談の模倣、一緒になってその冗談を共演する、わざと対立すふりをするなどの特徴が現れる。

以上の先行研究から、本項の分析では大きく二つのポイントに分けて実際の例を見ていく。

一つ目は、ことば遊びの形態である。すでに見たように、日本語とドイツ語・英語では言語形式、言語文化が異なることから、翻訳の際にことば遊びをことば遊びとして翻訳ができるかどうかがそもそも問題となる。そこから、ことば遊びの形態がどのように扱われているか、変化や形式ごとの偏りはないかなどに注目する。

二つ目に、会話参加者の協力的な冗談の産出ととらえられることば遊びに注目するため、誰によって言葉遊びが産出されているか、それに対して周りがどのような反応を見せているかを見る。ここでは、大津（2007）の示したスタイル・シフトへの聞き手の 4 種類の反応を使う。

また、ことば遊びの再現が不可能とされる、また別の理由から翻訳後にことば遊びが削除される場合、逆に日本語版の文字テクストにはことば遊びを含まなかった部分がことば遊びを含んだ文字テクストとして翻訳される場合など、ことば遊びの出現位置が変更されている場合の例も扱い、その変更によってどのようなことが現れているかを見る。

５．１．２．ことば遊びを含んだ文字テクストとその翻訳

ことば遊びを含んだ翻訳テクストとして、まずことば遊びを翻訳版において再現している例を見る。また、翻訳版の言語によって別のことば遊びが挿入されている場合、ことば遊びが再現されず削除されている場合は、どのようなテクストとして読まれうるかについて分析を行う。また、ドイツ語と英語の翻訳傾向についても見る。最後に、日本語版にはことば遊びがなかった部分に新たに追加した翻訳例を見て、どのような場面の中にどのような効果を狙ってことば遊びが追加されているのかを考察する。

さらに、ことば遊びを広く取り、役割語・借り物スタイルがドイツ語・英語でどのように再現されているのかについて例から見る。話し方を変えるごっこ遊びとは言葉の要素を含んだ遊びであること、また先行研究で見たような役割語や借り物スタイルといった特徴的な言葉遣いは、マンガの文字テクストの大きな特徴である一方で、翻訳が難しい要素であるとされているため、実際の翻訳例での対処の表現はどのようなものかを見る。

まず、ことば遊びを含んだテクストの翻訳における問題の大きなものとして、言語形式が異なるためにことば遊びの翻訳・再現が難しいことがある。特にことば遊びの中でも多い音の類似・同一性を使ったことば遊びにおいて、日本語の語彙と同じ音の類似・同一性を表現することができないためであると考えられる。

しかし、ある条件を備えた語彙によることば遊びは、そのままの移植が可能となる。

	(4-1j)8 巻 p.141	(4-1d)Bd.8, S.143	(4-1e)Vol.8, p.141
恵那	はっぴだから // ハッピー	Du hast einen neuen Happi … // und bist deshalb happy. （君ははっぴを手に入れた…だからハッピーなんだね）	It's happy… // because it's a Happi! （ハッピーだね…それははっぴだからだね！）
よつば	え!? なんのこと!?	Vehsteh bloß Bahnhof! （何言ってるかわからない！）	Eh!? What's are you talking about!? （えー!? 何言ってんの!?）
恵那	いまのうそ！	Ich nehm's zurük. （取り消します）	It was a lie! （嘘だよ！）

例 4-1

この言葉遊びは「はっぴ」と「ハッピー」という音の同一性を用いたものである。(4-1d)ではやや文章の形は変わっているが、ことば遊びは“Happi”と“happy”で日本語版と同じ語による音の同一性を使ったものとなっている。

さらに(4-1e)でも、“happy”と“Happi”のことば遊びが使われている。また、ドイツ語訳と比べた時、文の前半と後半を“it's …“という同じ表現を使う、類似表現のことば遊びも取り入れたものになっている。

このことば遊びの再現は、ドイツ語・英語にとって共に「はっぴ」が外来語としてそのままの形で導入ができる語[184]だったこと、そして「ハッピー」は英語の表現としてやはりそのまま翻訳に反映できる語であったことが大きい。

これに対する相手の反応は、〈よつば〉が〈恵那〉の発言をことば遊びとして受け取れなかったことを示している。冗談に対する反応分類としては、冗談の不受理となる。

184 「はっぴ」に関しては、初出の段階でドイツ語・英語共に注釈を入れる形で説明されている。初出部分は、「メシ食ったら後ではっぴ買いに行こう」（あずまきよひこ（2008）『よつばと！』8 巻、アスキーメディアワークス、p.33）であり、ドイツ語版では「はっぴ」を“Traditionelle japanische Weste, die zu Straßenfesten angezogen wird.”（伝統的な日本のベストで、路上の祭りのときに着られるもの）、英語版では“Happi: taraditional coats mostly worn at festivals.”（はっぴ：伝統的な上着でたいてい祭りのときに着られる）と注が付いている。さらに英語版では、実際に着用したはっぴがイラストとして初出し、背面の漢字がはっきりと描き込まれている部分で、はっぴに染め抜かれる漢字の読みと意味を注で説明してある。

その〈よつば〉の様子を見て、〈恵那〉はことば遊びのフレーミングから嘘のフレーミングに事後的、そして強制的に移行し、自分の発言の取り消しを試みている。このやりとりがドイツ語版では、冗談の不受理―撤回というやりとりは変わらないが、日本語版のようなフレーミングの移行はなく、発言の撤回を明示する内容に変更されている。英語版では、ドイツ語版に比べると日本語の逐語訳に近いものとなっており、フレーミングの移行が起こっていると考えられる。

翻訳語の出現位置は、「はっぴ」・「ハッピー」を外来語としてそのままの表現で取り入れたために、ドイツ語でも英語でも全く同じ位置に起こっている。

以上の分析から、この「はっぴ」と「ハッピー」の音の同一性を元にしたことば遊びは、外来語として取り入れることで日本語版と同一の語を使用が可能になったために、翻訳でも再現された。〈よつば〉の元気の有り余っている様子、祭りを楽しみにしている様子を指し示す「ハッピー」という表現が翻訳されても意味が変わらないことによって保持されている。また、ことば遊びに対する〈よつば〉の反応、さらにそれに対する〈恵那〉の反応もフレーミングの違いは翻訳に出ているが、ことば遊びが保持されたことによってほぼそのまま翻訳に再現されていた。

しかし、音の類似性・同一性の保持が難しい例も多くある。

	(4-2j)5 巻、pp.102-103	(4-2d)Bd.5, S.102-103	(4-2e)Vol.5, pp.102-103
ジャンボ	わし座 // こと座	Der Adler. // Die Leier. （わし座　こと座）	Aquila. // Lyra. （わし座 // こと座）
よつば	ざ？	Komische Namen. （変な名前）	Huh? （へー？）
ジャンボ	いて座 // やぎ座	Shütze. // Ziege … （いて座　やぎ[185]）	Sagitarius. // „Capricorn. （いて座 // やぎ座）
よつば	ざ？	Komisch. （変なの）	Huh? （へー？）
よつば	ざがいっぱいあるな	Die Sterne haben seltsame Namen. （星って変な名前だね）	Those are funny words. （面白い単語だね）
みうら	ざ？ // 星座だよ	So? // Die meisten sind Latein. （そう？//ほとんどラテン語なんだよ）	Huh? // They' re constellations. （ふーん //星座だよ）
よつば	はい （〈よつば〉、正座をする）	So? （そう？）	Oh, okay. （おお、分かった）
とーちゃん	？ // なんで正座してんだ？	? // Bist du müde? （？ // 疲れたのか？）	? // Why are you sitting in seiza* position? （？ // なんで正座で座ってるんだ？）
注			*Seiza: in Japanese, this word for "constellation" is pronounced the same as the name for the traditional japanese way of sitting. Yotsuba mistakes one for the other!

185 "Ziege"は動物の雄ヤギを示す語で、「やぎ座」と言う正座を表すには不適切である語だが、星座の名前を列挙しているという文脈から、「やぎ座」を指していると理解可能である。

			（正座: 日本語では、「正座」という言葉は日本の伝統的な座り方の名前と同じ発音である。〈よつば〉はそれを取り違えている！）

例 4-2

このことば遊びは、「星座」と「正座」という音の同一性を用いたものであり、それによって生じた〈よつば〉の勘違いを表したエピソードでもある。しかし、星座の名前を表す語が「～座」のような統一された形をもたないドイツ語や英語では、日本語と同じ言葉遊びを再現することが難しい。

(4-2j)では、〈よつば〉が星座の名前が列挙されていること自体の理解ができていないようなやり取りだったものが、(4-2d)では星座の名前が奇妙で面白く感じているという風に変わっている。直前までのやりとりが変更されている関係で、〈みうら〉の反応が、〈よつば〉の星の名前が奇妙に聞こえるという感想をひとまず受け止めるものになっている。そして、〈よつば〉への説明は、文字テクストの星座の名前にラテン語の単語を使っていないのでやや食い違ったやりとりになってしまっているが、〈みうら〉もよくわかっておらず、「ラテン語か何かじゃないのか」というような含みを持った返答として読むことは可能である。対する〈よつば〉の反応は〈みうら〉の説明に対して積極的に理解を示すものではない。また、直前の〈みうら〉の反応と同じものであるため、同じ表現の繰り返しのやりとりとなり、面白味の効果を狙ったものであるとも考えられる。

ここまでのやりとりが「星座」と「正座」の音の同一性を含まないものになっているために、〈よつば〉が突然正座で座ったのを見た〈とーちゃん〉の反応は、全く前の文脈とつながらないものになってしまっている。たとえ文字テクストにおいて言葉遊びの要素を変更、および削除したとしても、イラストそのものを描き換えることは出来ない。そのため、〈よつば〉が座り込んだのを見て〈とーちゃん〉が何かを言った文字テクストが入るべき吹き出しがある以上、整合性の取れるような文字テクストが要求される。この例のドイツ語版では、座り込んだ〈よつば〉というイラストと整合性の取れる文字テクストを選択した結果、星座の話をしていた前の文脈とは関係のない文字テクストとなってしまったと考えられる。

(4-2e)では、ラテン語の単語を使った星座名に翻訳されており、それに対する〈よつば〉の反応は、積極的に何かをいうわけではないが、星座の名前を聞いて受け取っていることを示している。聞き終わった後の〈よつば〉の指摘は、日常的な単語ではないラテン語の単語を面白がる内容に変更されている。〈よつば〉の感想に対する〈みうら〉の反応は日本語の文字テクストと同じ内容を翻訳してある。さらにその説明に対する〈よつば〉の反応も、逐語訳的である。そして座り込んだ〈よつば〉に対する〈とーちゃん〉の反応は逐語訳的であり、“seiza”に注が付けられている。注では逐語訳されたせいで削除されたことば遊びの内容と、それによって起こった〈よつば〉の勘違いという場面の笑い所をすべて説明してある。文字テクストのみではことば遊びは表現されていないが、文字テクスト以外の注という手

段で補足再現された形になっている。

この場面のやりとりは、「星座」と「正座」という音の同一性を利用したことば遊びによる〈よつば〉の勘違いをめぐるものである。〈よつば〉が正座をしているのを見た〈とーちゃん〉の反応は、どの言語版においても〈よつば〉の正座の意味を理解していないものになる。ことば遊びを介した〈よつば〉の勘違いを理解するのは読者ということになるが、ドイツ語版・英語版のどちらにおいても言葉の同音性を保持できず、結果的に放棄しているため、文字テクストからだけではことば遊びは完全に削除されていることになる。そのためにドイツ語版では、〈とーちゃん〉の反応は、星座の話という文脈から完全に切り離されて浮いてしまっている。しかし英語版では、注を加えその中でことば遊びが起こっていることを説明することによって、補足的にことば遊びを読者に伝えている。

この例では、音の同一性を保つことが翻訳版ではできず、放棄されている。ことば遊びは放棄されているが、〈よつば〉が星座の名前を聞きなれないものとして面白がっている様子を再現しているのは両翻訳版における共通点である。また、英語版においては注という文字テクスト外の要素によって、ことば遊びの存在を示すという方法がとられている。

音の同一性を使ったことば遊びに対する同じような対処は他の部分でも見られる。

	(4-3j)8 巻、p.141	(4-3d)Bd.8, S.143	(4-3e)Vol.8, p.141
恵那	今日はよつばちゃんのりのりだね	Ich seh, du bist am frühen Morgen schon voller Tatendrang. （早朝からやる気満々みたいだね）	You sure are bubbly* today, Yotsuba-chan. （今日は、本当に生き生きしてるね、よつばちゃん）
よつば	つくだにのこと!?	Du meinst Vollmilch? （牛乳の事？）	You mean, like Tsukudani? （佃煮のこと？）
恵那	え!? // なんのこと!?	Was?! // Wieso Vollmilch? （何!? // なんで牛乳なの？）	Huh!? // What are you talking about!? （えー!? // 何のこと言ってるの？）
とーちゃん	おまえ元気だなーってことだ	Ena meint, dass du einen sehr munteren Eindruck machst. （恵那は、お前がすごく活発な印象だって思ってるんだ）	She's saying you're full of energy. （お前がエネルギッシュだってさ）
注			* Ena says that Yotsuba in "nori-nori" which means "energetic" and "spirited." Yotsuba confuses this with the word "nori" which is a type of seaweed used in japanese cooking. One dish that it is used in is tsukudani, which is little bits of meat, seafood or seaweed simmered in soy sauce and mirin. （恵那は、よつばがエネルギッシュで元気のいい様子を指す「のりのり」であると言っている。よつばは、これを海藻の類を使った日本の料理の「海苔」と勘違いしている。ここで使われている佃煮は、少しの肉、魚介類、海藻

			を醤油とみりんで、とろ火で煮た料理である）

例 4-3

(4-3j)は、「のりのり」と「海苔」という音の同一性をきっかけにして、「海苔」から「海苔の佃煮」という連想が起こり、ことば遊びが〈よつば〉の勘違いとして現れた。このことば遊びを再現する場合、音の同一性を再現することに加えて、「海苔の佃煮」という日本文化的なものへの連想を元にしているという二重の翻訳の難しさがある。

(4-3d)では、「のりのり」と「海苔」という音の同一性、「海苔」から「佃煮」という連想のどちらも放棄し、別の内容を新たに作っている。ことば遊びが完全に放棄されたわけではなく、〈恵那〉の文字テクスト中の“am Frühen Morgen”（早朝に）と“voller”（いっぱいの）という単語から、“Vollmilch”[186]と言う語を連想する文字テクストに置き換えられている。ことば遊びの形式としては、“voller”と“voll-“に音の同一性があり、“am Frühen Morgen”（早朝に）から朝に配達される“Milch”（牛乳）を連想するという日本語版のものとは異なるが同じ形式のものを使ったものになっている。

(4-3e)では、文字テクストは逐語訳的だが、「のりのり」の訳語に当たる“bubbly”に非常に長い注が付いており、言葉の説明と、それによる〈よつば〉の勘違い、さらには佃煮の説明がしてある。基本的には日本語の文字テクストを逐語訳して、ことば遊びの存在を注で補足説明する形である。

また、ことば遊びとそこから生じた勘違いに対する〈恵那〉の反応は、“Vollmilch”ということば遊び、勘違いへの反応のまま翻訳され、戸惑いの内容の具体的な語を追加したものになっている。〈とーちゃん〉の説明は、勘違いされた〈恵那〉の発言を説明し直すものである。(4-3j)におけることば遊びと同内容のものが再現できなかったものの、ドイツ語による語の連想を使ったことば遊びと置き換えたことによって、勘違いへの戸惑いや、勘違いを解消する説明といった反応が文脈に沿ったものとなっている。

(4-3e)においては、基本的なやり取りの内容はそのままである。これは、ことば遊びの要素を文字テクストでは放棄したものの、注によって日本語版ではことば遊びが起こっていたことを補足説明しているために、やりとりの自然さが保持されていると考えられる。

この例では音の同一性とそれによる連想から生じる勘違いを翻訳によって再現することは難しかったために、それぞれの翻訳版においてそれぞれの解決方策がとられており、前の例とほぼ同じ方法が取られている。ドイツ語ではことば遊びと連想を含む別の表現に置き換えることによってことば遊びを達成し、英語では文字テクストでのことば遊びを放棄してはいるが注によって補足することによって、ことば遊びから発生する勘違いをめぐるやりとりを保持している。前の例と異なる点は、ドイツ語版のこの例では、置き換えた内容がことば遊びとして成立しており、ことば遊びの形式も連想を使ったものであること、また勘

[186] 成分調整などを行っていない「全乳」を指す。

違いの文脈を保ったものとなっているので、置き換えの翻訳として意味の通るものとなっていることである。

注による補足説明に関してドイツ語版と英語版を比べた時、英語版がことば遊びや勘違い、文化的な要素などの翻訳上の問題を注によって解決している場合が多い。逆に、ドイツ語版ではほとんど注は付けられず、文字テクストの中で解決しようと試みている場合が多い。注を使った補足的な説明についての分析は、別項で行っているのでここでは詳しく踏み込まない。

英語版には注による説明でことば遊びを成立させる傾向が強いが、注を使わずにことば遊びを成立させている例もある。2 例を見る。

	(4-4j)13 巻、p.105		(4-4e)Vol.13, p.105
よつば	なしでなしに！		Like a bear, not a pear! （クマみたいな、梨じゃなくて！）
よつば	あはははは！　なしでなしだって！		Ah ha ha ha ha! Bear pear! Pear bear! （あはははは！　クマ、梨！梨、クマ！）
よつば	あはははは // なしでなし		Ah ha ha ha ha! “ “Beary Peary! （クマちゃん、梨ちゃん！）

例 4-4

英語版が文字テクストのみでことば遊びを成立させている例として、〈よつば〉の〈ばーちゃん〉が家に遊びに来た際に、〈ばーちゃん〉に〈よつば〉がお土産をねだる場面がある[187]。〈ばーちゃん〉はわざと〈よつば〉のおねだりをかわし、梨を差し出す。不満を表す〈よつば〉に〈とーちゃん〉と〈ばーちゃん〉がとりなそうとするが、お土産の件をごまかされていると感じた〈よつば〉は子どもが喜びそうなものがいいと机を叩きながらかんしゃくを起こし、「なしでなしに！」と叫ぶ。この自分の発言がことば遊びを含むことに気付いた〈よつば〉は、さっきまでかんしゃくを起こしていたのに「あはははは！　なしでなしだって！」と笑い出す。怒りを忘れて笑いが止まらなくなり、「なしでなし」と繰り返して面白がる〈よつば〉に、〈とーちゃん〉と〈ばーちゃん〉はついて行けず呆れる。

(4-4j)では、「梨」と「無し」という音の同音性を使ったことば遊びになっている。

(4-4e)においては、“pear”と韻を踏んだ “bear”を追加することによって、脚韻という音の類似性を使ったことば遊びに変わっている。さらに、同じ表現を繰り返す日本語版に比べて、英語版では 2 回目の繰り返しで“-y”をつけて、音の類似性をさらに付け足すことにより〈よつば〉がことば遊びに没入して怒りを忘れる様子が表わされている。

やりとりとしては、〈よつば〉の一人遊びの形になっており、〈とーちゃん〉と〈ばーちゃん〉の反応は、〈よつば〉の機嫌の急変に付いて行けないというような呆れた表情のみである。英語版において呆れた表情によって表されることば遊びへの反応は、ことば遊びが「梨」

[187] 13 巻は 2016 年 8 月現在までドイツ語版の出版はないため、ドイツ語版の比較はできない。

という語を使いつつ英語表現に置き換えられて保持されたことによって、前後の文脈と合ったものになっている。

「梨」を使ったことば遊びを保持するために、日本語版にはない音の類似性と文脈を再現できる語を追加することによって、ことば遊びを再現することができた例である。

	(4-5j))3 巻、p.138-139	(4-5d)Bd.3, S.142-143	(4-5e)Vol.3, pp.138-139
あさぎ	…こ…こってるねぇー	… Wow! Hut ab. So viel Aufwand für einen Gutschein! (わあ！見て。一枚の券にすごく労力かかってるよ)	… Wow. This is intense. (…わあ。これはものすごいなあ。)
風香	肩たたき券だけにこってる (〈あさぎ〉、〈風香〉の頬を強く掴む)	Eine Massage bedeutet noch mehr Aufwand! (マッサージにはもっと労力かかるのにね)	In-tense! Almost as tense as dad's shoulders! (「張ってる」！ お父さんの肩と同じくらい「張ってる」ね！)
綾瀬家父	風香はうまいこと言うなあ // これは座布団一枚だなぁ	Fuuka, du bist ja ganz schön erwachsen geworden. // Dir sollte man auch einen Gutschein ausstellen. (風香、いい大人になったな。// 一枚、券を進呈しよう)	That was a good one, Fuuka. // That's worth a cushion*. (風香、それはいいな。クッション一つの価値があるぞ)

例 4-5

このことば遊びは、「(肩たたき券が) こっている」と「(肩が) こっている」という音の同一性を使ったものである。(4-5d)では、〈あさぎ〉のセリフの中の“Aufwand”(労力)をいう表現を使って、〈風香〉が反応しているやりとりになっているが、これは同じ表現を使った繰り返しである。音の同一性を使ったことば遊びは再現できなかったが、〈風香〉が冗談を言っているというやりとりを表現したかったのではないかと考えられる。しかし、ことば遊び的な冗談のやりとりを意識した結果、やや不自然なやり取りになっていると言えるだろう。

(4-5e)では、程度のはなはだしさを表す“intense”という語を〈あさぎ〉が使ったのを受けて、〈風香〉は“in-tense”(張っている状態)と語を分解し、“intense”に含まれる“tense”(緊張している)を使って〈綾瀬家父〉の肩がこっていることを表現すし、表現の類似性から音の同一性を使ったことば遊びとして成立させている。また、内容自体も、肩たたき券を形容する表現と肩がこっているという内容をかけたものであり、日本語版のことば遊びと文脈を再現しているものである。

〈風香〉のことば遊びは〈あさぎ〉からはことば遊びという冗談の拒否、〈綾瀬家父〉からは好意的な評価を受ける。〈あさぎ〉の拒否はイラストであるため、翻訳による変更はできないが、〈綾瀬家父〉の評価は、ドイツ語版では、〈風香〉のことば遊びがやりとりとしてやや不自然なものになっていたのもあるためか、〈綾瀬家父〉の評価の前半部分もややつながりのわかりにくい内容に変更されている。なぜ高評価を表すために「いい大人になった」と内容を変えているのか理由は不明だが、高評価であることは変わらない。後半部分に関し

ては、面白いことを言った人に「座布団一枚」という日本のテレビ番組のルールに由来する文化的な内容を、「チケットを一枚進呈」というドイツ語版読者にもわかりやすい内容に置き換えて[188]、高評価の印象を与えている内容は変わらない。音の同一性を使ったことば遊びを再現することは出来なかったが、それでも同じ表現の繰り返しということば遊びめいた内容に翻訳されたのは、ことば遊びという冗談を受けた〈あさぎ〉と〈綾瀬父〉のそれぞれの反応が頬をつかむ、笑顔になるなどのイラストとして描かれていることにより、文字テクストの内容が冗談になるよう強制を受けているためと考えられる。

英語版ではことば遊びを成立させたことにより、〈あさぎ〉の拒否と〈綾瀬家父〉の反応が文脈的に自然になっている。この部分の英語版における翻訳の問題はむしろ、「座布団一枚」の文化的な事物に関する部分にあり、これは„cushion“（クッション）に注を付けて、テレビ番組のルールを説明することによって解決している。

この例では、英語版が日本語版のことば遊びをほとんど同じ内容のまま、音の同一性を持つ別の語に置き換えて再現することによって達成している。一方ドイツ語では、ことば遊びの再現は出来なかったものの、ことば遊びという冗談に対する反応がイラストに現れていることから、描かれた反応を得られるような文字テクスト内容に翻訳するよう迫られた結果生まれた翻訳であると考えられる。

翻訳版において、日本語版の文字テクストにはことば遊びのなかった箇所にことば遊びを追加した例もある。ドイツ語版において、そのような翻訳が見られる。

	(4-6j)3 巻、p.138	(4-6d)Bd.3, S.142	(4-6e)Vol.3, p.138
ジャンボ	花火大会は雨で中止です！	Das Fest fällt regenbedingt ins Wasser! Punkt! （祭りは雨でお流れです！終わり!）	The fireworks show is cancelled on account of rain! （花火は雨のせいで中止されました！）
よつば	おてんきだよ？	Aber die Sonne scheint. （でも日が照ってるよ）	But the Weather is nice! （でも天気いいよ）

例 4-6

花火大会へ行くために集合したところ、〈ジャンボ〉が同行したかった〈あさぎ〉は来ず、〈恵那〉と〈みうら〉がやってきた。それを不満に思った〈ジャンボ〉が、思惑通りに〈あさぎ〉とデートができなかったこと嘆き、捨て鉢に叫ぶ場面である。

(4-6j)においては、希望通り〈あさぎ〉とデートができない上に、子どもの面倒を見なければならなくなった〈ジャンボ〉が、絶望して事実と反することを捨て台詞のようにいい、祭りに積極的な気持ちが持てなくなったことを含ませたこの文字テクストが、(4-6d)においては、“ins Wasser fallen”「計画がお流れになる」という表現を使い、“regenbedingt”「雨によって」という語と水に関連する言葉ということば遊びを取り入れている。(4-6e)ではこ

188 この座布団という文化的事物についての分析は、すでに行った。例 1-20 を参照。

のような連想語を使ったことば遊びはない。

この〈ジャンボ〉の言葉に、〈よつば〉は「おてんきだよ？」と言葉通りに受け取った反応を返しており、〈ジャンボ〉の捨て鉢な気分や気落ちした様子を読み取っていないことが分かる。ドイツ語においては、日本語版と同じく情景を描写したもので、〈ジャンボ〉の気持ちを読み取っていない返答である。内容的には変わらないが表現が変えられており、「いい天気」を「日が照っている」と表現している。これは、〈ジャンボ〉の文字テクストに水関係の言葉を使ったことば遊びが含まれていることから、雨と太陽が照っている様子を対立させたことば遊び的な返答であると読み取ることも可能である。この〈よつば〉のことば遊びに応えるような返答も含め、〈ジャンボ〉のセリフにことば遊びを追加して翻訳したことにより、大人が子どもに向かって怒鳴るような大人げない行動を、より冗談らしいやりとりとして翻訳していると考えられる。さらに、自分の発言の最後に“Punkt”（ピリオド、終わり）とわざわざ付け足すことにより冗談らしいニュアンスが付け足されている。英語版ではことば遊びの要素はない。

ここから日本語版にないことば遊びを付け足すことによって、やりとりに冗談のニュアンスを加える効果を狙うことができると考えられる。この場面においては、大人が弱音を言う様子、子どもに付き合うことを嫌がる様子を見せている場面を、コミカルなものとして読ませる効果が出ている。

さらに、ことば遊びを付け足した例を見る。やりとりにコミカルなニュアンスを加えるだけでなく、会話参加者が冗談のやりとりするような親しさのある関係性であることを、ことば遊びを取り入れることによって示していると考えられる例である。

	(4-7j)11 巻、p.203	(4-7d)Bd.11, S.203	(4-7e)Vol.11, p.203
とーちゃん	どん兵衛？	Mal wieder Fertigfraß? （またインスタントエサ？）	Donbe-brand yakisoba? （どん兵衛の焼きそば？）
やんだ	ブー ペヤング	Genau, Nudelspaß. （その通り、麺のお楽しみ）	Bzzt! It's Peyang. （ブー！ペヤングだよ）

例 4-7

小岩井家にやってきた〈やんだ〉が持参した昼食のため、湯を沸かしているシーンである。湯を沸かしているのを見て、〈とーちゃん〉は〈やんだ〉の昼食の内容を予想して、「どん兵衛？」と尋ねるが、〈やんだ〉は「ペヤング」と正解を答える。

(4-7j)では、湯を使うインスタント麺の銘柄を言うやりとりになっているが、(4-7d)では、日本語訳には表しづらいが、“Fraß”（動物のエサ、粗末な食事）と“Spaß”（楽しみ）という脚韻を踏んだ音の類似性によることば遊びとして翻訳されている。

(4-7e)においてはことば遊びはない。ただし、英語版ではインスタントうどん・そばの商品名である「どん兵衛」を、インスタント焼きそばのブランドとして扱うという、文化的背

景の不理解による間違いが起こっている。しかし、前後の文脈やイラストにおける食い違いを引き起こすものではないため、日本のスタント食品に精通する読者でなければ特に理解には問題のない箇所である。

このドイツ語におけることば遊びの追加による効果を考えたとき、ことば遊び、冗談を会話参加者の協力によって成立させるという特徴から、会話参加者の〈とーちゃん〉と〈やんだ〉の関係性に注目する。この場面においては、〈とーちゃん〉から〈やんだ〉に対して“Fraß”（エサ、粗末な食事）という相手の食事を低い価値のものとして馬鹿にするような挑戦的な表現が使われている。これは、大津（2004）のいう遊びとしての対立の開始と取れる。それに対して、〈やんだ〉が〈とーちゃん〉の発言が遊びとしての対立であることを理解し、冗談を成立させるために“Spaß”（楽しみ）という韻を踏んだことば遊びで返答をしている。これは大津（2007）における冗談への反応のうち(2)模倣の手段を使っていると考えられる。また、ことば遊びの部分だけではなく、〈とーちゃん〉の質問に答える“genau”（その通り）という表現は、自分の昼食を馬鹿にするような発言を否定したり対立したりするのではなく許容し、これが遊びとしての対立であるというフレームを理解したメッセージであると受け取れる。

この例からは、ことば遊びを追加し冗談のやりとりを発生させることによって、発話参加者同士の親しい関係をメタ的に示すことができることが分かる。

最後に、音の類似性や同じ表現を使ったことば遊びではなく、冗談を介した関係性を描くごっこ遊び的な翻訳例を見る。

	(4-8j) 12 巻、p.134	(4-6d) Bd.12, S.134	(4-6e) Vol.12, p.134
恵那	よつばさん　あちらごらんになって？	Fräulein Yotsuba, sehen Sie doch nur diese Idylle dort. （よつばお嬢様、ぜひあの田園風景を見てください）	Have you seen the sight ‘cross the way, Yotsuba-san? （あの道の向こう側の景色がご覧になれて、よつばさん？）
よつば	あら　なにかしら？	O ja, wie prächtig! （もちろん、なんて素晴らしいんでしょう！）	Oh, whatever could it be?“ （ああ、いったいあれは何かしら？）
よつば	まぁかわですわ…！　なんてみずみずしい…	Sehen Sie doch nur. Ein Fluss. Mit Wasser. （ぜひ見てくださいね。川です。水と。）	My goodness, it’s a river! It looks so wet... （まあ、川だわ！とても濡れていそう…）
とーちゃん	なんだそれ	Warum sprecht ihr so? （なんで君らはそんな風に話してるの？）	What are you doing? （何やってんの？）
よつば	おじょうさまごっこですわ	Wir spielen Reiche! （お金持ちごっこしてるの！）	We’re playing fancy ladies. （空想のお嬢様ごっこしてるの）
恵那	ですのよ？	Adlige! （貴族！）	Can’t you tell? （そう見える？）
みうら	このへんはとてもいなかですわねー	Wir sind hier richtig auf dem Land, was? （ここは本当に田舎ね、そうじゃない？）	We’re so frightfully far from civilization. （恐ろしいほど都会から離れたとこに来たわね？）

よつば	いなかものがすんでますのね？	So leben hier also Bauern? （つまり、農民がここには住んでいるの？）	Is this where the country Bumpkins live? （ここは田舎者が住んでいる田舎なのね？）
みうら	あら いけませんわ お嬢様がそんなことをおっしゃっては	Wie ungehobelt, Fräulein Yotsuba. Nicht Bauern, sondern das gemeine Volk. （なんて不作法なんでしょう、よつばお嬢様。農民ではなくて、庶民よ）	Oh dear, a proper lady should not use such vulgar words. （まあ、礼儀正しいお嬢様はそんな下品な言葉を使うものではないわ）
よつば	あら // ごめんなすって	So? // Ich bin untröstlich. （そう？ // 相済みません）	Oh dear. // I'm ever so sorry. （まあ。 // 大変に済まなく思っておりますわ）

例 4-8

この場面でのことば遊びは、「お嬢様ごっこ」であり、丁寧語を基本とした言葉遣いが特徴である。言語能力の低い〈よつば〉の「お嬢様言葉」は所々不自然な部分が見られる。

(4-8d)においては、丁寧語の要素が„Sie“（あなた）という敬体を使ったやりとりによって表現されている。普段は„du“（君）という常体で呼び合う仲にもかかわらず、„Sie“をお互い使うことによって、距離を取って丁寧に喋り、それぞれの役を演じている。そして、演じている役割は、„Reiche“（お金持ち）及び„Adlige“（貴族）であると自称している。〈とーちゃん〉が子どもたちがなぜ話し方を変えたのか分からず、ごっこ遊びを始めたことを理解できないことを主張しているのも同じである。〈よつば〉の言葉の不自然さも、〈みうら〉による指摘と修正候補の提示のやりとりがあることと、„Ich bin untröstlich.“（慰めようもないです）という、やや古風で大げさな表現を使うことによって、「ごめんなすって」というおかしなニュアンスを表現している。また、川を形容した「みずみずしい」という語の選択の不自然さは、„Ein Fluss. Mit Wasser.”（川です。水と）という情報量のまったくない間の抜けた内容で表現している。

ただし、〈みうら〉による〈よつば〉の言葉についての指摘の内容はやや理解しづらいものになっている。日本語版では、「いなかもの」という〈よつば〉の言葉がお嬢様にふさわしくない乱暴な言葉であると指摘する内容であり、また具体的に修正候補は提示していない。ドイツ語版においては、„Bauer“（農民）という言葉が„ungehobelt“（不作法）であると指摘し、„gemeine Volk“（庶民）という言葉を修正候補として提示している。しかし、„Bauer“と„gemeine Volk“を比べた時、一般的な表現はむしろ„Bauer“であり、それと比べると„gemeine Volk“の方が上から見下すような表現である。表現のみを見るなら、やや不自然な付け加えである。ただし、„gemeine Volk“は普段使わないような表現であるため役を演じている風に聞こえる、また、演じているはずの„Reiche“（お金持ち）、または„Adlige“（貴族）としてふるまった場合に適切な語である可能性がある。

また、〈みうら〉の„~, was?“という表現は、砕けた口語的なものであり、丁寧さを表現している他の部分からやや浮いている。

全体的には、いくつかごっこ遊びから逸脱していると考えられる表現があるものの、敬体を使うこと、感嘆表現を入れることで普段の喋り方とは異なる「お嬢様ごっこ」をおおむね

再現している。

(4-8e)においては、助動詞や間投詞の多用によって丁寧語であること、普段と異なる話し方をしていることを表現している。また、使用されている形容詞も日常的な表現ではない。演じている役柄は、“fancy ladies”（空想のお嬢様）であり、それに即した話し方を再現していると考えられる。文字テクストの内容はほぼ日本語版に準じており、ドイツ語版と異なり〈みうら〉が〈よつば〉をたしなめる際に、語の修正候補を提示することもない。

以上の文字テクストからは、それぞれの言語において借り物スタイルを表す言語特徴は異なるが、この丁寧語を中心とした「お嬢様スタイル」を再現することは可能なようである。そして、ごっこ遊びを共有し、協力して演じるのは子どもたちであり、その関係性の外側にいる〈とーちゃん〉は何をしているのかわからない様子が表現されている。しかも、ごっこ遊びの開始は、直接開始を宣言するものではないにもかかわらず、会話参加者たちはごっこ遊びであることを理解した上で、自分も演じる役柄にのっとった話し方で参加する。演じるキャラクター像の共有、ごっこ遊びを協力して達成するやりとりは、背景知識を共有し、親しさから発生することば遊びの一例と言える。

５．１．３．考察

ことば遊びの翻訳について、まずそれぞれのことば遊びの形式に注目した。日本語版のことば遊びが音の類似・同一性から生じるものが多く、そのままの語や表現を使ってドイツ語版・英語版において音の類似・同一性を表現することは難しいことが分かった。外来語を使用しているなど、翻訳後の文字テクストにおいて使用する語が変わらない場合にのみ、全く同じ言葉遊びを再現することが可能である。

さらに、翻訳版において会話の中にことば遊びを表現するためには、ことば遊びを再現すること以外に文脈を阻害しないことが重要となる。そのために、日本語版のことば遊びが再現できないために削除する場合、その言語で作ることのできることば遊びに置き換える場合、文字テクスト上ではことば遊びを放棄し中で説明する場合などの方法で翻訳されていた。また、ドイツ語・英語でことば遊びを成立させる場合、単語末の韻を踏んだ音の類似性を使うものが目立った。

また、ことば遊びを取り入れたやりとりの効果は、大きく分けて二通りある。一つは、ことば遊びが何気ない言葉を特徴づけ、それにより文脈を再発見する効果を持つことから、『よつばと！』の作品テーマである「日常の発見」として読者に感じさせる、あるいは〈よつば〉の言語の未発達な子どもらしさを表現するものである。もう一つは、ことば遊びを含んだやりとりは冗談をいう行為である場合があり、冗談は会話参加者同士の親しさを表すものである。特に、ドイツ語版においてもともとことば遊びのない文字テクストにことば遊びを追加してある場面は、冗談の持つコミカルさが必要となるものであったり、冗談を言い合うような親しい関係性にある登場人物同士の会話であったりして、その親しさをことば

遊びによって表現していると考えられるものであった。

ことば遊びの翻訳は、言語形式の再現の難しさだけではなく、どのような場面で、あるいは関係性の中でことば遊びが現れるか、そしてことば遊びに対して相手がどのように反応するかというコミュニケーション上の問題も重要となると考えられる。実際の翻訳例からも、ことば遊びの形式だけではなく文脈上のやりとりのニュアンスや整合性を考慮して翻訳してあると考えられる部分があった。

５．２．皮肉表現の翻訳

ことば遊びは、会話参加者の親しい関係性から生じる遊びとしての対立として機能する場合があり、翻訳版においてことば遊びを追加することによって会話参加者同士の親しみを付加していると考えられる例があった。

こうした会話の中でのやり取りの流れ、会話参加者同士の関係性などから生じる雰囲気を翻訳版がどのように表現しているかを分析するために、皮肉のやりとりを含む文字テクストに注目する。皮肉のやりとりは、すでに扱ったことば遊びと同じように、前の行動や発話という文脈によって発生するという特徴が共通している。さらに、皮肉表現の表向きの表現が褒めの形を取ることが多くあり、褒めの出現は言語文化ごとに異なるといわれているため、翻訳への影響を見る。このような皮肉表現を含む文字テクストの翻訳例を通してその発話がどのような行為を行っているか、相手がどのようにその発話を受け取っていると考えられるかに注目して日本語版とドイツ語版の文字テクストを比較する。これは、ドイツ語版において皮肉表現を含む文字テクストが特徴的な出現をしているためである。具体的には、日本語版では皮肉表現を含む文字テクストと対応する部分から皮肉表現が削除されている、逆に日本語版は皮肉表現を含まない部分の文字テクストに皮肉表現が新たに表現されているなどの変更が見られる。英語版ではこのような目立った変更は見られないため、ほとんどの例では比較の対象外とする。

まず先行研究から皮肉表現の特徴と、皮肉表現であるという判断要素、皮肉表現の効果について先行研究から見る。日本語・ドイツ語の文字テクストの中から皮肉のように読めるテクストを取り出し、その行為・評価・態度などを比較するのにパラメーターを用い、日独の文字テクスト特徴を比較しながら分析する。

５．２．１．先行研究

ことば遊びにしろ、皮肉にしろ、字義通りのメッセージは表向きのものであり、その裏に真のメッセージを含み持たせることが可能であるという共通点がある。しかも、含まれる言外の意味は単独で生じるのではなく、それより前の行動や発話という文脈によって発生する。また、ことば遊びが言語形式に深く依存し直訳が難しい要素であった一方、皮肉はその字義通りの意味と意図する真の意味が乖離する表現であり、その受け取り解釈が出現する文脈に深く依存するという特徴を持つ。

そうした皮肉表現が翻訳されるとき、どのような表現として翻訳されるかを考察するため、先行研究では 2 つの観点から皮肉表現を分析する。一つ目の観点は皮肉の形式であり、対象とする文字テクストの種類を限定し、また、マンガ表現の中に現れる皮肉表現の特徴をとらえる。二つ目の観点は皮肉の効果であり、皮肉を言うことによってどのような効果が望まれるかを考察し、そこからどのような場面で皮肉が出現する傾向にあるかを見る。さらに、会話の流れから皮肉をとらえ、皮肉に対する返答がどのようなものになる傾向があるかを見る。

５．２．１．１．皮肉の形式

マンガ文字テクストに現れる皮肉表現をとらえるために、まず会話の中で何によって「これは皮肉だ」と判断しているのかについて考察を行う。

皮肉は、事実に反したことをいうことで、その裏に含まされた真意をほのめかす表現であるが、聞き手がそれをどのように皮肉と判断しているか、また話し手は自身の発言が皮肉であるとどのようにほのめかすのだろうか。

語用論的分析から、皮肉[189]の暗黙的提示理論を提案した内海（1997）は二つの点を挙げている[190]。(a)皮肉とは現在の発話状況が皮肉環境という 3 つの特性を持つ状況であることを聞き手に暗示的に提示する発話である、(b)しかし聞き手はこれらの 3 つの特性のうち少なくとも 2 つの特性を暗黙的に提示していると認識できる発話を皮肉であると見なす。皮肉環境の 3 つの特性は、（１）話し手の期待、（２）外観と実体のずれ、（３）否定的な態度であり[191]、皮肉環境を暗黙的に提示する条件は、（１）婉曲的言及、（２）語用論的原則の表面上違反、（３）話し手の心的態度、感情の暗示がある[192]。ここで、心的態度を暗示する標識の例として、言語的標識に誇張表現、感嘆詞、プロソディ、感情表出型の言語行為、終助詞、非言語的標識に表情、身振りを挙げている。

また、工学的に皮肉を検出しようとする滝澤（1992）が皮肉の条件を設定している。この研究は、談話理解システムの実現のため、言外の意味の理解・検出の研究のアプローチとして、皮肉を扱ったものである。皮肉を「言外の意味を強調するために、言内の意味と言外の意味とを正反対の関係にしている言語表現」と定義し[193]、特に文脈からの独立度の高い自足的皮肉を発話内容から検出するための判定を二つ設定している。一つ目は、言内の意味が状況と反対か、二つ目は言内の意味が賞賛的意味を持っているかである[194]。工学的検出の判定条件であることから、この二つの判定条件が「これは皮肉だ」と判断される単純な特徴であると言うことができると考えられる。

さらに皮肉に伴う現象について見ると、安井（1978）によれば、皮肉は大げさな変化や強勢のような音声上の特徴、さらに特定の終助詞や副詞、大げさな感嘆詞、敬語などの文型と言った言語的特徴の他、ウィンクや咳払い、微笑といった非言語的な特徴を伴うとしている

---

189 内海は、アイロニーの語を一貫して使っている。アイロニーには発話自体がアイロニーとしての意図を持つ「言語アイロニー」と状況設定自体がアイロニカル・皮肉的である「状況アイロニー」の二つの現象を含むとし、そのうち「言語アイロニー」を分析対象としている。さらに、皮肉は“sarcasm”の訳語として適切であり、皮肉がアイロニーによって伝達されることが多いが、皮肉を意図しないアイロニーもあるため、同一の概念でないことからアイロニーの語を使っている。他の研究においても「アイロニー」の語を使っているものもあるが、本論では「皮肉」の語を一貫して使うことにする。

190 内海彰（1997）「アイロニーとは何か？―アイロニーの暗黙的提示理論」、『認知科学』4(4)、p.99

191 内海、前掲書、p.103-104

192 内海、前掲書、p.104

193 滝澤修（1992）「アイロニーの検出について」、『情報処理学会研究報告自然言語処理』、p.58、情報処理学会

194 滝澤、前掲書、p.59

[195]。さらに、皮肉に対する反論には、韻律的特徴や相手の発話を否定する接続詞によって発話が切り出されるなどの特徴があるとされている。

皮肉を構成する音声上の特徴については、柳田（1994）や光本他（1996）の分析があるが、音声のない文字のみの媒体を読んでいるときであっても「これは皮肉だ」と読み取ることが可能である。音声の伴わないマンガにおける文字テクストにおいても同様である。文字のみの文学作品などと比べた場合、イラストがあり、表情などが描き込まれているマンガにおいては判断に際し情報量が多いといえる。

以上の先行研究から、皮肉の特徴は現状とそれを受けた発話の内容が乖離し、言外と言内の意味が正反対のものであることで、言内の意味は賞賛の意味を持ち、言外の意味を言語・非言語的な特徴によって示すことが分かる。

つまり、発話の行為は賞賛的なポジティブなもの、発話態度が否定的でネガティブなものであると定義できる。発話の行為は、発話の形式が賞賛に類するものであるかどうか、発話の態度は、終助詞や副詞、感嘆詞、敬語などの特徴の他、マンガの文字テクスト的特徴からは「…」、「！」、「？」や吹き出し・文字の大きさや形、などの疑似イントネーション、イラスト的な要素からは表情や仕草などから判断できると考えられる。

また、皮肉が表面的には褒めの形をとるため、ここで、「褒め」の場面研究についても触れておく。

様々な研究があるが、褒めの相互的な行為の側面から褒めの返答に注目した鈴木（2002）の分析を取り上げる。鈴木は、褒めという行為が、反論や批判の緩和、会話の開始、依頼の成功、そして皮肉の支援的行為であるとしており、社会的潤滑油的な働きをするとしている[196]。

褒めに対する返答行動を日米間で比べた場合、日本語では肯定・否定のどちらも明確にしない回避型が主流であり、英語では褒めを積極的に受け入れる肯定型が主流であるとされている。しかし、褒めの受け手が自画自賛を避けたい謙虚な気持ちが働くのは共通しており、謙虚さと褒めを友好的なものとして受け入れたいという心理的葛藤を解消させる方法が両言語にそれぞれ存在するということである。

この研究では、この前提を元に、日本語母語話者を対象に褒める対象を複数用意した実験状況を設定し、どのような褒めに対する返答が好ましいと感じるかを調査している。その結果、日本母語話者にとっても褒めに対する返答の曖昧さはあまり印象の良くない要素であるという結果が出た。また謙虚さの評価は、褒められる対象物によるとされる。ただし、この研究は調査対象が小規模であること、また褒めの対象を同性・同世代の友人と限定としたものであることから、全ての場合において当てはまるとはいえないが、肯定的発話に対してそれを好意的に受け取ったことを示すような反応を示す傾向にある。

---

[195] 安井稔（1978）『言外の意味』、研究社出版、pp.154-173

[196] 鈴木理恵（2002）「褒めの返答に対する褒め提示側の印象度分析」、『国際基督教大学学報. III-A、アジア文化研究』28、p.85、国際基督教大学

このような褒め行動が、表向きの形式として皮肉にも同様のものが現れ、目的を達成するための支援行為として働いていることは重要であると考えられる。

褒めの行為が言語ごとに受け取られ方が異なることから、褒めの出現する位置、頻度、効果も異なると考えられ、表面上は同じ形を取る皮肉にも同様のことがいえると考えられる。そのため、翻訳の際にこれらの条件が考慮されて、内容の変更が行われる可能性は十分にある。

皮肉の形式、その理解についてまとめると以下のようになる。まず、当該の発話の内容は褒めなどのポジティブなものであるにもかかわらず、対象とする現状は失敗や責められるべき要素などネガティブなものを含むこと。この乖離によって当該発話は言葉通りの行為、評価としてとらえられるべきではなく、むしろ遠回しに非難のようなネガティブな態度を表す表現であり、婉曲的に表現することによってネガティブな態度を弱める、あるいは強調するものとして用いられること。そして、当該発話が皮肉であると理解できる要素には、当該発話と対象とする現状の乖離の他に、通常と異なるピッチの変更などの発話の音声上の特徴や、大げさな表現や感嘆詞などの言語的特徴などがあり、発話者がそれらを用いて自分の真の態度が裏にあることを示すことが可能である。

皮肉の表面的な行為は褒めを伴うものであり、褒めに対して返答する行為が言語文化間で異なる出現をすることから、褒め自体の出現、効果も同様に異なることが予想される。そのため、日本語版とドイツ語版を比較し、出現位置が異なる翻訳例の分析を通してその差異を分析する。

発話の言内の意味は、褒めという行為と強く結びついているため、発話の行為を分析要素に含め、そのポジティブ・ネガティブの値を見る。また、皮肉的な言外の意味を表現する要素のうち、マンガテクスト上で表現可能なものとして、終助詞や副詞、感嘆詞、敬語などの言語的特徴、またウィンクや微笑などのイラスト的特徴を皮肉表現判断のための要素として用いる。

５．２．１．２．皮肉の効果

さらにここから、皮肉がやりとりに挿入されることによってどのような効果があるかについて考える。これは、皮肉表現がどのような場面に現れるかを考察するためのものであり、さらに翻訳版テクストにおいてどのように表現されるか、皮肉と置き換え可能な要素は何か、あるいは皮肉が新たに挿入される場合にはどのような場面に挿入することが可能かを考察するものである。

皮肉に似た行為として、からかいのやりとりをベイトソンのフレームという概念を使って分析したものに、水島（2006）がある。水島によればからかいと皮肉には異なる点がある。それは、からかいにおいてはからかう話し手とからかわれる相手が両方とも存在する談

話内の使用に限られることを指摘している。それに対して、通常の批判や皮肉は第三者などに向けて発することが可能である[197]。また、字義上のメッセージと真のメッセージとの乖離はからかいと皮肉に共通する点であるが、からかいは字義上のメッセージに攻撃性を持ち、見せかけの攻撃性から生まれるおかしみが真のメッセージであるのに対して、皮肉は字義上の表現では相手を褒める内容でありながら、真のメッセージは相手を責めるようなものであるという、表向きのメッセージと含まれたメッセージが表裏の関係にある。

この指摘からは、会話の参加者以外に皮肉が向けられる可能性を示唆するものである。

またすでに述べたが、皮肉を語用論的に分析した内海（1997）では、いくつかの先行研究から皮肉の効果について取り上げている。皮肉は、非難などの否定的な内容、冗談やユーモアのような肯定的な内容の大きく二つを担っており、それぞれを強める場合と弱める場合が挙げられている。そのほかにも話し手と聞き手の関係性から見た場合にはその親密性や、そこで語られる出来事の深刻性が関係するとされる。さらに内海（2003）では、特定の状況から解釈可能な出来事をほのめかすことによって、皮肉は話し手の態度を表明するものとし、その婉曲的な態度表明から場合によっては非難の度合いが強まるとしている。

皮肉の持つ攻撃性と聞き手のユーモア特性について秋元（2009）が論じている。ユーモア特性とは、上野（1992）が分類したユーモアの 3 つの表出のことである。一つ目は、自己や他者を楽しませることを動機とする「遊戯的ユーモア」、二つ目は他者攻撃を動機づけとする「攻撃的ユーモア」、三つ目は自己や他者を励ますことを動機づけとする「支援的ユーモア」であるとする[198]。秋元は、皮肉の持つ攻撃性と聞き手の持つ 3 つのユーモア特性の関係を分析している。その結果として、遊戯的ユーモア型群が皮肉を含む発話を聞いたとき、字義的な発話よりもネガティブさが低いと感じる傾向があった。つまり、ここからは皮肉がネガティブさばかりを示すわけではなく、受け取り方によっては冗談の度合いが高い皮肉というものがあり得ると考えられる。

さらに、桜井（1993）は皮肉を「政治的」な立場ややりとりの中からとらえた分析を行っている。桜井は、ポルナーのいう複数の世界の経験が競合する状態、「リアリティー分離」から起こるコミュニケーション上の問題を「政治的」に解決するための手段として皮肉という手法があるという立場をとっている。発話者は、多数の選択肢の中から自分のものの見方に沿ったものを選び取るが、それが正しいかどうかという「意味不安」[199]を持っており、それを皮肉が励起するとしている。皮肉をいわれたと感じた方は、相手のいうことを認めて自分の意見が正しくないことを認めるか、皮肉を無視することによって自分の愚かしさを押し通すかの二択を迫られることになる。この状況は、皮肉を言った方が皮肉をいわれる方よ

---

197 水島梨紗（2006）「日本語日常会話における「からかい表現」のフレーム分析」、『ヒューマン・コミュニケーション研究』34、p.55、日本コミュニケーション学会

198 上野行良（1992）「ユーモア現象に関する諸研究とユーモアの分類化について」、『社会心理学研究』7(2)、p.118、日本社会心理学会

199 桜井芳生（1993）「コミュニケーションにおける「皮肉」のポリティックス―「意味不安」による仮説的回答案―」、『鹿大史学』41、p.5、鹿児島大学

りも「政治的」に、つまり立場上優位に立つことを示すものとして働く。さらにそれにより、皮肉をいわれた方は、下の立場に置かれた上で自分の愚かしさを認めて正すか、愚かしさを突き通すかというダブルバインドに陥るため、皮肉に対して自然な返答がしづらい状況に立たされることが指摘されている[200]。このような桜井の分析によれば、皮肉の効果は直截的に言うより大きなインパクトを持つものであり、さらに返答が困難である、つまり返答が現れにくいという特徴を持つものになる。

これらの分析から、皮肉の効果は会話参加者、あるいは皮肉を発する発話者と皮肉を向けられる対象の関係性や状況の解釈によって、強い非難や婉曲的に弱められた非難、冗談めいたユーモアの 3 種の受け取りが可能であることが分かる。また皮肉的な発話を含む会話のシークエンスで特徴的なのは、返答が現れにくいことが挙げられる。

皮肉への返答がある場合、どのような種類のものが現れる傾向にあるかについては秋元他（2011）の分析がある。この研究では皮肉と肯定的発話への返答のしかたを並行して分析している。字義上は同じ肯定的発話でありながら、その違いを返答のしかたから分析しようとするものである。さらに、返答のしかたと性格特性との関係も調査しており、これはどのような性格・キャラクターの人物ならば皮肉に対してどのように答える傾向があるか、というキャラクター性と関わるものである可能性がある。

この研究では、実験的な環境において制作された物語に対して、話し手の意図とそのセリフに対する反応を選択肢から答える形の実験を行った。字義上は賞賛の発話に対して状況の設定は成功の行動に対するもの、失敗の行動に対するもの、そしてそれぞれの条件に話し手がその行動を目撃していたものと非目撃のものとで 4 種類である。

その結果、失敗した行動に対してそれを目撃していた話し手による発話、つまり皮肉ととらえられる発話の話し手の意図の理解度は、成功した行動に対して目撃・非目撃に関わらず発話されたもの、つまり賞賛であるものと比べてやや正答率が低かった[201]。分析では、一部の物語が適切に作成されていなかった可能性を指摘しているが、皮肉が「これは皮肉である」と理解されるためには発話参加者同士の状況理解という協力関係がなければならないため、その協力関係がいつでも成立するわけではないことを示しているとも考えられる。

また皮肉の発話に対する反応は、謝る、苦笑する、むっとするが主要な回答であり、肯定的発話に対しては謙遜する、お礼を言う、肯定する、笑うが多かったことから比較されている[202]。これは、聞き手が肯定的発話と皮肉を異なったものととらえて、皮肉の場合には褒めに対する典型的な返答パターンによる返答は選択しないことを示している。また特徴的な点として、皮肉に対して皮肉を用いて返答されることはほとんどないことが指摘されている。

---

200 桜井、前掲書、p.7

201 秋元賴孝、宮澤志保、杉浦元亮、川島隆太（2011）「皮肉や肯定的発話への返答のしかたと性格特性との関係」、『電子情報通信学会技術研究報告書. HCS, ヒューマンコミュニケーション基礎』110(383)、p.27、電子情報通信学会

202 秋元、宮澤、杉浦、川嶋、前掲書、p.27

そして、返答の仕方の傾向は、不安の高さ、慎み深さといった性格特性との相関関係があったと報告されている。しかし、常に性格特性が返答の仕方に同じような影響を与えるのではなく、文脈によって異なる影響が与えられていることが指摘されている。

皮肉に対する反応の返し方がキャラクター性と関わることは、ひいては会話参加者同士の関係性にも関わることと考えられるだろう。さらに、返答の仕方が異なるのは、皮肉がどのような効果を持つのかが文脈によって変わることとも関連すると考えられる。

以上の先行研究から、皮肉の効果はことば遊びと同じく遊びとしての対立という親密性を表すやりとり、相手を婉曲的に責め非難の度合いが弱まる、婉曲的に言うことでむしろ非難が強まる、という 3 つが考えられる。ここから、皮肉が現れる場面には親しい関係性、ユーモアによる非難の婉曲化または皮肉による非難の強調というやりとりが適切であるということが言える。

さらに、皮肉に対する反応としては、反応がそもそもない場合と、謝ったりむっとしたりするようなネガティブなものが主なものとして考えられる。ここから、皮肉の現れるシークエンスには、皮肉に対する返答が現れにくく、返答が現れる場合にはネガティブなものが現れるという特徴が考えられる。パラメーターでは、返答の有無、返答がある場合にはポジティブ・ネガティブの別を分析する。また、皮肉に対する反応の種類とその出現傾向は、皮肉を言われた方の性格やキャラクター性を表す可能性がある。皮肉の効果の判断に通じる部分でもあるが、皮肉のやりとりをしているキャラクター同士の関係性にも注目する。

５．２．１．３．発話に現れる態度

発話に現れる態度とは、具体的にはどのような概念を定義し、指すかについてこの項で示す。

発話における態度や立場がどのように発話や言語形式でにおて表現されるかについては、定まった概念はない。態度、スタンス、立場などの概念で呼ばれ、スタンスという概念の使用も、研究者によってまちまちである。

その中でも Du Bois（2007）によるスタンスの表示は、二つの主体と一つの客体から成る関係によって示される。主体（Subject）から客体（Object）に向けられる evaluation（評価）、客体を基準にして主体が自らを位置付けることを position（位置取り）、客体に対して評価し、客体から自らを位置付けている二つの主体同士の関係を alignment（アラインメント）としている。アラインメントは主体同士が構築する「連帯」・「同調」を表し、アラインメントをやめることをディスアラインメントとする。具体的には、一方の主体がもう一方の主体と異なる評価を客体に持つこと、あるは別の客体を対象とすることを指す。Du Bois はこの三者の間でそれぞれに向け合う以上のような要素が発話において現れているとし、そ

の発話を持って「スタンスを構築している」とした[203]。

本分析ではこのスタンスの理解を受け、文字テクストの内容、形式に依存するものを評価、文字テクスト上に現れない主体の客体に向けて示す位置取りを態度とする。

５．２．２．皮肉表現のパラメーター

ここから、実際の翻訳例の分析方法を決定する。

皮肉表現であると判断する要素の一つに、内海（1997）、滝澤（1992）当該発話の行為と対象とする現状、態度の乖離、また当該発話の行為はポジティブなもの、現状や態度は否定的なものであると指摘している。さらに、発話者が発話の裏に真の態度をにおわせる際、言語的・非言語的な特徴を用いることを内海（1997）、安井（1978）が報告している。ここから、分析対象の行為と評価、態度をパラメーターの項目とする。また、皮肉表現をいわれた側の反応に特徴があることを桜井（1993）、秋元他（2011）が指摘しているため、皮肉表現の直後の発話の行為、評価もパラメーターの項目に含める。また、直後の発話を分析に含め、会話のシークエンス全体から分析を行うため、シークエンス上の位置をパラメーターに含める。

これらの要素を発話行為や評価態度、シークエンス上の関係を元にしたパラメーターを用い、皮肉表現の翻訳がどのように対応しているかを分析する。パラメーターには以下の 4 項目を設定する。また、比較する翻訳例は基本的に皮肉を含んだ文字テクストの変更が目立つドイツ語翻訳版を用いる。

①行為、及び評価（日／独）
②態度（日／独）
③直後の発話の行為、及び評価（日／独）
④前後のつながり（日／独）

「①行為、及び評価」は、対象の文字テクストの行為を日本語・ドイツ語それぞれについて示す。判断基準は、文字テクストの内容・形式のみに依存する。また、行為が評価を含む場合あるいは評価が判定できる形容詞、副詞が含まれる場合は、合わせて＋／－で示す。

「②態度」は対象文字テクストの発話者の字義的意味以外の態度を、日本語版。ドイツ語版それぞれについて示す。文字テクストの「…」、「！」、「？」、吹き出し・フォントの形や大きさなどの疑似ピッチ、イラスト的な要素である表情や仕草などから判断し、ポジティブ・ネガティブな表現を＋かーで示す。

「③直後の発話の行為、及び評価」は対象の文字テクストの直後の発話について、どのような行為が行われているかについて、日本語・ドイツ語それぞれについて示す。これは、直

[203] Du Bois, John W. (2007) "The stance Triangle", Stancetalking in Discourse Subjectivity, evaluation, interaction. Ed.Robert Englebretson. Amsterdam / Philadelphia: John Benjamins Publishing Company. pp. 163-165

前の発話をどのように受け取っているか、対象の文字テクストが皮肉表現である場合と皮肉表現ではない場合と比較するための項目である。

「④前後のつながり」は対象文字テクストとその直後の発話との結びつきがどのようになっているかを示すため、隣接ペアになっているなどの強い結びつきがあるかどうかを日本語・ドイツ語それぞれについて○か×で示す。直後の発話が存在しない場合結果は必ず×である。これは、翻訳によってシークエンス上の位置が変化することがあるのかを見る項目である。

典型的な皮肉表現は、「①行為、及び評価」の評価＋に対して「②態度」がーとなるものである。

このパラメーターから、翻訳前後のやりとりの内容変更、また効果の変化を比較する。さらに、会話参加者同士の関係を関連させて分析を行う。

対象とする文字テクストは、日本語版文字テクストに皮肉表現を含むものと、ドイツ語版文字テクストに皮肉表現を新たに挿入したものの 2 種を抽出し、用いる。皮肉を含む文字テクストの翻訳では、英語版における大きな相違はほとんど見当たらなかったので一部の例を除いて比較は行わない。

５．２．３．実際の翻訳例分析

まず、ドイツ語版において皮肉の要素が削除された例を見てゆく。

	(5-1j)3 巻、p.11	(5-1d)Bd.3, S.15	
とーちゃん	よつばは動物園初めてだな　知ってるか？	Schließlich warst du nach nie dort. Na, was sagst du? （よく考えてみると、お前は動物園に行ったことなかったな。どうだ、行ってみたいか？）[204]	
よつば	り　りろんはしってる	I… ich kenne die Logik! （私…私論理は知ってる！）	
とーちゃん	理論知ってんのか　すごいな	We... Welche Logik? （ど…どの論理？）	
よつば	ライオンいるのか!? // しろくまは!?	Sind dort auch Löwen?! // Und Eisbären?! （そこにはライオンもいるの?! // それからシロクマは?!）	

例 5-1

	①行為、及び評価		②態度	③直後の発話の行為、及び評価		④前後のつながり
日	賞賛	＋	ー	確認を求める	×	×

[204] 次の〈よつば〉の反応の文字テクストにおいて、ドイツ語においても日常生活の中ではあまり使う機会のない „Logik“（論理）という語を使って翻訳したことによって、その答えを引き出した〈とーちゃん〉の質問も、„Na, was sagst du?“（どうだ、行ってみたいか？）と内容を変えている。この変更によって、やや分かりづらいやりとりになっているように考えられる。

独	質問	×	ー	確認を求める	×	○（不在）

表 5-1　(5-1)のパラメーター

(5-1j)におけるこの〈とーちゃん〉のセリフの「①行為、及び評価」は、行為は「賞賛」であり、評価は＋である。しかし、「③態度」を考えてみると、〈とーちゃん〉の姿はコマの中に後ろ向きの下半身部分しか描かれていないため表情はわからないが、腕に力が入らず脱力した様子であること、吹き出しやフォントが通常のものであることからも平坦な言い方であったと考えられ、文字通りの積極的な賞賛を表している訳ではないと考えられる。そのため、ーとした。対象文字テクストを字義的な表現から見た場合の「賞賛」、その行為が持つポジティブな評価を裏付け、強める態度ではない。

また、対象の文字テクストの反応を発生させた前の文字テクストの「りろんはしってる」は、〈よつば〉は口ごもっており、しかもその表情も猫のように瞳孔が縦に長く目を見開き、汗をかいているものであることからも、自信を持っていっているわけではなく、自分のいっていることも実は意味が分からないのではないかとさえ考えられる様子である。

動物園に行った経験のない〈よつば〉に「(動物園がどういうものか) 知ってるか？」と〈とーちゃん〉が訪ねたのに対する答えとしても、「りろんはしってる」は噛み合わない答えとなる。こうした文脈を見ると、表面上は賞賛の文字テクストであっても、実際の態度はーであると考えられる。

「③直後の発話の行為、及び評価」については、〈よつば〉が興奮しながら動物の名前を列挙して動物園にどんな動物がいるか「確認を求める」もので、評価の表現も含まない。また、この〈よつば〉の発話は、「りろんはしってる」といったにもかかわらず、どんな動物かいるかもわかっていないという〈よつば〉の発話のちぐはぐさを表し、「りろんはしってる」といった〈よつば〉の発話内容と事実関係の不一致を補強するものになっている。

「④前後のつながり」は、〈とーちゃん〉の賞賛によって、「りろんはしってる」の話題は一度終わり、〈よつば〉による当該文字テクストの直後の発話が新たに話し始めていると考えられるので、×とした。

以上より、(5-1j)が皮肉として読めるのは、対象とした〈よつば〉の発話と事実関係の食い違いがある状況で、〈とーちゃん〉が発した(5-1j)の文字テクストが表向きは賞賛の行為を取りながら、その態度が行為と不一致であるというパラメーターの結果から裏付けられた。

また、二人の関係性は親子、大人と子どもという親しく、上下の関係が発生するものである。日本語版におけるこのテクストは、自分の知らないことをしったかぶったり、難しい単語を使って見せるような〈よつば〉の子どもらしさへの呆れを含んだあしらいを弱い皮肉によって表していると考えられ、その効果は婉曲的な非難であると考えられる。

(5-1d)の文字テクストのパラメーターは、「①行為、及び評価」の行為は「質問」で、行為に付属する評価も評価的な語彙も含まないため、×とした。「②態度」はイラスト的な特徴から積極的に読み取ることは出来ない点は日本語版と同じだが、対象文字テクストに言い

直しと「…」という言い淀みがあることから、－とした。
「③直後の発話の行為、及び評価」は、日本語版と同じく、動物園にどんな動物がいるか「確認を求める」ものであり、評価的な要素は含んでいない。また、シークエンス的な位置、役割も日本語版から変更がない。

「④前後のつながり」は○とした。ドイツ語版では、〈とーちゃん〉のセリフが質問という行為になっている。これは〈よつば〉の発言が理解できなかったため、修復の開始[205]を行っているものであるであるためである。〈よつば〉の発言への戸惑いを、言い淀む、言い直すなどの発話の特徴からネガティブな態度を表しているものと考えられる。しかし実際は、〈とーちゃん〉が„Welche ...?“（どの…？）と訊いたのに対し、〈よつば〉はその質問に答えず、自分も質問で応え、質問―返答というペアの第二成分が不在の状態になっている。そしてこの〈よつば〉の質問を質問で返し、„I… ich kenne die Logik!“（私…私理論は知ってる！）という前の自分の発言と一貫しない様子が、〈とーちゃん〉の戸惑いの原因になっていることを補強している。

この例は、〈よつば〉の言語能力の低さ、あるいは子どもらしさから生じる頓珍漢な答えへの反応の文字テクストである。日本語版では弱い皮肉を用いることによって呆れ婉曲的に示し、子どものあしらいを行っているのに対し、ドイツ語版では質問によって修復の開始を行い、〈よつば〉の発言を理解できない戸惑いを直接的に表している。

ここから、理解のできない言動を取る子どもに対する反応として、婉曲的に呆れを表すか、直接的に戸惑いを示すかという代替対が見られる。そして、ドイツ語における翻訳の変更により、当該文字テクストと直後の文字テクストの関係性が変わっていることが確認された。

	(5-2j)3 巻、pp.170-171	(5-2d)Bd.3, S.174-175	
ジャンボ	おう！　10 個でも 20 個でも買ってやらあ！	Ja! Posaunt es hinaus! Ich kaufe euch zehn, zwanzig, wenn ihr wollt （わかった！宣言します！お前らが欲しいなら、十でも二十でも買ってやる！）	
みうら	次は何食べよ――	Was essen wir als Nächstes? （次に食べるのは何にする？）	
ジャンボ	よく食うなみんな！	Seid ihr denn gar nicht satt zu kriegen?! （お前たちは腹いっぱいになるということはないのか!?）	
よつば	あー！　きんぎょすくい！	Da drüben sind die Goldfische! （あっちの方に金魚がいる！）	
	（水槽の中の金魚が描き込まれているコマ）		

例 5-2

	①行為、及び評価	②態度	③直後の発話の行為、及び評価	④前後のつながり

[205] 修復の開始については、5.3.「何（だ）それ」の分析の先行研究を参考のこと。

日	賞賛	＋	ー	発見の報告	×	×
独	質問 （呆れの表明）	ー	ー	発見の報告	×	〇（不在）

表 5-2　(5-2)のパラメーター

(5-2j)の日本語版では、「よく食べる」という内容から、「①行為、及び評価」は、行為は「賞賛」、評価は＋とした。しかし、「②態度」は大きく開かれた口、汗をかいている表情から焦りや呆れが読み取れるため、ーとする。さらに、「③直後の発話の行為、及び評価」は直後の〈よつば〉のセリフが己の欲望に素直に従って興味を他に移し、〈ジャンボ〉を無視したものであることから、行為は「発見の報告」、評価は×である。さらに、「④前後のつながり」でもないので、×とする。〈ジャンボ〉のセリフに対する反応はこの場面で無視されたきり、次の金魚すくいの場面へと切り替わってしまう。

かかる費用がすべて〈ジャンボ〉のおごりであるにもかかわらず、「賞賛」の行為を取るという状況と言動の不一致、「①行為、及び評価」と「②態度」のパラメーターの食い違いから、この文字テクストは典型的な皮肉の特徴を備えている。

この文字テクストは、子どもたちが躊躇も遠慮もなく祭りの屋台を楽しんでいること、しかしおごるといってしまったのは自分なので表立って制止できないことといった文脈から、皮肉表現を使うことによって婉曲的に非難し、焦りや呆れを表していると考えられる。しかし、婉曲的な表現であることから〈ジャンボ〉の真の態度は周りから全く無視される。また、この場面は皮肉によって、大人から子どもに対して弱みを見せており、〈ジャンボ〉の立場の弱さが強調されるものとなる。

(5-2d)のパラメーターでは、「①行為、及び評価」は、形式は質問だが、「腹いっぱいになるということはないのか」という「いくら食べても満足しない」という答えを予期した構成になっているため、行為を「質問の形を取った呆れの表明」とし、評価をーとした。「③態度」はイラストから読み取れる表情からーである。ドイツ語版では行為を「賞賛」から「質問」に変更することによって、皮肉表現ではなくしているが、婉曲的に非難を表すという全体的な効果は変わっていないといえる。

「③直後の発話の行為、及び評価」は、日本語版と同じく〈よつば〉による「発見の報告」で、評価は×、〈ジャンボ〉の質問を無視したものになっている。しかしシークエンス上の位置は、〈ジャンボ〉の質問に対する答えが強く期待されているにもかかわらず、答えがないという特徴的な構成になっている。「④前後のつながり」は〇だが、答えの「不在」とした。

ドイツ語版では、「腹いっぱいにならないのか⁉」という「質問」が、直接的に非難するものではないが質問の構成が「まだ満足しない」という答えを予期し、焦りや呆れを表すものであり、態度と食い違いのないものになっている。そして、返答がないのはドイツ語の場合も同じで、〈ジャンボ〉の発言は全く無視される。

この例は、大人と子どもの間のやりとりの中で、自業自得ではあるのだが遠慮なくお金を使われ、大人である〈ジャンボ〉が子どもたちに対して呆れや焦りを見せ、日本語とドイツ語でそれぞれの表現を用いて自分の意志を表そうとしているものである。

日本語では、皮肉表現を使って表すことによって、自分が言い出したことながらも困っていることを表し、遠回しに弱い非難を表している。ドイツ語では、ネガティブな内容を表す質問の構成と態度を合わせ、やはり呆れや焦りを表しているものと考えられる。また、シークエンス上の構成にも差異が見られ、日本語版では皮肉に対して返答がないという状況であり、皮肉られた内容を肯定も否定もせず回避しているのに比べ、ドイツ語版では非難を含むが行為自体は質問の発話に対して返答がないという、答えの不在を強く感じさせる構成になっており、わざとでないにしろ〈よつば〉たちが〈ジャンボ〉の訴えに取り合わない姿勢が強く表現されていると考えられる。

この例から、遠回しの非難を表現するために、皮肉と非難を含んだ質問の代替対が確認された。また、文字テクストの行為を変更することで、シークエンス上の位置、発話同士の関係性を変更し、態度の強さを変更することが可能であることが明らかになった。

次に、ドイツ語版において日本語の文字テクストにはなかったにもかかわらず、皮肉のように読める文字テクストへ変更された翻訳例を見る。どのような行動やセリフの後に変更が行われているか、変更によってどのような効果がやりとりに生まれたかが分析の重要な点となる。

また、皮肉の表現が加えられた文字テクストの出現位置にも注目し、皮肉の後に返答がない例を見た後に、返答がある例を見る。返答がある例の場合には、どのような返答がされているのか注目して分析を行う。

	(5-3j)3 巻、p.130	(5-3d)Bd.3, S.134	
とーちゃん	よし じゃあゾウ見ながら弁当食うかー // その木陰で	Aber mir knurrt auch der Magen. Sollen wir uns dort hinzusetzen? // Unter den Baum? (でも[206]俺もおなかが鳴ってる。あそこにあそこに座ろうか？ // 木の下に？)	
よつば	おー くうー	Ja! Dann sehen wir auch den Elefanten! (うん！それならゾウも見る！[207])	
よつば	あ！ うんこした！ // でけぇ!!	Da! Er hat Kacka gemacht! // Gaaaanz viel ... (あれ！ゾウがうんちした！ // すーんごいいっぱい…)	
とーちゃん	(5-3j)言わなくていい	(3-3d)Danke für den Hinweis. (ご指摘ありがとう)	

206 〈よつば〉がゾウの気持ちを代弁する形で、自分が空腹であることを訴えた前の文脈を受けたもの。
207 ゾウが見えるところで昼食を食べることを提案するのが〈よつば〉に変わっている。皮肉の分析には特に関わらないが、〈よつば〉が初めて間近で見たゾウにこだわっている様子を文字テクストに反映した変更と考えられる。

例 5-3

	①行為、及び評価		②態度	③直後の発話の行為、及び評価		④前後のつながり
日	たしなめ	－	－	×	×	×
独	感謝	＋	－	×	×	×

表 5-3　(5-3)のパラメーター

(5-3j)では、「①行為、及び評価」は食事中にふさわしくない発言をした〈よつば〉に対する「たしなめ」であるとし、「言わなくていい」と相手の発言自体を否定する表現から、評価はーである。「②態度」は〈とーちゃん〉の表情が、目をつぶり、口を開けた呆れたものであるため、ーである。

〈よつば〉たちが動物園に行く話がこの場面で終わるため、これに対する〈よつば〉の返答はない。そのため、「③直後の発話の行為、及び評価」、「④前後のつながり」は×である。

(5-3j)では、食事中であるにもかかわらずゾウに夢中で、食事にふさわしくないことまで口に出して指摘してしまう〈よつば〉をたしなめるものであり、〈とーちゃん〉の呆れた様子を表現する文字テクストである。

(5-3d)では„Danke“（ありがとう）と言っていることから、「①行為、及び評価」の行為は「感謝」、評価は＋とした。しかし「③態度」は、〈とーちゃん〉の呆れた表情から、ーとする。

また、「③直後の発話の行為、及び評価」、「④前後のつながり」は日本語版と同じく存在しないため、×である。

ドイツ語版では、「たしなめ」という行為を「賞賛」に変更し、態度はネガティブなものにすることによって、文字テクスト全体として皮肉表現に変更している。この場面に皮肉表現を加えることによって、〈とーちゃん〉の呆れがより強調されるものと考えられる。

さらに、〈とーちゃん〉の呆れた様子が強調されたことによって、呆れの対象である〈よつば〉の言動の効果も強まると考えられる。ここで強まる〈よつば〉の言動の効果とは、自分の興味に忠実で場面にふさわしい話題を選ぶことのできない直情的な子どもらしさであると考えられる。また、ドイツ語版では、〈よつば〉の文字テクストにおいて„Kacka“（うんち）という口語的な表現を用いることからも、〈よつば〉の子どもらしさを表していると考えられる。

皮肉表現への変更は、行為の変更によって起こり、態度は変わらないという特徴がこの例から読み取れる。また、〈よつば〉の場の状況を無視して自分のいいたいことをいう子どもらしさと、それに対する大人の呆れというやりとりの効果を高めるために、皮肉がこの場面で用いられたのではないかと考えることができる。

	(5-4j)10 巻、p.56	(5-4d)Bd.10, S.56	(5-4e) Vol.10, p.56

やんだ	なんでたたきつけるんだよ！	Doch nicht so hinschmettern? （しかしそんなに叩きつけなくても？）	Why did you slam it down!? （なんで力いっぱい叩きつけるんだ!?）
よつば	ちょっとねらいが…	Knapp daneben... （もうちょっと横…）	My aim was bad ... （狙いが悪かった…）
やんだ	ホットケーキってそういうんじゃないから	Guter Vorhandschlag. Nur stehen wir in der Küche und nicht auf dem Tennisplatz. （いいフォアハンドだ。ただ俺たちはキッチンにいるのであって、テニスコートにはいないぞ）	Look, that's not how you do Pancakes. （見ろよ、それパンケーキのやり方じゃないから）

例 5-4

	①行為、及び評価		②態度	③直後の発話の行為、及び評価		④前後のつながり
日	叙述（非難）	－	－	×	×	×
独	賞賛、条件	＋	－	×	×	×
英	注意の促し、非難		－	×	×	×

表 5-4　(5-4)のパラメーター

(5-4j)における「①行為、及び評価」は、〈よつば〉のホットケーキを叩きつけるという行動と、ホットケーキ作りには不似合いな「ねらい」という言葉に対する「叙述」し、また「～ってそういうんじゃない」という構成から、本来の正しい状況を想定し、それと比較して〈よつば〉の失敗を指摘し「非難」行為であると考え、評価は－とした。「②態度」は、白い半円状に吊り上った眼、大きく開けられた口と垂れた汗から、〈よつば〉の言動に驚き呆れている様子が読み取れることから、－である。

この文字テクストの直後は、〈よつば〉が次のホットケーキを焼いている場面に移るため、〈やんだ〉に対する返答はなく、「③直後の発話の行為、及び評価」、「④前後のつながり」は×である。

(5-4j)では、「ホットケーキってそういうんじゃない」というやや婉曲的な指摘ではあるが、ホットケーキをひっくり返すのではなく叩きつけ、それを狙いの問題で説明しようとする、〈よつば〉のホットケーキを焼いているとは思えない言動に対する驚きや呆れを、弱めて表していると考えられる。

(5-4d)の「①行為、及び評価」は前半と後半に分けられ、前半部が「賞賛」であり、後半部は自分たちの現状を述べて、手放しの賞賛ではなく「条件付き」であることを表していると考えられ、「賞賛」の行為から評価は＋とした。この条件付けは、あくまで現状に反することを想定した賞賛である旨を付加している。「②態度」は、表情が呆れたものであることから－とする。

また前述の通り、この文字テクストの直後に場面の切り替えが起こり〈よつばの〉返答はないので、「③直後の発話の行為、及び評価」、「④前後のつながり」は×である。

ドイツ語版では、文字テクストの行為を、非難を含んだ叙述から賞賛に変えることで皮肉表現に変更している。これは、〈やんだ〉の呆れを強調するものであると考えられるが、賞賛の行為に条件を付けることにより、ただ単に呆れを強調するだけの表現に終始しないようにしていると考えられる。

それは、この場面より前に〈よつば〉がホットケーキ作りに失敗しているのを見た〈やんだ〉が〈よつば〉をからかい、泣かせてしまったという経緯である。〈とーちゃん〉が場をとりなし、〈よつば〉のやる気を再燃させ臨んだ仕切り直しの挑戦が、この例で取り上げた場面なのだ。ここから、〈やんだ〉が〈よつば〉に気を遣って、失敗の直接的な指摘を避け、字義上の表現だけでもひとまずは褒めるという文字テクストにしたのではないかとも考えられる。また、〈よつば〉と〈やんだ〉の子どもと大人という関係性から、上の立場から下の立場に対しての非難は強調されて聞こえる可能性があるため、〈よつば〉を一度は褒め、しかし婉曲的に失敗を指摘するという方策が皮肉の特徴と重なったという解釈が可能である。つまり、形の上で褒めたとしても失敗は失敗であるが、文字テクストにおいて現状に反した想定の場面の上では、と条件を付け加えることによって、〈やんだ〉の感じている驚きや失敗の指摘という行為を婉曲的に表し、弱めていると考えられる。

さらに、皮肉表現への変更に直接的にかかわる部分ではないが、この例文を引き出した〈よつば〉の弁明が向けられた〈やんだ〉の驚きの表現に用いられる„hinschmettern“（叩きつける）という語の、„schmettern“は投げつける、叩きつけるという一般の動作を表すだけではなく、テニスのスマッシュの動作にも使う表現である。この語を使うこと、また〈よつば〉のパンケーキをひっくり返す位置を狙うような発言によって、後のテニスの比喩を引き出すという意味の連想のことば遊びを含んだ文字テクストでもある。

この例では、英語版とも比較してみる。(5-4e)においては、文字テクストの前半と後半で二つのパートから成り立っており、前半の「①行為、及び評価」の行為は„look, ...“（…を見ろよ）という文字テクストの形式から「注意の促し」とし、後半の行為は「やり方が違う」という表現が正しいやり方を想起させる構成から「非難」、後半部の行為から評価はーとした。「②態度」は表情からーとした。

「③直後の発話の行為、及び評価」、「④前後のつながり」は、場面の切り替えが起こるためにそもそも直後の発話がない。この条件はどのバージョンでも変わらない。

(5-4e)では、婉曲的な非難を表す構成は(5-4j)と同様だが、行為を叙述から注意の促しを経た非難へと変えている。〈よつば〉のホットケーキの焼き方についてその失敗へ注意を向け、積極的に非難するという点が異なっている。この現状と正しい状態を比較する構成を持っているところは、(5-4j)と同じである。

この例は、(5-4j)においては呆れを示すものから、(5-4d)においては皮肉表現を使い、呆れの強め、あるいは前の文脈を受けて一度は褒めることによって非難を弱める効果を狙ったものと考えられる。またお互いの言葉から連想される表現を使ったことば遊びの要素を入れることで、両者が協力して冗談を作り上げるという親しみから生じる協力関係、明るくふ

ざけた雰囲気を盛り込んでいる。また、(5-4e)においては、注意を促してから非難を行うという、大人が子供の失敗を指摘するという両者の関係性の特徴が反映していると考えることができる。

この例から、直接的な非難を避けるための方策として、叙述や指摘の構成を婉曲的にすること、または表面上は褒めるが言外に失敗したことを表し、結果として皮肉と同じ形式にすることが代替可能表現として現れている。また態度を表明する要素がイラストに限定され、翻訳版で変更不可能な要素だけであっても、表現の選択が可能であることが分かる。

	(5-5j)10 巻、p.64	(5-5d)Bd.10, S.64	
とーちゃん	ホラやんだ もっと食えよ	Yanda, red nicht, iss. (やんだ、喋るな、食え)	
やんだ	食ってるよ！ スゲー食ってる 大体あんたが全部食うって言ったろ!?[208]	Tu ich doch! Ich schaufel mir einen Pfankuchen nach dem anderen rein! Du warst doch der Tausend- Pfankuchen-Mann[209]! (してるよ！パンケーキを次から次へシャベルですくうみたいに掻き込んでるよ！あんたは千のパンケーキマンなんだろ！)	
とーちゃん	なんか食いすぎて頭痛くなってきてさ	"Ich bin satt und hab Kopfschmerzen." (おなかいっぱいだし、頭痛くなってきた)	
やんだ	(5-5j)知らねーよ！	(5-5d)Na, herzlichen Glückwunsch! (そりゃおめでとう！)	
	(よつばがパンケーキをパンケーキをほおばる様子)		

例 5-5

	①行為、及び評価		②態度	③直後の発話の行為、及び評価		④前後のつながり
日	拒否	ー	ー	×	×	×
独	祝福	＋	ー	×	×	×

表 5-5 (5-5)のパラメーター

(5-5j)における「①行為、及び評価」は、〈とーちゃん〉の自分勝手な言い分に対する理解の「拒否」であり、その評価はマイナスである。さらに、〈やんだ〉の表情は〈とーちゃん〉に反論しているときは、吊り上った白い半円、大きく開けた口という怒りの表情だが、〈とーちゃん〉の主張を聞いてからは眉根を寄せ、汗が垂れていることから呆れた表情に変わっている。ここから「②態度」はーである。

208 〈よつば〉の失敗を〈やんだ〉がからかった結果、〈よつば〉は泣きだし拗ねてしまう。〈とーちゃん〉はあるだけの生地を作ってもっと焼くようにいう。〈よつば〉はそんなに焼いても食べられないと主張するが、〈とーちゃん〉は「とーちゃん本当は // ホットケーキ大好きマンだ！」(あずまきよひこ (2010)『よつばと！』10 巻、アスキーメディアワークス、p.53) と宣言し、ホットケーキを全部食べられると反論する。それを聞いた〈よつば〉は、再びホットケーキ作りに挑戦する。

209 日本語版における「ホットケーキ大好きマン」に当たるドイツ語版の翻訳語。

「③直後の発話の行為、及び評価」、「④前後のつながり」は、このやりとりの後には〈とーちゃん〉と〈やんだ〉の言い合いをよそに、おいしそうにホットケーキを食べている〈よつば〉の様子を描いてホットケーキ作りの話が終わるので、続く文字テクストがないため×である。

ここから、日本語版においては拗ねた〈よつば〉を説得するためにたくさん焼いても自分が全部食べると言い切ったにもかかわらず、あっさり態度を翻し、食べすぎで頭痛がすると言い訳をしてホットケーキの消費を押し付けてくる〈とーちゃん〉に対する呆れと非難を直接表現するものである。

今までの例と異なるのは会話参加者同士の関係で、子どもと大人ではなく、大人同士になっている。しかし、〈やんだ〉は〈とーちゃん〉の後輩であると紹介されており[210]、本来の上下関係では〈とーちゃん〉が年上の立場である。その関係性が逆転して、大人げない〈とーちゃん〉と、その〈とーちゃん〉に対して理解を放棄し、反論する姿勢すら放棄する〈やんだ〉とのふざけたやりとりになっている。二人の親しい関係性から生じるコミカルなやりとりである。

(5-5d)の「①行為、及び評価」では"herzlichen Glückwunsch!"（おめでとう）という定型句を使った「祝福」を行い、その評価は＋である。しかし、呆れた表情から「③態度」は－とする。また、祝福する対象が〈とーちゃん〉の食べ過ぎによる腹痛であることから、事実関係と言動の不一致が見られ、典型的な皮肉の特徴を持っている。

「③直後の発話の行為、及び評価」、「④前後のつながり」については、日本語版と同じく、ホットケーキ作りの話がこのやりとりを持って終わるため、×である。

この皮肉表現によって、〈とーちゃん〉の呆れが強調される他に、非難が強まると考えられる。前の例とは異なり、皮肉が向けられるのは子どもではなく大人であり、しかも、〈とーちゃん〉は自分が責任を取るといっていたことを翻すという大人げないことをしていることについては前述した。このような文脈から、非難の気持ちを強めて表現する手段として、皮肉が用いられていると考えられる。該当の文字テクスト以外にも、〈とーちゃん〉の責任を強く問う表現として、〈とーちゃん〉自身が持ち出した„der Tausend- Pfankuchen-Mann"という表現を使っていると考えられる。そして強い非難を含ませながらも、表向きには相手を祝福して見せることで、〈とーちゃん〉のしらを切ってとぼけた様子に合わせて協力的にコミカルさを演出していると考えられる。

この例では、(5-5j)では率直に呆れと非難を表しているのに対し、(5-5d)では皮肉表現を使うことによってむしろ非難の気持ちを強調したものになっている。また、腹痛を訴えて自分の責任をとぼける〈とーちゃん〉に対して、表向きは褒めてみせることで大人同士のコミカルなふざけたやりとりを表現していると考えられる。

皮肉を新たに挿入する文字テクストの位置に関して、会話参加者の関係性が重要であり、皮肉の効果もそれ以外の場合とは違って受け取ることできるとこの例から確認できた。大

[210] あずまきよひこ（2006）『よつばと！』5巻、アスキーメディアワークス、p.73

人同士の皮肉を含んだやり取りは、強い非難として受け取れる。しかし子どもと大人の関係では、むしろ(5-4d)のように非難を弱めるために皮肉と同じような表現として挿入されると解釈できる。ここから、皮肉の解釈や効果は、会話参加者の関係性が大きく関わり、言語版ごとに登場する場面が異なることが考えられる。

ここまでの例は、全て皮肉を含んだ文字テクストの直後で場面が変わったり、皮肉が無視されたりして皮肉に対する返答のない例を扱ってきた。

ここから、ドイツ語版において皮肉表現の追加が行われる文字テクストは、場面の切り替わりによって文脈が途切れ、皮肉に対する返答が存在しないところ、あるいは返答に当たる位置に文字テクストがあっても内容的に皮肉が無視され返答がないところを選んで置き換えられているのではないかと考えられる。そしてその効果も、皮肉表現が担う、呆れや驚きなどの態度の強調や、遊びとしての対立を通し冗談のようにコミカルな雰囲気を持たせることがあった。その他に、皮肉表現を積極的に使っているというよりは、表向きはポジティブな評価を持つ行為によって、非難を婉曲表現にするという方策が皮肉表現と一致するのではないかと考えられる例もあった。

どのような効果が現れるかについては、皮肉をいう方といわれる方がどのような立場同士か、それまでの文脈がどのようなものかによって異なる。主に、子どもを交えた関係と、大人同士の関係が関わることが分かった。

最期に、追加された皮肉表現を含む文字テクストに対して、返答の文字テクストのある翻訳例を見る。ここでは、皮肉をいわれた方がどのように皮肉を受け取っているかをどのように翻訳文字テクストに反映させているかに注目する。

	(5-6j)2 巻、pp.127-129	(5-6d)Bd.2, S.127-129	(5-6e)Vol.2, pp.127-129
風香	あっらー？ // もしかして泳げませんでした？	Jetzt sag bloß... // … du kannst nicht schwimmen? （ってことは… // 泳げないの？）	Ohhh myyy… So sorry. // Can you noy swim? （あらー…そのー…ごめんなさいねえ。// 泳げないんですか？）
風香	小岩井さん！ジャンボさんってカナヅチなんじゃ!?	Herr Koiwai, haben Sie gesehen, wie hilflos Jumbo im Wasser um sich geschlagen hat! （小岩井さん、見ましたか、水の中に叩き込まれたジャンボさんがどんなに途方に暮れたか！）	Koiwai-san! Could it be that Jumbo-san sinks like a stone? （小岩井さん！これはジャンボさんが石みたいに沈んだということでは？）
とーちゃん	カナヅチは別に悪い事ではないと思う	Ich finde es keineswegs schlimm, Nicht-schwimmer zu sein. （泳げない人がいても全然悪い事はないと思う）	Well, I don't think there's anything particularly wrong with that. （そう、特にそれについて悪い事はないと思うけど）
	（風香、とーちゃんをプールに突き落とす。とーちゃんが泳げないことに笑っていると、よつばが風香をプールに突き落とす。風香、泳げない）		

とーちゃん ジャンボ	おめーもカナヅチじゃん	Willkommen im Club. （クラブにようこそ）	You can't swim either. （お前も泳げないじゃん）
風香	はっ すみません	Danke … （ありがとう…）	I know. I'm sorry. （わかってます。すみません）

例 5-6

	①行為、及び評価		②態度	③直後の発話の行為、及び評価		④前後のつながり
日	気付きの叙述	－	－	認める、謝罪	－	○
独	歓迎	＋	－	感謝（受け入れ）	＋	○
英	気付きの叙述	－	－	認める、謝罪	－	○

表 5-6 (5-6)のパラメーター

(5-6j)では、泳げないことを馬鹿にした〈風香〉自身が泳げなかったことに〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉が気付き、気付いたということを叙述する内容で、「①行為、及び評価」は行為を「気付きの叙述」とする。また、単なる叙述ではなく、「カナヅチ＝泳げない人」というマイナスイメージの語を含むため、評価はーとする。「②態度」は、この文字テクストのあるコマでは二人とも後ろを向いているため表情はうかがえないが、この前のコマでプールから上がってくる〈風香〉を見下ろす二人の険悪な表情からーとする。また、「②態度」の判断は、該当文字テクストのあるコマに背景などが全く描かれておらず、真っ白であることから、険悪な雰囲気を表していると考えることもできる。

〈風香〉による「③直後の発話の行為、及び評価」は、「はっ」と〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉の指摘を認め、その後に続いて「謝罪」していると考える。また、評価は「謝罪」という行為から、ーであるとする。「④前後のつながり」は〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉が気付きを叙述することによって〈風香〉が泳げない事実を指摘し、〈風香〉が指摘された内容を認めるという結びつきであるので、○とする。また、その態度についても、横向きの白い楕円の目、開いた口、顔や体に描き込まれた汗[211]などからネガティブなものであると考えられる。

この文字テクストは、〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉の強い怒りを率直に表すものであり、また泳げない自分たちを馬鹿にしながら実は自身も泳げなかった〈風香〉への強い非難を表している。それを受けて〈風香〉は指摘を認めることで二人の怒りと非難を受け入れ、謝罪をしている[212]。

(5-6d)の「①行為、及び評価」は、„Willkommen in …“（～へようこそ）という表現から「歓迎」とし、その行為から評価は＋とした。しかし、「②態度」は前のコマでの表情、真っ白な背景と、文字テクストでは明示していない勧誘した先の„Club“（クラブ）とは「泳げ

[211] プールから上がった直後なので体が濡れている表現である可能性もあるが、表情との一致を考えて汗と判断した。もしこの記号が汗でなかったとしても、表情から判断される態度はーのままである。

[212] この部分の文字テクストは、吹き出しではないコマの地の部分にレタリングされている。これは、実際に口に出して交わした会話ではないが、それぞれの思惑が伝わりあっている様子を表すものと考えられる。

ない者の集まり」を指すと考えられ、そのネガティブな印象からーとする。また、〈風香〉の「③直後の発話の行為、及び評価」は„Danke“（ありがとう）という勧誘に対する「感謝」である。「感謝」しているだけではなく、勧誘への「受け入れ」を表していると考えられる。また、態度についていえば、積極的に感謝し、勧誘への受け入れをポジティブに捉えているのではないことが、„...“というセリフに続く余韻から読み取れる。「④前後のつながり」は、歓迎に対して勧誘への受け入れのやりとりになっているため、〇とする。

表面上は賞賛でないながらも、勧誘というポジティブな評価を表す行為でありながら愛度はネガティブなものであるという特徴は、皮肉表現であると考えていいだろう。この皮肉表現によって、〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉の〈風香〉への非難を強めていると考えられる。その上、「泳げない者の集まり」への「歓迎」という行為を取ることによって、泳げない自分たちを笑った〈風香〉も同じ立場であることを認めさせようとするものである。

(5-6)に対する〈風香〉の反応も、日本語版では「謝罪」によって、「自分も泳げないのを棚に上げて泳げない者を笑う」という二人からの指摘に従って、自身の非を認める行為であったのに対し、ドイツ語版では「勧誘」に対して「感謝」し、つまり「勧誘」を受け入れる態度を示すことによって、自らの意志で「泳げない者の集まり」に自分から参加を認めるものに変わっている。しかし、その態度はポジティブなものではなく、ネガティブなものであり、皮肉に対して皮肉で返すやりとりになっている。〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉の皮肉を認め、しかも相手の皮肉の様式に乗って自身も皮肉表現を使うことで、〈風香〉が自分の愚かさと非を認めている効果であると考えられる。

また、これまでの例と比べて特徴的なのは、〈風香〉が〈とーちゃん〉・〈ジャンボ〉より年下ながら、小さな子どもとして扱う年齢は過ぎていることから、大人同士という関係性であると当人同士が意識している可能性である。つまり、(5-5)と同じように強い非難を表すために皮肉を挿入したと考えられる。ただし(5-5)と異なるのは、はっきりとした非があるのは〈風香〉であるため、コミカルな調子より非難の深刻さを表現していると考えられる点である。

また(5-6e)では、「①行為、及び評価」は„can't swim either“（同じく泳げない）というマイナス評価を含む事実に対する気付きを叙述した当該文字テクストに対する返答があり、「③直後の発話の行為、及び評価」において〈風香〉の返答の前半部分、「はっ」に当たる部分が„I know.“（わかってます）と指摘を「認める」行為に続いて、„I'm sorry.“という「謝罪」を行っている。この構成は(5-6j)と同じものであり、積極的に自分から非難の受け入れを行う表現として翻訳していると考えられる。

このような皮肉に対する返答がある例では、皮肉を受け入れて自分の非を認めるという文脈を保ち、また自分の非を認める態度を強く表す効果を出したと思われる部分に、皮肉を追加した翻訳が行われていた。ここからも、皮肉の表現を追加した文字テクストの翻訳は挿入する位置と皮肉の持つ効果を合わせて吟味して行われていると考えられる。

５．２．４．考察

本項では、皮肉表現を含む文字テクストを分析するため、まず先行研究から皮肉の形式と会話の中での効果を見た。

皮肉表現の形式は、本論で対象とする皮肉を言外の意味と言内の意味の食い違いによるものであり、言内の意味は褒めなどのポジティブなもの、言外の意味は責めなどのネガティブなものを示す。そして発話者の真意は言外の意味にある。皮肉に伴う表現として、終助詞や副詞、感嘆詞、敬語などの言語的特徴、またウィンクや微笑などのイラスト的特徴を皮肉表現判断のための要素として用いることが可能である。

皮肉の効果は親密性を表すやりとり、相手を婉曲的に責め非難の度合いが弱まる、婉曲的に言うことでむしろ非難が強まる、という 3 つが考えられる。ここから、皮肉が現れる場面には親しい関係性、ユーモアによる非難の婉曲化または皮肉による非難の強調というやりとりであると考えられる。さらに、皮肉に対する反応として、反応がそもそもない場合と、謝ったりむっとしたりするようなネガティブなものが主なものとして考えられる。

これを受け、発話の行為と評価、態度、皮肉表現を含む文字テクストに対する返答に注目したパラメーターを設定し、分析に用いた。それぞれのパラメーターは、判断元を別々に設定し、またその判断基準が明確になるようにした。

皮肉は、字義上の意味と裏の真のメッセージとの乖離があることから、基本的には直接的な表現を使うよりもネガティブな意味が強調されて受け取られる可能性がある。そこから、大人と子どもの間のやりとりにおいて、大人から子どもへの皮肉が強い非難を含まないよう、ドイツ語版翻訳において皮肉表現が削除されるのではないかと考察される。

しかし、皮肉表現がネガティブなメッセージを強調するだけではなく、からかいや言葉遊びといった協力関係の中で生じる「遊びとしての対立」を生じさせる場合もある。その時には、非難や呆れといった態度は弱まり、むしろ親しい関係性やコミカルなやり取りとしてとらえられる。しかし、今回集めた翻訳例からはそのように分析できる例が多く見つかり、特に大人と子どもの間のやりとりにおいても、非難や呆れを弱めるために表向きは褒める表現を使う皮肉のやりとりを用いていると考えられる例があった。

もちろん、翻訳版において皮肉を非難の強調の効果を狙って追加したと考えられる例もある。そのときには、皮肉に対する返答により、自分の非を認める態度を強く出すという効果が認められる。また、その際の会話参加者同士の関係性は大人同士のときであると考えられる。

皮肉表現を他の表現に置き換える場合に特徴的なのは、当該文字テクストと直後の文字テクストの結びつきの強い行為を表す文字テクストに置き換え、返事がないという不在を強く印象付けるやりとりに変更していることである。この変更によって、シークエンス上の位置が変化し、当該の発言を含むやりとりが次の話者によって無視されている印象を強め

ている。この印象の変更が、皮肉表現が表わしていた婉曲的な非難を置き換えたものであると考えることができる。

皮肉表現を新たに挿入する場合には、その位置が重要である。それは、皮肉を受け取るにしろ無視するにしろ、皮肉に反応するというだけで皮肉が成立し、皮肉をいう方といわれる方の立場に上下が発生するためである。そのため、皮肉に対しては返答がない場合が多いとされており、翻訳版において皮肉が挿入される場合には、皮肉表現を含む文字テクストに対する反応が存在しない箇所が多い。返答が存在する場合には、その返答によってより強いニュアンスが期待できる例であると考えられる。

皮肉表現の発生とその効果には、会話参加者同士の関係性と、皮肉表現より前の文脈が強く影響している。今回の分析において目立ったのは、〈よつば〉を代表とした子どもの関わる関係性であった。

ここから、皮肉表現の翻訳のパラメーター分析を通して明らかになったのは、皮肉表現への置き換えは、非難を含んだ他の行為の代替として用いる、直接の非難を避けるなど、発話の行為と結びついた非難の効果によって起きると考えられる点である。これは翻訳の際の内容の変更とは、発話の行為が変更されることを指すのではないかという指摘となる。

さらに、行為を変更することによって、シークエンス上の役割を変更して返答の不在を強め、発話を無視する態度を強く表すことができるのではないかという点が挙げられる。一方シークエンス上の位置は、文字テクストを挿入できるスペースが吹き出しなどによって制限されているために変更されづらいと考えることもできる[213]。

また、翻訳に際して優先して保持される要素は態度であるといえる。繰り返しになるが、翻訳文字テクストの内容が変更されたといった場合に、変更されているのは行為の要素であり、態度は保持されることを示す。

ある表現が解釈される要素には、会話参加者の人間関係が大いに関係することも、分析を通して明らかになったといえるだろう。

これらの特徴から、会話的な文字テクストが表わすコミュニケーションの形として、もっとも変更されやすいのは行為であり、シークエンス上の位置も変わる場合がある。それらの変更を受けても保持されるのは態度であった。

[213] 連続した吹き出しの中の文字テクストを入れ替えて翻訳している例がドイツ語版に少ないが見られる。このような例がシークエンス上の位置を変えることを可能にしているという見方もありえる。

５．３.「何（だ）それ」の翻訳

対象の文字テクストには、文化的事物も含まれておらず、内容も日常的な範囲に収まるもので、表現も単純であり、翻訳に困難を抱えるとは一見思われない文字テクストであっても、内容を変更して翻訳する例が見られる。そのような文字テクストは、なぜ内容の変更が必要であるとされたのだろうか。そのような場合に、問題とされているのはコミュニケーション上の意図、役割であると考え、発話の行為や態度、シークエンス上の役割から説明することを試みる。

作品の中から「何（だ）それ」という文字テクストを日本語版から採取し、その中から何例かを使ってドイツ語版と比較分析を行う。「何だそれ」という発話が出現する文脈によって、ドイツ語版では内容を変えて翻訳されている例が見られる。こうした翻訳の変更が起こるのは、この文字テクストが多様な意図と役割をもって会話の中で発される発話であるためてあると考え、「何（だ）それ」を対象とした。

「何（だ）それ」が言葉の表面的な意味だけではなく、他にどのような相互行為が行う発話であるかについて考察し、どのような翻訳の変更が行われているかを分析するため、発話行為論や会話分析的要素から設定したパラメーターを用いて比較分析する。

まず「何（だ）それ」が担いうる行為、シークエンス上の位置について先行研究から見る。そこから発話行為論と会話分析的な要素からパラメーターを設定し、実際の翻訳例を分析する。大きく分けて、翻訳の際に内容が大きく変わっている場合と変わっていない場合とでそれぞれ分析する。大きく内容の変化のない英語版の比較はしない。

５．３．１．分析に用いる会話分析的要素―シークエンス

皮肉表現の分析からも明らかなように、文字テクストのコミュニケーション上の意図と役割を分析する要素には大きく二つのものがある。一つは、対象となる文字テクストが会話の中でどのような行為を行っているかである。もう一つは、会話の流れの中で対象の文字テクストが前後の文字テクストとどのような関係性にあるかである。

「何（だ）それ」という発話の行う行為・役割について考察するため、前後の文字テクストとの関係性の中から隣接ペアという概念について見る。

ある発話が会話の流れの中で前後の発話とどのような関係性にあるかについては、シークエンス（sequence）の概念がある。ある瞬間において会話は、時に重なりが生じることもあるが、おおむね参加者の中の誰か１人だけが話す。ある時点まで発言すると、話者が交代し、発言する。会話は発話の連なりであり、その発話の連鎖をシークエンスと呼ぶ。本項で特に注目するのは、隣接ペアと呼ばれる発話対である。

隣接ペアとは、エマニュエル・シェグロフとハーヴィー・サックスによる会話がどのように終了するかという研究の中で提示された概念である。その定義は、「（１）二つの発話から

なり、（2）この構成成分としての二つの発話は隣接した位置に置かれ、（3）各々の発話をそれぞれ別の話し手が生成する」[214]というものである。例えば、「質問」という発話に対しては「返答」というペアが形成される。また、このペアの先に来る成分を有する発話を「第一対偶成分」[215]、後に来る発話を「第二待遇成分」と呼び、さらに「（4）各対偶成分に相対的な順序が存在し（すなわち、第一対偶成分が第二待遇成分に先行する）、（5）ある対偶成分はもう一つの成分を特定化する関係にある（すなわち、ある第一対偶成分を構成要素としている対偶様式は、どのような第二待遇成分を選択したらよいのかに影響を与える）」[216]と定義される。そして、この第一ペア成分には、サールが「発語内行為」と呼んだものがしばしばくる。

さらに隣接ペアの特徴は、隣接ペア第一ペア成分が会話中で発話された場合、第二ペア成分を含んだ発言が強く次の会話順番において期待されるという点である。しかも、次の順番に第二ペア成分が来ない場合、第二ペア成分の発話内容が何らかの理由で故意に保留されているように聞こえ、その不在が強く認識されることになる。

こうした隣接ペアという概念をもって、対象文字テクスト「何（だ）それ」というテクストを見ると、文字テクストの形式が「質問」を構成しているため、隣接ペア第一ペア成分の可能性がある。ここで、確実にこの文字テクストが隣接ペア第一ペア成分であると言い切らない理由については後述する。さらに、この「何（だ）それ」という「質問」を行為する文字テクストがどのようなシークエンス上の役割を担うかについて、次の項で見る。

５．３．１．１．修復の組織

「何（だ）それ」と「質問」するということは、その対象についてのなんらかの理解に関するトラブルがあったと考えられることもある。会話において、聞き取りや理解についてのトラブルがあった場合に行われる対処のメカニズムを考えるのが、「修復の組織」と呼ばれている領域である。

エマニュエル・シェグロフ、ゲール・ジェファソン、ハーヴィー・サックスによって、この「修復の組織」について分析した研究がある[217]。そこでは修復という行為についての定義、また修復行為の開始について、修復の技法について詳しい議論がなされているが、本項では必要な部分について概観するにとどめる。

---

214 サーサス，ジョージ、ガーフィンケル，ハロルド、サックス，ハーヴィー、シェグロフ，エマニュエル（1989）『日常性の解剖学――知と会話』北澤裕・西阪仰訳、マルジュ社、p.185

215 ここでは„pair“が「対偶」と訳されている。本論では「ペア」の訳語を用い、「第一ペア成分」、「第二ペア成分」の語を用いる。

216 サーサス、ガーフィンケル、サックス、シェグロフ、前掲書、p.186

217 サックス，ジェファソン、シェグロフ，エマニュエル、ジェファソン，ゲール（2010）『会話分析基本論集――順番交替と修復の組織』西阪仰訳、世界思想社、pp.155-246

修復の組織は、まず修復という行為を開始する主体によって、大きく 2 つに分類できる。つまり、会話においてトラブル源[218]を産出した発話者自身によるものと聞き手によるものとの 2 種類で、それぞれを修復の「自己開始」、「他者開始」と呼ぶ。本論で対象とする「何（だ）それ」が修復を開始しているとすれば、「他者開始」となる。

また修復の組織には、開始についての議論だけではなく、その技法についての議論もある。「自己開始」・「他者開始」それぞれの開始位置について技法があるが、シェグロフらによれば「他者開始」についての技法には次のようなものが指摘されている[219]。

イ）非限定の質問：「え？」、「何？」など
ロ）カテゴリー限定的質問：「何」以外の質問語できているもの
ハ）位置限定質問：質問語に加えてトラブル限の前後を繰り返すもの（「何大学？」など）
ニ）部分的繰り返し：トラブル源を限定し、その部分を繰り返すもの
ホ）理解候補の提示：先行する発話に対する理解候補を提示する（「○○ということ？など」）

これら 5 種類の「修復の他者開始」の技法の中には、「何（だ）それ」に当たる分類がない。最近シェグロフにより、「狙いのある質問」とでも言うべき「○○って何？」というパターンも発見されており[220]、「何（だ）それ」はこれに近い。

また、修復の技法を使うことによって、驚きを表現できることについても言及がある。

また、修復の活動は、発話行為的には「質問」であり、これは隣接ペア第一成分でもある。そのために、修復の行為である「返答」という隣接ペア第二成分を強く期待する。しかし、修復が開始されたからといって修復活動が必ず成功するとは限らず、失敗されたり放棄されたりすることもある。そのため、「返答」が必ず来るというわけではない。

とにかく、もし「何（だ）それ」が修復の他者開始として発話された場合は、隣接ペアの概念も含め、修復の活動を行う「返答」が強く期待される。もし「返答」がない場合は、その不在が強く認識されることになる。

「何（だ）それ」が修復の開始を行い、「質問」という隣接ペア第一成分となる行為を持つとき、質問に対する「返答」を強く期待するという特徴があることが分かった。さらに次項では、「何（だ）それ」という文字テクストが隣接ペア第一成分を構成せず、返答を期待しない場合について見る。

---

218 「トラブル」と「トラブル源」は異なるものを指す。「トラブル源」は修復活動の対象となったものを指し、「トラブル」とは「トラブル源」を原因として引き起こされた現象を指す。
219 サックス、シェグロフ、ジェファソン、前掲書、pp.179-186
220 西阪私信

５．３．１．２．セルフトーク

対象テクスト「何（だ）それ」が「返答」を強く期待しないために、返答がなくても自然であるようなやり取りを構成する場合もある。これは、発話の行為自体は「質問」の形を取りながら、「独り言」をいっている場合である。

アーヴィング・ゴフマンによる「セルフトーク」（self-talk）という概念がある。「セルフトーク」は、「口に出して話し、自分自身に話しかけ、自分自身の意見の受取人と計画された唯一のものとして自分自身を構成する。または、自分自身の名前を呼び、現在発話を受け取ることができない誰かへの意見を言う。これはセルフ・コミュニケーションであり、とりわけセルフトークとする。」[221]と定義されている。さらにセルフトークが発話された場合、聞き手は普通返事をしないとしている。

このセルフトークが単なる「独り言」と異なるのは、「独り言」が完全に聞き手の存在を想定せず、発話者自身に作用するものであるのに対し、セルフトークは必ず周りにいる他者、つまり聞き手との関係の中で受け取られるものであるという点である。「独り言」が発話者自身だけのものだとするならば、セルフトークは「他者に聞かせるための「独り言」」なのである[222]。

例えば、周りに人がいる中で声を出して本を読んだりすると、無教養な人間だと思われかねない。しかし、口に出してセルフトークをするということで逆に達成することのできる行為もある。セルフトークを行い、口に出して自分の感情を表現することによって周りの人たちに自分自身がどのような期待を抱いているか、弁明をすることができるのである[223]。

「何（だ）それ」という文字テクストがセルフトークであるような場合、「何だそれ」と声に出して発言することによって、何らかの感情を相手に示そうとしている場合であると考えられる。

「何（だ）それ」という発話が示す行為や意図と密接にかかわるのは、隣接ペア第一成分となるかどうかというシークエンス上の位置であることが以上の先行研究から明らかになった。また、シークエンス上の位置を決定するのに、質問か質問の形を取ったセルフトークかといった発話の行為がかかわる。これらの要素を項目に持ったパラメーターを次項で設定する。

パラメーターを用いて、日本語版の「何（だ）それ」という文字テクストに対してドイツ語版で内容が変更されて翻訳される際、どのような行為・意図または態度が保持されているのかを比較分析する。

---

221) Goffman, Erving.(1981) *Forms of Talk*, University of Pennsylvania Press, p.79
222) Goffman、前掲書、p.96
223) Goffman、前掲書、p.86

５．３．２．分析パラメーターの設定

本分析で用いる分析パラメーターを決定する。「何（だ）それ」という文字テクストが持ちうる意図・役割を明らかにし、ドイツ語版ではどのような内容に変更されているか、保持された要素は何かを比較する。

日本語の「何（だ）それ」という発話は、シェグロフらが報告した修復の組織における修復の開始を行う質問であり、隣接ペアの第一成分を形成する場合と、ゴフマンが定義した他人に聞かせるための独り言、セルフトークである場合がある。これら二つの違いは、発話の行為とシークエンス上の位置から判断が可能である。この二つの項目をパラメーターに含める。

また、皮肉表現分析の際に翻訳が変更されても保持される要素として、態度があった。「何（だ）それ」の文字テクストにおいてはどうなっているか比較のため、態度をパラメーターに含め、文字テクストの表現、吹き出しや文字の形状、表情といったイラスト的な要素から判断する。

①形式（日／独）
②行為、及び評価（日／独）
③態度（日／独）
④直後の発話の行為、及び評価
⑤第一ペア成分（日／独）

「①形式」は、日本語版文字テクストにおいては、「何（だ）それ」を対象とするため、必ずこの項目は「質問」になる。ただし、質問の形式をとりながら困惑・非難の表明を行うという発話も考えられる。その判断については、次の「②行為、及び評価」の項目と合わせて判断するものとする。また、特にドイツ語版で内容が変更されて変更されたときどのような文の形式に変更されているかを比較するための項目でもある。判断の基準は、文の形式に依存する。

「②行為、及び評価」のパラメーターは、「何（だ）それ」の文字テクストの行為を、日本語・ドイツ語それぞれについて示す。判断基準は、文字テクストの内容により、質問かそれ以外かを判断し、質問の場合には修復の開始、それ以外の困惑・非難などの表明として表す。パラメーターの結果が困惑・非難の表明の場合は、セルフトークを行っていることを表す。また、評価を含む形容詞や副詞などの表現を含む場合は、＋／－で示す。日本語の場合の評価は、「何（だ）それ」は評価表現を含まない「質問」の文字テクストであるため、必ず×とする。

「③態度」は、リアルタイムの会話分析においては声の調子や笑いなどの要素も関係してくるため、マンガではその代替表現になると考えられる、文字テクストの「…」、「？」、「！」

などの表現、吹き出し[224]やフォントの形や大きさ、表情などのイラスト的な要素から発話者の態度を判断し、ポジティブな場合は＋、ネガティブな場合はーと示す。日本語・ドイツ語共に結果を示す。

「④直後の発話の行為、及び評価」は、対象の文字テクストの直後の発話について、行為とその評価をについて、日本語・ドイツ語それぞれについて示す。評価はポジティブな場合は＋、ネガティブな場合はーで示す。そもそも直後の発話がない場合には×と示す。

「⑤第一ペア成分」は対象の文字テクストと直後の発話の関係性を、シークエンスの観点からの分析を表すものである。対象とする「何（だ）それ」の文字テクストが隣接ペア第一ペア成分であり、返事を求めている場合には○、そうでない場合には×で日本語・ドイツ語それぞれについて示す。

このパラメーターを使い、当該文字テクストが出現する文脈での役割・意図を日本語の場合とドイツ語の場合で比較する。特に、ドイツ語版において内容の変更が行われる際、どの要素を保持した変更になっているかを比較分析するものである。英語版では、「何（だ）それ」にかかわる文字テクストの翻訳において、大きな内容の変更が見られないため、比較対象外とする。

５．３．３．「何（だ）それ」の翻訳例

ドイツ語版において翻訳の内容が変更されている場合とされていない場合に大きく分け、分析を行う。これは、「何（だ）それ」の役割や意図の別によって翻訳の変更が行われているという仮定に基づき、実際はどのような翻訳の操作が行われているか分析するものである。

５．３．３．１．内容が変更されていない場合

「何（だ）それ」の内容が変更なく翻訳されている例について分析を行う。内容の変更がないと判断した具体的な翻訳例は、どの例でも„was“（「何」を尋ねる疑問詞）から始まる文字テクストになっている。

	(6-1j)7 巻、p.36	(6-1d)Bd.7, S.37
とーちゃん	とーちゃんと買い物行く時みたいに交通ルールを守って安全運転だぞ？	So wie, als wir einkaufen waren Papa… … werde ich alle Verkehrtregeln beachten! （私たちが買い物行った時みたいにね、パパ…すべての交通ルールを守るよ！）
よつば	わかっぱ――!!	Aye, aye, Herr Kapitän! （アイ、アイ、キャプテン殿！）
とーちゃん	…なんだそれ	... Was soll das denn? （一体なんだというんだ）
よつば	いまかんがえた	Ist mir eben eingefallen.

[224] 声が大きかったり激しい口調になったりすると、角のある吹き出しを使ってそれが示されることがある。

		（今ちょうど思いついたやつ）

例 6-1

	①形式	②行為、評価		③態度	④直後の発話の行為、評価		⑤隣接ペア
日	質問	困惑の表明	ー	ー	説明	×	×
独	質問	困惑の表明	ー	ー	説明	×	×

表 6-1　(6-1)のパラメーター

一つ目の例(6-1)は、「①形式」は日本語・ドイツ語共に「質問」である。「②行為、及び評価」は、日本語・ドイツ語共に行為が「質問」の形を取っていながら、唐突な〈よつば〉の言動に対する「困惑の表明」行っていると考え、ーとした。

(6-1j)の「③態度」については、後ろを向いているため表情からは判断できないが、発話の頭に言い淀みの沈黙が「…」と入ることからーとする。

シークエンスの観点から、直後の〈よつば〉の発話は、〈とーちゃん〉の質問に対する返答のようにも見える。しかし、「いまかんがえた」という内容は直前の自分の発話について「説明」はしているが、「それは何だ」という質問に本質的に答えるものではないと考えられる。よって、「④直後の発話の行為、及び評価」の行為は「説明」、評価は×とし、「⑤隣接ペア」は×とする。

一方(6-1d)では、質問を和らげ、不快や非難などの感情を帯びさせる場合のある心態詞„denn“や抗議的反問を表す助動詞„sollen“の使用から、ーの評価が読み取れる。「③態度」の項では、表情が読み取れないのは同じだが、やはり発話の頭に„...“という言い淀みがあることから、〈とーちゃん〉の呆れの感情が読み取れるため、ーとする。

シークエンスの観点から見ると、(6-1b)の„Ist mir eben eingefallen.”（今ちょうど思いついた）という答え方は、その内容は(6-1j)とほとんど同じながらも“j[3] einfallen”（人[3]の心に浮かぶ）というモノを主語にした表現[225]が使われていることで、〈よつば〉が自分の„Aye, aye, Herr Kapitän!“（アイアイ、船長殿！）という唐突な冗談が「今思いついたものだ」と「説明」しているようにとれる。単なる言語間の言語形式の違いによる差異であると考えることもできるが、話題のモノを中心とした答え方であると考え、(6-1d)の直後の発話は〈とーちゃん〉の質問に対する答えているものとする。しかし、当該文字テクストの〈とーちゃん〉の発話が質問の形を取っているだけで返事を求めるものではないと考え、「④直後の発話の行為、及び評価」は、行為は「説明」、評価は×、「⑤隣接ペア」は×とする。

このやりとりは、 〈とーちゃん〉の発した「何（だ）それ」という対象文字テクストが〈よつば〉の冗談に対する修復の開始であるようにも見えるが、直後の〈よつば〉の反応は(6-1)の「質問」に対する隣接ペアの「答え」にはなっていない。故に、(6-1)は「質問」の形

[225] 文中では主語が省略されている。

をとっているが、返事を求めないセルフトークであると考える。この〈よつば〉の返事は、(6-1)に対する答えているのではなく、(6-1)と〈とーちゃん〉がいうことによって示した呆れの感情を読み取り、その困惑に対して自ら説明をしていると考えられる[226]。(6-1d)の場合には、〈よつば〉が〈とーちゃん〉の発言を質問であると取り、自分から積極的に答えているという風に、若干やりとりの解釈に違いが生じる翻訳になっている。

この例は、日本語版における質問の形を取ったセルフトークの「何（だ）それ」をドイツ語版においても全く同じ行為、形式を使って翻訳してあるため、全ての項目が合致しており、翻訳によって変更された項目はないといえる。

	(6-2j)7 巻、p.43	(6-2d)Bd.7, S.44
みうら	いいか？ 誰にも言うなよ？//秘密だぞ	Du darfst es keinem verraten. // Es muss geheim bleiben! （誰にも言っちゃだめだぞ。//秘密にしておかなきゃいけないよ）
よつば	うん… わかった	Geht klar. Hab verstanden. （うん。わかった）
よつば	わかっぱー!!	Aye, aye, Kapitän! （アイ、アイ、キャプテン！）
みうら	え!? なにそれ!?	Hä? Was soll denn das? （えっ？いったいそれはなんだ？）
	（満面の笑みを浮かべる〈よつば〉）	
みうら	なんだ？	Was denn? （一体なんだ？）

例 6-2

	①形式	②行為、評価		③態度	④直後の発話の行為、評価		⑤隣接ペア
日	質問	修復の開始	×	ー	×	×	○（不在）
独	質問	修復の開始	×	ー	×	×	○（不在）

表 6-2 (6-2)のパラメーター

次の例は、(6-1)の場面の後の展開で、〈よつば〉と〈恵那〉が自転車で出かけ、〈恵那〉の友達である〈みうら〉と合流した場面である。思いついた冗談が気に入ったのか、〈よつば〉は〈みうら〉とのやりとりでも「わかっぱー!!」を使い、初めてそれを聞いた〈みうら〉も「何だそれ」と反応する。

「①形式」は共に「質問」である。しかしこの例は、(6-1)の例とは異なり、〈みうら〉は答えを期待し、「質問」している。そのため、日本語・ドイツ語共に「②行為、評価」の行為は「質問」、評価はマイナスとする。この行為を補強する根拠として、直後の発話との関係、シークエンス上が関わるため、それぞれの項で考察する。

〈みうら〉が後ろを向いているため、表情はうかがえない。(6-1)とほとんど同じ文字テ

[226] このときの〈よつば〉の表情が、白目の多い省略的な目の全体的なとぼけた表情として描かれていることからも、〈よつば〉自身も自分がふざけていたことを自覚しているように見える。

クスト対になっているが、違いは(6-2j)「え!?」と(6-2d)„Hä?“という間投詞があることであり、どちらも驚きの強調を表す。また吹き出しも角のあるものになっており、(6-2j)では大きい文字、(6-2d)では大きめの文字で太字になっていることから、強い語調・大きな声で驚いていると考えられる。この驚きはポジティブなものというよりは、突然理解できない冗談をいった〈よつば〉をとがめる気持ち、いぶかしみや戸惑いを含んでいると考え、「③態度」はどちらもーとした。

シークエンス上の構成として、この文字テクストが修復の開始かセルフトークのどちらであるかを考えたとき、その一つの判断材料として間投詞が挙げられる。それぞれの文字テクストにおいて、発話の頭に置かれたそれぞれの間投詞は、驚きを強調する効果と、返事を促すような効果がある。

さらに後の会話も見る必要がある。この会話がある次のコマで〈よつば〉が〈みうら〉が持っている一輪車に視線を向ける場面が描かれており、さらにその次のコマでは〈よつば〉が言葉を発さずに笑い、〈みうら〉が日本語版では「なんだ？」、ドイツ語版では„Was denn?“（一体なんだ？）という。これらの一連のやりとりから、〈よつば〉の興味が一輪車に移ることで気が散り、それまでの会話の流れが断ち切られ、(6-2)に対する返答を放棄したように描かれていると考えられる。ここから、日本語・ドイツ語共に「④直後の発話の行為、及び評価」は存在せず、×である。

つまり、(6-2)で〈みうら〉が修復の開始を行ったのだが、〈よつば〉による修復の操作はされず、修復が失敗した形である。そのため「質問」に対する「返答」が不在である状態と考え、「⑤隣接ペア」は日本語・ドイツ語共に○である。

この例は、「何（だ）それ」が修復の開始をしたものの、隣接ペアの第二成分は来ず、修復が失敗したやりとりであり、日本語版とほとんど同じ表現、形式を使ってドイツ語版でもそのやりとりが再現されている例であると考えられる。

	(6-3j)9 巻、p.110	(6-3d)Bd.9, S.110
ジャンボ	よつばはとーちゃんの料理で何が一番好きだ？	Und was ist dein Lieblingsgericht, Yotsuba? （それで、一番のお気に入りはなんだ、よつば？）
よつば	カレー！//とーちゃんのカレーはせかいいちうまい！	Curry mit Reis! // Papas Curry ist das beste der Welt! （カレーライス！//パパのカレーは世界一！）
よつば	あとソーセージどん	Und Würstcheneintopf. （それと「ソーセージ煮込み」）
やんだ	ソーセージ丼!? 何それ!?	Würstcheneintopf?! Was´n das? （「ソーセージ煮込み」?! なんだそれ？）
ジャンボ	それはどんなのだ？	So ein Eintopf halt. （まあ煮込み料理みたいなやつだろう）
よつば	ソーセージとー のりとー めだまやきとー//はいってる	Mit Würstchenund Spiegelei auf Reis. Sehr lecker. （ソーセージと目玉焼きをご飯に載せたもの。すごくおいしいよ）
やんだ	おいおいなんだよそれー！ 超うまそうじゃん！	Das ist ja die reinste kulinarische Offenbarung! （本当にそれは一番純粋なグルメの天啓だな）

例 6-3

	①形式	②行為、評価		③態度	④直後の発話の行為、評価		⑤隣接ペア
日	質問	修復の開始	×	ー	返答（説明）	×	○
独	質問	修復の開始	×	ー	返答（説明）	×	○

表 6-3　(6-3)のパラメーター

次の例は、〈よつば〉が〈とーちゃん〉、〈とーちゃん〉の友達の〈ジャンボ〉、〈やんだ〉と焼肉を食べに来た場面での会話である。〈ジャンボ〉に〈とーちゃん〉が作る料理の中で一番好きなものは何かと訊かれた〈よつば〉が「ソーセージ丼」を挙げる。それに対して、〈やんだ〉と〈ジャンボ〉がそれぞれそれは何かと尋ねているが、〈やんだ〉が「何だそれ」という尋ね方をしている。

(6-3)における日本語・ドイツ語共に「①形式」は「質問」である。そしてこの例の場合には、日本語・ドイツ語共に答えを期待する単なる質問であると考え、「②行為、及び評価」は、行為は「質問」、評価は×とする。

(6-3)の文字テクストは、(6-3j)「ソーセージ丼!?」、(6-3b)„Würstcheneintopf?!“という前半部と、 (6-3j)「何それ!?」、(6-3d)„Was'n das?“後半部から構成されている。前半部は直前の〈よつば〉の発言の（ニ）部分的繰り返し、後半部は「何」・„was“から始まる狙いのある質問である[227]。どちらも修復の開始の技法であり、この場合の修復開始の技法は驚きの感情を表している。この驚きの感情は、「ソーセージ丼」という未知なるものを聞きとがめたものであると考える。〈やんだ〉の表情も尖った白抜きの目であり、怒ったように見えるものとなっている。またイラスト的表現としては、頭の上に横向きの雷のような記号が描き込まれており、これも驚きを表している。「③態度」は日独共にーである。

シークエンスの観点から見ると前述したように (6-3)は修復を開始する第一ペア成分であり、それに対して〈よつば〉は「返答」しており、(6-3j)、(6-3d)共に「ソーセージ丼」が何かを説明している。「④直後の発話の行為、及び評価」は、行為は「返答」、評価は×とする。質問―返答の隣接ペアが成立しているため、「⑤隣接ペア」は日本語・ドイツ語共に○である。

さらにこの後の文字テクストを見ると、〈よつば〉の説明を聞いた〈やんだ〉は、白い上弦の半円の目、上向きの眉、口を開けて責めるような表情をしているものの、〈よつば〉の言う「ソーセージ丼」及び„Würstcheneintopf“についてポジティブな評価表現、態度を表している。(6-3)の文字テクストの評価表現と態度がーだったことと合わせて、この展開においては〈やんだ〉が非難めいた驚きを表していたが、本心はポジティブな態度でいたという印

[227] (6-3)の直後の〈ジャンボ〉の発言は、日本語版では「それはどんなのだ？」となっている部分がドイツ語版では „So ein Eintopf halt.“（まあ煮込み料理みたいなやつだろう）となっており、ドイツ語版では「質問」という第一ペア成分ではなくなり、翻訳の変更が起こっている。この文字テクストの行為を考えると、「推測を述べる」であると考えらえる。

象の裏切りが日本語、ドイツ語どちらの文字テクストにおいても起きていることが分かる。この印象の裏切りによって、素直な反応をしない〈やんだ〉の子どもっぽさが強調されているように読むことが可能である。

この例でも、日本語版で「何（だ）それ」の文字テクストが持っていた発話の行為・態度やシークエンス上の位置は、ドイツ語版でほぼ同じ表現によって再現されている。

本項で見た内容に変更のない「何（だ）それ」の翻訳例では、日本語版の持つ「何（だ）それ」の行為や表す態度、シークエンス上の位置は、ドイツ語版においてもほぼ同じ表現を使って再現されていることが分かった。またそのとき、「何（だ）それ」の働きは修復の開始、セルフトークのどちらの場合もあることが明らかになった。

５．３．３．２．内容が変更されている場合

本項では、「何（だ）それ」と言う文字テクストの翻訳に内容の変更のおきている場合を取り上げて分析する。パラメーターから当該発話の行為、表す態度、シークエンス上の位置を比較し、どの要素が変更され、保持されているかを比較する。また、「何（だ）それ」がどのようなシークエンス上の位置を持つ鳥変更が行われるのかについても注目する。

	(6-4j)7 巻、p.36	(6-4d)Bd.7, S.37
とーちゃん	よし じゃあいってらっしゃい 気をつけてな	Fahrt vorsichtig, ja? Bis später. （気を付けていくんだぞ、いいな？またあとでな）
よつば	わかっぱ――!!	Aye, aye, Herr Kapitän! （アイ、アイ、キャプテン殿！）
よつば	あはははは あはははは	Ha ha ha ha ha! （はははははは！）
とーちゃん	なんだよそれ…	Sehr lustig. （すごく面白いな）

例 6-4

	①形式	②行為、評価		③態度	④直後の発話の行為、評価		⑤隣接ペア
日	質問	困惑の表明	－	－	×	×	×
独	叙述	笑いへの同意	＋	－	×	×	×

表 6-4 (6-4)のパラメーター

例文(6-4)は、例文(6-1)の直後に繰り返されるほとんど同じ文字テクストにも関わらず(6-1)と翻訳が異なる。シークエンスの構成も(6-1)と異なっており、〈よつば〉が(6-1)のときと同じ冗談をいい、その直後に〈よつば〉が笑っている文字テクストがあり、それに対して〈とーちゃん〉が反応する形になっている。

「①形式」は、(6-4j)は「質問」だが、(6-4d)は「面白い」ことを「叙述」する内容に変更されている。この翻訳の変更に伴い、「②行為及び、評価」は、(6-4j)の場合には質問の形を

取った「困惑の表明」の行為であり、評価は－、(6-4d)は„lustig”（面白い）という語を使って叙述することによって、〈よつば〉の「笑いに同意している」という行為であると考え、行為は„lustig”の語から、＋とする。

「③態度」のパラメーターは、〈とーちゃん〉の腕の部分しかコマの中に確認できず、表情からは判断できない。(6-4j)では文字テクストの「…」という発話の余韻を表す沈黙があることから、呆れの感情が読み取れるため、－とする。(6-4d)は、表情はわからないが丸い普通の吹き出しの形、標準の文字の大きさなどから、〈とーちゃん〉の評価は＋ではあるが、むしろ本意は〈よつば〉の冗談に呆れていると考え－とする。発話の評価＋に対して態度が－であるという結果は、典型的な皮肉の表現の特徴と一致する。

シークエンス上の観点から見ると、(6-4j)、(6-4d)共に〈よつば〉の冗談に対して呆れの感情と態度を示しているセルフトークであると考えられる。(6-4)に対する直後の発話は、この場面が〈とーちゃん〉の発話によって終わるので存在しないため、〈よつば〉の返答はない。よって、「④直後の発話の行為、及び評価」と「⑤隣接ペア」は日本語・ドイツ語共に×である。

(6-4)では、(6-4d)の「①形式」、「②直後の発話、及び評価」の項目が変更されており、文字テクストの具体的な内容では質問の形を取った困惑を表すセルフトークから、行為自体はポジティブな叙述であるのに対し態度はネガティブの皮肉表現を使って呆れを表現している。当該発話によって呆れや困惑を表す点は共通しており、「③態度」は共に－であり変更がない。また、シークエンス上の位置も変化しない。

つまり、この翻訳例における内容の変更は、「①形式」、「②発話、及び評価」において行われており、これらの要素が変更されても文字テクストが表わす「③態度」は変化しないということが分かる。またシークエンス上の働きも変わらない。

	(6–5j)6 巻、p.20	(6–db)Bd.6, S.22
よつば	と――ちゃ――ん!!	Paaapaaa! （パーパー！）
とーちゃん	なんだそれ	... Gewagtes Design. （…大胆なデザインだな）
よつば	りさいくる	Recycling! （リサイクル！）

例 6-5

	①形式	②行為、評価		③態度	④直後の発話の行為、評価		⑤隣接ペア
日	質問	困惑の表明	－	－	説明	×	×
独	叙述	評価	＋	－	自慢	＋	×

表 6-5　(6-5)のパラメーター

次の(6-5)の場面は、夏休みの宿題をしている隣家の少女〈恵那〉とその友達の〈みうら〉

を見て、〈よつば〉も「宿題」をしてみたいと思い立ち、自由研究と称して、T シャツに様々な不用品をテープで張り付けたものを完成させる。それを見せられた〈とーちゃん〉が「何だそれ」をいう。

「①形式」については、(6-5j)では「質問」だが、(6-5d)では「陳述」に変更されている。「②行為、及び評価」については、(6-5j)では質問の形を取った「困惑の表明」の行為であり、評価はーとした。一方(6-5d)では、„gewagt“（大胆な）という語を使って〈よつば〉の作品について評価＋の「評価」を行っているとした。

イラストの〈とーちゃん〉の表情の楕円に縦線の入った眼、開かれた口、頬に描き込まれた汗の粒などから呆れを表していると考え、(6-5j)の「③態度」はーとする。(6-5d)には、発話の頭に言い淀んでいる沈黙「…」もあり、前述の呆れた表情と合わせて考えると、「③態度」はーである。この評価と態度のパラメーターの値の食い違いは典型的な皮肉表現の特徴であり、皮肉によって呆れの感情を表すのは、(6-4d)と同じである。

シークエンス的な観点から見ると、 (6-5)の文字テクストの対象は、後のコマで奇妙な T シャツを着た〈よつば〉が描かれるために、呆れの対象が後ろに来るというこれまでの例とは異なる特徴を持っている。

そして、当該発話に対する〈よつば〉の返答に見える文字テクストは日本語版では「りさいくる」、ドイツ語版では„Recycling!“（リサイクル！）となっている。(6-5j)の「質問」に対する返答があり、隣接ペアが成立しているように見える。しかし、(6-5d)は「質問」の形を取って、呆れや驚き、軽い非難を表しているセルフトークと考え、それに対する〈よつば〉の返答は、(6-5j)に対する返答であるというよりも、(6-5j)で示される〈とーちゃん〉の困惑に気付き、自主的に「説明」をしていると考えられる。よって、「④直後の発話の行為、及び評価」は、行為は「説明」、評価は×、「⑤隣接ペア」は×とする。この「質問」の形を取った「呆れ・驚き」のセルフトークという発話は、(6-1)に似ている。

また、ドイツ語版の文字テクストでは、(6-5d)と直後の〈よつば〉の発話は文の形式においても発話の行為においても、質問―返答という隣接ペアを構成していない。(6-5d)は皮肉的に呆れを表すセルフトークであると考えられ、〈よつば〉の反応は日本語と同じように困惑を察した〈よつば〉が、自分の発明品を「自慢」してみせていると考えられる。ここから、「④直後の発話の行為、及び評価」は、行為は「自慢」、評価は＋、「⑤隣接ペア」は×とする。

(6-5)では (6-4)と同じように、日本語版において質問の形を取って呆れを表すセルフトークの文字テクストを、ドイツ語版では評価＋の「叙述」行為に、態度はーの皮肉表現を用い、同じく呆れを表していた。つまり、翻訳の変更は、文の形式、行為とその評価に起こり、態度は変更されていないことが分かる。そして、呆れをセルフトークとして表現するというシークエンス上の位置も変化しない。

また、この「何（だ）それ」の文字テクストの内容が変更されたことによって、直後の〈よつば〉の発話も、文字テクスト内容は変更しなくても行為とその評価が違ったものとしてと

らえられるようになっている。

	(6-6j)4 巻、p.22	(6-6d)Bd.4, S.22
よつば	ひもをす――ってとおりぬけた	… dann ging der Ball quer durch das Netz hindurch! (…そしたら、ボールがネットを通り抜けて行った！)
とーちゃん ジャンボ	ええっ!?	Wie?! (なんとまあ?!)
ジャンボ	通り抜けはどっちだ!? アウトか!? セーフか!?	Was bedeutet das?! Foul oder nicht?! (どういうことだ?!ファウルか、そうじゃないのか?!)
とーちゃん	うーん… 俺もそこまでルールに詳しくは	Hm, gute Frage. So gut kenn ich mich mit Badmintonregeln nicht aus … (うーん、いい質問だ。俺もバドミントンのルールにそうよく知らない…)
みうら	なんだそれ	Was für `ne kranke Diskussion. (なんて病的な討論だ)

例 6-6

	①形式	②行為、評価		③態度	④直後の発話の行為、評価		⑤隣接ペア
日	質問	困惑の表明	ー	ー	×	×	×
独	叙述	評価	ー	ー	×	×	×

表 6-6　(6-6)のパラメーター

(6-6)の場面は、バドミントンの試合をしている〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉、その審判をしている〈よつば〉。どちらが点を獲ったか判定をする〈よつば〉が「ひも[228]をす――ってとおりぬけた」とありえない判定をしたのを真に受け、〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉がバドミントンのルールについて議論を始めたのに対し、二人の喧嘩を傍観していた〈恵那〉と〈みうら〉のうち〈みうら〉が「何だそれ」という。

「①形式」において、(6-6a)では「質問」だが、(6-6d)では「叙述」に変更されている。「①行為、及び評価」については、(6-6a)の行為は質問の形を取った「困惑の表明」、評価はーとし、(6-6d)では文字テクストに„was für“（なんという～だ）という感嘆を表す大げさな表現、„krank“（病んだ）というネガティブな形容詞を使い、また〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉の議論を評価ーの「評価」をしているとした。

「③態度」については、〈みうら〉の表情が眉根を寄せて口を開けたものであることから、ネガティブなものであると考えられるため、日本語、ドイツ語共にーとする。ここから、また(6-6j)では〈とーちゃん〉と〈ジャンボ〉の「バドミントンにおいてネットの通り抜けはどちらの点数になるか」という非常識なことを下敷きにした低レベルのやりとりに対して、(6-6j)では〈みうら〉が「質問」の形を取って呆れの感情をセルフトークによって示していると考えられ、ーとする。(6-6d)においては、この例では皮肉ではなく感嘆表現を使うこと

[228] この場面では、公園の一角という整備されていない場所でバドミントンする都合上、片方は街灯に結び付け、もう片方を〈よつば〉が持って紐を張ることによってネットの代わりにしている。

によって、呆れの態度を強調していると考えられる。

「④直後の発話行為、及び評価」と「⑤隣接ペア」については、(6-6)のあとの文字テクストは、〈恵那〉と〈みうら〉がその場にいることに気付いた〈とーちゃん〉による挨拶なので、次の話題が始まっていて対象文字テクストに対する反応がそもそもないため、日本語、ドイツ語版共に行為、その評価は×、「⑤隣接ペア」も×である。このシークエンス上の位置から、(6-6j)は「質問」の形を取ったセルフトーク、(6-6d)はネガティブな評価の叙述によって、呆れを表現していると考えられる。

この例の特徴的な点は、(6-6d)において評価のパラメーターがーとなることである。(6-6j)で〈みうら〉が表わしている呆れを、感嘆表現を使い、表情と合わせて、積極的に呆れの感情を表す表現に変更している例であると考えられる。つまり、呆れの感情自体は、日本語版においても「質問」の形を取りながら〈とーちゃん〉や〈ジャンボ〉に対する呆れをセルフトークによって示しており、「②態度」は翻訳の前後で変わらないが、その表現が叙述、行為、評価の点で変更されている翻訳の例である。

また、ここまでの二つの例を通して共通するのは、内容が変更されて翻訳される「何（だ）それ」の文字テクストが、セルフトークを行っているという点である。翻訳の変更が行われる「何（だ）それ」が、セルフトークであるという仮説を一旦立て、次の例を分析する。

	(6-7j) 2 巻、p.158-159	(6-7d) Bd.2, S.158-159
恵那	だ だめじゃないみうらちゃん よつばちゃん泣かして！	Miura, was soll der Blödsinn? Nun sieh, was du angerichtet hast. （みうらちゃんなんてバカなことを？見なさいよ、自分がやったとんでもないことを）
みうら	わ 私はみうらじゃないよー	I... Ich bin nicht Miura. （わ、私はみうらじゃないよ）
よつば	あ―― あ―― あ――	Waaah. Waaah. Waaah. （わー。わー。わー。）
恵那	む――	Hmmm ... （うーん…）
恵那	あ	Oh! （あっ）
恵那	みうらちゃん	Miura. （みうらちゃん）
みうら	ん？	Was? （何？）
みうら	ギャ――――――!!	Gyaaaahhh!!! （ぎゃー!!!）
恵那	ほーらほーら	Na, wie gefällt dir unsere Prinzessin? （さあ、私たちのお姫様はあなたの気に入るかな？）
みうら	わっ//なんだそりゃー!!	Weg! // Bleib bloß weg! （どけて！//さっさとあっち行って！）

例 6-7

	①形式	②行為、評価		③態度	④直後の発話の行為、評価		⑤隣接ペア
日	質問	驚きの表明	ー	ー	×	×	×
独	命令	要求	ー	ー	×	×	○（不在）

表７　(6-7)のパラメーター

(6-7)の場面では、カエルを捕まえて〈恵那〉と遊んでいる〈よつば〉のもとに、カエルを見せられるのを恐れて〈よつば〉が嫌いな鳥よけの大きな目玉の覆面をした状態で〈みうら〉がやってくる。覆面の模様を怖がる〈よつば〉を面白がってからかいすぎ、〈よつば〉を泣かせた〈みうら〉を懲らしめてやろうと〈恵那〉が〈みうら〉の目の前にカエルを突きつける。それに対して〈みうら〉が「なんだそりゃー！」と叫ぶ。

「①形式」は、(6-7j)では「質問」、(6-7d)では「命令」である。「②行為、及び評価」については、(6-7j)は文字テクストの前半「わっ」という部分が驚きを表す間投詞であることから、驚きと嫌悪感を表していると考え質問の形を取った「驚きの表明」であり、(6-7d)は「要求」の行為とした。評価は、(6-7j)で表現されている驚きがネガティブなものと考えー、(6-7d)では「どけてくれ」というネガティブなものに対する要求と考え、ーとする。

(6-7)の文字テクストは、視覚的な効果を見ると太く大きい文字になっていること、吹き出しが角のあるタイプのものが使われていることが特徴的である。〈みうら〉がカエル嫌いであるという事実と後ずさっている様子から日本語の「②態度」はーとする。(6-7d)の前半部分は„Weg!“（どけろ！）と「要求」という行為に変更されているが、全体としては吹き出し、文字の大きさから驚き、恐慌状態が読み取れること、カエルが嫌いであるという事実から、ドイツ語の「③態度」はーとする。

シークエンスの観点から見ると、この当該発話の直後には〈恵那〉がカエルを床に置き、〈みうら〉の方に向かって跳ねさせる準備に入るのを見て、〈みうら〉がほとんど腰を抜かした状態で後ずさり、悲鳴を上げる場面が続くため、そもそも当該発話に対する反応がない。ここから、日本語・ドイツ語共に「④直後の発話の行為、及び評価」は×である。ここから、(6-7j)は「質問」の形を取って驚きを表すセルフトークであると考え、「⑤隣接ペア」は×とする。一方(6-7d)では、「要求」という行為を持つ (6-7d)に対する「返答」及び「返答」的な行為を行なわれていないことから、〈恵那〉がそれを故意に無視してますますカエルをけしかけているやりとりに変化していると考え、「⑤隣接ペア」は○だが、その第二成分が「不在」であるとした。

(6-7)の例は、翻訳の変更は発話の行為、評価に起こっている他、シークエンス上の位置にも行っていることが特徴的である。発話の行為とシークエンス上の位置が変更されたことによって、〈みうら〉の大嫌いなカエルを突きつけられた驚き、焦りと〈恵那〉のカエルが平気な様子の対比が強められていると考えられる。さらに特徴的な点として、発話の行為は変更されながらも、行為の評価はーのまま保持されている。対象テクストの態度に変化がないのは、これまでの例と同じである。また、この例も「何（だ）それ」が質問の形を取った

セルフトークの場合であった。

	(6-8j)9 巻、pp.100-101	(6-8d)Bd.9, S.100-101
やんだ	どこ行くの？ 叙々苑？	Wo geht´s denn hin? Jojoen? （どこに行くの?叙々苑？）
ジャンボ	ジュージュー うちの近所の 今日半額だってよ	Nein, ins Juujuu. Die veranstalten heute eine Spachtelorgie zum halben Preis. （違う、ジュージュー。そこで今日は全部半額キャンペーンやってるんだ）
やんだ	うそ！ 倍食えるじゃん	Dann kann ich ja doppelt zuschlagen! （そうしたら俺本当に二倍いけるぞ）
とーちゃん	よつばー 焼き肉行くぞー	Yotsuba. Komm. Wir gehen. （よつば。来い。行くぞ）
よつば とーちゃん	にーくだ――	Lecker ... ... Fleisch. （おいしい……肉だ）
よつば とーちゃん	にーくだ――	Lecker ... ... Fleisch. （おいしい……肉だ）
よつば とーちゃん	やーき//にーく//だ――	Lecker ... // ... lecker ... // ...Fleisch! （おいしい…//…おいしい…//…肉だ！）
やんだ	え!? 何それ!?	Wow! Ist das ein neues Spiel?! （おっ！それ新しい遊びか?!）
やんだ	よつば それ俺ともやろうぜ	Ich will mitspielen, Yotsuba. （俺一緒に遊びたいよ、よつば）
よつば	いや やらん	Nein. （いやだ）

例 6-8

	①形式	②行為、評価		③態度	④直後の発話の行為、評価		⑤隣接ペア
日	質問	驚きの表明	－	－	×	×	×
独	質問	驚きの表明	＋	－	×	×	○（不在）

表 6-8 (6-8)のパラメーター

(6-8)は、(6-3)で描かれた焼肉に行く前の出発の場面である。〈やんだ〉を待つ間にしていた雑談を打ち切って立ち上がり、〈とーちゃん〉が〈よつば〉に焼肉店に出発することを告げて呼ぶ。駆け寄ってきた〈よつば〉は〈とーちゃん〉と、オリジナルの歌を歌いながら手遊びを始める。それを見た〈やんだ〉が「何だそれ」をいう。

「①形式」は、(6-8j)では「質問」であり、(6-8d)も同じく「質問」という行為になっている。「②行為、及び評価」については、(6-8j)では「え!?」という驚き強調するを表す間投詞が使われているため、行為は「驚きの表明」、評価は「おっ!?」というポジティブな驚きではなく「えっ!?」というネガティブな驚きに見える為、－とした。(6-8d)では、„Wow!“という驚きの間投詞から、行為は「驚きの表明」、„Wow“が喜びを含んだ驚きを示す間投詞であることに加え、„neu“（新しい）とう形容詞がポジティブな表現であることから、評価は＋とする。

(6-8)の文字テクストには、 (6-7)の例と同じように、太い文字で角のある吹き出しが使われている。また、表情は白い逆三角形の目、開かれた口から、非難を含んだ驚きを表していると考えられる。そのため、(6-8j)では「③態度」をーとする。一方(6-8d)では、驚きを示す間投詞の中でも、„Wow!“という喜びを含んだ驚きを示す間投詞が使われているため、表情と不一致となるが行為が表わす評価と一致する、＋とする。

シークエンスの観点からは、 (6-8j)は「質問」という発話行為により、修復の開始をしたように見えるが、見とがめた対象は〈よつば〉と〈とーちゃん〉の手遊びであり、〈やんだ〉はその両者と会話をしておらず、手遊びを見て(6-8j)の発言を割り込ませている。また、(6-8)の直後の文字テクストは、〈やんだ〉の「よつば　それ俺ともやろうぜ」、及び„Ich will mitspielen, Yotsuba.“（俺一緒に遊びたいよ、よつば）であり、〈やんだ〉自身が返事を不要にしている。そのため、「④直後の発話、及び評価」、「⑤隣接ペア」は日本語・ドイツ語共に×とする。

(6-8j)前半部の「え!?」は修復を開始する第一ペア成分の「質問」であるというより驚きを表していると考え、(6-8j)全体をセルフトークであると考える。(6-8d)の場合も同じように(6-8d)全体が驚きを表すセルフトークと考えられる。

(6-8)では、発話の形式が日本語・ドイツ語共に「質問」であり、シークエンス的にも直後の発言で自分から返事を不要にしている点も同じである。

しかし、発話行為が表わす評価と態度が、ドイツ語版においては変更されている。この変更によって、この場面の解釈自体が変わってくると思われる。

(6-8j)では、評価ーの「え!?　何それ!?」という文字テクストに加え、非難を含むようなネガティブな表情から、〈やんだ〉が〈よつば〉の手遊びに対してどちらかといえばネガティブな驚きを表しているように読むことが可能である。しかし、ページが変わって次のコマでは、「よつば　それ俺ともやろうぜ」と続けることから、前のコマの印象を裏切って、〈やんだ〉は実は手遊びを好意的に受け取っていたことが分かる。この展開によって、〈やんだ〉の子どもっぽさが浮かび上がってくると考えられる。しかし、(6-8d)では„Wow!“という間投詞を使うことによって、(6-8d)の文字テクストの時点で〈やんだ〉のポジティブな驚きを表現しており、直後の„Ich will mitspielen, Yotsuba.“という文字テクストとのつながりの中には、日本語版にあった印象の裏切りはない。この変更によって、印象の裏切りという日本語版の持つコメディ的な雰囲気はこの変更によって、ドイツ語版ではなくなってしまっている。

一連の流れから表される印象の裏切りは、(6-3)の場面でも行われていたが、日本語・ドイツ語共に印象の裏切りが残るよう翻訳していた(6-3)とは異なり、(6-8)の場面ではドイツ語版文字テクストの翻訳からは印象の裏切りが起こらないように翻訳が変更されている。

(6-8)の例では、今までのすべての例と異なる特徴が表れていた。それは、発話の行為や、評価、シークエンス上の位置が変更されることはあっても、表明される態度は保持される例が大半だったのに対し、態度の要素が翻訳によって変更されている点である。

この特徴的な翻訳の変更は、〈やんだ〉の性格が異なって受け取れるほどの大きい変更ではないが、日本語とドイツ語版では文字テクストの読まれ方が異なるのは明らかであろうと考えられる。イラストや文字テクストに直接冗談が表わされるのではなく、会話のやりとりの中に印象の裏切り、どんでん返しが含まれるような(6-8)のような例がどのように翻訳されているかによって、会話の読まれ方が実は大きく変わってしまうような場合があるということが分かる。

この項では、翻訳の際に内容の変更がある「何（だ）それ」について見た。翻訳内容の変更は主に「①形式」、「②発話の行為、評価」に起こり、シークエンス上の役割が変更される例もいくつかあった。さらに、「③態度」の要素は、(6-8)の例を除いてほとんどの場合、保持されることが分かった。

ここから、会話の内容の翻訳変更は、発話の行為、評価としてほとんどの場合現れ、次いでシークエンス上の役割、そして最も保持される要素は発話の態度であることが分かる。また翻訳において内容の変更があるような「何（だ）それ」の文字テクストは、返事を必要としないセルフトークである傾向があり、この特徴からは驚きや呆れを表すセルフトークをドイツ語で表すとき、発話の行為は「質問」ではなく皮肉的な「叙述」によって表す例が多く見られた。

また(6-8)の翻訳例から、「③態度」のパラメーターに変更が起きる場合がまれにあることが分かった。本分析のために収集した翻訳例の中では、この例が唯一である。そして、発話の態度が変更された場合、発話単体ではなく会話の流れの読み方が変わると考えられる。

５．３．４．考察

本項では『よつばと！』における「何（だ）それ」という文字テクストを取り上げ、その中からドイツ語版翻訳において内容が変更されている場合とされていない場合に分けて分析を行った。これは、「何（だ）それ」が文脈によって異なった意図・役割を持つ発話であるため、発話の行為や表す態度、シークエンス上の位置が翻訳の変更にどのように関わっているかを分析するためである。

会話分析的要素から、一連の会話の流れの中で「何（だ）それ」が担い得る役割である「修復の開始」と「セルフトーク」について見た。両者の違いは、「修復の開始」の場合は実際の会話中での成功・失敗に限らず、隣接第一ペア成分として返答を強く期待するのに対し、「セルフトーク」はいわば「相手に聞かせるための独り言」であり、返答を期待しない点にある。この二つの発話の相違は、発話の行為とシークエンス上の位置にある。

ここから、発話の行為とその評価、直後の発話とその評価、シークエンス上の位置を項目においたパラメーターを設定し、分析に用いた。また、皮肉表現の分析から、翻訳に変更に際して保持される傾向にある要素として態度が挙げられたので、態度の項目もパラメータ

ーに取り入れ、分析を行った。

皮肉表現の分析のために使ったパラメーターに加えて、「何（だ）それ」が表わしうるセルフトークの発話は、質問の形式をとりながら困惑や驚きなどを表明するという特徴を持つため、文の形式を比較する項目を取り入れたことが、本項の分析の特徴的な点である。

内容に変更のない翻訳例では、日本語・ドイツ語のパラメーターが一致していた。ここの結果から、発話行為、シークエンス、評価の点において、等価の翻訳がなされていると考えられる。また、そのとき「何（だ）それ」が会話の中で果たす役割は、修復の開始の場合もセルフトークの場合もどちらも確認できた。

一方内容の変更のある翻訳例では、特に発話の行為とその評価において相違が見られ、シークエンス上の位置が変わる例もいくつか見られた。また、ほとんどの場合態度は保持されていたが、唯一態度が変更されている例が確認された。

この結果からは、翻訳の内容が変更されているといった場合、発話の行為とその評価が変わっていることがほとんどであるということが分かる。続いて、シークエンス上の位置が次に変更されやすく、態度が変更されることはまれである。また、翻訳に内容の変更がある場合の「何（だ）それ」という文字テクストは、返事を必要としない驚きや呆れを表すセルフトークである傾向が強かった。驚きや呆れを表すために皮肉表現を用いる例が複数見られ、代替表現として皮肉による婉曲的表現があり得ることが指摘できる。

今回集めた中で「③態度」のパラメーターが日本語とドイツ語で不一致となる翻訳例が一つだけあった。その場合、単体の文字テクストだけではなく一連の会話の流れの理解が変わると考えられる。しかし、今回の分析からは一例しか見つけられなかったため、他に態度の要素も変更して翻訳する例があるのか、それとも例外的な翻訳なのかについて、さらなる分析を重ねる必要があるだろう。

文字テクスト「何（だ）それ」のパラメーター分析からは、文字テクストによって表そうとしている態度・感情は変更されることなく、それを表現する手法が発話の行為、評価やシークエンス上の位置から変更され、それが内容の変更となって表れていることが明らかになった。そして、この結果を得るために用いた発話行為論や会話分析的要素を翻訳分析に取り入れることの有効性、パラメーター使用による変更要素の比較の視覚化とその利便性について明らかにできたと考える。

しかし、発話の行為を考える際、発話行為論が相互行為的な視点を欠いているとの批判を受け、本分析でもシークエンス上の観点を持ち込み、またこの「何（だ）それ」の分析では文の形式と発話の行為を別の項目として置いたが、それぞれのパラメーター同士が完全に分離せず、相互に関係しあうものとなってしまう点が問題として挙げられるだろう。

発話を単独のものとして分析する手法の場合には、文の形式による判断に依存し、今回対象としたセルフトークとして働く「何（だ）それ」を分析することは難しかっただろう。一

つの発話を取り出した際に、発話者がどのような意図で発したか、相手がどのように受け取ったかという相互行為的な観点からマンガの文字テクストをとらえることは有効であるし、必須であると考えている。

そのような相互行為的な観点と単独の発話の持つ特徴を、独立のパラメーターの項目として落とし込むことと、パラメーターの設定に使う要素をどのように立てるかという点に関しては、今後の大きな課題である。

６．結論

本研究は、日本マンガでの海外の需要の拡大により増大する日本マンガの翻訳テクストに対して、マンガテクストの翻訳比較の前例が少なく、統一した方法論が確立されていないという現状を受け、日本マンガのドイツ語・英語翻訳比較を通し、その翻訳活動の中で何が行われているかを明らかにすること、そのための方法論を新たに提案するものであった。

一口にマンガの翻訳比較研究といっても、マンガのテクストをどうとらえるか、マンガテクストを分析するために有効な手法とはどのようなものか、その方法論がそもそも定まっていないという問題を抱えた、研究分野としてまだ新しい領域である。その一方で、その需要は拡大し、地域・言語ごとに月に何十冊という新刊が出版されるマンガ翻訳産業においては、すでに大量の分析材料がある。

海外におけるマンガ受容と、それによってマンガ翻訳に求められるものがどのようなものなのか、またマンガテクストの特徴はどのようなもので、どのような手法が有効に用いられるのか、マンガテクストに関する研究は諸分野に散らばってしまっている。

このような現状から、本研究はマンガ翻訳のための方法論を様々な学問領域における先行研究から有効な手段を提案し、その方法論に従って実際の翻訳例の分析を試みた。

本研究が提案した方法論から明らかにしようとしたものは、マンガのテクスト翻訳において内容の変更が見られるとき、その内容の変更がどのような要素に起こるのか、どのような理由によるものなのか、どのような要素が保持されるのかといったことであった。

本研究の目的である、マンガの翻訳活動の中で何が行われているかを分析するために、マンガのテクストがどのような要素から成るのか、それらの要素をどのように翻訳することが可能なのかを説明するための方法を先行研究では探った。

まず 2.1.で現在の日本からのサブカルチャー発信の状況、海外での受容の様子を概観した。そこからは、日本の文化の主要な産業の一つとしてマンガを含むサブカルチャーが位置付けられており、また海外における熱狂的な受容の現状を確認した。中でもドイツにおけるマンガ出版産業は、日本マンガブームのピークを越えて定着期に入ったといわれているが、依然売り上げは増加し続けている。それに伴って日本のサブカルチャーに対する一般的な認知も高まり、ドイツ各地で様々なイベントが開催されるに及んでいる。

このような日本サブカルチャーの受容拡大に従って、日本マンガの流入と共に、ドイツ語母語話者のマンガ読者を中心に、日本マンガ式の右開きで右上から左上に読む形式への理解や、簡単な日本語の語彙の流入も見られるなどのマンガ読者層の共通認識が出来上がっている。

こうした現状からは、日本のサブカルチャー的知識がドイツの日本マンガを読む層に一般化し、限られたコミュニティの中で頻出する日本の言語・表現・文化的事項に対する理解

が進んでいるのではないかと考えられる。その影響が翻訳においても反映され、説明や置き換えを行わずに日本語語彙や表現、文化的事項を表現している可能性を示唆するものである。

本研究が対象とするマンガのテクストとは一体何なのかを明らかにするため、まず 2.2.でマンガ研究の分野でのとらえ方を見た。これは、マンガというまだ新しい研究対象の現在の位置づけ、さらにその中でのマンガのテクストのとらえられ方を明らかにするものである。また、そこから本研究が対象とするテクストを限定し、その特徴をつかんだ。

マンガ研究自体も研究領域として扱われてきた歴史の浅い分野であるが、大きく分けるとマンガ作品の作品分析を行う批評分野と、マンガの表現自体を分析対象とするマンガ表現分野の二つがある。それ以外にも、マンガを材料としたマンガ研究以外の研究が様々な分野に点在している。その中の「マンガがどう読めるか」を論じたマンガ表現論において、マンガを構成する 3 要素のうちの一つとして「言葉」がとらえられている。

ただしこの場合の「言葉」とは、「マンガというフレーム」を構成する要素としてのみとらえられており、そこで何がやりとりされているかなどの内容に踏み込んだものではなかった。その「言葉」は誰が発したものか、画面の中のどこにどのように配置されているかといったことが注目され、どのような関係性の中で、どのような語・表現を使っているかについて論じるものではなかった。

このようなとらえ方は、マンガテクストが何を行っているかを明らかにするという本研究の目的を達成するには足らない。ここでマンガの中の言葉とは何かに立ち返り、その中のどのような特徴を持つ言葉について研究を行うのかを限定する必要があった。

そのために、マンガを対象とした研究の中でも、「言葉」に注目した分析を見た。これらの研究は、マンガの中の文字がどのようなものかを明らかにしようとしているものであった。つまり、マンガを構成する要素として「言葉」を取り出した際、発声の伴うセリフ、内言やナレーションを含むある人物のセリフとしての言葉の他に、画面に描き込まれたオノマトペ、背景のイラストの中の看板やチラシなどの中の文字など、文字・言葉といって示すことができる要素が複数ある。

本研究では、イラストの一部として考えられるオノマトペ、イラストの中の文字を除き、主に登場人物のセリフ部分を指して「文字テクスト」と定義した。さらに先行研究から、文字テクストの中でも登場人物の発話、内言を分析対象と定めた。また、マンガの文字コーパス研究から、マンガの文字の 7 割程度がセリフであることが明らかになった。

ここから、本研究が対象とするのは、マンガを構成する言葉の中で最も分量の多いセリフのテクストと限定した。

文字テクストが「話すテクスト」としての特徴を持っているために、考えられる分析観点は複数ある。中でもすでにマンガ研究分野、あるは他の研究分野において指摘されているの

は、ジェンダーやセクシュアリティなどから生じる話し言葉の違いの要素である。特にマンガのテクストでは、キャラクター性の表現のために話し言葉の違いの特徴が強調される場合がある。こうした特徴が、まず日本語でどのように現れているか、さらに翻訳された場合どのように扱われるかという問題が提起される。しかし、本研究ではこうした条件に限らず、広くマンガ翻訳を考えるため、詳しくは立ち入らないことにした。

また、対象テクストから外してしまったナレーション、オノマトペ、イラストの中の文字についての研究が立てられる可能性について示唆するものである。

ナレーションについては、物語のどの立場から、誰が、いつ発しているかという要素から成り立っている。こうしたナレーションが物語の流れの中に挿入されることは、マンガ表現論が指摘した「マンガというフレーム」の多層性を表現する一つの方法であり、マンガの中の言葉が構成する「マンガというフレーム」という観点からの研究が可能である。

また、オノマトペは、イラストと文字の中間的な情報を担っている要素である。それが翻訳される際、まず問題となるのはその多くが手書きで描き込まれたオノマトペをそもそも翻訳するかどうかである。イラストの一部としてそのままにする場合、文字情報として翻訳して再レタリングする場合など、翻訳言語、出版社、作品によって様々な手段がとられている。これらの手法の違いと、オノマトペをどのような情報として取り扱うかという問題が提起される。さらに、オノマトペが翻訳される場合には、たいていの場合日本語のオノマトペ語彙の豊富さと比べると翻訳する側の言語・文化のオノマトペ表現が少ないため、翻訳が難しい要素の一つとなる。言語・文化の観点から、あるいはマンガ表現受容の現在からオノマトペを分析することが可能であり、またすでにいくつかそうした研究は存在する。

イラストの中の文字については、オノマトペに似て、イラストと文字情報の中間的な情報としてマンガの画面の中に位置付けられる。この翻訳分析については、イラストと共に読むマンガテクストの一つの突出した特徴の翻訳例として、本論で扱った。

一方、翻訳研究における分析手法はどのようなものかを 2.3.で概観した。翻訳という行為をどのようにとらえ、分析可能なものかというアプローチの方法を見るためである。従来の翻訳研究が対象としてきたのは主に文学作品であり、マンガの文字テクストとは異なる特徴を持つ。しかし、その手法が適応できる部分も多いと考え、翻訳研究における機能主義的分析と、翻訳評価を見た。

機能主義的分析とは、「スコポス」と呼ばれる翻訳の目的を立て、それに沿った翻訳が行われるべきであり、それが行われているとする分析理論である。スコポスは、翻訳される対象、それを読む読者のニーズなどによって変化し、不変の基準ではない。翻訳者は受容者のスコポスに従って、TT 受容者のニーズや期待を考慮し翻訳を提供することが求められ、そこでの「評価」は、スコポスへの適切性によって決定されることになる。この理論を受け、藤濤（2001）では、ことば遊び翻訳を翻訳の方法と翻訳の目的、翻訳されたテクストがことば遊びとして理解可能かといった項目についてパラメーターを設定し、分析を行う翻訳達

成度評価を提案した。

この研究で藤濤の提案したパラメーターはことば遊びに特化したものであり、スコポスは翻訳される対象テクスト、受容層のニーズによって変化するためそのまま流用することは不可能であるが、翻訳テクストを翻訳の目的から分析する点、翻訳の方法から分析する点、パラメーターを立て視覚的に分析表現する点が本研究にとって有用であると考えた。特に、パラメーターによる視覚的な分析表現は、どのように翻訳が変わったか、どのように理解されるテクストかを示すために有効な手法である。しかし、藤濤の立てたパラメーターは、どの要素がパラメーターの結果に寄与しているか、なぜそのパラメーターの結果が出るのかについて明示的でないという欠点があった。

ここから、本研究はマンガ翻訳を支えるスコポスを翻訳者の想定する読者層、翻訳者が提供する翻訳方法などから探ること、翻訳前後のテクストを比べ、パラメーターによってどのような要素が変更されているか、それによって受け取り方がどう変わるかを明示する方法を提案する。パラメーターを使用して分析する際は、パラメーターが表わす要素、どのような要素から結果を判断するかを明示化することを目的とする。

スコポスを元にした翻訳達成度という評価の観点からではなく、テクストの要素ごとにどこが変更されたかをパラメーターによって表すという試みは、本研究オリジナルのものである。

マンガ翻訳におけるスコポスとはいかなるものなのか、マンガの文字テクストに含まれる要素とは一体何なのか、またマンガにおける翻訳上の問題とはなんなのかを考えるために、実際のマンガテクストを対象にした比較研究のケーススタディを見た。Gyllenfjell（2013）は、分析に際し翻訳の問題を具体的に 9 種類挙げ、テクストを抽出し、それを 11 種の翻訳テクニックによって分類した。その結果、マンガ翻訳における問題とその解決方法には、言語や語彙などの形式の問題と、内容再現の二つがあることがあきらかになった。さらに、言葉の翻訳上の問題以外に、マンガ特有の吹き出しというスペースによるテクスト量の制限という問題が大きいこともわかった。

ただしこの研究は、マンガ翻訳における問題を広く取り比較分析したために、本研究が対象から外したオノマトペなどを問題に含んでおり、また抽出した例の中での問題種類や、従って取られる翻訳手法の傾向も偏りが見られるという、マンガ翻訳全体の傾向を報告するものとなっている。本研究ではより文字テクストの特徴を絞り、分析対象、分析観点を絞った。

さらに、本研究が対象とする文字テクストとはどのような要素から成り立っているか、どのように分析可能なものであるかを考察するため、2.4.でマンガやアニメを研究対象とした日本語教育領域における、マンガテクストのとらえ方を見た。同領域では、アニメやマンガの海外需要を背景とし、マンガやアニメを日本語学習教材として使用する動きがある。マ

ンガやアニメを学習教材として使用するために、マンガやアニメのテクストがどのようなものかを分析した研究が存在し、ここからは、マンガやアニメのテクストの特徴が抽出されていた。

第一に、マンガテクストを実際の会話におけるテクストとしてとらえた因（2005）の研究がある。日本語学習者の陥りがちなレベルやジェンダーなどの文体表示形式の意味や用法に関す誤解釈がどのように発生するかを観察・分析するために、ストーリーマンガの解釈とそこから発生する誤解釈を通して、考察を行ったものである。この研究から、マンガの文字テクストの分析において、リアルタイムのテクストではないとはいっても、疑似的な会話としてとらえ、社会言語学的なアプローチの可能性を示すものであると考えた。

第二に、日本語学習素材としてアニメやマンガのテクストの特徴を分析した熊野・川嶋（2011a）の研究において、学習素材にするためにマンガやアニメのテクスト特徴の抽出が行われた。教材開発のため、マンガやアニメらしい日本語の特徴を抽出し、分析して作ったデータベースからは、アニメとマンガのセリフを比較対照した結果、日本語の表現面の特徴が音声を除いてほぼ同一であったことが報告された。つまり、マンガの文字テクストは「話すテクスト」であるということを意味する。

これ以外にも、海外のアニメ・マンガファンのコミュニティにおいてある共通言語が持たれること、またそれがマンガのキャラクター性と結びついたこなし言葉という特徴を含むことが指摘されている。

これらの研究から、マンガの文字テクストも疑似的な会話のテクストととらえ、実際の会話を分析する観点を分析方法に取り込むことを提案した。単一の文字テクストを分析するのではなく、会話の文脈や参加者同士の関係を分析要素として挙げ、翻訳前後の内容をそれらの要素から説明することを試みる。

従って、実際の会話を分析する手法を用いてマンガテクストを分析するという方法を試みるため、社会言語的・会話分析的手法に分析し、比較するという方法を提案した。さらに、比較分析の方法には前述のパラメーターを使う。

2.5.では、実際の会話を分析する方法論の一つに、発話行為論を挙げた。この領域の中に言語行為の概念がある。これは、何かを発話することが、「発話する」という行為自体以外に、「質問する」、「要求する」などの「発語内行為」を伴っており、さらに「発語内行為」の遂行によって聞き手やそれ以外の人物の感情や行為に効果を及ぼすことができ、またそれを計画することができる行為の事を「発語媒介行為」とオースティンが定義したものである。つまり、文字テクストの発話内容が、どのような行為を行っているものなのかを分析の観点として取り入れることを提案するものである。

ただし、オースティンが定義し、その後語用論の中核を成したこのような発話行為論は、対象の発話を会話の流れから切り離し、相互行為的な観点が欠けているという批判が起こった。ここから、単一の発話のみを分析対象にするのではなく、前後の発話、全体の発話の

流れを分析に加えることが求められると考えた。

そのため、実際の会話データを録音、トランスクリプトとして文字化し、会話における相互行為や会話自体を研究する方法として会話分析の領域における分析観点を参照した。会話分析は実際の会話を対象とするものであるため、本来はマンガ文字テクストのような疑似的で非リアルタイムの会話は研究対象としていない。そのため、会話の順番交替の組織など、リアルタイムの会話にしか出現しないような現象や、ピッチの変化や沈黙の長さなど音声上の分析など本論文の分析に適応できない部分もある。

しかし、非リアルタイムのトランスクリプトからも観察できる修復などの行為もあり、文字テクストに表記される沈黙「…」や「！」・「？」などの疑似イントネーションを読み取ることもできる。さらに、マンガは文字テクスト以外にイラストを伴う媒体であるため、人物の視線や表情やコマの中に描き込まれた動きを分析の対象に加えることが可能となる。人物の表情や仕草以外に、吹き出しの形やフォントの違い、驚きや焦り、喜びなどのマンガ的な記号による補助的な表現もある。本論では文字テクストに加えてこれらの要素を取り入れ、分析を加えることを提案した。これはテクスト分析に際して、テクストをイラストから切り離すのではなく、イラストと合わせて分析することを取り入れたものである。

会話分析における分析観点で重要なのは、会話を構成する発話の連なりというシークエンスの観点である。マンガの文字テクストは、吹き出しや余白といったスペースによって、挿入箇所と量が限定されている。イラスト的な要素である吹き出しなどが翻訳時に修正されることはまれであり、この限定はほぼ絶対のものである。こうしたマンガの画面という制限が翻訳に与える可能性もまた考えられる。

また、これらの疑似イントネーション、表情などの要素は、すでに挙げた発話の行為以外のパラメーターを判断する要素として用いる。これらの要素が示すのは、発話者が対象に対して示す態度であると考えられる。

ある態度を示す際のバリエーションと言語文化間の差異について、社会言語学領域におけるポライトネス理論と、その翻訳研究への応用について見た。ポライトネス理論とは会話を対象に会話参加者同士の関係を円滑にするための方策を分析したものである。基本的にはポライトネス理論もリアルタイムの会話を対象に分析するものであるため、この理論を援用し、映画の吹き替え・字幕翻訳に使ったものがある。さらに、ポライトネスが文化によって左右されることが指摘されているため、異文化間のポライトネス関係を翻訳研究に利用した場合も存在する。

映画もいわば疑似的な会話テクストであるといえ、また翻訳研究にポライトネス研究を利用した先行研究が存在することが明らかとなった。ここから、映画とは異なり音声面の特徴は持たないが、会話の形式を再現したマンガの翻訳テクストにおいても、相互行為論的な理論を適応し、分析の観点として取り入れることが可能であることを示していると考えた。

また本研究ではほとんど言及することがなかったが、映画の翻訳もマンガとはまた異なった特徴を持った翻訳媒体である。字幕翻訳の場合には、テクスト量に強い制限がかかる一

方で、吹き替え翻訳の場合には、画面の俳優の口の動きにシンクロしたテクスト内容が求められる。マンガ翻訳とは異なる強い制限特徴を持つ一方で、「話すテクスト」であり、キャラクター性と話し言葉の結びつきの特徴、また日常会話の範囲の語彙・表現が多いという特徴など、重なる部分もある。こうした相違点と共通点を取りまとめ、比較する研究を提起することもできるだろう。

最後に 2.6.で、対象作品である『よつばと！』の簡単なあらすじと、作品分析、また本研究対象であるドイツ語版・英語版の出版社の翻訳方針を見た。これは、本研究が目的とする分析と『よつばと！』の作品特徴が一致することを示すことを目的としている。また、それぞれの出版社の方針からは、『よつばと！』に求められる、あるいは翻訳社が目指したスコポスが現れると考えられる。

『よつばと！』は幼児を主人公とした日本の日常生活を描いた作品で、国内外において評価が高く、いくつかの賞も受賞している。本研究の目的である翻訳の比較という観点から見ると、第一に〈よつば〉の接する日常が、日本の一般的な物であるという点が重要である。作品の中で描かれる多くの物が、日本に親しみのない翻訳語版読者にとっては未知なるものであり、翻訳によって理解の問題を解決すべき要素を含んでいる。さらに、モノローグが少なく、会話形式の文字テクストが多いため、会話のやりとりの持つニュアンスや笑いをどのように翻訳に反映するかが問題となる。また、5 歳児の〈よつば〉のたどたどしい言葉を原因とすることば遊びや勘違いが随所にちりばめられており、言語形式を異とする翻訳語がどのように対応するかも大きな問題となる。さらに、子どもである、外国人であるという特徴を持った〈よつば〉を中心とする『よつばと！』という物語は、コミュニケーションの解体と再編というテーマを持つ。翻訳比較という問題に対し、翻訳という活動自体が、言うまでもなくコミュニケーションの解体と再編という活動である。本研究は、元の日本語の文字テクストにおいて描かれるコミュニケーションの解体と再編が、翻訳にどのように表されているかを分析するものである。

さらに、ドイツ語版・英語版の出版社の翻訳方針からは、実際の翻訳例における傾向を概観できた。まず、両者の出版社はそれぞれ異なった年齢層を対象としていることを指摘した。ドイツ語版では 13 歳以上、英語版では全年齢が対象となっており、この対象年齢の違いが、翻訳者が想定する読者の知識の程度、読解力が異なり、翻訳内容に反映されることが予想される。

ドイツ語版を出版している TOKYOPOP 社は、日本語の分かる翻訳者と日本語が分からない編集者によるチームによって翻訳作業が成り立っており、その中で翻訳者はどのような内容やニュアンスがあるかを注釈によって補完すること、編集者はそれを受けて適切なドイツ語表現を決めるというプロセスを経ている。さらに、内容の変更の際にはもっともよいと考えられるドイツ語表現を選ぶようにすること、また直訳ではなくドイツ語表現に置き換えて翻訳することが分かった。また、注は最小限にしている。

一方英語版を出版している Yen Press 社は、ADV Manga 社によって一度翻訳出版されていた後に、新しく版権を獲得し、新訳・出版したという経緯がある。これを受けて、ADV Manga 社版の翻訳と比較したインタビューでは、固有名詞は元の日本語の意味に沿った翻訳は行わないようにしたこと、日本語の言葉の遊びは、英語版読者の理解のため日本語を保持せず英語に置き換えた翻訳を行ったこと、注については読者の読みを遮らないよう欄外註の方法を取ったことなどを特徴として挙げている。本研究は、各社のこうした翻訳方針が日本語のオリジナルテクストをどのように解釈し、どのような語・表現として翻訳したか、またそれがどのように読めるかを分析するものである。

以上の先行研究から、対象とする文字テクストを二つの大きな特徴に分けて分析方法を決定した。第一に、翻訳版読者にとって異文化のものである「なじみのないもの」を翻訳する際の翻訳、第二に会話としてのマンガ文字テクストについて実際の会話を分析する手法を用いた分析である。

「なじみのないもの」の翻訳は、翻訳者が想定する読者の知識程度とそれに従った翻訳方法の違いを分析することを目的とするものとする。また、想定される知識程度の時間的推移、文化背景などに着目した分析も行う。会話の翻訳では、発話行為論・会話分析的観点を用いたパラメーターを使用し、変更点の比較、そこから何が翻訳によって変更されるのか、あるいは変更されずに残るのかを分析することを目的とする。

以上を踏まえ、本研究が提起した問題について分析結果を見てゆく。

4 章では、「なじみのないもの」の翻訳について分析を行った。これは、マンガの文字テクストが抱える、文化・言語的差異により翻訳の難しいものを翻訳するとき、どのような方法で解決するか、そしてその翻訳がどのような理由によるものであり、どのように読めるかを見るものである。

4.1.では、翻訳版読者にとってどのようなものが「なじみのないもの」として想定されているかを分析するため、注が付けられた語を抽出・分析した。分析方法には、藤濤（2004）による注の機能による内容分類、翻訳方法分類を用いた。

その結果、注の数で比較した際英語版における注がドイツ語版に比べて圧倒に多いことが明らかになった。個別の翻訳例を分析した結果、英語版においては日本語版のオリジナルの表現、および文脈の理解を尊重し、内容を注で説明する説明する傾向にあること、一方のドイツ語版では注による説明を付加するよりも、文字テクストの翻訳を工夫して問題を解決する傾向にあることが分かった。例えば（1-32）では、(1-32j）で沖縄の有名人の名前を挙げているのに対し、(1-32d）では「エキゾチックな名前」と読み替えて、ドイツ語版読者にとってエキゾチックな人名を列挙していた。(1-32e）では日本語版で挙げられた名前を音写し、注で人物の説明を行っていた。

英語版におけるこのような方法は、注がマンガの外側から翻訳者が介入する行為である

が故に、翻訳者の個人的な意見、解釈が明確に積極的に読者の読みに介入していると考えられる（1-37e）のような場合もあった。一方ドイツ語版では、自文化に引き寄せた内容に置き換えたために、場合によっては物語の理解を阻害するような（1-25d）のような例もあった。

また、文字テクスト以外のイラストの中の文字に対する姿勢もそれぞれで、英語版では日本語版オリジナルの画面を尊重しつつも、イラストの中の文字を文字情報として扱い注を付けて表現理解を助ける姿勢を取っているのに対し、ドイツ語版では、文脈理解に必要と思われる場合を除いては注や説明は付けず画像情報として取り扱う傾向があることが分かった。

ここから、ドイツ語版と英語版の翻訳方針の違いとその背景にある対象読者層の想定の違いが読み取れた。

また、本研究の抽出した例の中には、マンガを読む層に共通知識となった日本語語彙・表現などは目立って見られなかった。英語版においては、前の巻では注が付けられて説明されている語が、途中から注なしで使われるようになった例があり、日本語語彙・表現の定着を支援する行為が見られた。一方ドイツ語版では、ドイツ文化になじみのあるもの、あるいは一般的なものに置き換えられて翻訳される傾向が強く、日本文化をなじみのないエキゾチックなものとして取り入れるというよりは、分かりやすさ、理解しやすさを優先して翻訳しているように見えた。

また、なじみのないものの翻訳において、翻訳版により注を使った翻訳の数に大きく違いが出たことから、翻訳の透明性という観点が浮き上がってきた。注を挿入するという行為は、読者の物語への没入を一時中断し、翻訳者から知識の情報を受け取るということを意味する。この情報の受け渡しは、翻訳に翻訳者が介入しているという事実を強く意識させる。一方で、文字テクストだけで物語が完結する場合には、こうした翻訳者の介入が強く意識されないが、実際は翻訳者の介入のない翻訳など存在しない。翻訳で作品を読むということは、必ず読者自身以外の解釈が入り込むことを意味する。翻訳の透明性は、それが積極的に行われているか、潜在して行われているかの違いでしかない。

しかし、こうした翻訳者の介入の度合いが、翻訳媒体や対象年齢といった特徴、ひいてはそこから設定されるスコポスに影響を与える可能性は十分にあり得ると考えられる。翻訳比較研究において、翻訳者の透明度と媒体、スコポスという観点が新しく提案できる。

以降の 4.2.と 4.3.では、「なじみのないもの」の翻訳に関して特徴的であるドイツ語版の表現について注目した。そこから、「なじみのないもの」の翻訳に関わる要因がどのような物なのかを探った。

4.2.では、同じ翻訳者による翻訳であるにもかかわらず、複数の個所において翻訳表現がそれぞれ異なる「たい焼き」という語を取り上げて分析した。翻訳方法の分類に加えて翻訳された時期、イラストと共に読むとどのように理解できるかを分析観点とした。

今回採取した例では、三種とも異なった語に翻訳されており、まったく一貫性がなかった。イラストの有無は翻訳例によって異なるが、全体としてイラストと食い違いが起こらないような翻訳がなされているといえた。また翻訳された時期はまちまちであり、時系列に沿ってだんだん情報量が増減するなどの規則性はなく、対象読者層の知識量の変化に対応した翻訳とは考えにくい変化が見られた。

翻訳に関する要因として、ドイツと日本における食文化の違いとイメージの違いが大きく影響するのではないかと考えられた。また、翻訳時期による翻訳の違いからは、マンガ・アニメ翻訳を通してのドイツにおける日本文化の定着を見ることができる要因であると考えられる。

4.3.では、翻訳語を選択する要因として、文字テクストが理解されるための文化的背景を考慮に入れた分析を行い、対象文字テクストは「セミ」とした。先行研究では、ドイツにおけるセミの認知度を実際のセミの生息と文学作品に現れるセミの表現について見て、実際の翻訳語の選択を考察する。

その結果、ドイツにはセミは生息していないため、比較文学上有名な『イソップ寓話』における「セミとアリ」の翻訳からは、セミがキリギリスに置き換えられていること、この置き換えが『イソップ寓話』をラテン語・ドイツ語併記で編集したシュタインヘーヴェルによってラテン語の„Cicada“が„Grille“にドイツ語訳されたことが元となったことが分かった。

『よつばと！』においては、特に物語の中盤までは、セミの翻訳語に一貫して„Grille“が使われている。イラストと合わせて見ると、明らかに語と実物の対応に食い違いがあるが、このシュタインヘーヴェル以来の置き換え訳が、『よつばと！』の物語においても慣習的に起こっているのではないかとも考えられる。

そして実際の翻訳例からは、以下の二点が明らかとなった。①訳し分けが必要な場合、作品が理解しやすいように、選択された翻訳語の対応関係を変更し必要な説明を付与する。②文字テクストの中から単語が削除されることもある。そのため、（3-9d）のように削除によって文脈理解が妨げられてしまう場合もある。①の条件については、『よつばと！』の物語の中で「セミ」が重要なテーマの一つであることが関係しており、翻訳語の選択が物語の解釈と理解に深くかかわることの表れでもあった。

この二つの翻訳分析からは、誤訳について新しい知見が得られると考えられる。誤訳であると判断される場合には、翻訳語の対応が間違っている、文脈的に理解ができないなど様々なレベルが考えられる。

翻訳版を通して読んだ際に文脈が破たんしていて理解できない場合はともかく、文脈的には筋が通っており、オリジナル版と対照したときに初めて語彙や表現が置き換えられているような場合は、誤訳といえるだろうか。マンガの場合には、イラストともに読むために、イラストと合わせて読むと食い違いが生じるような場合は誤訳かもしれないが、イラスト

がなかったら、文脈を破壊することなく読める場合もある。

翻訳版を読む読者の多くは、オリジナル版といちいち対照させながら読むことなどしないと考えられる。そうした場合には、オリジナル版との整合性ではなく、翻訳版内の一貫した整合性が文脈を構成している。

さらに、イラストと整合しない語が使用されていた場合でも、「セミ」と„Grille“のように、その翻訳が歴史・文化的背景を持つような場合もあり、一概には誤訳といえないのではないかと考えられる場合もある。

本研究ではネイティブの解釈・理解を分析にあえて含めなかったが、ネイティブによる理解を分析観点として取り入れることも提案できるだろう。

5 章では、会話の翻訳について分析を行った。文字テクストの発話行為や、表す態度、シークエンス上の位置などから文字テクストを分析する方法論を用いたものである。この分析により、文字テクストの内容が変更して翻訳されるとき、どのような要素が保持されて翻訳されるかをコミュニケーション上の観点から見るものである。

5.1.では、ことば遊びの翻訳を見た。ことば遊びは、言語形式に依存したテクストであるため、翻訳の際には翻訳言語においてその言葉遊びが再現可能であるかどうかという問題が生じる。実際の例では、日本語版のことば遊びが音の類似・同一性から生じるものが多く、そのままの語や表現を使って翻訳し、音の類似・同一性を表現することは難しいことが分かった。例えば（4-3）の場合、（4-3d）ではドイツ語の語彙による音の類似と連想に置き換え、（4-3e）では注による補足を行っている。

それに加えて、会話の中でことば遊びを含んだテクストがどのような行為を行っているか、やりとりの中でどのような効果を持つかというコミュニケーション上の観点からも分析を行った。その結果、（4-7d）のようにドイツ語版の文字テクストにおいて新たにことば遊びが挿入される場合があり、ことば遊びの持つ当事者同士の親密性が感じられる場面だからこそ可能となったと考えられる。

ことば遊びの分析では、言語形式に強く依存するテクストでありがなら、言語形式的な分析に終始せず、発話の効果や会話の参加者同士の関係を分析観点に含めることを試みた。特にドイツ語版でことば遊びが挿入される場合には、それらの要素を翻訳者が加味したと考えられる例があった。ここから、ことば遊びという冗談のやりとりが可能となる会話参加者同士の関係性が、会話のテクストの翻訳に関わる要素として挙げられる。

また、本研究では大きな要素として取り入れられなかったが、キャラクターの表情や仕草も、ことば遊びが挿入される場面に影響している可能性がある。本研究はテクスト主体の分析が主であるが、テクストの分析にイラストを効果的に取り入れる手段としても、次項からのパラメーター分析は有効ではないかと考える。

5.2.と 5.3.の項では、パラメーターを使った分析を試みた。また、文字テクストの内容に

大きな変化が見られるのが主にドイツ語版であるため、英語版との比較はほとんど除外した。

5.2.では、どのような文脈・関係性の中での発話か、またそれがどのような効果を持つものかを分析するため、皮肉表現を含む文字テクストを分析した。皮肉表現の特徴からパラメーターを設定し、実際の翻訳例を考察した。

文字テクストの行為とその評価、態度を、文字テクスト上の表現、表情やレタリングの特徴などのイラスト的な表現に判断基準をそれぞれ分け、マンガの表現上の特徴を分析に繰り込み、またパラメーターの結果判断が分かりやすいよう設定した。

パラメーターを比較した結果から、内容を変更して翻訳されても態度は一貫して変わらないことが明らかになった。内容の変更は主に発話の行為、その評価に起こっており、シークエンス上の位置においても起こる場合もある。

また、皮肉表現は会話参加者同士の関係性と密接にかかわる発話であり、例えば（5-3d）のように〈とーちゃん〉が〈よつば〉をたしなめる、といった大人と子どものやりとりに出現し、非難を和らげたりコミカルなニュアンスを持たせたりすることが分かった。一方で皮肉表現が強い非難を表す場合もあり、皮肉表現に対する返答の有無で受け取られ方も変化する。そのため、皮肉が翻訳版で新たに挿入される場合には挿入位置が吟味されていると考えられる。

皮肉表現のような、発話の行為と態度が食い違うという明確な特徴を持つ発話は、パラメーターによる比較分析が有効である。また、表現の持つ会話上の効果がはっきりしている場合、内容の変更がどのような理由によるものか、どのような要素に焦点を当てて翻訳したかを考察するために有効である。

5.3.では、発話意図や役割が多様である文字テクストとして、「何（だ）それ」を取り上げた。まず、「何（だ）それ」の発話の中での役割をシークエンスの観点からとらえ、評価態度を含めたパラメーターを設定した。

その結果、「何（だ）それ」の文字テクストによって表そうとしている態度・感情は変更されることなく、文の形式や発話の行為や評価、パラメーターの位置などそれを表現する手法が変更されており、それが内容の変更となって表れていることが明らかになった。また、内容の変更はどのような発話でも起こるわけではなく、「何（だ）それ」の文字テクストにおいては、相手の返答を期待しないが相手に聞かせるために行う独り言の役割を持つときに、ドイツ語版において翻訳の変更が見られた。

この翻訳変更の傾向の結果は5.2.の皮肉表現の分析結果と一致するものであるが、ただし今回集めた中では1例のみであったが、（6-8）のように「態度」のパラメーターが日本語とドイツ語で不一致となる翻訳例もあった。その場合には会話の流れの理解が変わると考えられ、そのような変更のある翻訳について更なる分析が期待できる。

しかし、「何（だ）それ」という発話が担いうる、修復の他者開始とセルフトークという

行為は、単独の発話の特徴からのみ判断するというよりも、シークエンス上の位置といった相互行為的な観点とのかかわりが強く、パラメーターの項目が独立して立てにくい対象であった。相互行為的な観点が会話のテクストの分析に欠かせないことは確かであるが、それをどのようなパラメーターの項目として立てるか、分析をどのように行うかについて、さらなる改善が必要だと考えられる。

5.2.と 5.3 の分析によって、発話行為論や会話分析的要素を翻訳分析に取り入れることの有効性を示すことができたと考える。さらに、パラメーター分析によって、どのように翻訳が変更されたかを可視化する成果があった。

パラメーターを用い、発話行為・会話分析的な要素から翻訳テクストを比較したこれらの分析から明らかになったのは、翻訳において保持される傾向のある要素は、発話の態度であり、翻訳の内容が変更されたとき変わっているのは発話の行為、続いてシークエンス上の位置であることが明らかになった。

この結論から、翻訳研究の際に持つべき観点として、コミュニケーションを形成する構成要素の中にもより優先される要素、あるは普遍的性がある要素があるということを新しく提示した。本研究が分析した限りでは、会話の翻訳において発話の態度が最も優先される要素であり、発話の行為やその評価、シークエンス上の位置の変更によって態度を保持、強調する翻訳が行われることが明らかになった。

また、マンガのテクストに限った特徴からは、マンガ表現論が明らかにしようとしているマンガのページの画面の中に配置されるコマ、吹き出しの位置などとの相関を論じる可能性を示唆するものである。実際の会話の分析手法をマンガテクストの分析に用いる際にも検討したが、マンガのテクストは主に吹き出しや四角枠という配置される位置が限定されており、またその量もスペースによって制限されている。このような制限の中で相互行為的な要素を実現・翻訳する際に、マンガテクスト独特の特徴が表れている可能性は大いにあると考えられる。

以上、本研究は、マンガテクスト研究・マンガテクスト翻訳研究において統一した方法論を提案すること、またマンガの文字テクストがどのような要素から分析できるかを提案すること、それを通して実際の翻訳例からどのような受容が起こっているかを分析した。その結果、「なじみのないもの」の翻訳と会話の翻訳という二つの大きなテーマを立て、マンガの文字テクストから例を抽出し、分析考察を行った。

その結果、マンガのテクストにおいて「文字テクスト」の定義を行い、文字テクストが会話の表現であることを明らかにした。これにより、従来は実際の会話を対象としてきた社会言語学・会話分析などの手法を用いてマンガの文字テクスト翻訳比較研究を行うことが可能であることを示した。さらに、この方法論の提案をするだけではなく、その実践を行った。また、翻訳語選択には翻訳語地域の文化背景から分析を行うことの有効性を示せた。

さらに上記のような方法論の問題に加えて本研究を通して訴えたいことは、研究対象としてのマンガのテクストが持つ豊かな可能性である。先行研究で見た通り、マンガのテクストそのものが多様性に富んでいる。あいさつやオノマトペ、ことば遊びといった様々な語や表現の形式以上に、具体的な会話場面に密着したテクストであり、それぞれの場面で含意やストラテジーが読み取れ、発話者が担う役割の位置づけなどを分析対象としてとらえると、問題性の深さは尽きることがない。

マンガのテクストは、先行研究で見たように「話すテクスト」である。様々な世界に生きる様々な人物が、生き生きと交わした会話のテクストである。それだけでは情報的、芸術的には価値のない、ごく普通の日常会話の内容に過ぎないが、日本が発信しようと試みる以上に海外から熱狂的に希望され、驚くべきスピードで翻訳されているという事実が歴然とある。それが、マンガ一冊につき何千例をすでに翻訳された点数分かけ合わせた量の蓄積が存在する。しかもそれが読みたいという需要にこたえて毎月何十冊、何百冊分も増えていくのである。一つ一つのテクストは短く、たいていは些末な日常的な内容だが、そのような日本語のテクストが未だかつてこれほどの速度と量で翻訳され、しかも翻訳が強く期待されて受け入れられた例もそうないと思われる。このことの重要性、意義はどれほど強調してもしすぎることはない。

その翻訳においては、本研究で見たように、受容側の読みたいという欲求と、翻訳提供側の解釈とこのように理解してほしいという期待の上に行為が成立している。場合によっては全くの誤訳で読んでも理解できないようなテクストもあるが、翻訳者の解釈と発想が素晴らしい反応を起こし、無数にある翻訳テクストの中から思わず唸るような名訳が生まれている。このような送り手と受け手の熱心な努力と協力による成果は、地道な翻訳作業によってのみ達成されたものである。しかしながら、本論 1 章で述べたような日本サブカルチャーの世界的存在感と需要は、まさにここから生まれたのであり、リオデジャネイロ五輪の締めとなる、首相をも巻き込んだパフォーマンスが可能となったのである。この事実を無視するべきではない。

マンガテクストは、現代の同文化・異文化コミュニケーションを分析する格好の素材であり、しかも切り取り方によっては文化分析、作品分析にもなりうる宝の山である。場合によってはたかがマンガ、と軽んじられる向きのある媒体だが、そのテクストには現代の文化背景、環境、歴史、社会など様々な要素に満ち満ちており、分析対象は山のようにある上に、リアルタイムで着々と増えていく。そういった意味では、本論文で取り上げることのできた部分は本当にほんのわずかでしかない。

膨大なマンガテクストという分析材料、それらが抱える問題性の深さに対して、本研究が分析できたのはほんの一部のテクストにすぎず、しかもそれは『よつばと！』という一作品の中に限ったものである。本研究が取りあげた翻訳例、問題、分析はマンガ翻訳比較研究の氷山の一角にすぎず、マンガ翻訳における全体的な傾向を明らかにするものではない。あく

まで、翻訳するモノとそれが登場する文脈、それを翻訳する方法の対照比較とその分析方法の考察・実践を目的としたため、たった一作品の作品テクストに対象を限り、多くの分析対象・観点を切り捨ててある。しかし、まだ新しい研究分野であるマンガのテクスト翻訳比較研究において、本研究が方法論を提示し、その有効性を示したことにより、今回取り扱うことのできなかったテーマ、あるいは他の作品、他の翻訳媒体との横断的な研究に際しての新たな研究の方向性を提示できたと考えている。

例えばジェンダーの領域から、キャラクターと話し言葉の結びつきについて論じた研究は、数少ないながら存在するが、アニメ・マンガ的な役割語・借り物スタイルの実践と結びつけ、新たな発展が望めるのではないだろうか。

また、マンガ表現論的なマンガの画面構成・理解とテクスト解釈は切り離せるものではなく、イラストと一体的にテクスト分析を行うことの重要さは本研究を通して強く感じられた。さらに吹き出しによって配置されたテクストの位置と、会話のシークエンスの構成とも強い結びつきがあると考えられる。また、2 ページの見開きで構成されるマンガ画面においては、右ページの終わり、または見開きページの終わりの右下のコマと、視線が大きく動く次のコマとのつながりが特徴的なものとして現れる。そうした視線誘導的な要素と、テクストはどうかかわるかという問題にも発展しうるだろう。

発話行為論や、会話分析的な相互行為を分析する手法を部分的に取り入れたが、その中でもポライトネス的な分析をもっと取り入れる分析もありうる。描写型、忠告型などのスピーチ・アクトで文字テクストを分類し、各言語の傾向を見るような分析が例えば考えられる。

本研究で新しく取り入れたパラメーターの分析は、翻訳内容の変更を視覚化、またその効果の変化の解釈、翻訳の傾向比較に成功したと自負はあるが、まだまだ発展性と可能性を秘め、改良の余地のある方法であると考えている。

そして以上のような新たな試みを行う場合、本研究のように一作品内の比較にとどまらず、他作品を横断して翻訳例を収集・分析した方が有効な分析対象もあるだろう。あるいは、翻訳特徴に共通点を持つ映画翻訳との比較、また同じサブカルチャーに属し、媒体によって異なる翻訳特徴を持つアニメ・ゲームの翻訳を比較することも可能である。

マンガ翻訳比較研究には問題は山積しているが、本論は後に続く研究のための道を少しでも示せたのではないかと考えている。これから、様々な現象、様々な言語、様々な作品において活発なマンガ翻訳テクスト比較が行われることが期待される。

７．参考文献一覧

一次資料

Azuma, Kiyohiko. (2012) *Azumanga Daioh*, Übersetzer:Wehner, Marcus, 1-2Bds, TOKYOPOP

Azuma, Kiyohiko. (2007-2013) *Yotsuba&!*, Übersetzer:Wehner, Marcus, 1-12Bde, TOKYOPOP

Azuma, Kiyohiko. (2009-2016) *Yotsuba&!*, Translator:Amy, Horsyth(Vol.1, 4-9), Stephen Paul(Vol. 2-3, 10-13), Vol.1-13, Yen press

あずまきよひこ（2000-2002）『あずまんが大王』1-4 巻、メディアワークス

あずまきよひこ（2003-2015）『よつばと！』1-13 巻、アスキーメディアワークス

参考文献

Animagic, https://animagic.animania.de/（閲覧日：2016/09/06）

Austin, John. (1955) *How to Do Things with Words*, Oxford University Press

Balzer, Jens (transl. Hirofumi Hosokawa). (2004) 「ドイツにおけるマンガの行方――経済・文化・表現の側面から」,『マンガ研究』1、pp.74-83

Brown, Penelope and Levinson, Stephen. (1987) *Politeness - Some universals in language usage*, Cambridge University Press

Britannica, "*the Encyclopædia Britannica*", Britannica Academic, http://academic.eb.com/.（参照 2015-11-09）

CLAMP. (2004) *xxxHolic*, Translator:Dana Hayward, Vol.2, Del Rey

Du Bois, John W. (2007) "The stance Triangle", S*tancetalking in Discourse Subjectivity, evaluation, interaction*. Ed.Robert Englebretson. Amsterdam / Philadelphia: John Benjamins Publishing Company. pp. 139-182

Duden: Das große Wörterbuch der deutschen Sprache in zehn Bänden, Bd.1-10. hg. vom Wissenschftlichen Rat der Dudenredaktion. 3., völlig neu bearbeitete und erweiterte Auflage. Mannheim 1999

Franco, Javier Aixelá. (1996) "Culture-specific Items in Translation", in Álvarez C.-Á. Vidal(eds.) *Translation, Power, Subversion*. Multilingual Matters. pp. 52-78.

Frankfurter Allgemeine, "Manga-Manie in Leipzig"（2014/3/13）http://www.faz.net/aktuell/feuilleton/buchmesse-manga-manie-in-leipzig-12845490.html（閲覧日：2016/9/6 閲覧）

GfK Entertainment, “50 PROZENT MEHR UMSATZ: DAS GESCHÄFT MIT MANGAS BOOMT” http://www.gfk-entertainment.com/news/50-prozent-mehr-umsatz-das-geschaeft-mit-mangas-boomt/2826-50-prozent-mehr-umsatz-das-geschaeft-mit-mangas-boomt.html（閲覧日：2016/8/9）

Goffman, Erving. (1981) *Forms of Talk*, University of Pennsylvania Press

Grice, Paul. (1991) *Studies in the Way of Words*, Harvard University Press

Grimm, Jacob and Wilhelm Grimm, eds. 1854-1971. *Deutsches Wörterbuch*. Bds. 33. (Bd. 31: 1956). Leipzig: S. Hirzel. Nachdruck; München: Deutschen Taschenbuch Verlages

Gyllenfjell, Per. (2013) "Case Study of Manga Translation Problems", Dolarna University. School of Languages and Media Studys, Japanese. Open Access(diva2:602887), pp.1-36

JETRO（2006）「ドイツにおける日本マンガ市場の実態」
https://www.jetro.go.jp/ext_images/jfile/report/05001277/05001277_002_BUP_0.pdf
（閲覧日：2019/09/23）

Jüngst, Heike. (2004) "Japanese Comics in Germany," *Perspectives: Studies in Translatology*, 12:2, pp.83-105

Jüngst, Heike. (2007) "Manga in Germany – From Translation to Simulacrum," *Perspectives: Studies in Translatology*, 14:4, pp.238-259

Japan Knowledge, http://japanknowledge.com/library/.（参照 2015-11-09）

Marcus Wehner (2003) Übersetzen in der Unterhaltungsbranche,『関西大学視聴覚教育』26、pp. 35-43

Searle, John (1969) *Speech Acts:an Essay in the Philosophy of Language*, Cambridge University Press

TOKYOPOP, "Neu bei TOKYOPOP im Oktober" (2016/04/18)
http://tokyopop.de/aktuell/neu-bei-tokyopop-im-oktober-2016/（閲覧日：2016/09/23）

TVSPIELFILM, „Das Mädchen mit den Wunderhölzern“
http://www.tvspielfilm.de/kino/filmarchiv/film/das-maedchen-mit-den-wunderhoelzern,1315824,ApplicationMovie.html（閲覧日：2016/09/28）

秋元頼孝（2009）「アイロニーの攻撃性と聞き手の性格特性との関係」、『日本認知心理学会発表論集』2009(0)、p.73、日本認知心理学会

秋元頼孝、宮澤志保、杉浦元亮、川島隆太（2011）「皮肉や肯定的発話への返答のしかたと性格特性との関係」、『電子情報通信学会技術研究報告書. HCS, ヒューマンコミュニケーション基礎』110(383)、pp.25-30、電子情報通信学会

あずまきよひこ（2014）「特集　まんがのはなし[壱]　よつばと！あずまきよひこインタビュー」、『季刊エス』12(4)、pp.22-33、飛鳥新社

あずまきよひこ、伊藤剛（聞き手）（2006）「キャラクターがそこにいるというマンガを」、『ユリイカ』38(1)、pp.108-117、青土社

東浩紀（2001）『動物化するポストモダン―オタクから見た日本社会』、講談社

東浩紀（2007）『ゲーム的リアリズムの誕生―動物化するポストモダン 2』、講談社

荒俣宏編（1991）『世界大博物図鑑　第 1 巻　[蟲類]』、平凡社
伊藤剛（2005）『テヅカ・イズ・デッド――ひらかれたマンガ表現論へ』、NTT 出版
――（2007）『マンガは変わる』、青土社
伊藤暢章（2001）「海外出版レポート・ドイツ――ドイツのコミック業界に変化のきざし」、『出版ニュース』2001 年 4 月下旬号、p.18、出版ニュース社
――（2014）「海外出版レポート・ドイツ――盛況だったタイプツィヒ書籍見本市」、『出版ニュース』2343（2014 下旬号）、p-22-23、出版ニュース社
伊藤雅光（2003）「英語圏における日本の漫画・アニメ用語集の構造と基本用語の特徴」、『日本語学』22(12)、pp.66-74、明治書院
岩下朋世（2013）『少女マンガの表現機構――ひらかれたマンガ表現史と「手塚治虫」』、NTT 出版
因京子（2005）「日本語学習者の日本語会話解釈上の問題点―日本語学習者によるマンガ理解を通して―」、『比較社会文化：九州大学大学院比較社会文化研究科紀要』11、pp.83-92、九州大学
上野行良（1992）「ユーモア現象に関する諸研究とユーモアの分類化について」、『社会心理学研究』7(2)、pp.112-120、日本社会心理学会
内田恵（2003）「発話行為理論の教え方について」、『静岡大学教育学部研究報告. 教科教育学篇.』34、pp.255-264、静岡大学
内海彰（1997）「アイロニーとは何か？―アイロニーの暗黙的提示理論」、『認知科学』4(4)、pp.99-112、日本認知科学会
――（2001）「レトリックの認知・計算モデル：隠喩とアイロニー」、『認知科学』8(4)、pp.352-359、日本認知科学会
――（2003）「言外の意味のコミュニケーション―語用論概説―」、『人工知能学会誌』18(3)、pp.337-345、社団法人人工知能学会
瓜生吉則（1998）「〈マンガ論〉の系譜学」、『東京大学社会情報研究所紀要』56、p.135-153、東京大学
ウンサーシュッツ・ジャンカーラ（2010）「人気マンガのコーパスで見る文字表現の分類について」『日本マンガ学会第 10 回大会プログラム・発表要旨集』、p.23、京都、日本マンガ学会
――（2011）「マンガにおける文字表現の視覚的区別とその役割について」『日本マンガ学会第 11 回大会プログラム・発表要旨集』、p.21、高知、日本マンガ学会
――（2012）「書き言葉として見るマンガとその表記上の特徴」『日本マンガ学会第 12 回大会プログラム・発表要旨集』、p.52、東京、日本マンガ学会
大塚英志（2004）『「おたく」の精神史―一九八〇年代論』、講談社
大津友美（2004）「親しい友人同士の会話におけるポジティブ・ポライトネス―「遊び」としての対立行動に注目して―」、『社会言語科学』6(2)、pp.44-53、社会言語科学会

――（2007）「会話における冗談のコミュニケーション特徴―スタイルシフトによる冗談の場合―」、『社会言語科学』10(1)、pp.45-55、社会言語科学会
大橋まり子（2008）「発話連続に見るポライトネス―映画の会話場面の分析から―」、『湖北紀要』29、pp.63-75、湖北短期大学
大塚萌（2015）「ドイツにおける日本サブカルチャー受容の変遷――日本マンガ『新世紀エヴァンゲリオン』における呼称表現の翻訳」、『人文社会科学研究』、千葉大学大学院人文社会科学研究科、第 30 号、pp.158-176、千葉大学
大塚萌（2016）「「なじみのないもの」の翻訳と誤訳に関する考察――日本マンガ『よつばと！』のドイツ語訳における「たい焼き」」、鴻野わか菜編『生存と共生―人文学の現在』、千葉大学大学院人文社会科学研究科、研究プロジェクト報告書第 304 集、pp.96-104、千葉大学
大塚萌（2016）「日独比較文化から見る「なじみのないもの」の翻訳手法――日本マンガ『よつばと！』のドイツ語訳における「セミ」」、『人文社会科学研究』、千葉大学大学院人文社会科学研究科、第 32 号、pp.159-179、千葉大学
大塚萌（2016）「発話行為・会話分析的要素による日独マンガ翻訳テクストのパラメーター比較分析――日本マンガ『よつばと！』における「何（だ）それ」を例に」、石井正人編『翻訳・翻案・伝承――文化接触と交流の総合研究』、千葉大学大学院人文社会科学研究科、研究プロジェクト報告書第 299 集、pp.56-85、千葉大学
オースティン，ジョン（1978）『言語と行為』坂本百大訳、大修館書店
岡田眞樹（2003）「ドイツにおけるマンガブーム」、『出版ニュース』2003 年 2 月下旬号、p.6、出版ニュース社
岡本克人（1991）「日仏漫画の対照言語学的研究―オノマトペを中心に」『高知大学学術研究報告　人文科学』40、pp.23-39、高知大学
金田純平、澤田浩子、定延利之（2008）「コミュニケーション・文法とキャラクタの関わり」、『月刊言語』37(1)、pp52-59、大修館書店
河野至恩（2014）『世界の読者に伝えるということ』、講談社
窪園晴夫（2003）「言葉遊びの言語学」、『月刊言語』32(2)、pp.26-35、大修館書店
熊野七絵（2011）「アニメ・マンガの日本語　～ジャンル用語の特徴をめぐって～」、『広島大学国際センター紀要』1、pp.35-49、広島大学交際センター・国際教育部門
熊野七絵、川嶋恵子（2001a）「「アニメ・マンガの日本語」Web サイト開発―趣味から日本語学習へ―」、『国際交流基金日本語教育紀要』7、pp.103-117、国際交流基金
――（2011b）「アニメ・マンガの日本語～ジャンル漢字の特徴をめぐって～」、『広島大学留学教育』15、pp.17-31、広島大学国際センター
熊野七絵、廣利正代（2008）「「アニメ・マンガ」調査研究―地域事情と日本語教材」、『国際交流基金日本語教育紀要』4、pp.55-69、国際交流基金
グライス，ポール（1998）『論理と会話』清塚邦彦訳、勁草書房

経済産業省（2014）「クールジャパン政策について」
http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/creative/kisoshiryo.pdf（閲覧日：2016/09/23）
経済産業省（2016）「クールジャパン政策について」
http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/creative/20160809CJseisakunitsuiteAugust.pdf（閲覧日：2016-09-23）
ゴッフマン，アーヴィング（1980）『ゴッフマンの社会学 4　集まりの構造――新しい日常行動論を求めて』丸木恵祐・本名信行訳、誠信書房
小堀桂一郎（1978）『イソップ寓話―その伝承と変容』、中央公論社
小松原哲太（2015）「言葉遊びであることのメタ言語的言及」、『語用論研究』17、pp.33-41、日本語用論学会
小山猛（2005）「海外出版レポート・アメリカ――「アメリカマンガ市場」の成熟度」、『出版ニュース』2005 年 4 月下旬号、p.19、出版ニュース社
今野真二（2016）『ことばあそびの歴史――日本語の迷宮への招待』、河出ブックス
サール，ジョン（1986）『言語行為　言語哲学への試論』坂本百大・土屋俊訳、勁草書房
斎藤環（2008）「ユートピアゆき猫目の切符　『よつばと！』のメタ感情記号」、『ユリイカ』40(1)、pp.77-83、青土社
桜井芳生（1993）「コミュニケーションにおける「皮肉」のポリティックス―「意味不安」による仮説的回答案―」、『鹿大史学』41、pp.1-12、鹿児島大学
サーサス，ジョージ、ガーフィンケル，ハロルド、サックス，ハーヴィー、シェグロフ，エマニュエル（1989）『日常性の解剖学――知と会話』北澤裕・西阪仰訳、マルジュ社
定延利之（2007）「話し手は言語で感情・評価・態度を表して目的を達するか？：日常の音声コミュニケーションから見えてくること」、『自然言語処理』14(3)、pp.3-15、言語処理学会
定延利之（2014）「キャラクタから見た翻訳の問題と解決」、『電子情報通信学会技術研究報告. TL, 思考と言語』113(440)、pp.1-6、電子情報通信学会
サックス，ジェファソン、シェグロフ，エマニュエル、ジェファソン，ゲール（2010）『会話分析基本論集――順番交替と修復の組織』西阪仰訳、、世界思想社
重吉知美（2003）「マンガ論の系譜と社会学マンガ研究の可能性」、『社会学研究科年報』10、p.147-158、立教大学大学院
小学館『日本大百科全書』、Japan
鈴木友美（2002）「褒めの返答に対する褒め提示側の印象度分析」、『国際基督教大学学報. III-A, アジア文化研究』28、pp.83-108、国際基督教大学学報. III-A, アジア文化研究
鈴木雅雄（2014）『マンガを「見る」という体験　フレーム、キャラクターモダン・アート』、水声社
鈴木理恵（2002）「褒めの返答に対する褒め提示側の印象度分析」、『国際基督教大学学報.

III-A、アジア文化研究』28、pp.83-108、国際基督教大学
高橋希衣（2011）「文学作品の翻訳に見る異文化伝達法」、『独語独文学研究年報』(37)、pp.20-45、北海道大学
高橋登（2003）「子どもと言葉遊び」、『言語』32(2)、pp.36-44、大修館書店
滝浦真人（2000）「ことば遊び論―伝えないコミュニケーションは何を伝えるか」、『月刊言語』29(2)、pp.20-27、大修館書店
――（2002）「ことば遊びは何を伝えるか？―ヤーコブソンの〈詩的機能〉と会話理論を媒介として―」、『日本語科学』11、pp.79-99、国立国語研究所
滝澤修（1992）「アイロニーの検出について」、『情報処理学会研究報告自然言語処理』、pp.57-64、情報処理学会
――（1994）「含意発話から価値評価に関する発話者の信念を推定するモデルの提案」、『情報処理学会研究報告自然言語処理（NL）』1994(28(1993-NL-100))、pp.65-72、情報処理学会
田中茂範（1995）「発話態度の把握：皮肉と嘘」、『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』27、pp.57-92、慶應義塾大学言語文化研究所
谷出千代子（2013）「「イソップ寓話」翻訳・翻案の特異性："蟻と蟬の事"の事例検証から」、『仁愛大学研究紀要.人間生活学部篇』4、pp.78-86、仁愛大学
豊倉省子（2012）「映画および字幕翻訳を利用した語用論教育の可能性～Politeness を修身に～」、『Media, English and communication：a journal of the Japan Association for Media English Studies』2、pp.167-187、日本メディア英語学会
ナイダ，ユージン（1972）『翻訳学序説』成瀬武史訳、開文社
中村桃子（2007）『〈性〉と日本語―ことばがつくる男と女』、NHK ブックス
中村桃子編（2010）『ジェンダーで学ぶ言語学』、世界思想社
名塩征史、水島梨紗（2011）「相互行為における発話の効力を再考する―社会による限定と参与者による決定―」、『社会言語科学』13(2)、pp.46-58、社会言語科学会
夏目房之介・竹内オサム編著（2009）『マンガ学入門』、ミネルヴァ書房
夏目房之介、宮本大人、伊藤剛（2006）「キャラの近代、マンガの起源　『テヅカ・イズ・デッド』をめぐって、『ユリイカ』38(1)、pp.52-67、青土社
西阪仰（1997）『認識と文化 13　相互行為分析という視点――文化と心の社会学的記述』、金子書房
日本デー（日本語版）, http://www.japantag-duesseldorf-nrw.de/jp/、及び 2016 年度プログラム, http://files.japantag-duesseldorf-nrw.de/epaper/（閲覧日：2016/09/06）
野村正人（1999）「蝉はどこへ行った：ラ・フォンテーヌ,イソップ寓話の形象化」、『東京農工大学人間と社会』10、pp.115-132、東京農工大学
藤濤文子（2000）「翻訳評価のためのコミュニケーション的分析」、『ドイツ文学論集』(29)、pp.41-64、神戸大学

——（2001）「ことば遊び翻訳の機能主義的考察」、『ドイツ文学論集』(30)、pp.61-84、神戸大学
——（2002）「固有名詞の翻訳方法について——グリム童話の場合——」、『ドイツ文学論集』31、pp.19-32、神戸大学
——（2004a）「文学テクストの翻訳にみる異文化コミュニケーション行為——評価分析のための技法——」、『ドイツ文学』(115)、pp.30-42、日本独文学会
——（2004b）「翻訳における注のコミュニケーション機能について——『キッチン』の独英訳を例に——』33、pp.27-38、神戸大学
——（2008）「異文化をどう訳すか——翻訳行為とその機能」、『日独研究論集』(3)、pp.5-15、DAAD 友の会
ベイカー，モナ、サルダーニャ，ガブリエラ編（2013）『翻訳研究のキーワード』藤濤文子監修・編訳、伊原紀子、田辺希久子、研究社
ベイトソン，グレゴリー（1990）『精神の生態学』佐藤良明訳、思索社
ベルント，ジャクリーヌ（2004）「世界性への志向と国民性への固執のはざまで——ドイツ語圏のコミック論をめぐって」、『東北ドイツ文學研究』48、pp.201-230、東北大学文学部ドイツ文学研究室
細川裕史（2003）「マンガを読む言語学——文字と絵画の境界線を往く——」『独逸文学』47、pp.429-438、関西大学
——（2013）「ドイツにおける日本マンガの受容について——マンガ・ブームとその終焉」『ドイツ研究』47、185-191、日本ドイツ学会
堀あきこ（2009）『欲望のコード——マンガにみるセクシュアリティの男女差』、臨川書店
前田泰樹・水川喜文・岡田光弘編（2007）『ワードマップ　エスノメソドロジー　人びとの実践から学ぶ』、新曜社
水島梨紗（2006）「日本語日常会話における「からかい表現」のフレーム分析」、『ヒューマン・コミュニケーション研究』34、pp.53-72、日本コミュニケーション学会
光本浩士、柳田益造、大多和寛、田村進一（1996）「皮肉音声の音響的特徴に基づいた判別」、『電子情報通信学会技術研究報告書. SP, 音声』96(160)、pp.17-24、電子情報通信学会
宮戸美樹、上野行良（1996）「ユーモアの支援的効果の検討—支援的ユーモア志向尺度の構成」、『心理学研究』67(4)、pp.270-277、日本心理学会
森井正史（2004）「イソップ寓話の変容：ラ・フォンテーヌの『蝉と蟻』について」、『京都光華女子大学研究紀要』42、 pp.59-73、京都光華女子大学
諸岡知徳（2010a）「コマの中のオノマトペ——マンガ表現論(2)」、『甲南女子大学研究紀要. 文学・文化編』47、pp.15-24、甲南女子大学
——（2010b）「マンガのことば——マンガ表現論」、『甲南女子大学研究紀要. 文学・文化編』46、pp.29-40、甲南女子大学
矢崎満夫（2009）「アニメを素材とした日本語学習活動『アニメで日本語』の開発：「アニマ

シオン」のティーチング・ストラテジーに着目して」、『静岡大学国際交流センター紀要』3、pp.27-42、静岡大学
矢崎満夫、塩田真吾（2014）「『アニメで日本語』の普及を目指したオリジナルアニメ開発の試み：「教育内容」より「面白さ」を重視して」、『静岡大学国際交流センター紀要』8、pp.29-45、静岡大学
安井稔（1978）『言外の意味』、研究社出版
柳田益造（1994）「言外の意味の表出における韻律の様相」、『電子情報通信学会技術研究報告書. HC, ヒューマンコミュニケーション』94(217)、pp.25-32、電子情報通信学会
山崎敬一編（2004）『実践エスノメソドロジー入門』、有斐閣
梁偉鴻（2011）「翻訳におけるポライトネスと異質化翻訳ストラテジー―日英・日中の翻訳をめぐって―」、『創価大学大学院紀要』33、pp.235-256、創価大学
レヴィンソン，ステファン・C.（1990）『英語語用論』安井稔・奥田夏子訳、研究社
渡浩一（2014）「イソップ寓話「アリとキリギリス」の日本的変容―『イソポのハブラス』における改変をめぐって」、『明治大学国際日本学研究』6(1)、pp.59-74、明治大学

平成 28 年度

日本マンガの独・英翻訳比較研究
資料編

千葉大学大学院
人文社会科学研究科
博士後期課程
大塚　萌

目次

図版..... 2
図版引用元..... 98

図版

＊複数ページを連続引用している場合、読む方向に合わせて右から左に向かってページを並べている



(1-1j)



(1-1d)


そうそう
お盆はおばあちゃんち行くからね
忘れてないって
きらら
ちゃんとあけときなさいよ
はいはい
3日間だけ？
どて
うう
田舎が沖縄だったらよかったのになー
いいねー
あ
よつばちゃん
よつばちゃんここに来る前はおばーちゃんちにいてねー
その前は島にいたって言ってたよー
へえ——
187

(1-2j)


Kissen ...
Also haltet euch die Feiertage frei.
Okay.
Nur die drei Tage?
Bevor ich es vergesse.
Wir fahren über die Obon*-Feiertage zu Oma, okay?
Vergesst das nicht.
*Buddhistischer Feiertag zu Ehren der Geister der Verstorbenen
どて
Das wäre toll.
Urgh...
Lebte Oma doch bloß auf Okinawa ...
Das hat sie?
Und früher hat sie auf einer Insel gewohnt.
Sie hat mal erzählt, dass sie vorher bei ihrer Großmutter gelebt hat.
Oh.
Yotsuba!
187

(1-2d)


あはは! かわいいかわいい
マッチ売りの少女みたいだ
あー いえにひーつけるやつな?
違うよ なんだそれ
あ お盆だし菊も持っていくか
ん?
あれ? 菊はないか
おぼん?
そう 今日はお盆っていってな えーと
死んだおじーちゃんやおばーちゃんが帰ってくる日なんだ
おー?
よし!
じゃあ花キューピット発進せよ!!
ラジャー!! はなキューピットはっしんします!!

(1-3j)


Das Mädchen, das Häuser anzündet?
Äh, nein.
Wo hast du das nur wieder her?
Du bist so süß wie das kleine Mädchen mit den Wunderhölzern.
... in der die Toten ins Diesseits heimkehren, damit wir ihrer gedenken können.
Das ist die Woche ...
Gedenkwoche?
Der Witzbold hat dir alles außer Chrysanthemen mitgegeben.
Hm ...
So ...?
Jawohl, Herr Admiral! Rosenengel Yotsuba führt Befehl umgehend aus!
Rosenengel Yotsuba! Marschieren und Verteilen lautet deine Mission!

(1-3d)


はやくしろ！
でんしゃいっちゃうぞ！
そんなに走ったら危ないよー
電車だったら江田浦とか
うん駅降りてスグだし
昼前には着くだろ
お盆過ぎたら出るってゆーねぇ
クラゲでる？

(1-4j)


Nicht so schnell, Yotsuba. Das Meer läuft uns nicht davon.
Wir verpassen unsere Bahn!
Trödelt doch nicht so!
Zu dieser Zeit schon.
Gibt es viele Quallen im Wasser?
Ja, das ist am nächsten.
Zur Mittagszeit sind wir da.

(1-4d)


そっかー!?
あははは! かわいい! すっごく!
じゃあこれでなんだかわかったー?
やっぱりひまわりもないとだめだなー
うーん
いろいろいるのねぇー
…ごとの日?
ブー
178

(1-5j)


Wirk-lich?
Steht dir ganz aus-gezeichnet, Yotsuba.
Weißt du jetzt, was ich bin?
Hm ...
Ohne Sonnen-blume erkennt man mich nicht.
Was bist du denn?
Nein.
Äh ... Eine Ritterin ?
178

(1-5d)


で
なんで牧場？
牧場なんて
おもしろくないでしょ
いきなり
根本を否定
しやがった
バカか
ぼくじょう
おもしろいぞ！
うしだぞ！
あーっ 今日
9月25日だから
「う・し」の日かぁー
全然
牛の日じゃねぇ！
適当なこと言うな！
お前もう降りろ！
きょうは
うしのひかー
ビカーッ
違う！
細かいこと
気にしてると
ハゲるっスよ

(1-6j)


Und warum ein Bauernhof? Ist doch todlangweilig. Gab's nichts Besseres?
Bist du doof?
Bauernhöfe sind toll! Dort gibt's Kühe!
... Das fällt dir aber früh ein. Bist 'n Spätmerker, was?
Heute ist der 25.9. Jetzt verstehe ich.
Der Tag der Kuh!
Nein!
Heute ist also der Tag der Kuh.
Versteh!
So einen Tag gibt's nicht.
Nun mal nicht so kleinlich. Ihr kriegt noch beide 'ne Glatze, wenn ihr so weitermacht.
Sei still, wenn du nichts Gescheites zu sagen hast. Sonst steigst du hier aus.

(1-6d)


うん！
あ
ありがとう
すごーいな
よつばちゃん
綾瀬ー
誰か来てるよー
へ？
ふーか！
ガタッ
ガタッ
ええ――!?
ど…
え!?
なんでここに!?
おとのけ
ものです
ガコ
ガコ
え!?
わざわざ
持ってきたの!?
JERSEY
MILK
牛乳
900ml
はんこ
ください
え!?
ハンコ!?
なに？
なにそれー
それ何？
牛乳？
風香の子供だって
この子誰？
外人？
ハロー
ハロー――！

(1-7j)


Du bist ja eine ...!
D... Das verschlägt mir glatt die Sprache.
Genau!
Abstempeln?
Du musst meinen Lieferschein abstempeln.
Hallo!
Kommt die aus dem Ausland?
Angeblich Fuukas Kind.
Und warum Milch?
Wer ist die Kleine?
Was soll das heißen?

(1-7d)


あ——
あ——
ピンポーン
だれー？
あー たくはいびん 宅配便だ
ようはがでる！
はんこ これ！

(1-8j)


So was.
Oh.
Ding-dong
Wer ist das?
Wahr-schein-lich der Kurier.
Ich mach auf ...
... und stem-pel ab!

(1-8d)


はいこれで準備オッケー
あー私はムリッス
虫ほ…虫はダメッス
んー そっかあー じゃあ仕方ないなー
はー
エサは虫じゃなくてイクラでもいいんだ
そっちでいいじゃん!!殺すぞ!!
こうイクラを2個程針に刺して—
なんだよイクラって!!ぜいたくだよ!!
じゃあブドウ虫にする?
イクラだよ!!イクラでいいよ!!

(1-9j)


Und schon sind wir start-klar.
Ich kann das nicht.
Ich mag Würmer nicht.
Nein? Sehr schade ...
Uff ...
Du böser Gorilla, warum haben wir nicht gleich die Lachseier genommen, häh?!
Macht aber nichts. Wahlweise kann man auch Lachseier als Köder verwenden.
Wir nehmen die Eier, Mann! Die Lachseier!
Weise gesprochen. Dann nehmen wir doch die Würmer.
Die sind doch bestimmt teuer, du Bonze!
Indem wir statt eines zappelnden Wurms zwei kleine Lachseier am Haken festmachen ...

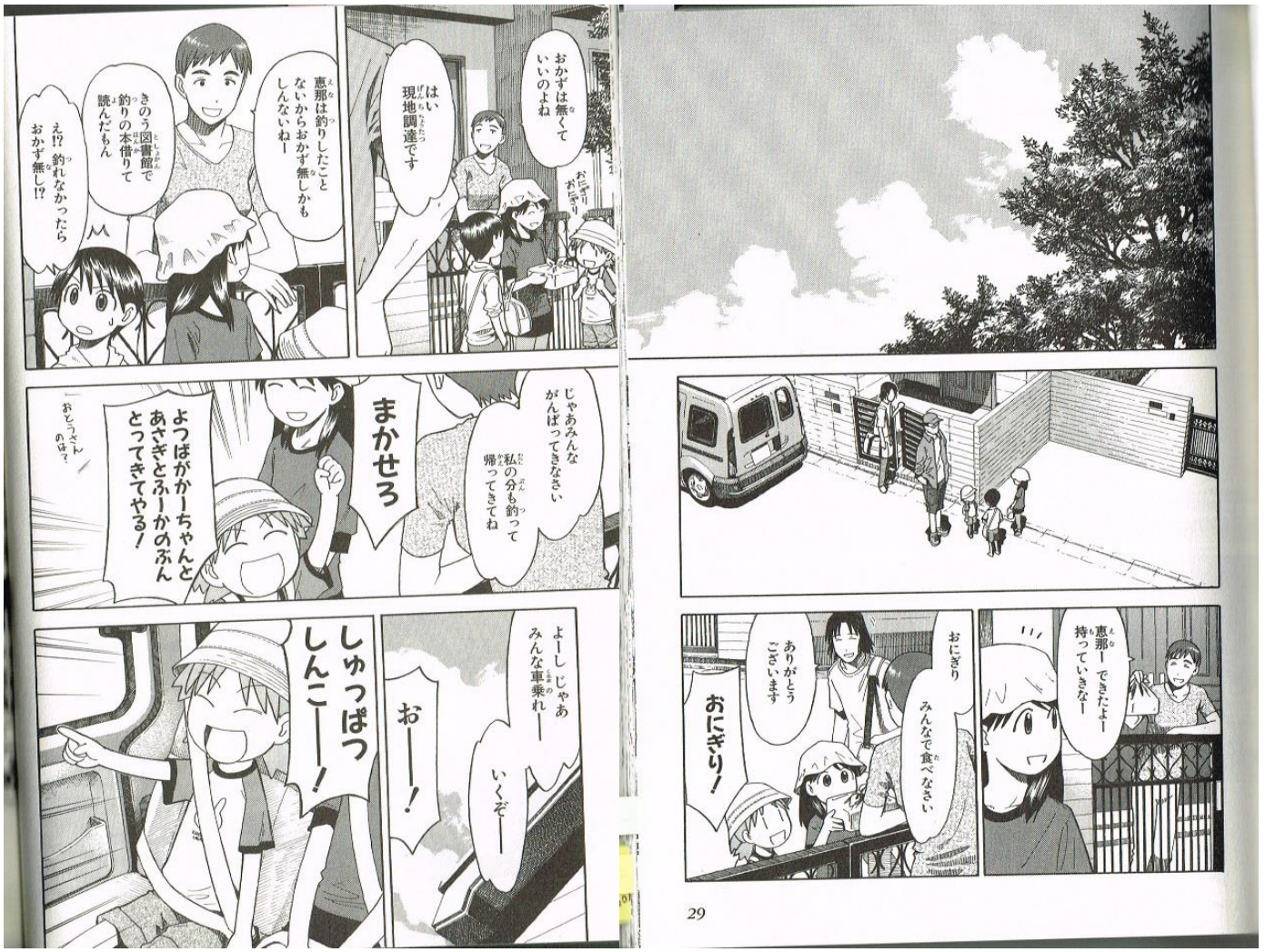
(1-9d)


うまいか？
ものすごい
うまいか？
おう
うまい
ものすごい
うまい
ほんとか？
どれより
うまい？
いくらよりか
うまい？
いくら？
ん――
俺はいくらより
うまいと思うなー
いくらよりか！
いいすぎじゃないか!?
よっぱはそんなに
いくら好きなのか？
あはははは
よっぱ
とーちゃんにも
一杯くれ

(1-10j)


Wirk-
lich
...
... sehr
gut.
In der
Tat.
Sehr gut?
Gut?
ngst du
auch ein
as, Yo-
suba?
Magst
du Sushi
denn so
gern?
Nie-
mals!
Das ist
niemals
besser
als Su-
shi!
Ha ha ha ha!
Sushi?
Besser
als Sushi?
Ja?
Wirklich?
Besser
als alles
andere?
Wie
kommst du
auf Sushi?
Aber ja,
schmeckt
besser als
Sushi.

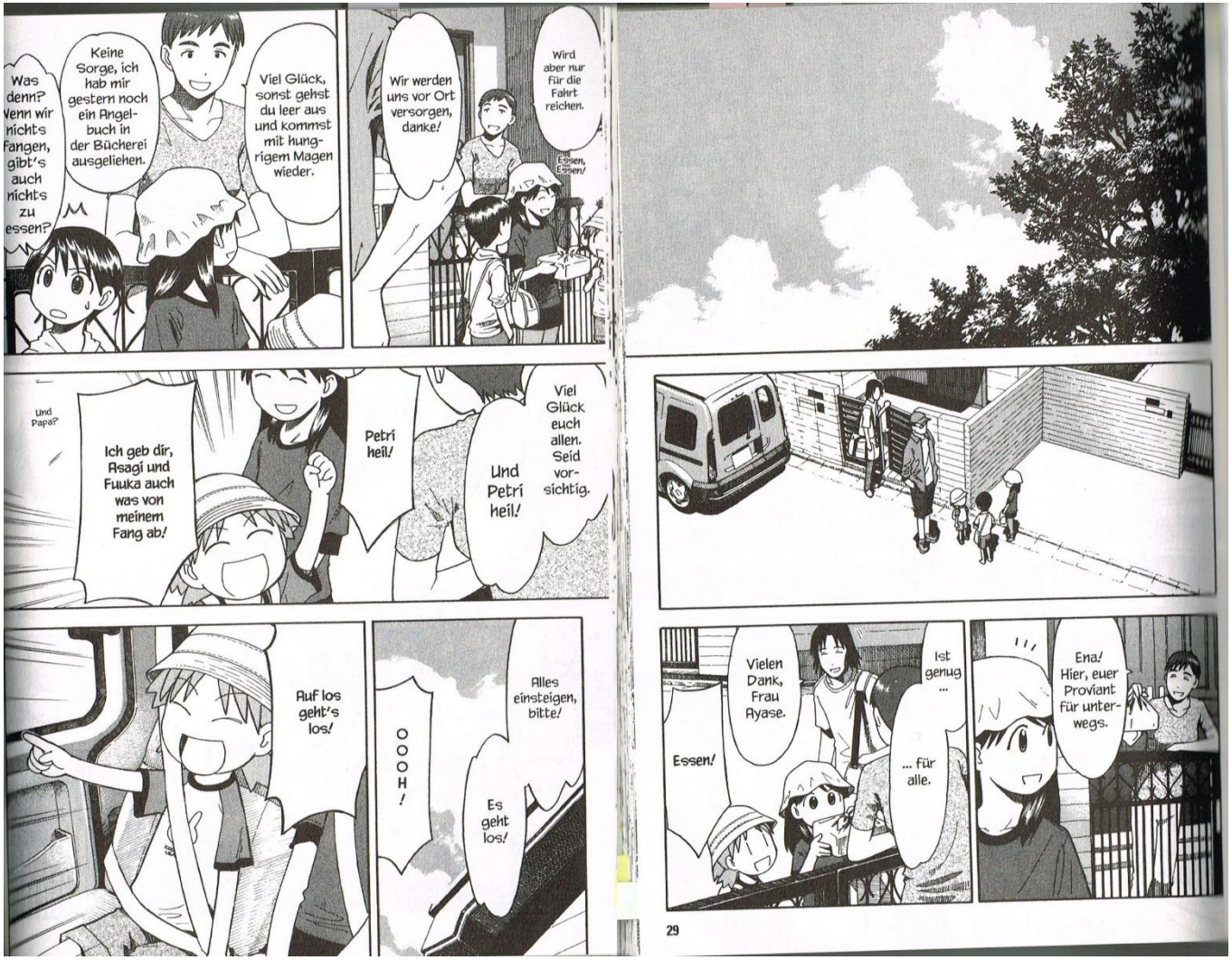
(1-10d)


おかずは無くていいのよね
おにぎりおにぎり
はい 現地調達です
恵那は釣りしたことないからおかず無しかもしんないねー
きのう図書館で釣りの本借りて読んだもん
え!? 釣れなかったらおかず無し!?
じゃあみんながんばってきなさい 私の分も釣って帰ってきてね
まかせろ
よつばがかーちゃんとあさぎとふーかのぶんとってきてやる!
おとうさんのは?
よーしじゃあみんな車乗れー
いくぞー
おー!
しゅっぱつしんこー!
恵那ー できたよー 持っていきなー
おにぎり
みんなで食べなさい
ありがとうございます
おにぎり!
29

(1-11j-1)


いただきまーす!
いただきまーす
ぱく
ぱく
ん――!!
あ
すげーうまい
うんうん
ほら用意(ちょうい)してもらったおにぎりもあるぞー
ん――!!
よつばいま
さいきょう
さいきょう
あ?

(1-11j-2)


Was denn? Wenn wir nichts fangen, gibt's auch nichts zu essen?
Keine Sorge, ich hab mir gestern noch ein Angelbuch in der Bücherei ausgeliehen.
Viel Glück, sonst gehst du leer aus und kommst mit hungrigem Magen wieder.
Wir werden uns vor Ort versorgen, danke!
Wird aber nur für die Fahrt reichen.
Essen, Essen!
Und Papa?
Ich geb dir, Asagi und Fuuka auch was von meinem Fang ab!
Petri heil!
Und Petri heil!
Viel Glück euch allen. Seid vorsichtig.
Auf los geht's los!
OOOH!
Alles einsteigen, bitte!
Es geht los!
Essen!
Vielen Dank, Frau Ayase.
Ist genug ...
... für alle.
Ena! Hier, euer Proviant für unterwegs.
29

(1-11d-1)


Guten Appetit!
Guten Hunger zusammen.
MMMMHHH!
Richtig gut, was?
MMH!
HURRAAA!
Schaut mal, die sind noch von zu Hause.
Ich bin jetzt ...
... die Stärkste!
Die Stärkste!
Aha ...

(1-11d-2)


おにぎりか…
じゃあそうするか
でもうめぼしは
いれちゃだめだ
え――
おにぎりといえば
梅干しだろー
おまえ梅干し
苦手になー
うめぼしはみんな
たべたら すごいかおに
なるからこわい
え!?
そんな理由
だったの!?
うー
うー


よつばは今日
何が食べたい?
なんでも
いいのか?
ん――
ああ
だいたい
何でもいい
たんしお!
たんしお
たべたい!
タン塩!?
そっか…
おまえタン塩
大好きだったな…
でもそれは
熱下がってから
食べに行こう
お――
じゃあなー
じゃあ
おにぎり!

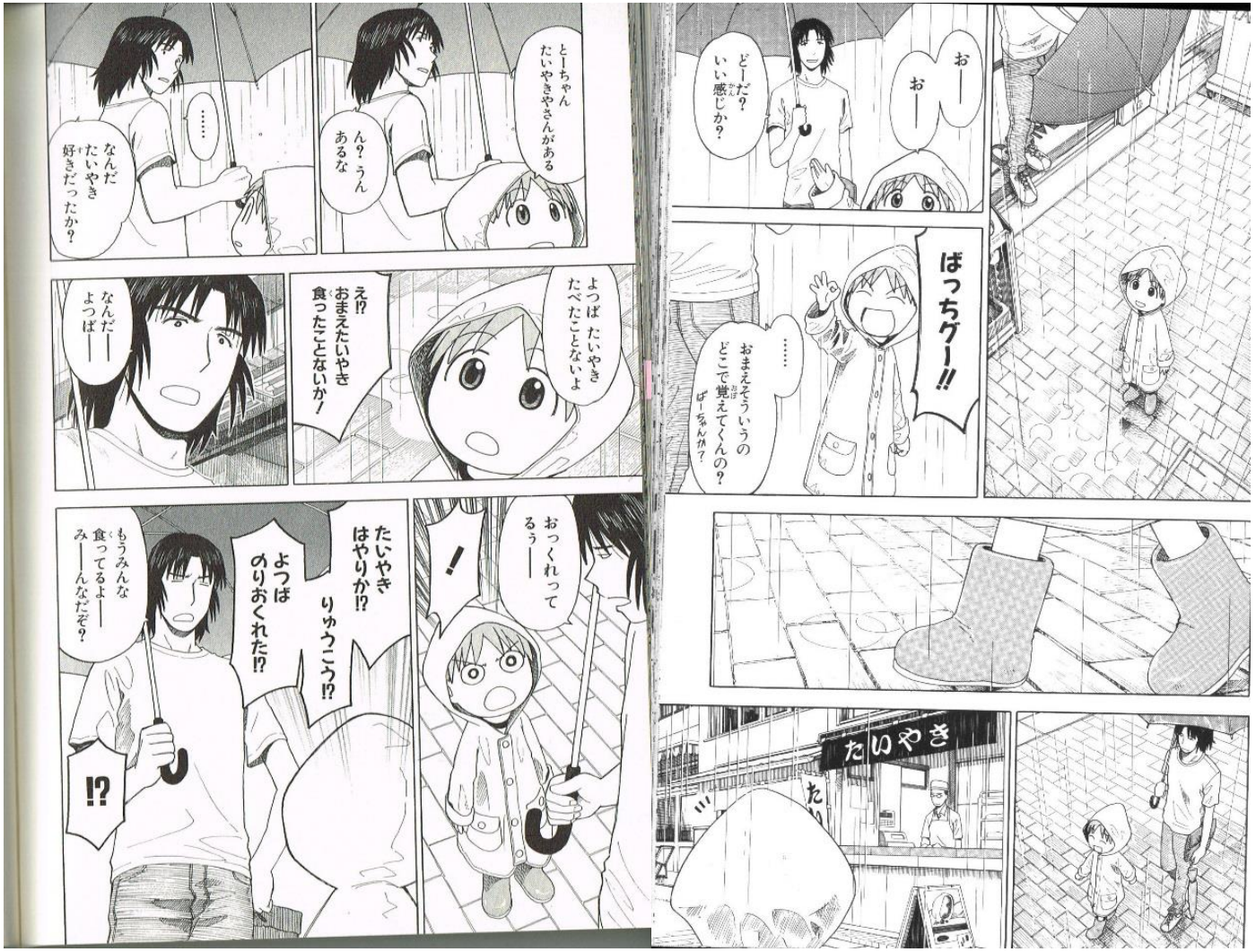
(1-12j)


Hm ...
Fast alles.
Darf ich mir was wünschen? Egal, was?
Was möchtest du heute essen, Yotsuba?
Steak?
Ich will Steak essen!
Steak!
Dann will ich Reisbäll-chen.
Dann ...
Dann ...
Oooh!
Das machen wir, wenn es dir wieder bes-ser geht. Dann gönnen wir uns ein saftiges Steak.
Ach ja, hab ganz vergessen dass Stea zu deinen Lieblings-speisen gehört.

(1-12d)


サンロード
おみせがいっぱいでてきた
あケーキ屋って2つあるよなそーいやどっち?
…どっちのがおいしいのかな
あさぎお姉ちゃんなら知ってるかもしんないけど…うーん…
じゃ近いほうにしとこーよ
たいやき
お嬢ちゃんたいやき買うかい?
なんだこれ?
ん? 食べたことないの?
おっいしーぞぉー
新発売
ツナマヨ

(1-13j)


とーちゃん
たいやきやさんがある
ん？ うん
あるな
……
なんだ
たいやき
好きだったか？
よつば たいやき
たべたことないよ
え!?
おまえたいやき
食ったことないか！
なんだ——
よつば——
おっくれって
るう——
！
たいやき
はやりか!?
りゅうこう!?
よつば
のりおくれた!?
もうみんな
食ってるよ——
み——んなだぞ？
!?
お——
お——
どーだ？
いい感じか？
ばっちグー!!
……
おまえそういうの
どこで覚えてくんの？
ばーちゃんか？
たいやき

(1-14j)


カチッ
ボッ
おお——
508A
もうちょい
ポンピングすれば
火が安定する
よし
へ——
おもしろそうだな
これガソリン？
そう
昔のツーリングの時は
こんなじゃなかったよね
固形燃料とか
使ってたな
金なかったし
それいくら？
1千円くらい
だったかな
ほほーう？
米研いできたー
カレーはよっぱ達に
作らせよう
あいつら
できんの？
野菜はもう
切ってあるんだろ？
できるだろ
やんだは
ご飯炊け
もし失敗したら
お前だけ
ハヤシライスだ
え!?

(1-15j)


Klick
Wupp
508A
Genau.
Ist ja interessant. Ist das Benzin?
Hepp
Noch ein bisschen gepumpt und die Flamme bleibt stabil.
Oho!
Früher auf unseren Reis hatten wir so was nicht dabei.
Da hatten wir nur festen Brennstoff, ja. Wir waren sowieso nie flüssig.
Was kostet das Teil?
Glaub, es waren so um die 7.000 Yen.
Tatsächlich?
Der Reis ist gewaschen.
Du kochst den Reis auf, Yanda.
Lass es anbrennen und du kriegst nichts außer Wasser.
Was?!
Sicher? Können die denn kochen?
Wenn das Gemüse schon geschnitten ist, geht das schon.

(1-15d)


フライング
正体
カタ カタ カタカタ
フー
にゃ
まだ
まだ仕事終わってない
あれ？
つくつくぼーし つくつくぼーし
何描いてんだ？
つくつくぼーし！

96

(1-16j)


……
なんか
すごいの
いる
すごいの？
あ
天狗だ
てんぐ!?
なんで
ついてくる!?
えっと…
なんでかな？
お祭りには
いつもいるよ？
……
おまつり
だいすきなのか？

(1-17j)


…
Da steht
jemand, der
ganz böse
aussieht.
Böse?
Oh.
Ein
Tengu*.
*japanischer Bergdämon
…
Vielleicht
mag er
Straßen-
feste …
Keine Ahnung.
Auf Straßen-
festen ist er
aber immer
dabei.
Warum Ten-
gu?
verfolgt
er uns?

(1-17d)


ギャ――――ッ!!
これは仁王さん
仁王さんに悪いうそつき虫を退治してもらう
ギャ――ッ!!
ちがう!!
うそです!!
うそつきむしいない!!
ようばがうそついた!!

(1-18j)


NNNGAAAAHHH!!!
*Devas sind Wächtergottheiten, die oft am Eingangstor buddhistischer Tempelanlagen stehen.
Das ist Herr Deva*.
Herr Deva hat einen starken Magen und kann Lügenkäfer vertilgen.
AAAAHHH!!!
Nein! Nein! Ich hab gelogen!
Es gibt keinen Lügenkäfer!
Ich hab gelogen!

(1-18d)


そういえば よつばちゃんて どっから引っ越して きたの?
……
えーと…
……
ひだりー
そ そっか 左かぁー…
おちゃわん もつほう
おぉ よく しってるゆー
よつばちゃんは 絵 うまいねー
そーか!?
ふーかは へたな
ぜっ うそっ!?
79

(1-19j)


...
Mmmh ...
Wo kommt eigentli her?
Ver... Verstehe. Ihr kommt also von links.
Von links!
Ja, sehr richtig.
Da, wo der Daumen rechts ist.
Ich hab's versucht.
Fi... Findest du?!
Du malst nicht so schön, Fuuka.
Findest du?
Du malst schön, Yotsuba.
79

(1-19d)


はっはっはっは
風香はうまいこと言うなあ
これはぎぶとん一枚だなぁ
はっはっは
お母さん 風香が肩たたき券だけにこってる
だって
これはね最後の一枚なんだ
だからねこれは…
ぴーやって作ったの？それ
学校のパソコンで作ってプリントアウトしてそれにおイモのハンコを押したの
牛乳

(1-20j)


Dir sollte man auch einen Gutschein ausstellen.
Fuuka, du bist ja ganz schön erwachsen geworden.
Ha ha ha ha.
Ha ha ha ha
Findest du nicht auch, Mutter?
Mutter ...
Allerdings ist das der letzte Gutschein.
Und den hebe ich mir auf ...
Den Fond habe ich am PC erstellt und die Bilder mit Kartoffelstempel gemacht.
Hattest du eine Anleitung?
牛乳

(1-20d)


かるいとうく
おもいと
うかない
ええ!?
重いので
浮きません
俺も重いので
浮きません
私は
重くない!!
仲間
仲間
うかない

(1-21j)


Ich bin nicht zu schwer, klar?!
Ich auch. Deshalb gehen wir unter.
Ich bin zu schwer.
Leichtes schwimmt.
Schweres sinkt.
Aber ...?!
Alles über 50 Kilo sinkt.
Doch, wir entstammen derselben Rasse.
Sag ich doch.

(1-21d)


はい よろこんで—
お!?
なんだそれ
こーゆーの
どこで買った?
高いのか?
それは通販
600円くらい
へ—
高いなぁ
おまえは
どうしてそんな
いっぱいいっぱい
入れる
おまたせ
ボー
まあ最近
水でも200円とか
するからいいか
ずず

(1-22j)


Sehr wohl.
Da ist aber jemand zu-vorkom-mend.
Woher habt ihr die? Ist die teuer?
Achtung
Von ei-nem Direkt-versand. Für 600 Yen* die Flasche.
Ganz schön happig.
*ent-spricht ca. 4,50 Euro
Bitte sehr.
Musst du das Glas im-mer randvoll machen?
Na ja, sie knöpfen einem auch 200 Yen für 'ne Flasche Wasser ab.
ずず

(1-22d)


ふーか!
はやく!
はやく!
あ 虎子さん
こんばんはー
うん
とらこ?
そう
こいつ虎子って
ゆーの 名前
すごい名前でしょー
花火の時
タバコ吸うと
爆発しますよー
爆発?

(1-23j)


Beeil
dich,
Fuuka.
Hi.
Hallo,
Torako.
« heißt im Japanischen Tiger.
imposanter
Name, hm?«
Ja, ihr
Name ist
Torako.
Torako?
Zigaretten
und Feuer-
werk vertragen
sich nicht.
Vertragen?

(1-23d)


こんにゃくや
へ？ こんにゃく屋？
いまあっちのへやでやってるへ――…
こんにゃく作つてるの…？
よつばー お前腹は…
あ でてきた ミ
あれ？ いらっしゃい
しごとおわったかー？
んにゃまだだ
ん――ちょっとなぁ
212

(1-24j)


Über-schwätzer!
Über-schwätzer?
Yotsuba, hast du Hunger?
Oh, Papa! ミ
Ob er Fürs Radio oder so moderiert?
So?
Ja, er arbeitet in dem anderen Zimmer.
Hallo, Fuuka.
Ich stecke fest ...
Bist du fertig mit Arbeiten?
Leider nicht.
212

(1-24d)


でもシーフードは合わん！
なんだイカとか貝とか！
肉いれろ肉!!
そーだ！とーちゃんはいいこという
にくいれろ！
なんなんだこの親子…
シーフードなんか入れたらカレーが死ぬ
カレーはそれくらいじゃ死なないの！カレーは強いの！
そんだかーかいニンニク！カレーはつよいな！
¥268
20円
JUNA
有機
こんにゃく
小岩井さん
へ？
どれも似たよーなもんじゃねーの？
こんにゃくはどれがいいですか？
硬いやつとか
ほー
あなるほど
こういう所のは全部似たようなもんですね
やっぱり手作りのがおいしいですよね
…まあ手作りがおいしいんじゃない？
？
こんにゃくってどうやって作るんですか？
えっ？
ん――…
さあ――
よつばたまごとってこい
うん！
なるほど企業ヒミツですね！
？
よつばちゃんのお父さんこんにゃく屋さんだったよね？
……
うん
84

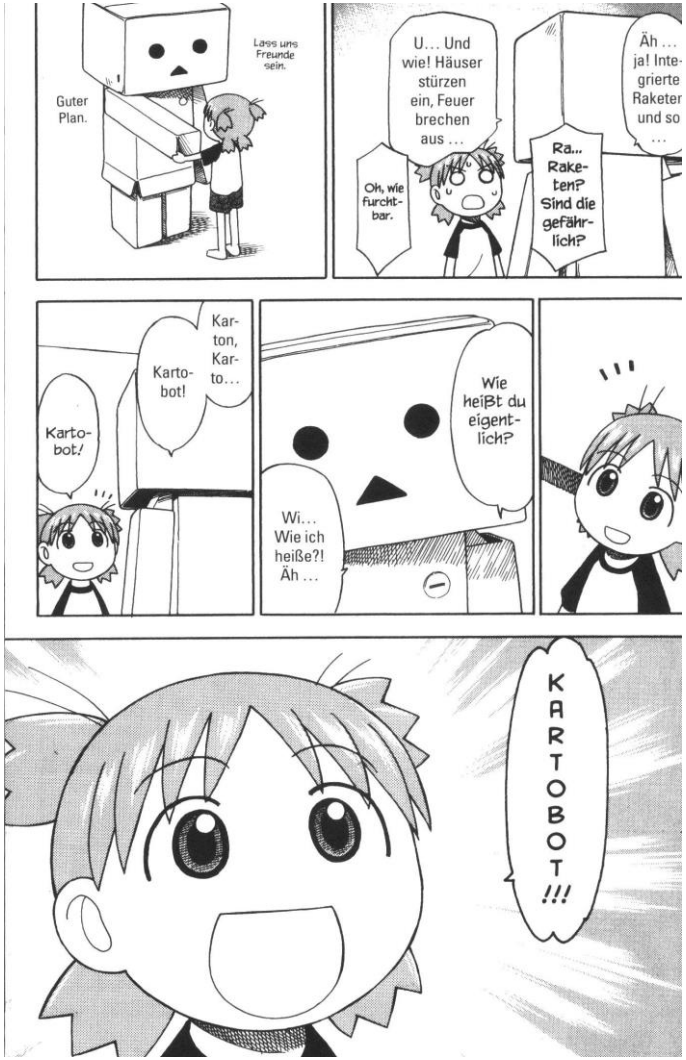
(1-25j)


Geht's euch noch gut?
Ja, Fleisch! Mein Papa hat recht!
In Curry gehört Fleisch!
Fleisch!
... Muscheln haben in Curry nichts zu suchen, sag ich!
Aber niemals mit Meeresfrüchten! Tintenfische und ...
Curry ist stärker! Curry stirbt nicht so schnell!
Das stimmt, Fuuka! Gut gesprochen!
Meeresfrüchte sind des Currys Tod!
Meintest du nicht mal, dein Vater würde sich mit Konnyaku* auskennen?
...
Ja!
20円
JUHA
有機
*geleeartige Masse aus der Konjak-Wurzel. Hat kaum Eigengeschmack und wird als Zutat für Suppen und Eintopf verwendet.
84

(1-25d)


よし
なかまだ
なかまだ
そうだ…
ミサイルだ
みさいる!?
すげーか!?
すごい…
上は洪水
下は大火事だ
お—
ダンボール…
ダン…
……
ダンボー
ダンボー
ロボット
なまえはー?
え!?
名前!?
あ…えー…
ダンボー!

(1-26j)


Guter
Plan.
Lass uns
Freunde
sein.
U… Und
wie! Häuser
stürzen
ein, Feuer
brechen
aus …
Oh, wie
furcht-
bar.
Ra...
Rake-
ten?
Sind die
gefähr-
lich?
Äh …
ja! Inte-
grierte
Raketer
und so
…
Karto-
bot!
Karto-
bot!
Kar-
ton,
Kar-
to…
Wi…
Wie ich
heiße?!
Äh …
Wie
heißt du
eigent-
lich?
KARTOBOT
!!!

(1-26d)


よつばちゃんにできる宿題ってゆーと…
自由研究？
あ――
じゆ――けんきゅー…
じゆ――けんきゅー!?
私の自由研究はダンボーを
ダンボールを使ったリサイクルをですね…
そーねよつばちゃんもリサイクルの自由研究はどうかな？

(1-27j)


Bastelhausaufgaben?!
So was gibt es?!
Stimmt, wäre eine Idee.
Bastelhausaufgaben zum Beispiel.
Vielleicht gibt es doch Hausaufgaben, die du machen kannst.
Ja. Weißt du nicht mehr? Ena und ich haben doch neulich Kartobo...
Wie wäre das? Das Thema deiner Bastelhausaufgabe könnte zum Beispiel Recycling sein.
Äh, ich meine, Kartons recycelt ...

(1-27d)


あれか？
風香ちゃんは天体とか詳しいのか？
水金地火木土天海冥
だめだ詳しくはなさそうだ
あれ!?
えっと…ビッグバン!!
98

(1-28j)


He he.
Kennst du dich mit Sternen und Astronomie aus?
Und wie! Von der Milchstraße bis zum Großen Auerochsen!
Also nicht.
Wie?! Stimmte was nicht?
Hab mal den Urknall gehört!
98

(1-28d)


あはは! かわいいかわいい
マッチ売りの少女みたいだ
あー いえにひー つけるやつな?
違うよ なんだそれ
あ お盆だし 菊も持っていくか
ん?
あれ? 菊はないか
おぼん?
そう 今日は お盆っていってな えーと
死んだおじーちゃんや おばーちゃんが 帰ってくる日なんだ
おー?
よし!
じゃあ 花キューピット 発進せよ!!
ラジャー!! はなキューピット はっしんします!!

(1-29j)


Äh, nein.
Wo hast du das nur wieder her?
Das Mädchen, das Häuser anzündet?
Du bist so süß wie das kleine Mädchen mit den Wunderhölzern.
... in der die Toten ins Diesseits heimkehren, damit wir ihrer gedenken können.
Das ist die Woche ...
Gedenkwoche?
Der Witzbold hat dir alles außer Chrysanthemen mitgegeben.
Hm ...
So ...?
Jawohl, Herr Admiral! Rosenengel Yotsuba führt Befehl umgehend aus!
Rosenengel Yotsuba! Marschieren und Verteilen lautet deine Mission!

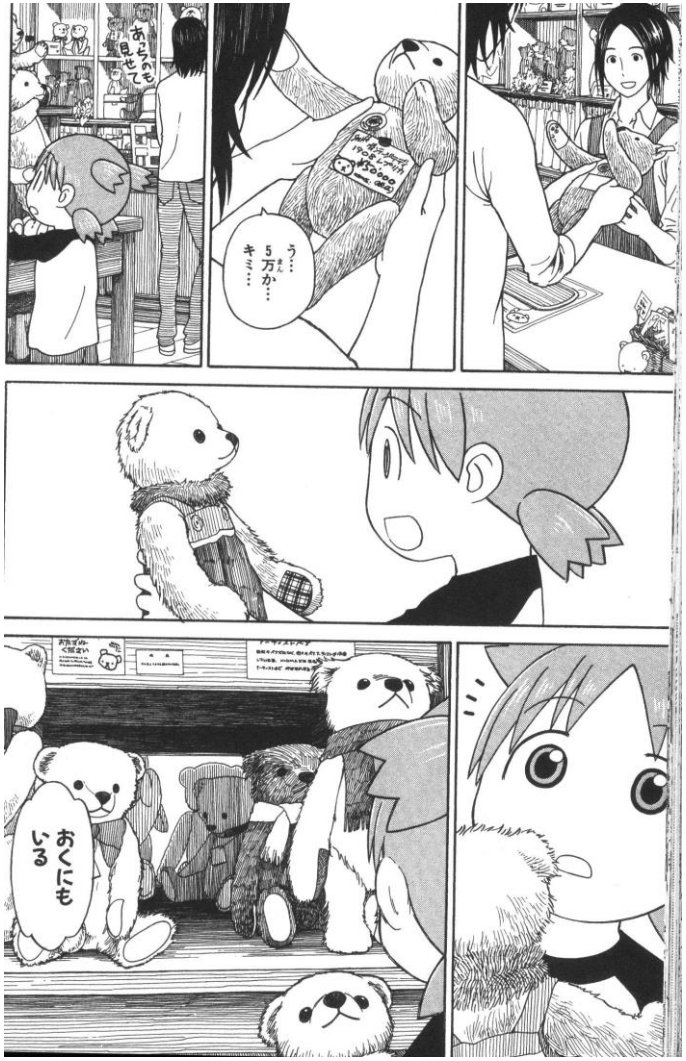
(1-29d)


じゃあチンク
内装がすげーいい
でもこれオートマ
じゃなくて
セミオートマで
何それ
なになに？
車買うの？
こいつが買うかも
しんねーんだって
じゃあ
ポルシェで
あほか
こいつは
あほなのか？
いや一概に
あほとは言えん
ポルシェはすごく
いいと思う
いくらすんの？
1千万ちょい
あほか
あほとは
なんだ！
あほとは！
よし肉食いに
行くかー
99

(1-30j)


Allerdings
schwör ich
auf Halb-
automatik.
Automatik
is nix.
Der
hat eine
super
Innen-
ausstat-
tung.
Nicht?
Spin-
ner.
Er
will sich
eventuell
eins an-
schaf-
fen.
Ich fa-
vorisiere
einen Por-
sche.
So,
wird Zeit,
dass wir
essen
gehen.
Ge-
nug da-
mit!
He, ich
bin kein
Spinner!
Spin-
ner.
10.000.000
Yen*.
Was
kostet
ein Por-
sche?
... ein
Por-
sche
schon
was
Feines.
Prinzi-
piell, ja,
aller-
dings
ist ...
*Entspricht ca. 80.000 Euro.
99

(1-30d)


あらこれも見せて
う…5万円か…キミ…
おくにもいる

(1-31j)


Und der rechts?
Uff. 50.000 Yen*.
*entspricht 450 Euro
Hinten verstecken sich noch mehr!

(1-31d)


変な顔
…シャンボさんに似ている
名前は？つけた？
まだ考え中
しーえー…
しーえー…
シーザーってどう？
えっと…
おまえもかー
もっと沖縄っぽいのがいい
んー
お店で食べた収のがおいしかった
んー…
沖縄、ぽい名前…
アムロ…
グラシアン…
シマブクロ…
いいよ私が考えるから
ありゃ？
沖縄といえば……
いえば…
ねー
沖縄って何があるの？
んー……
なんにもないねー
え――何にもないの？
恵那！
恵那！

179

(1-32j)


So?
La... Lass mal, mir fällt schon noch was ein.
Roberto, Heino, Peter ...
Also, was Exotischeres, ja?
Hmmm ...
Was gibt's eigentlich auf Okinawa?
Asagi.
Okinawa ...
Etwas mit Okinawa-Touch.
Ena!
Ena!
Nichts Besonderes?
Nichts Besonderes.

(1-32d)


ありがとう
あにーちゃんもやる
うん
花キューピットなの？
フフ…
花キューピット
よろしくおねがいしまーすはなキューピットでーす
花キューピットってこーゆーのだっけ？
？
おっちゃんよろしくー
はなキューピットです
だいぶなくなった
97

(1-33j)


Danke.
Für dich habe ich auch eine.
Bin ich!
Bist du ein ... Rosen-engel?
... Rosen-engel also ...
... vom Rosen-engel gefällig ?
Eine Rose ...
Was waren nochmal Rosenengel?
?
Du!
Hier ist eine Rose vom Rosenengel.
Bald habe ich es geschafft.
101

(1-33d)



139

(1-34j)



139

*Das Salzwerfen ist eine shintoistische Reinigungszeremonie, um böse Geister zu v

(1-34d)


あはははは！
な――!?
たすん
むずかしいなーこのあそびはー
6時になりましたよい子のみなさんおうちに帰る時間です
あかえるじかんだ
フフフーじゃあ私の勝ち――

(1-35j)

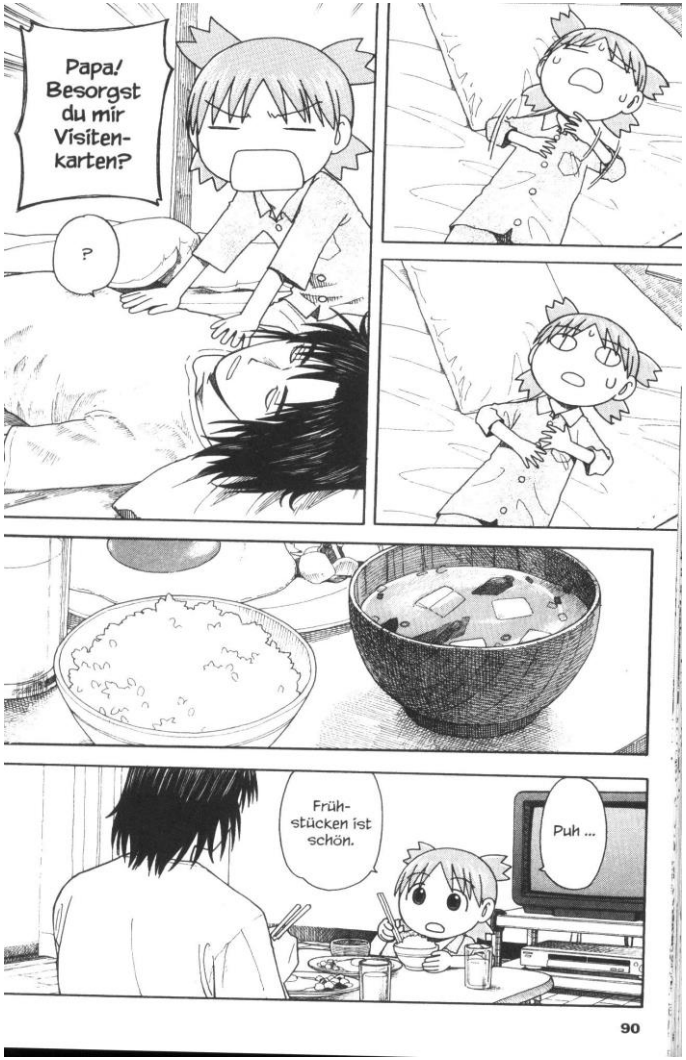

Siehst du?
Hahaha!
たすん
Dieses Spiel ist ziemlich schwierig.
*In Japan ist es üblich, dass um 18 Uhr über Laut-sprecher Ansagen ertönen, die vor allem Grundschulkinder auffordern, nach Hause zu
Oh, wir müssen heim.
Es ist 18 Uhr, liebe Kinder.
Zeit, nach Hause zu gehen.*
Dann geht diese Runde wohl an mich. Hi hi.

(1-35d)


とーちゃん
めいしくれ
——!!
?
ごはんは
おいしいなぁ
は——
88


じてんしゃに
のれます!!
ブレーキ!!
キッ
めいし
持ってるか?
!
ネクタイは?
!
ネクタイ…
あれ——!?
あ
めいし…
めいしも…
あ——。

(1-36j)


Papa! Besorgst du mir Visiten-karten?
?
Früh-stücken ist schön.
Puh ...
90

(1-36d)


砂糖70グラムってすごい量だなー
太るはずだよねーケーキ
大丈夫それが全部身に付いてもたったの70グラムだよ
あーそっか頭いいな風香
よつばちゃん卵割れる!?
われる!よつばはそれすごいとくい!2こはわれる!
んじゃ3個割ってこれに入れて
わかった

(1-37j)


Stimmt auch wieder.
Clever, Fuuka.
Ach, Unsinn. Selbst wenn du die ganze Torte allein isst, sind es doch nur 70 Gramm.
Kein Wunder, dass zu viel Torte dick macht.
Geht klar!
... diese Schüssel.
Dann schlag mal drei in ...
So gar zwei auf einmal.
Ich kann! Ich bin die Beste!
Kannst du die Eier aufschlagen, Yotsuba?

(1-37d)


今日だけ
もぐ
もぐ
小倉あんと抹茶とカスタードクリーム
カロリーひかえめ
小倉
どれでも1ヶ
¥120
3つも食うのか
あんたも食う?
絶っっ対食わない
チョコレー
抹茶
じゃあ あんたの分も食べてあげてるね
…そりゃどうも
チョコレー
あの…小倉…
よわっ
うめぇーっ!!
たいやきの精
あ! たいやき食べたい!
突然だな
この前ちょちゃんにうまい所 教えてもらったんだ
行こう
…いや いい
あ!! ダイエットだなこのヤロ!
…そうだよ
じゃ 私が食ってるの見てるだけでいいって
行こ

(2-1j)


Ausnahmsweise
Mampf
Mampf
JEDES
¥120
Toiyaki
mit
wenig
Kalorien
*
Spanisches Gebäck
Schwächling!
Mit Karamell bitte ...
¥120
Schau zu!
Einen normalen, einen mit Schlagsahne und einen mit Zimt bitte.
Schok
Klar, willst du auch einen?
Nein danke!
Gleich drei Stück?
Schoko
Dann esse ich einfach für dich mit.
Sehr freundlich.
Grüner Tee
Göttlich!
Schokofisch
So plötzlich?
Ich habe Lust auf Schokofisch. Der ist lecker.
Los doch!
Äh, ich ... kann nicht.
Klar, dampfend warmer Teig mit Schokolade.
Na und?
Aha! Du bist mal wieder auf Diät!
Los!
Dann komm halt mit und schau mir beim Essen zu!

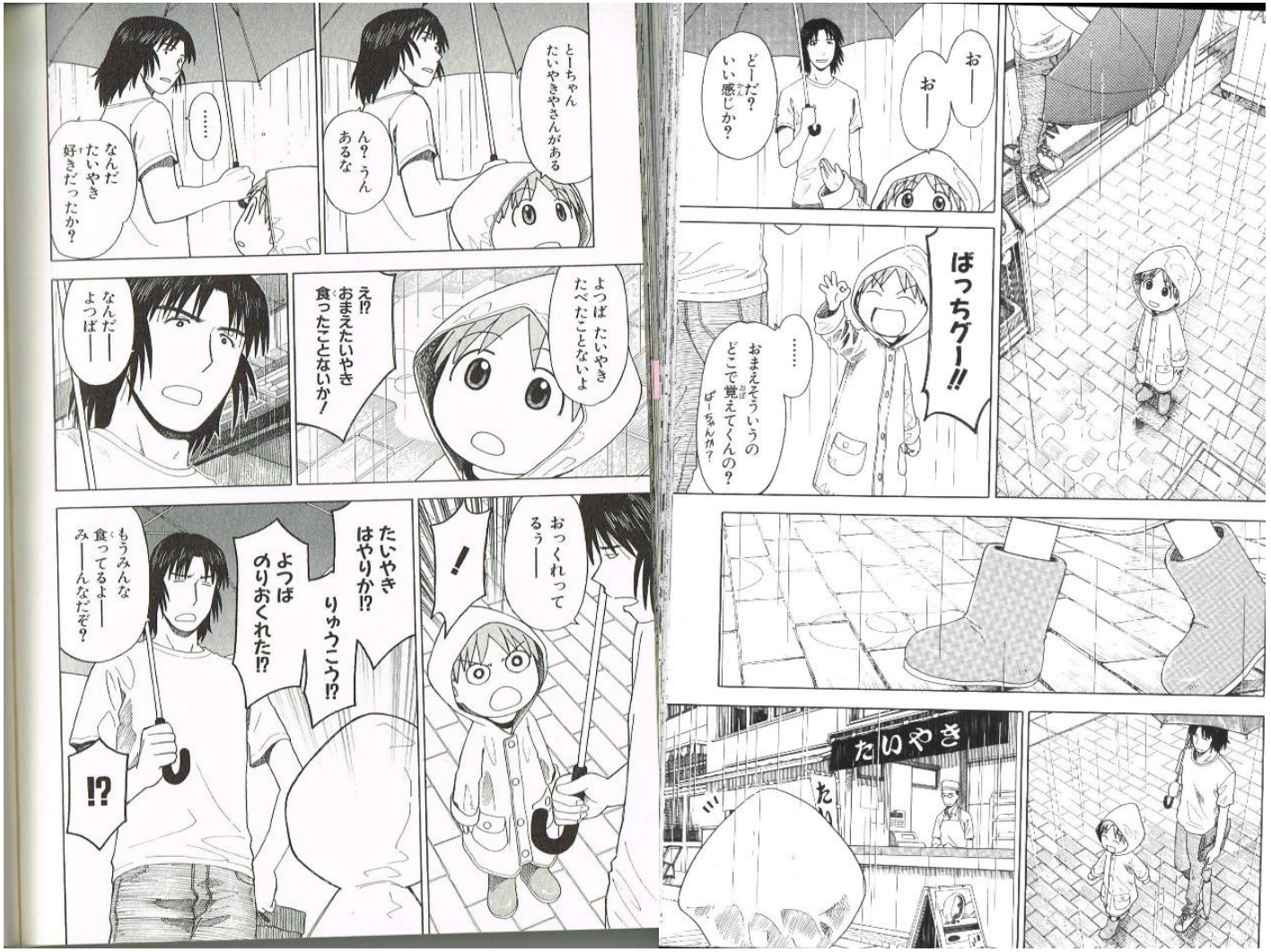
(2-1d)


おみせがいっぱいでてきた
あケーキ屋って2つあるよなそーいやどっち?
…どっちのがおいしいのかな
あさぎお姉ちゃんなら知ってるかもしんないけど…うーん…
じゃ近いほうにしとこーよ
たいやき
お嬢ちゃんたいやき買うかい?
なんだこれ?
ん? 食べたことないの?
おっいしーぞおー

(2-2j)


So viele Geschäfte …
Dann nehmen wir die, die am nächsten ist.
Asagi wüsste das bestimmt.
Hm …
Gute Frage. Welche hat die leckeren Torten?
Zu welcher gehen wir?
Hier gibt es zwei Konditoreien.
Was ist das?
Hallo, Kleine. Möchtest du einen Taiyaki*?
*Ein mit süßer Bohnenpastete gefülltes Gebäck in Fischform
たいやき
Dann solltest du dir die Gelegenheit nicht entgehen lassen.
Noch nie einen Taiyaki probiert?

(2-2d)


お——
お——
どーだ？
いい感じか？
ばっちグー!!
……
おまえそういうの
どこで覚えてくんの？
ぱーちゃんか？
たいやき
とーちゃん
たいやきやさんがある
ん？うん
あるな
……
なんだ
たいやき
好きだったか？
よつば たいやき
たべたことないよ
え!?
おまえたいやき
食ったことないか！
なんだ——
よつば——
おっくれって
るぅ——
！
たいやき
はやりか!?
りゅうこう!?
よつば
のりおくれた!?
もうみんな
食ってるよ——
み——んなだぞ？
!?

(2-3j)


Seit wann magst du gefüllten Backfisch?
...
Oh ja, tatsächlich.
Da drüben gibt's gefüllten Backfisch.
Echt wahr? Mensch, Yotsuba ...
Was?! Noch nie? Wirklich nicht?
Ich ... hab noch nie welchen gegessen.
Gefüllte Backfische kennt doch jeder.
Hab ich was verpasst?
Sind sie in?
Sind gefüllte Backfische cool?
Jeder?!
!
... wie uncool.

(2-3d)


セミ
すきか!?
うーん
虫はねー
よつばは
すきだ!!
そうねー
いいわよねー
セミ
がつがつ
すごい
すごい
ぱー
はい
ごちそーさま!!
176

(3-1j)


So?
Das ist
schön.
Ich mag
Grillen.
Nicht
so sehr
...
Magst
du
Grillen?
Freut
mich.
ぱー
Das war
lecker!
Nicht so
hastig.
がつがつ
176

(3-1d)


とれた！
とれっ
とれました!!
わっ
わっ!?
お——
おめでとう
あぶらぜみだ
セミって
はじめて
とりましたー
ほれ
もってみ？
どーやって
もてばいいの？
よつばも
とる——!!

(3-2j)


Ich hab eine!
Ich... Ich glaub, ich hab eine gefangen!
Wa... Was jetzt?!
Sehr gut, Glück-wunsch.
Schönes Exemplar.
Ich hab vorher noch nie eine Grille ge-fangen.
Hier, nimm sie in die Hand.
In die Hand? Wie denn?
Ich will auch eine Grille fangen!

(3-2d)


とったぁー!!
ギ
ギッ
よつばがとった
セミだ!!
大きな
セミだねー
な
ー!?
な
ー!?

(3-3j)


GEFANGEN!
Zirp!
Zirp!
Ich hab
eine ge-
fangen!
Und was für
ein Pracht-
exemplar.
Nicht
wahr?

(3-3d)



(3-4j) (3-5j)



(3-4d) (3-5d)


クマゼミだ！
クマは今日それ一匹だけだ！
おおーー!!
一番大きいぞ
ジャンボはいっぱいとったな!!
んでどーする？このセミ
みせる！
かーちゃんにみせる！
かーちゃん？
よろこぶかなあ…
よろこぶ
あらよつばちゃん
こんにちは
いらっしゃいジャンボさんも
かーちゃーんセミとったー!!

(3-6j)


Zeigen!
Du hast auch ganz viele, Jumbo.
Jep, und was machen wir jetzt mit denen?
Jaaa!
Geradezu gigantisch. Das ist die Größte heute!
Freu dich!
Glaubst du?
Sie wird sich freuen?
Wir zeigen sie Mama!
Mama?
Mamaaa! Wir haben Grillen gefangen!
Guten Tag, Jumbo.
Oh, hallo, Yotsuba.

(3-6d)


でなー
くまぜみとったんだー すっげーでけー
へー クマ捕ったのかすげーな?
だろー!?
こう! しゃっ!! てな!!
ぴやっ!! ぱって!!
座って食え
そんでえなんちでもせみとりしてなー
かーちゃんもおーよろこび!
ジャンボがじんじゃにかえしていったー
おわり
ふーん

(3-7j)


Und dann ...
... hab ich eine riesige Grille gefangen. So groß wie Jumbo!
So groß wie Jumbo? Nicht schlecht.
Nicht wahr?
Und dann haben wir bei Ena auch Grillen gefangen.
Mama war auch total begeistert!
Und dann hat Jumbo sie wieder am Schrein freigelassen.
Ende.
So, so ...
Und zwar so!
So! Siehst du? So!
Iss lieber.

(3-7d)


いいかよっぱ
俺はセミを捕らせたら
プロ級だぜ
略して
セミプロだ
おおっ
とーちゃん
こないって!
とーちゃんは
ダメだなぁー
とーちゃんは
ダメだ——!!
よぉし
ついてこい!
とーちゃんも
いこう!!
あー とーちゃんは
いいや…
仕事…
それじゃあ
そこに神社が
あるから
そこで捕ろう
あそこいっぱい
いるからな
180

(3-8j)


Ich
muss
noch ...
arbeiten.
Papa,
komm
mit.
Dann
mal los.
Nannte
man mich
doch
seinerzeit
den Grill-
Meister!
Aber
nehmt
Euch
in Acht,
Majestät!
Erblasst
nicht vor
meiner
göttlichen
Grillfang-
Technik!
Ooohhh!
Ja, Papa
ist eine
Lusche.
Papa
ist ja
auch 'ne
Lusche.
Papa
kommt
nicht.
Dort wird
es eine
Menge
Grillen
geben.
Ich schlage
vor, in dem
kleinen Hain
am Schrein
auf Jagd zu
gehen.
Alle
da?
180

(3-8d)


クーラーしないのか？
必要ありません 高いし
ちきゅう…
ほんはんぱー
しゃくしゃくしゃく
窓開けてるとセミの声も聞こえるし
風鈴も鳴るし……夏らしくていいのよ
みんみんみーん

(3-9j)


Was ist mit der Klima-anlage?
Ist zu teuer!
Treib-haus ...
... konfekt.
しゃくしゃくしゃく
Ja, der kühle Wind ist angenehm.
Und das Windspiel passt so schön zur Jahreszeit.
みんみんみーん

(3-9d)


つくつくぼーし
つくつくぼーし
つくつくぼーし
つくつくぼーし
つくつくぼーし
つくつくぼーしが
いってる
ああ
つくつくぼーし
だからな
にほんご
うまいなー
あいつが鳴くと
夏が終わっちゃう
んだよ
つくつくぼーしが
おわらすの？
そう
へーすごいなー

(3-10j)


つくつくぼーし
つくつくぼーし
つくつくぼーし
つくつくぼーし
つくつくぼーし
Die
Zikaden
singen.
Ja, es
ist ihre
Jahreszeit.
Die sind
ganz
schön
gut, die
Zikaden,
oder
?
So un-
gefähr.
Beenden die
Zikaden den
Sommer?
Wenn diese
Zikadenart zu
singen anfängt,
neigt sich der
Sommer dem
Ende entgegen
und der Herbst
kommt.
Die
sprechen
aber gut
Japanisch.

(3-10d)



(3-11j) (3-12j)



(3-11d) (3-12d)


フライング
正体
カタ カタ カタカタ
つくつくぼーし つくつくぼーし
フー
何描いてんだ？
つくつくぼーし！
にゃ
まだ
まだ仕事終わってない
あれ？
96

(3-13j)


FRÜHSTART
WAHRE GESTALT
カタ カタ カタカタ
Zzziiih! Zzziiih!
Puh ...
Was malst du da ?
Die Zikade am Baum.
にゃ
... bin leider noch nicht ganz fertig.
So?
Ich ...
96

(3-13d)


つくつくぼうしです！
わ——
え!?
つくつくぼーし
つくつくぼーし
こうやってつくつくぼうしはなつをおわらすんだよ
たぶん
ん——……
つくつくぼーし
つくつくぼーし

(3-14j)


Zikade, die Wald-fee!
Also ...
Zikade, Zikade ...
Hm ...
Zikade, Zikade ...
Und so beende ich den Sommer ...
Be-stimmt.

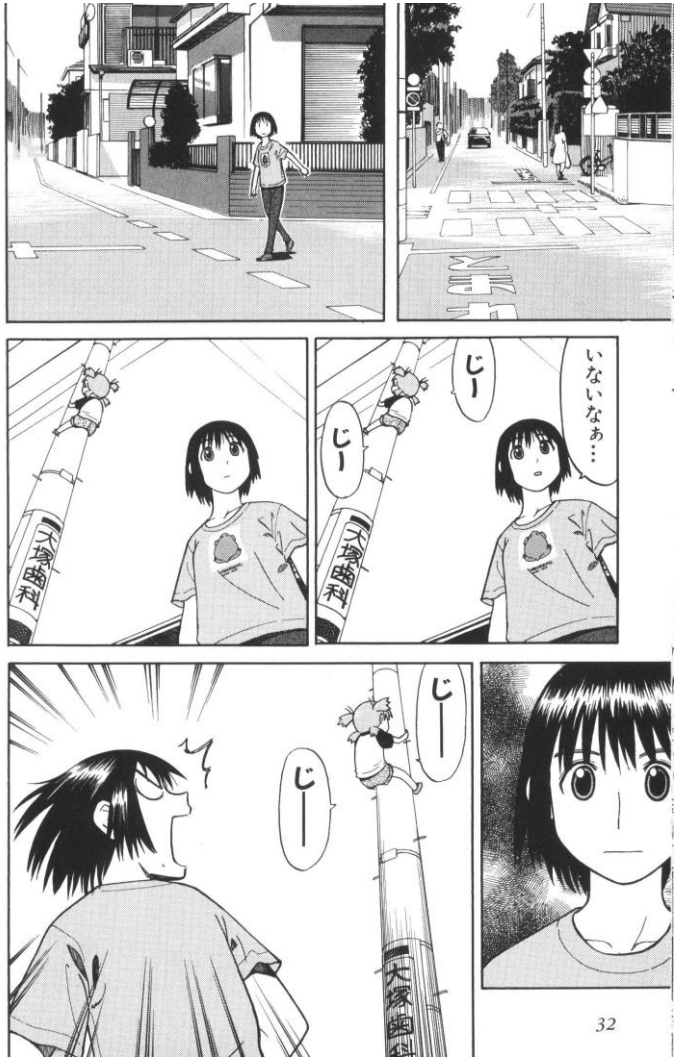
(3-14d)


うっそだぁー
ホント!!
ホントです!!
つくつくぼうしってあれだろ?
今よつばがしてるかっこの
ちがうの!!
ちがったの!!
セミなの!!
ないてた!!
それつくつくぼうしだったのか
セミ!
みんみんゼミみたいな!
ほんとかー?
190

(3-15j)


Ach komm, jetzt hör aber auf!
Doch! Es stimmt! Es ist wirklich wahr!
Du bist eine Zikade.
Zumindest bist du als solche verkleidet.
Nein, nein. Das ist alles falsch!
Zikaden sind Insekten. So wie Grillen!
Als Zikade verkleidet?
So wie Grillen an den Bäumen. Ich hab's gesehen!
Sicher ...?
190

(3-15d)


いないなぁ…
じー
じー
じー
じー
大塚歯科
大塚歯科
大塚歯科
32

(3-16j)


Wo könnte sie nur sein?
Zirp!
Zirp!
Zirp!
Zirp!
大塚歯科
大塚歯科
32

(3-16d)


フライング
正体
カタ カタ カタカタ
つくつくぼーし つくつくぼーし
フー
何描いてんだ？
つくつくぼーし！
にゃ
まだ
まだ仕事終わってない
あれ？
96

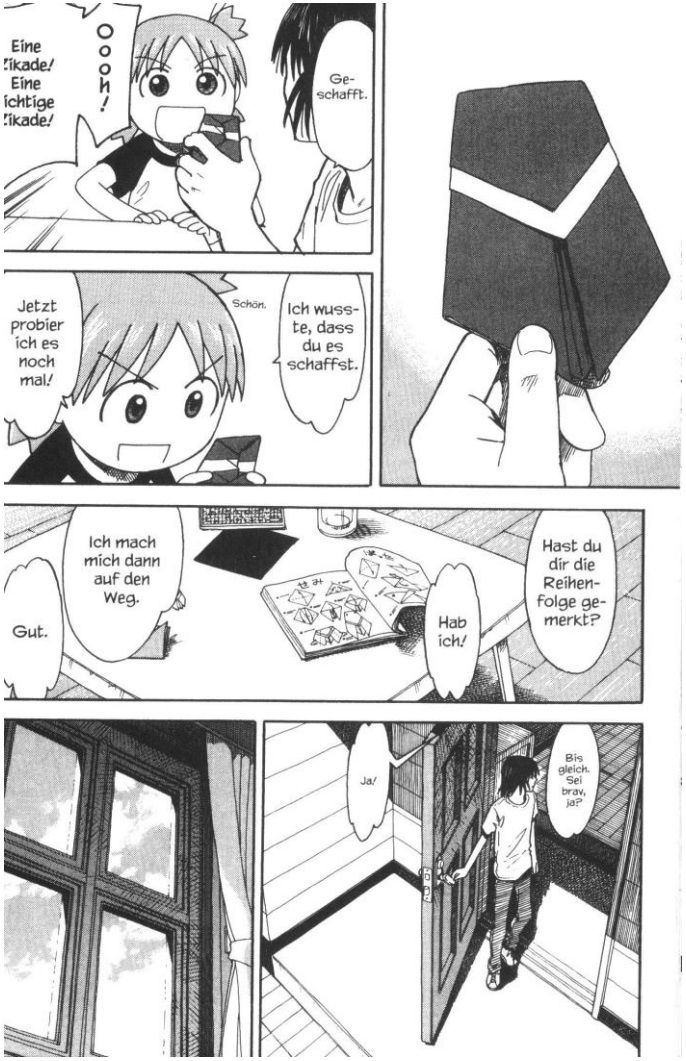
(3-17j)


FRÜHSTART
WAHRE GESTALT
カタ カタ カタカタ
Zzziiih! Zzziiih!
Puh ...
Was malst du da ?
Die Zikade am Baum.
にゃ
... bin leider noch nicht ganz fertig.
Ich ...
So?
96

(3-17d)


ほれできた
おーー！
セミだ！
セミにしか
みえない！
さすが
とーちゃんだ
は！
よーし
よっぱも！
おぼえたか？
折り方
うん！
じゃあ
とーちゃん
行ってくんな
うん！
るすばん
たのむぞー
ラジャー！

(3-18j)


Eine
Zikade!
Eine
richtige
Zikade!
Oooh!
Ge-
schafft.
Jetzt
probier
ich es
noch
mal!
Schön.
Ich wuss-
te, dass
du es
schaffst.
Ich mach
mich dann
auf den
Weg.
Gut.
Hab
ich!
Hast du
dir die
Reihen-
folge ge-
merkt?
Ja!
Bis
gleich.
Sei
brav,
ja?

(3-18d)


できた！
セミ ちがう!!
ブウウン
!?
!?

(3-19j)


Fertig!
Vier- eck ...
Dreieck, Dreieck.
Das ist keine Zikade !
ブウウン
?!
?!

(3-19d)



(3-20j) (3-21j) (3-22j) (3-23j) (3-24j)



(3-20d) (3-21d) (3-22d) (3-23d) (3-24d)



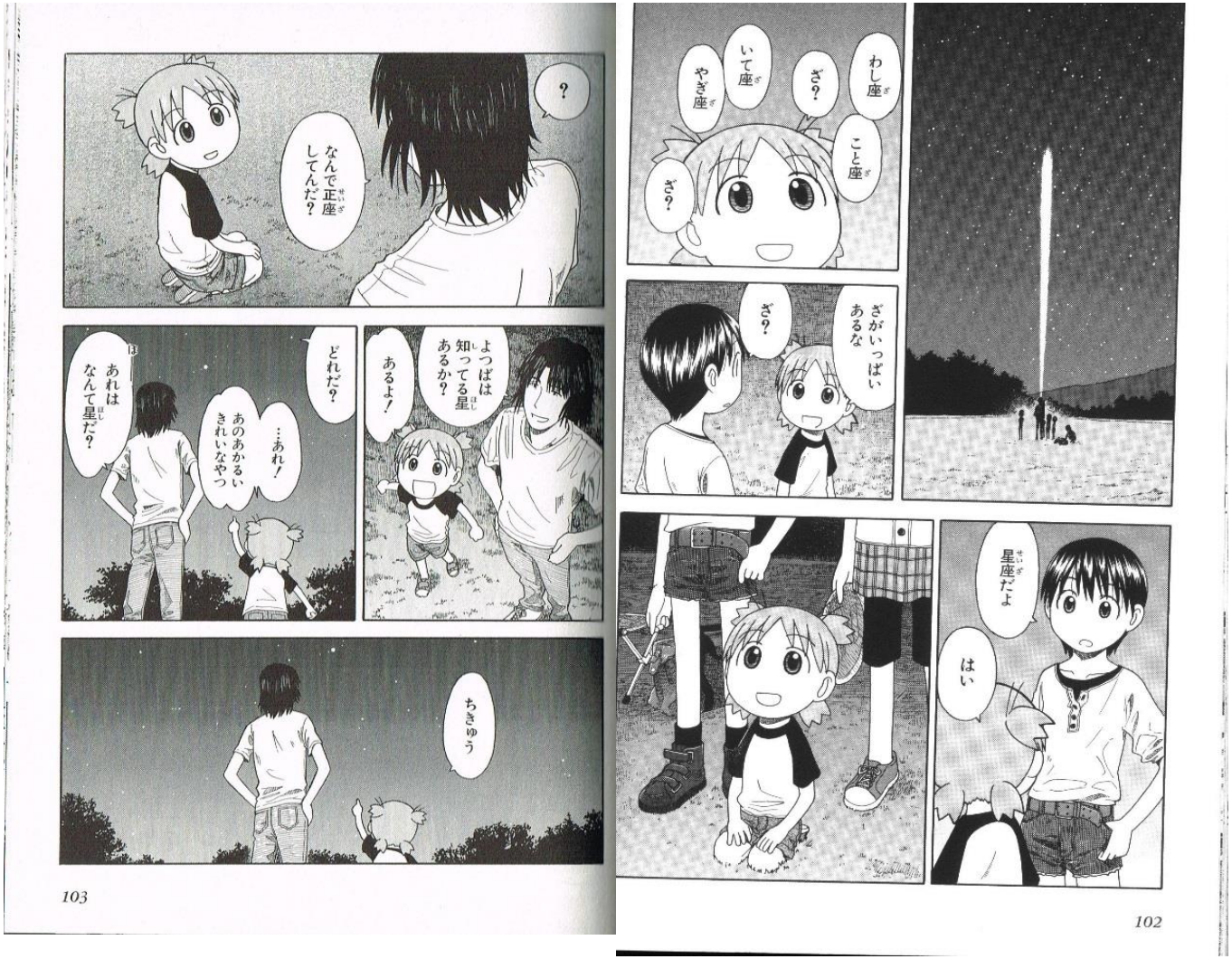
141

(4-1j)



143

(4-1d)


わし座
ざ?
こと座
いて座
ざ?
やぎ座
ざがいっぱいあるな
ざ?
星座だよ
はい
102
?
なんで正座してんだ?
よつばは知ってる星あるか?
あるよ!
どれだ?
…あれ!
あのあかるいきれいなやつ
あれはなんて星だ?
ちきゅう
103

(4-2j)


Bist du müde?
Ja, ich sehe ihn. Weißt du auch, wie er heißt?
Der da so schön hell leuchtet!
Welche?
Den da!
Klar!
Irgendwelche Sterne, die du kennst, Yotsuba?
Erde.
103

(4-2d)


今日はよつばちゃんのりのりだね
あけるのまにあわなかった
何やってんだおまえ
おまえ元気だなーってことだ
え!?
つくだにのこと!?
なんのこと!?

(4-3j)


Ich seh, du bist am frühen Morgen schon voller Tatendrang.
Hatte keine Zeit mehr, die Tür aufzumachen.
Nicht so hastig.
Ena meint, dass du einen sehr munteren Eindruck machst.
Was?!
Du meinst Vollmilch?
Wieso Vollmilch?

(4-3d)


むやむやにしないで！
ばん！
りんごもなしもちがうでしょ！
もー！
ばんばんばん
もっとこどもがよろこびそうなものを!!
どん
なしでなしに！
あははは！なしでなしだって！
あはははは
なしでなし
あはははは
あはは
ははは
ぜらぜら

(4-4j)


父の日にあげた肩たたき券まだあるでしょ
使ってよ
ああ あるよ
肩たたき券作ったんだ
うん
これこれ
肩たたき券
…こ…こってるねぇー
肩たたき券だけにこってる
あー
お母さん 風香が肩たたき券だけにこってる
だって
はっはっはっは
はっはっはっは
風香はうまいこと言うなあ
これはざぶとん一枚だなぁ
学校のパソコンで作ってプリントアウトしてそれにおイモのハンコを押したの
ぴーやって作ったの？それ
これはね最後の一枚なんだ
だからねこれは…

(4-5j)


Hast du die Gutscheine selbst gebastelt?
Jep.
Hier ist einer.
Du hast doch bestimmt noch die Massage-Gutscheine, die ich dir zum Vatertag geschenkt habe.
Lös sie doch jetzt ein.
Eine brillante Idee!
No. 0010
肩たたき券
Auaaa ...
Eine Massage bedeutet noch mehr Aufwand!
... Wow! Hut ab. So viel Aufwand für einen Gutschein!

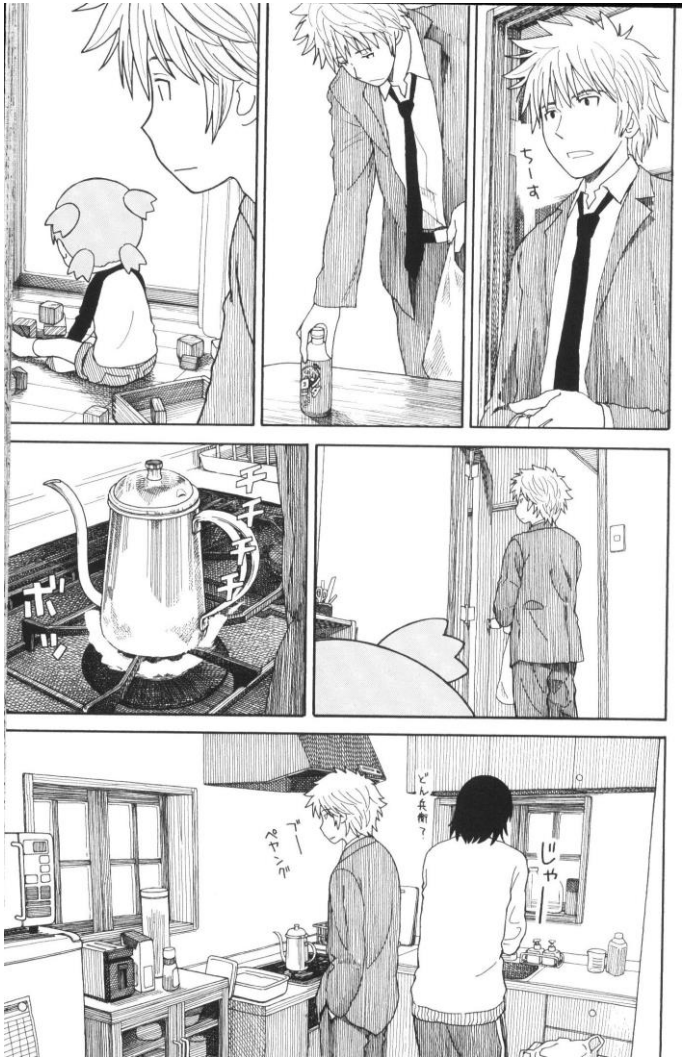
(4-5d)


あさぎのかわりにみうらつれてきた
代わりになんね―よっ!!
ははん?
花火大会は雨で中止です!
恵那
恵那
?
おてんきだよ?
あの大きい人感じ悪いね
あさぎ姉ちゃんにそう報告しよう
なんかコワイねー
!
よーしみんな花火に行くぞー!
お兄さんの車に乗った乗ったー!
はなびはなび―!!
うんそうだったかもー
ジャンボさんいい人だよ?

(4-6j)


Ena ...
?
Das Fest fällt regenbedingt ins Wasser! Punkt!
Aber die Sonne scheint.
Jetzt verstehe ich ...
Und was genau soll sie ersetzen, verdammt?!
Miura
Asagi
Ersat
!
Ich finde, wir sollten Asagi erzählen, was uns soeben widerfährt, findest du nicht?
Diese
Mann i
irgendw
böse. E
macht
Angst
Feuerwerk! Feuerwerk!
Ja, du hast Recht ...
Jumbo ist doch nicht böse.
Rein in den Wagen. Als kinderlieber Mensch, der ich bin, fahre ich euch jetzt zum Feuerwerksfest!
Was steht ihr hier noch rum wie bestellt und nicht abgeholt?!

(4-6d)


ちーす
チチチチ
ボ
どん兵衛？
じゃー
ぴゃーぴ

(4-7j)


Hallöchen.
チチチチ
ボ
Genau, Nudelspaß.
Mal wieder Fertigfraß?

(4-7d)


よつばさん
あちら
ごらんになって？
あら
なにかしら？
まぁかわですわ…！
なんて
みずみずしい…
なんだそれ
おじょうさま
ごっこですわ
ですのよ？
このへんはとても
いなかですわねー
いなかものが
すんでますのね？
あらいけませんわ
お嬢様がそんなことを
おっしゃっては
あら
ごめんなすって

(4-8j)


O ja, wie prächtig!
Fräulein Yotsuba, sehen Sie doch nur diese Idylle dort.
Adlige!
Wir spielen Reiche!
Warum sprecht ihr so?
Sehen Sie doch nur.
Ein Fluss. Mit Wasser.
So?
Ich bin untröstlich.
Wie ungehobelt, Fräulein Yotsuba. Nicht Bauern, sondern das gemeine Volk.
So leben hier also Bauern?
Wir sind hier richtig auf dem Land, was?

(4-8d)


あした動物園に行こう
！
ちょっと行った所に小さな動物園があるんだ
よつばは動物園初めてだな
知ってるか？
りりろんはしってる
理論知ってんのかすごいな
ライオンいるのか!?
しろくまは!?
そーゆー大そうなのはいなかったと思うなぁ
しろくま好きなのかて

(5-1j)


Wir machen morgen einen Ausflug in den Zoo!
Nicht weit von hier ist ein kleiner Tierpark.
!
I... Ich kenne die Logik!
We... Welche Logik ...?
Schließlich warst du noch nie dort.
Na, was sagst du?
Sind dort auch Löwen?!
Und Eisbären?!
Ich glaube nicht, dass sie Platz für Tiere haben, die viel Auslauf und ein großes Gehege brauchen, aber ...
Magst du Eisbären?

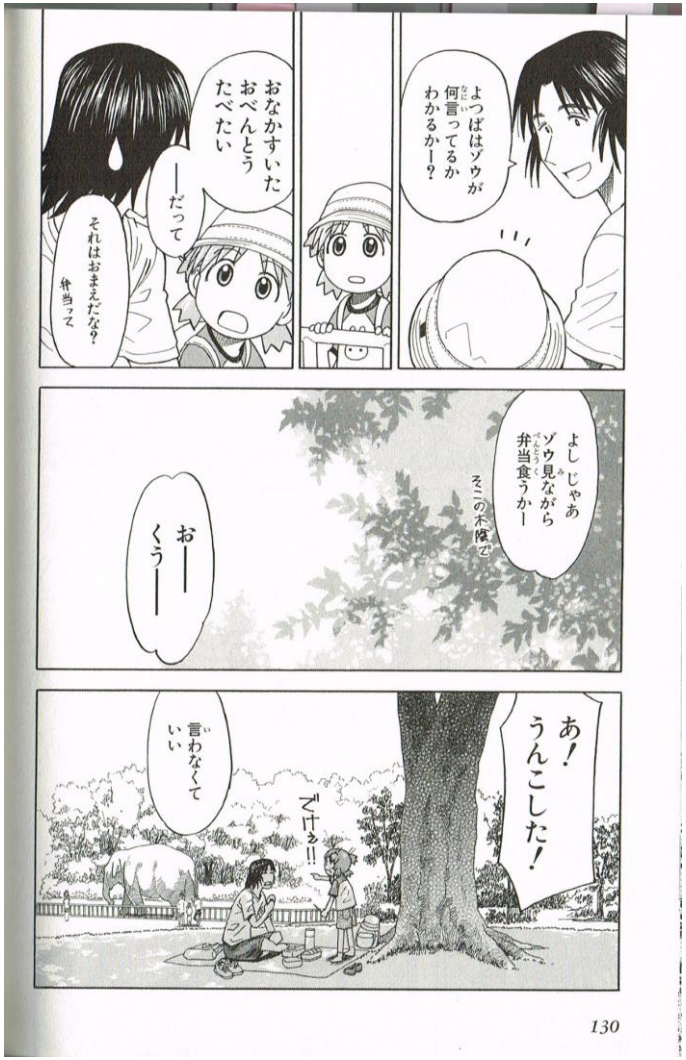
(5-1d)


よし 場所も確保したし 花火始まる前に屋台まわるか！
今日はジャンボがみんなにおごってくれるから
遠慮なく言ってくれ
やきそば
たこやき
きんぎょ
ヨーヨー
3人とも俺か!?
ジャンボさんて太っ腹だね
あさぎ姉ちゃんに報告しなきゃな
おう！10個でも20個でも買ってやらぁ!!
次はなに食べよ——
よく食うなみんな！
あ——！きんぎょすくい

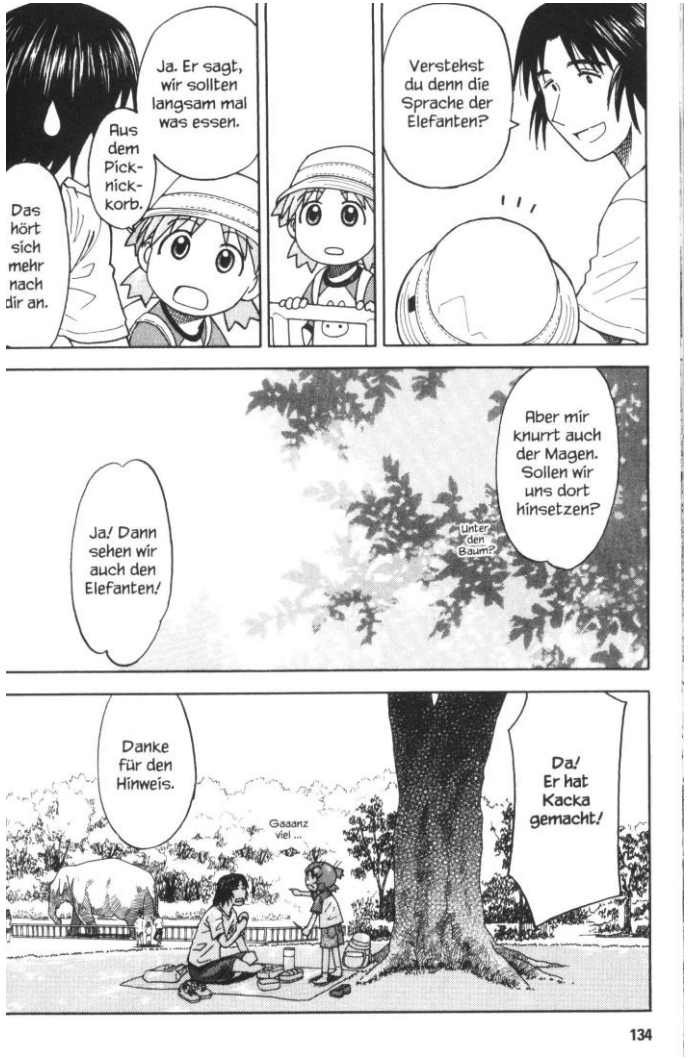
(5-2j)


Seid ihr denn gar nicht satt zu kriegen ?!
Was essen wir als Nächstes ?
Da drüben sind die Goldfische !

(5-2d)


よつばはゾウが何言ってるかわかるか!?
おなかすいたおべんとうたべたい
——だって
それはおまえだな?
弁当って
よしじゃあゾウ見ながら弁当食うかー
そこの木陰で
お——
くう——
あ!うんこした!
言わなくていい
ぜけぇ!!
130

(5-3j)


Verstehst du denn die Sprache der Elefanten?
Ja. Er sagt, wir sollten langsam mal was essen.
Aus dem Pick-nick-korb.
Das hört sich mehr nach dir an.
Aber mir knurrt auch der Magen. Sollen wir uns dort hinsetzen?
Unter den Baum?
Ja! Dann sehen wir auch den Elefanten!
Da! Er hat Kacka gemacht!
Gaaanz viel ...
Danke für den Hinweis.
134

(5-3d)


は――っ!!
え――っ!?
なんで叩きつけるんだよ!
ちょっとねらいが…
ホットケーキってそういうんじゃないから

(5-4j)


TAAAAHHH!
Waaah!
Knapp daneben ...
Guter Vorhandschlag. Nur stehen wir in der Küche und nicht auf dem Tennisplatz.
Doch nicht so hinschmettern!

(5-4d)


ホラやんだ
もっと食えよ
食ってるよ！
スゲー食ってる
大体あんたが
全部食うって
言ったろ!?
なんか食い過ぎて
頭痛くなってきてさ
知らねーよ！

(5-5j)


Yanda,
red nicht,
iss.
Tu
ich doch!
Ich schau-
fel mir einen
Pfannku-
chen nach
dem ande-
ren rein!
Du warst
doch der Tau-
send-Pfann-
kuchen-Mann!
Ich bin
satt und
hab Kopf-
schmerzen.
Na,
herz-
lichen
Glück-
wunsch!

(5-5d)


あっらー？
もしかして
泳げませんでした？
小岩井さん！
ジャンボさんて
カナヅチなんじゃ!?
カナヅチは別に
悪い事では
無いと思う
ドン
ガバッ
ひっ
ひいーっ
あはははは！
あ
ドン
あはははは!!
げはっ
うばっ
ばしゃ
ばしゃ
は！

(5-6j-1)


おめーも
カナヅチじゃん
はっ
すみません
よつばもー
よつばも
おちるー!!
よーし
ぐいっ
そーれ

(5-6j-2)


Willkommen
im Club.
Danke ...
Dann
komm
mal
her.
ich will
auch ins
Wasser
fallen!
ぐいっ
Guten
Flug!

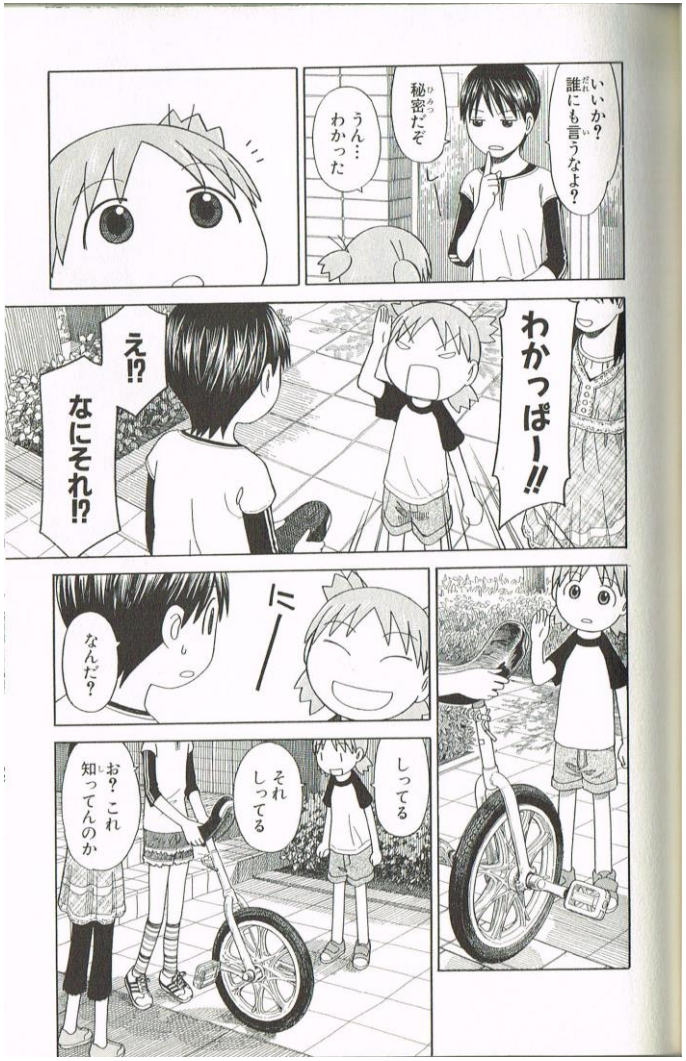
(5-6d)


とーちゃんと買い物行く時みたいに交通ルールを守って安全運転だぞ？
わかっぱ――!!
…なんだそれ
いまかんがえた
まあいいやじゃあ恵那ちゃん今日は教官ね
へ？教官？
うんこいつが変な運転したら厳しくしかってくれ
安全運転を教えてやってわかりました！
よしじゃあいってらっしゃい気をつけてな
わかっぱー!!
あはははは
なんだよそれ…
36

(6-1j)


... Was soll das denn?
Aye, aye, Herr Kapitän!
... werde ich alle Verkehrtregeln beachten!
So wie, als wir einkaufen waren, Papa ...
Ist mir eben eingefallen.
I... Ich werd mir Mühe geben.
Vor allem auf der Straße.
Genau. Keine falsche Bescheidenheit. Schimpf ruhig mit ihr, wenn sie Faxen macht, okay?
Als ihre Mentorin?
Na schön. Pass du bitte auf Yotsuba auf, Ena! Quasi als ihre Mentorin.
Sehr lustig.
Ha ha ha ha ha!
Aye, aye, Herr Kapitän!
Fahrt vorsichtig, ja?
Bis später.
37

(6-1d)


いいか？誰にも言うなよ？
秘密だぞ
うん…わかった
わかっぱー!!
え!?
なにそれ!?
ニヤ
なんだ？
しってる
それしってる
お？これ知ってんのか

(6-2j)


Du darfst es keinem verraten.
Es muss geheim bleiben!
Geht klar. Hab verstanden.
Aye, aye, Herr Kapitän!
Hä?
Was soll denn das?
Ich ...
... weiß, was das ist.
Ja? Wirklich?
Was denn?
44

(6-2d)


よつばは
とーちゃんの料理で
何が一番好きだ?
カレー!
とーちゃんの
カレーは
せかいいちうまい!
あと
ソーセージどん
ソーセージ丼!?
何それ!?
それは
どんなのだ?
ソーセージと一
のりと一
めだまやきと一
はいってる
おいおいなんだよ
それー
超うまそうじゃん!
ホレ
焼けた
んぐんぐ
ん一

(6-3j)


Und was ist dein Lieblings-gericht, Yotsuba?
Curry mit Reis!
Papas Curry ist das beste der Welt!
Und Würst-cheinein-topf.
Würst-chen-ein-topf?!
Was'n das?
So ein Ein-topf halt.
Mit Würst-chen und Spiegelei auf Reis.
Sehr lecker.
Das ist ja die reinste kulinarische Offenba-rung!
Hier, probier mal.
Mmmh ...
Mh ...

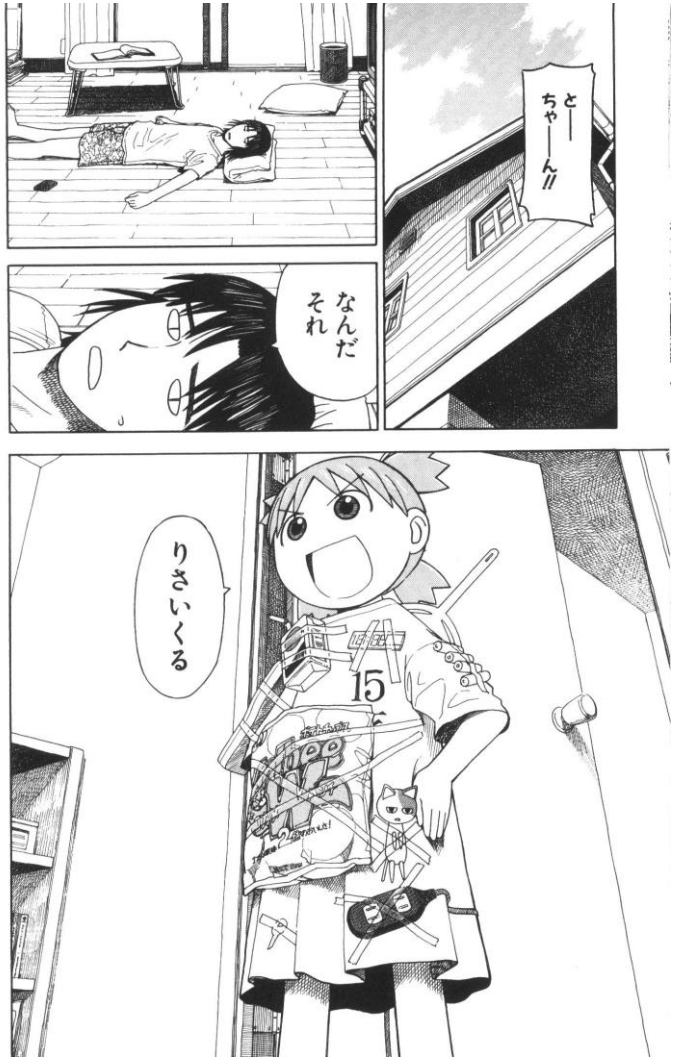
(6-3d)


とーちゃんと買い物行く時みたいに交通ルールを守って安全運転だぞ？
わかっぱー!!
…なんだそれ
いまかんがえた
まあいいやじゃあ恵那ちゃん今日は教官ね
へ？教官？
うんこいつが変な運転したら厳しくしかってくれ
安全運転を教えてやってわかりました！
よしじゃあいってらっしゃい気をつけてな
わかっぱー!!
あはははは
なんだよそれ…
36

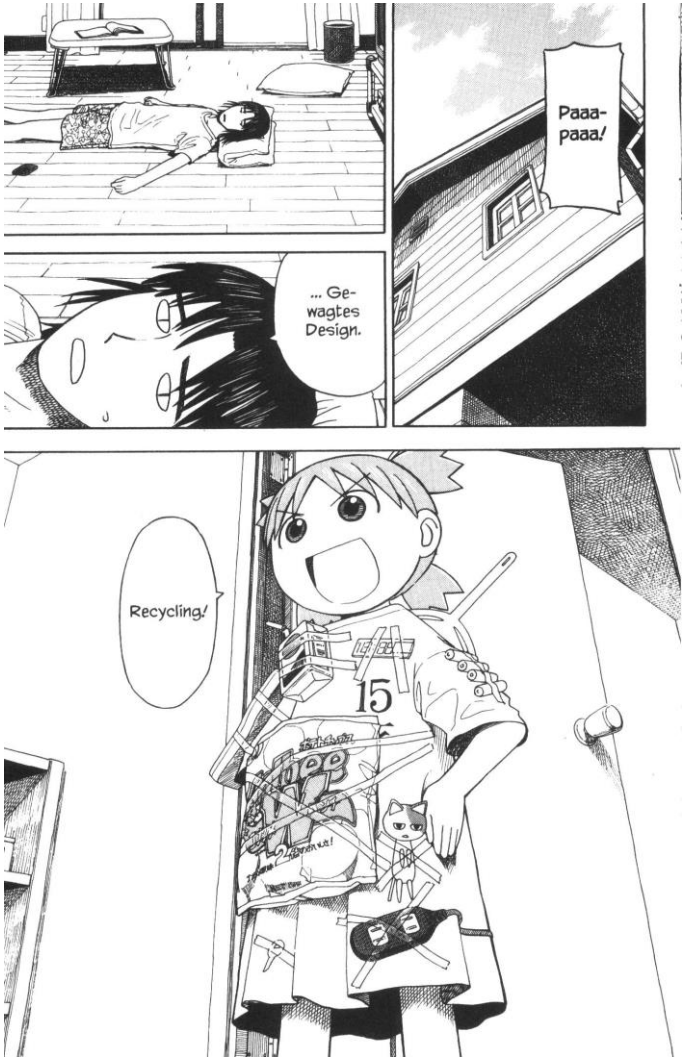
(6-4j)


... Was soll das denn?
Ist mir eben eingefallen.
Aye, aye, Herr Kapitän!
... werde ich alle Verkehrtregeln beachten!
So wie, als wir einkaufen waren, Papa ...
I... Ich werd mir Mühe geben.
Vor allem auf der Straße.
Genau. Keine falsche Bescheidenheit. Schimpf ruhig mit ihr, wenn sie Faxen macht, okay?
Als ihre Mentorin?
Na schön. Pass du bitte auf Yotsuba auf, Ena! Quasi als ihre Mentorin.
Sehr lustig.
Ha ha ha ha ha!
Aye, aye, Herr Kapitän!
Fahrt vorsichtig, ja?
Bis später.
37

(6-4d)



(6-5j)



(6-5d)


ひもを
す――って
とおりぬけた
ええっ!?
通り抜けは
どっちだ!?
アウトか!?
セーフか!?
うーん…
俺もそこまで
ルールに詳しくは
なんだそれ
お
おっす
オッス
恵那ちゃん
みうらちゃん
オッス

(6-6j)


... dann ging der Ball quer durch das Netz hindurch!
Wie?!
Was bedeutet das?!
Hm, gute Frage. So gut kenn ich mich mit Badmintonregeln nicht aus ...
Was für 'ne kranke Diskussion.
Foul oder nicht?!
Oh.
Hi.
Hallo.
Ena, Miura, hallo.
Hm?

(6-6d)


あ——
あ——
あっ
だ だめじゃないみうらちゃん
よつばちゃん泣かして！
わ 私はみうらじゃないよー
目の玉花子です
あっちの田んぼからきました
あ——
あ
あ
む——
あ
ごそ
ごそ
みうらちゃん
ん？
ギや——!!
わっ
ほーらほーら
なんだそりゃー!!

(6-7j)


Miura.
Was?
Dodgers
Oh!
Gyaaahhh!!!
Bleib bloß weg!
Weg!
Na, wie gefällt dir unsere Prinzessin?

(6-7d)


どこ行くの？
叔々苑？
ジュージュー
うちの近所の
今日半額
だってよ
うそ！
倍食えるじゃん
よっぱー
焼き肉行くぞー
たっ
にーく
だー
にーく
だー
やーき
にーく
だー
え!?
何それ!?
100
よっぱ
それ俺ともやろうぜ
いや
やらん
おまえ
運転な
にーく
にーくぜーぶ
ガヤヤコ
結構ミラー
でかいから
気をつけろ
うい
やきにくは
カレーある？
カレーはないな
いてっ！
なんで叩くの!?
101

(6-8j)


Wo geht's denn hin? Jo-joen?
Nein, ins Ju-ujuu.
Die veran-stalten heute ei-ne Spach-telorgie zum halben Preis.
Dann kann ich ja dop-pelt zu-schla-gen!
Yot-suba. Komm. Wir ge-hen.
Le-cker ...
... Fleisch.
Le-cker ...
... Fleisch.
Wow! Ist das ein neues Spiel?!
... Fleisch!
... le-cker ...
Le-cker ...
100

(6-8d)

図版引用元

図番号の j, d はそれぞれ日本語版、ドイツ語版を示す。『あずまんが大王』からの引用は特に示す。それ以外の引用元は、すべて『よつばと！』とその翻訳版である。

(1-1j) 1 巻、p.19
(1-1d) Bd.1, S.19
(1-2j) 2 巻、p.186
(1-2d) Bd.2, S.186
(1-3j) 3 巻、p.85
(1-3d) Bd.3, S.89
(1-4j) 5 巻、p.157
(1-4d) Bd.5, S157
(1-5j) 4 巻、p.178
(1-5d) Bd.4, S.178
(1-6j) 7 巻、p.165
(1-6d) Bd.7, S.165
(1-7j) 6 巻、p.162-163
(1-7d) Bd.6, S.165
(1-8j) 9 巻、p.25
(1-8d) Bd.9, S.25
(1-9j) 4 巻、p.43
(1-9d) Bd.4, S.43
(1-10j) 7 巻、p.54
(1-10d) Bd.7, S.54
(1-11j) 4 巻、p.29-30、pp.61
(1-11d) Bd.4, S.29-30、Bd.4, S.61
(1-12j) 7 巻、pp.77-78
(1-12d) Bd.7, S.77
(1-13j) 2 巻、p.68
(1-14j) 5 巻、pp.137-138
(1-15j) 12 巻、p.167
(1-15d) Bd.12, S.167
(1-16j) 4 巻、p.96
(1-17j) 8 巻、p.164
(1-17d) Bd.8, S.166
(1-18j) 10 巻、p.161
(1-18d) Bd.10, S.161
(1-18j) 10 巻、p.161
(1-18d) Bd.10, S.161
(1-20j) 3 巻、p.139
(1-20d) Bd.3, S.143
(1-21j) 2 巻、p.136
(1-21d) Bd.2, S.136
(1-22j) 7 巻、p.55
(1-22d) Bd.7, S.55
(1-23j) 3 巻、p.34
(1-23d) Bd.3, S.38
(1-24j) 1 巻、p. 210
(1-24d) Bd.1, S.210
(1-25j) 4 巻、pp.84-85
(1-25d) Bd.4, S.84
(1-26j) 5 巻、p.17
(1-26d) Bd.5, S.17
(1-27j) 6 巻、p.11
(1-27d) Bd.6, S.13
(1-28j) 5 巻、p.98
(1-28d) Bd.5, S.98
(1-29j) 3 巻、pp.84-85
(1-29d) Bd.3, S.89
(1-30j) 9 巻、p.99
(1-30d) Bd.9, S.99
(1-31j) 9 巻、p.52
(1-31d) Bd.9, S.52
(1-32j) 2 巻、pp.179-180
(1-32d) Bd.2, S.180
(1-33j) 3 巻、p.97
(1-33d) Bd.3, S.101
(1-34j) 1 巻、p.139
(1-34d) Bd.1, S.139
(1-35j) 3 巻、p.23
(1-35d) Bd.3, S.27
(1-36j) 6 巻、pp.87-88
(1-36d) Bd.6, S.90
(1-37j) 7 巻、p.93
(1-37d) Bd.7, S.93
(2-1j)『あずまんが大王』2 巻、p.23-24
(2-1d) Azumanga Daioh, Bd.1, S.181-182
(2-2j) 2 巻、p.68
(2-2d) Bd.2, S.68
(2-3j) 5 巻、p.137-138
(2-3d) Bd.5, S.138
(3-1j) 1 巻、p.176
(3-1d) Bd.1, S.176
(3-2j) 1 巻、p.189
(3-2d) Bd.1, S.189
(3-3j) 1 巻、p.194
(3-3d) Bd.1, S.194
(3-4j) - (3-5j) 1 巻、p.189
(3-4d) - (3-5j) Bd.1, S.189
(3-6j) 1 巻、p.195
(3-6d) Bd.1, S.195
(3-7j) 1 巻、p.203
(3-7d) Bd.1, S.203
(3-8j) 1 巻、p.180
(3-8d) Bd.1, S.180
(3-9j) 1 巻、p.175
(3-9d) Bd.1, S.175
(3-10j) 4 巻、p.73
(3-10d) Bd.4, S.73
(3-11j) - (3-12j) 4 巻、p.186
(3-11d) - (3-12d) Bd.4, S.186
(3-13j) 4 巻、p.96
(3-13d) Bd.4, S.96
(3-14j) 4 巻、p.185
(3-14d) Bd.4, S.185
(3-15j) 4 巻、p.190
(3-15d) Bd.4, S.190
(4-16j) 1 巻、p.32
(4-16d) Bd.1, S.32
(3-17j) 4 巻、p.96
(3-17d) Bd.4, S.96
(3-18j) 5 巻、p.64

(3-18d) Bd.5, S.64
(3-19j) 5 巻、p.65
(3-19d) Bd.5, S.65
(3-20j) - (3-24j) 5 巻、p.125
(3-20d) - (3-24d) Bd.5, S.125
(4-1j) 8 巻 p.141
(4-1d) Bd.8, S.143
(4-2j) 5 巻、pp.102-103
(4-2d) Bd.5, S.103
(4-3j) 8 巻、p.141
(4-3d) Bd.8, S.143
(4-4j) 13 巻、p.105
(4-5j) 3 巻、p.138-139
(4-5d) Bd.3, S.142
(4-6j) 3 巻、p.138
(4-6d) Bd.3, S.142
(4-7j) 11 巻、p.203
(4-7d) Bd.11, S.203
(4-8j) 12 巻、p.134
(4-8d) Bd.12, S.134
(5-1j) 3 巻、p.11
(5-1d) Bd.3, S.15
(5-2j) 3 巻、pp.170-171
(5-2d) Bd.3, S.175
(5-3j) 3 巻、p.130
(5-3d) Bd.3, S.134
(5-4j) 10 巻、p.56
(5-4j) Bd.10, S.56
(5-5j) 10 巻、p.64
(5-5d) Bd.10, S,64
(5-6j) 2 巻、pp.127-129
(5-6d) Bd.2, S.129
(5-6e) Vol.2, p.129
(6-1j) 7 巻、p.36
(6-1d) Bd.7, S.37
(6-2j) 7 巻、p.43
(6-2d) Bd.7, S.44
(6-3j) 9 巻、p.110
(6-3d) Bd.9, S.110
(6-4j) 7 巻、p.36
(6-4d) Bd.7, S.37
(6-5j) 6 巻、p.20
(6-5d) Bd.6, S.22
(6-6j) 4 巻、p.22
(6-6d) Bd.4, S.22
(6-7j) 2 巻、p.158-159
(6-7d) Bd.2, S.159
(6-8j) 9 巻、pp.100-101
(6-8d) Bd.9, S.100